

**福岡県立大学中期計画に関わる
自己点検・評価報告書**

平成30年 6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。</p> <p>特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 <p>1 教育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 <p>2 研究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p> <p>3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p> <p>4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p> <p>5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p> <p>6 評価及び情報公開:評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・情報公開
法人の業務	<p>1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。</p> <p>2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。</p> <p>3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。</p> <p>4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。</p> <p>5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。</p> <p>6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。</p>

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	松 本 次 好	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 文部省入省 平成18年 4月 九州大学総務部長 平成20年 4月 島根大学理事・副学長・事務局長 平成24年 2月 福岡教育大学理事・副学長 平成25年 2月 環太平洋大学事務局長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	吉 村 静 男	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 福岡県採用 平成15年 4月 漁政課長 平成23年 4月 人事委員会次長 平成25年 4月 水資源対策長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	古 野 金 廣	平成28年6月1日 ～平成30年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント(株)入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス(株)代表取締役社長 平成19年 7月 (株)麻生代表取締役専務取締役 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント(株)代表取締役 社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事
理事(学外)	芳 賀 晟 壽	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長

理事(学内)	石崎 龍二	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 5年 3月 九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成 6年 4月 福岡県立大学助手 平成12年 4月 福岡県立大学助教授 平成25年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年 4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事(学内)	松浦 賢長	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事
監事	古本 栄一	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 6年 4月 弁護士開業 平成21年 2月 古本法律事務所開設 平成24年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	梅田 久和	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和60年 4月 麻生セメント入社 平成 7年10月 センチュリー監査法人入所 平成17年 6月 新日本監査法人マネージャー 平成17年 7月 梅田公認会計事務所開設 平成28年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

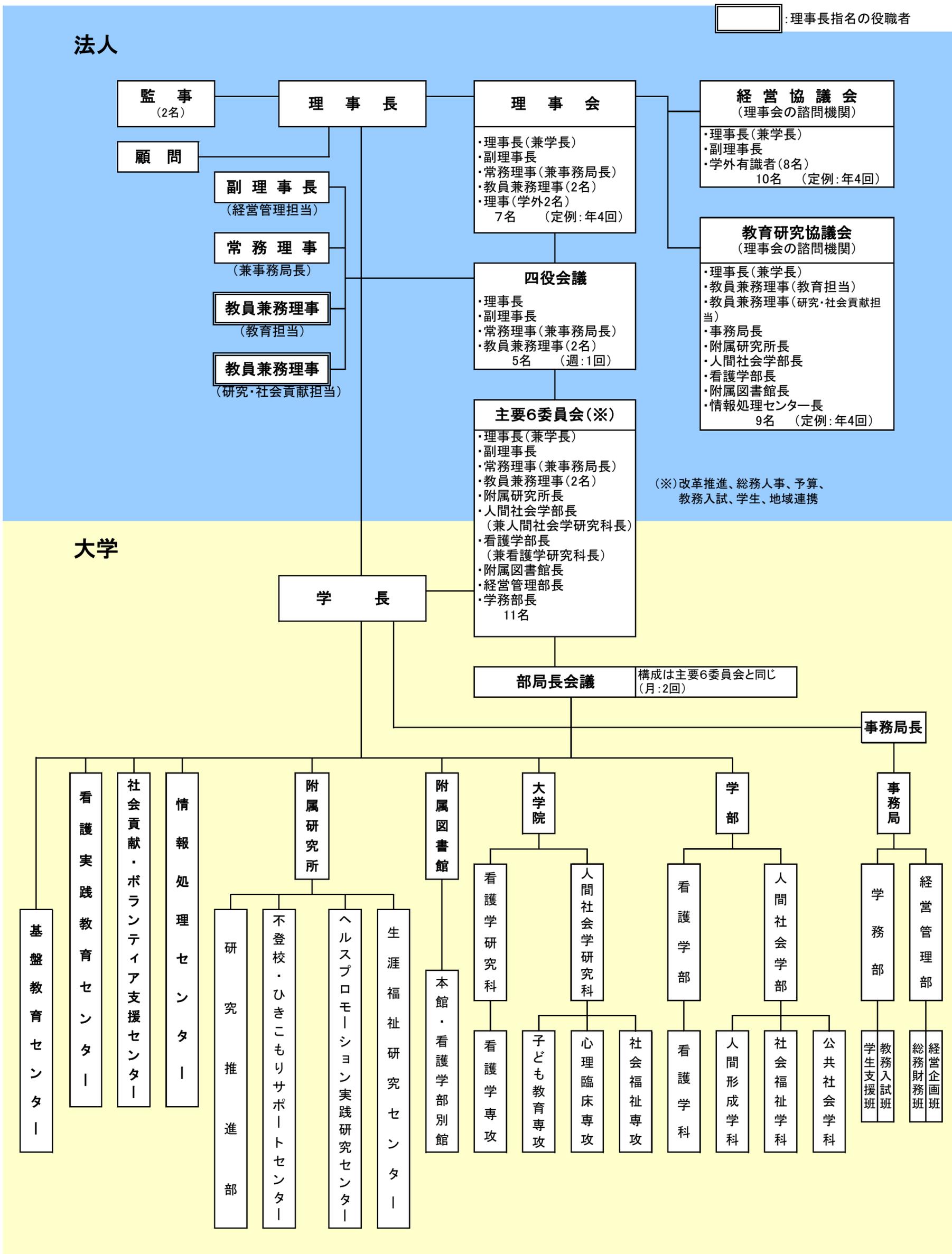
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
教員数	常勤(正規)	110人	110人	102人	104人	108人	113人	
	内訳	教授	26人	28人	23人	23人	21人	25人
		准教授	34人	32人	31人	32人	34人	31人
		講師	20人	20人	22人	23人	24人	25人
		助教	17人	19人	21人	21人	21人	20人
		助手	13人	11人	5人	5人	8人	12人
	非常勤講師	127人	130人	112人	146人	134人	138人	
合計	237人	240人	214人	250人	242人	251人		

教員数増減の主な理由

平成29年度に常勤(正規)教員が増加しているのは、附属研究所におけるプロジェクト研究に従事する特任教員を新たに雇用したこと等による。

(3)職員								平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人		
	正規職員	県派遣	18人	15人	13人	13人	14人	14人					
		プロパー	2人	5人	7人	7人	7人	7人					
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人					
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人					
	計		20人	20人	20人	20人	21人	21人					
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時		10人	11人	11人	13人	15人	13人						
合計		31人	32人	32人	34人	37人	35人						
職員数増減の主な理由													
(4)法人の組織構成													
別紙のとおり													
3. 学生に関する情報													
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)								
					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			
人間社会学	計	630名	716名	114%	116	115	113	112	112	114			
内訳	人間社会学部	600名	688名	115%	117	116	115	112	114	115			
	公共社会学科	200名	226名	113%	118	119	116	113	111	113			
	社会福祉学科	200名	234名	117%	117	116	118	113	116	117			
	人間形成学科	200名	228名	114%	116	115	110	112	114	114			
	大学院 人間社会学研究科	30名	28名	93%	90	90	90	97	83	93			
看護学部	計	384名	403名	105%	100	102	100	101	98	105			
内訳	看護学部	360名	380名	106%	99	102	101	101	98	106			
	看護学科	360名	380名	106%	99	102	101	101	98	106			
	大学院 看護学研究科	24名	23名	96%	108	104	92	100	100	96			
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由													

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田 洋三郎	平成28年4月1日～平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	松本 次好	平成28年4月1日～平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋吉 一明	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	川上 鉄夫	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北原 守	平成28年4月1日～平成30年3月31日	北九州市手をつなぐ育成会(親の会) 顧問
	佐藤 博英	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	齋藤 明	平成28年4月1日～平成30年3月31日	前 独立行政法人大学入試センター 監事
	谷口 金蔵	平成29年5月1日～平成30年3月31日	田川商工会議所 会頭
	二場 公人	平成28年4月1日～平成30年3月31日	田川市長
	吉村 恭幸	平成28年4月1日～平成30年3月31日	(一社)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日～平成30年3月31日	理事長
学部長	赤司 千波	平成28年4月1日～平成30年3月31日	看護学部長兼看護学学術研究科長
	田中 哲也	平成28年4月1日～平成30年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
学内組織の長	石崎 龍二	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教員兼務理事
	永嶋 由理子	平成28年4月1日～平成30年3月31日	附属研究所長
	郝 暁 卿	平成28年4月1日～平成30年3月31日	情報処理センター長
	福田 恭介	平成28年4月1日～平成30年3月31日	附属図書館長
	松浦 賢長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教員兼務理事
	吉村 静男	平成28年4月1日～平成30年3月31日	事務局長



全体評価	
中期目標項目	法人自己評価
I.全体	<p>【平成29年度】</p> <p>公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進し、PDCAサイクルによる改善に取り組みました。特に、学長主導のもと、これからの社会(少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会)を担う学生の力を高めるための教育改革に取り組みました。前年度から導入した全学横断型教育プログラムとして「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」「キャリア形成支援プログラム」「保健福祉情報教育プログラム」の4プログラムを展開しました。特に「キャリア形成支援プログラム」「保健福祉情報教育プログラム」の2プログラムではコースを越えた卒論の履修が可能となりました。全学横断型教育プログラムでは、教員が学部・学科・コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の学部教育の大きな特徴の一つとなりました。</p> <p>入口管理は、質の高い学生確保のため、入試広報活動についてスマートフォン対応をはじめとするホームページの見直し・改善を積極的に行いました。オープンキャンパス(2回)、入試説明会、高校訪問、高校教員情報交換会、高校生向けオータムスクール等を全学的に教職員協働で推進しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は目標の約170%に達しました。入学者選抜試験における学部の実質倍率は2.7倍となりました。</p> <p>出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、まず国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は100%、保健師100%、助産師100%、社会福祉士66.7%、精神保健福祉士88.2%と全国平均を上回る合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員を対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有を図った結果、就職率は97.9%と高い水準を達成しました。</p> <p>教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部連携による科目を開講しました。e-ラーニングシステムの利用促進を図り、122コースを開設し、学生の利用率は91.0%となりました。学生による授業評価アンケートの結果を受け、教員がその対応を開示する仕組み「授業対応プラン制度」を導入実施しました。FD研修会等への教員参加率は98.2%となり、前年度を大きく上回りました。学生の成績評価では引き続きGPA制度を活用し、GPAの低い学生全員を面接指導する一方、GPA高得点の学生を学位記・卒業証書授与式で表彰しました。</p> <p>研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は4,109万円、平成29年度科学研究費応募率は95.1%となり、目標を上回る水準を維持しました査読付き論文数は111件、招待講演等の学会発表数は15件となっています。研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地(知)の拠点作りを目指す大学としての取り組み(COC)、及び交流協定を締結している韓国・中国の大学との共同研究を重点課題としました。科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究助成制度や大学院生の研究支援制度の実施等により、研究を積極的に推進してきました。</p> <p>地域貢献における各種活動は附属研究所・各センターを中心に活発に行うことができました。</p> <p>国際交流は、南京師範大学、大邱韓医大、三育大、威徳大学、吉林大學珠海学院の協定締結校と学生交流・教育交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は30名となりました。短期研修制度(学生派遣)を威徳大学において実施しました。短期研修(大邱韓医大)の受入れ、グローバル・アクティブラーニング研修(大邱韓医大看護学部)の受入れも実施することができました。</p> <p>総合的には、法人化後の第2期中期計画の最終6年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、学長のリーダーシップのもと、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の戦略的特徴を形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できました。その結果、特に教育分野において大きな躍進を遂げ、本学の使命に見合う成果を得たと考えます。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進しました。平成25年度には大学のミッションを内外に打ち立てる大学憲章を制定しました。また同年には教員表彰制度を導入し、外部評価重視の姿勢を打ち出しました。平成26年度にはガバナンス改革として、全部会を主要6委員会の下に位置づけ、意志決定のプロセスを明確にし、委員会・部会を活性化しました。平成27年度には学長主導のもと、これからの社会(少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会)を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。平成27年度から「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」そして「キャリア形成支援プログラム」から構成される全学横断型教育プログラムが導入され、その後「保健福祉情報教育プログラム」が追加されました。本プログラムは、教員が学部学科コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の大きな特徴の一つとなりました。「保健福祉情報教育プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」では卒論に至る道筋が整備されています。</p> <p>入口管理は、質の高い学生確保のために、スマートフォン対応をはじめとしたホームページ改革を中心に入試広報活動を積極的に行いました。オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問等を全学的に教職員協働で推進しました。平成26年度から高校教員との情報交換会を開催し、平成27年度から高校生を対象としたセミナーを開始しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は平成29年度には目標の約170%に達しました。入学者選抜試験における学部実質倍率は第2期平均で3.1倍となり、辞退率については平成29年度に18.5%という低率を達成しました。</p> <p>出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、平成29年度には看護師合格率100%(既卒者含む)、保健師100%、助産師100%を達成しました。社会福祉士は第2期平均で70.4%、精神保健福祉士93.3%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、キャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有を図り、その結果、平成29年度の就職率は97.9%と高い水準を達成しました。</p> <p>教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部の連携授業である「専門職連携入門」を開講しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、120を超えるコースを開設(平成29年度)し、学生の利用率は平成29年度には90%を超えました。学生による授業評価アンケートによる授業改善については、「授業評価対応プラン」の枠組みを作りました。さらに学部では授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を可能にする仕組みを作りました。FD研修会等への教員参加率は平成29年度には学部98.2%、大学院95.5%となりました。学生の成績評価ではGPA制度を活用し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰する一方、GPAの低い学生全員を面接指導しました。</p> <p>研究では、平成28年度に附属研究所の改組を行い、研究部門の強化を図りました。全学的に科研費申請支援のための説明会を毎年度行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、目標を上回る水準を維持しました。</p> <p>地域貢献では、地域課題解決のための取組を、附属研究所を中心に活発に行うことができました。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターは全国的にも高い評価を得るようになりました。地域の不登校支援の仕組み作りを始め、教員等による学校へのアドバイスや学生のボランティア活動による不登校支援、そして大学内に設置されているフリースクールでの高い学校復帰率等、全国の府県議会・文部科学省等からの視察・研修が相次ぎました。また、この成果を受け、平成29年度から福岡県からの不登校児童生徒学校復帰支援事業も受託しています。</p> <p>国際交流では、協定締結校との文化・学術交流事業を積極的に推進しました。</p> <p>総合的には、法人化中期計画第2期を終え、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の特徴を戦略的に、積極的に形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。特に教育の分野における改革と成果には目覚ましいものがあり、社会的使命に応える質の高い成果を出していると考えます。</p>

<p>Ⅱ 中期目標項目別 1.教育</p>	<p>【平成29年度】</p> <p>1 教養教育の充実 全学横断型教育プログラムの充実に関しては、授業「社会人基礎力演習」「データベース論」「情報ネットワーク論」「問題解決演習」を実施しました。社会人・職業人に必要な知識・スキルを身につけるための新科目「入門・数学で見る日本社会」「ライフキャリア論」を平成30年度開講に向けて準備しました。教養演習テキストについては、内容を見直し、改訂版を発行しました。グローバル化への対応として授業「グローバル社会論」を実施しました。</p> <p>2 専門教育の充実 ①人間社会学部では、公認心理師受験資格並びに幼稚園教諭養成課程における再課程認定のために大幅なカリキュラムの改編を行いました。看護学部では、平成31年度から施行予定の新カリキュラム策定のための部会を立ち上げ、組織改編を含む検討を進めました。 ②専門教育の充実については、人間社会学部研究科では、「子ども教育専攻」を開設し、申請カリキュラムを着実に実施しました。看護学研究科では大学院在学学生・修了生のネットワークを構築し、学修文化の醸成にあたりました。 ③他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では実践型インターンシップとして他大学の学生と取り組むプログラムを実施しました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を基にした連携事業(大学間連携共同教育推進事業)において、8大学間の単位互換・相互受講及び共同研修の制度を推進しました。</p> <p>3 教育効果を検証するシステムの構築 ①学生による授業評価アンケート結果を受け、教員が改善・対応等を図る”授業評価対応プラン”を実施し、開示しました。学生座談会を開催し、授業等に対するニーズ把握を行いました。 ②アウトカム評価は、就職先及び卒業生にアンケートを実施し、集計・分析等を行いました。国家試験対策として、模擬試験等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。特に、看護学部では看護師、保健師、助産師の全ての試験において100%の合格率を達成しました。</p> <p>4 教員の教育能力の向上 学部ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣に加え、授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を実施しました。ラーニングコモンズにおける公開授業を実施し、高校生も参加しました。大学院研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。</p> <p>5 優秀な学生の確保 アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するため、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定等の外部英語試験結果を推薦入試(看護学部)で活用開始しました。</p> <p>6 学生支援の充実 プレ・インターンシップ及びインターンシップを充実しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。</p> <p>7 学習環境の充実 IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。ラーニングコモンズの利用促進に向け図書館セミナーを開催しました。</p> <p>8 人間社会学部の改革 全学横断型教育プログラムの「保健福祉情報教育プログラム」「キャリア形成支援プログラム」において卒論に至るカリキュラムを整備しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを11項目、Bを13項目とします。</p>
	<p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 教養教育の充実について、学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行い、全学横断型教育プログラムの充実に努めました。また、教養演習において学生の思考力・表現力をより高めるために、授業内容を改善し授業担当者へのワークショップを開催すると共に共通テキストの改訂を行うとともに、グローバル社会への対応を促す指導を目的とした新科目「グローバル社会論」を準備し、開講しました。</p> <p>2 専門教育の充実については、人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行いました。看護学部では、平成31年度からの新カリキュラム移行に向け、組織体制の見直しとカリキュラムの検討を始めました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目を充実させ、魅力あるカリキュラムとしました。大学院では、人間社会学部研究科において、地域のニーズに対応できる新たな専攻「子ども教育専攻」を開設しました。他大学との連携による教育の充実を目指して、看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、8大学の単位互換・相互受講の制度を運用しました。事業終了後の評価では、最高位の「S評価」を得ることができました。</p> <p>3 学生による授業評価アンケートに基づく授業改善について、学生の授業評価アンケート結果を受け、教員が改善・対応等を図り、それを書面にして学生に開示する”授業評価対応プラン”の枠組みを作りました。また、アウトカム評価システムについては、就職先及び卒業生に対してアンケートを行い、その集計・分析等を行いました。国家試験対策として、模擬試験等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回り、特に、看護学部では平成29年度に看護師、保健師、助産師のいずれの試験において100%の合格率を達成しました。</p> <p>4 教員の教育能力の向上については、毎年、FDセミナーを複数回開催しました。さらに学部では授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を可能にする仕組みを作りました。</p> <p>5 優秀な学生の確保については、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定等の外部英語試験結果を推薦入試(看護学部)で活用開始しました。</p> <p>6 学生支援の充実については、各インターンシップ・プログラムに関する段階的プログラムマップを平成27年度に整備しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。</p> <p>7 学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。</p> <p>8 人間社会学部の改革としては、まずは教員組織において、平成27年度から学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属としました。また、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、全学横断型教育プログラムを通じた新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設しました。全学横断型教育プログラムの「保健福祉情報教育プログラム」「キャリア形成支援プログラム」において卒論に至るカリキュラムを整備しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aは16項目、Bは8項目とします。</p>

2. 研究	<p>【平成29年度】</p> <p>1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、附属研究所内に設置された研究推進部において、「地域教育課題」に関する研究と「医療福祉情報システム」に関する研究の2課題を重点研究として推進しました。保健・医療・福祉分野の共同研究活性化に向け、国際シンポジウム「認知症の方とその家族への地域支援～看護と福祉の連携を考える～」を開催しました。学際的研究プロジェクト数が3件、産学官連携契約件数が2件、提携協定校との共同研究数は2件、招聘件数は2件となりました。</p> <p>② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が95%、科研費獲得件数31件、金額が4,109万円となり、目標を上回りました。</p> <p>③ 研究倫理の徹底については、厚生労働科学研究を対象とした利益相反に関する審査体制を整備し、外部有識者を入れた審査を行いました。個人情報保護法の改正及び「人を対象とした医学系研究指針」の改訂に基づき、研究倫理審査基準とチェックリストの開発を行いました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。</p>
	<p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。</p> <p>① 附属研究所の組織改編を行い、附属研究所を中心とした研究部門の強化を図ることができました。研究部門では重点領域研究を立ち上げ、地域教育課題や医療福祉情報に関わる研究を推進しました。附属研究所の4センターを3センターに整理し、地域連携や社会貢献を中心とした活動を推進できる体制としました。平成29年度には、学際的研究プロジェクト数が3件、産学官連携契約件数が2件、提携協定校との共同研究数は2件となりました。</p> <p>② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、平成24年～平成29年度の外部資金(科研費)獲得金額は年平均5,300万円を超えました。科研費応募率は平成25年度以降は90%を超える実績を積み上げました。</p> <p>③ 研究倫理の徹底については、外部有識者を入れたCOI審査体制を構築し、審査を実施しました。個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行いました。動物実験に関する委員会では、公私立大学実験動物施設協議会に入会し、動物実験に関する外部検証を受審しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを1項目とします。</p>

3. 社会貢献

【平成29年度】

1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、協定校である大邱韓医大学、三育大学、威徳大学、吉林大学珠海学院を国際交流推進部会員が訪問し、文化・学術交流推進について議論しました。後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。協定校の大邱韓医大学から訪問研究員を受け入れました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員が20名交流し、文化交流プログラムを1回実施しました。
- ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学にて実施しました(学生10名参加)。韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました(10名受入)。大邱韓医大学の看護学部生3名のグローバル・アクティブラーニングプログラム研修を受け入れました。受入留学生数は30名でした。
- ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、産炭地復興に関する国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって～ポスト興業社会における暮らしと文化～」を開催しました。

2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業(1件)が実施されました。県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。三大学連携公開講座の一環として、本学で社会貢献共同プログラム1企画を実施しました。

3 地域に貢献する大学としての認知度アップについては、以下の取組みを行いました。

- ① 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行い、延べ2,503人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ1,252人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は68.2%と高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が187件、活動学生数が延べ744人となりました。福岡県重点課題授業「土曜の風」(地域学習支援事業)を開始し、延べ1,729回の学生派遣を行いました。
- ② 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組みを行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、ペアレントトレーニング・スキルアップ講座(直方市と共催)を実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせて66人の卒業生が参加しました。
- ③ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、不登校・ひきこもりサポートセンターが滋賀県議会の視察受入れを行いました。附属研究所公開講座を3コース実施しました。
- ④ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。リカレントセミナーの参加人数は244人、認定看護師コースの入学試験倍率は0.7倍、認定審査合格率は100%となりました。

実施事項別評価は、Aを4項目、Bを7項目とします。

【中期目標期間(平成24～29年度)】

1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。

- ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、平成27年度に韓国の威徳大学、平成28年度に中国の吉林大学珠海学院と交流協定を締結しました。附属研究所、国際交流センターに「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を配置しました。1年間の長期留学を含めて4年次卒業が可能なルートを整備し、2名の学生が留学しました。長期留学から帰国した学生に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進に務めました。本学プロモーションビデオ(国際版)を作成し、ホームページに掲載しました。
- ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが平成26年度から4年間連続して福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました。平成27年度から、韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました。平成29年度の受入留学生数は30名となりました。
- ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、平成29年度に国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって～ポスト工業社会における暮らしと文化～」を開催しました。

2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。

- ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業が実施されています。県立三大学連携推進会議で連携した社会貢献の在り方を協議し、各大学で実施予定の講演会・公開講座等の情報を共有し、教員等の講師派遣を行いました。
- ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。平成29年度には、延べ2,503人を派遣しました。また、キャンパススクール事業は延べ1,252人(平成29年度)を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は68.2%(平成29年度)とかなり高い水準に達しました。福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施しました。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、平成29年度には団体登録が187件、活動学生数が延べ744人となりました。福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、1700人(平成29年度)を超える学生を派遣しました。
- ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行っているペアレントトレーニング講座は、平成26年度から直方市との共催事業として実施しています。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせて66人の卒業生(平成29年度)が参加しました。
- ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、不登校・ひきこもりサポートセンターに、4つの府・県議会と文部科学省からの視察・研修を受け入れました。
- ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。認定看護師コースの認定審査合格率は100%となっています。

実施事項別評価は、Aは6項目、Bは5項目とします。

4. 業務運営	<p>【平成29年度】</p> <p>1 運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 事務局機能の強化については、九州大学主催のSD研修に3名、公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に2名が参加しました。学内FD・SD研修「大学改革セミナー」を実施しました。データ交換等に新ファイル共有システムを積極的に活用しました。三大学共用の会計システム運用会議を3回実施しました。</p> <p>② 教員の士気を高める教育環境の整備については、ベストティーチャー賞を1名選定しました。</p> <p>③ 教員の個人業績評価については、平成28年度分の個人業績評価を実施しました。</p> <p>④ リスクマネジメント体制については、九州北部豪雨時に迅速な情報収集と適切な判断により、早期救援が可能となりました。防犯カメラの増設等、学生の犯罪被害防止環境の整備を図りました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを2項目とします。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 事務局機能の強化については、プロパー職員採用を計画どおり勧め、退職による欠員に対しても単独選考試験を実施し、補充を行いました。公立大学協会主催の事務職員会計研修への参加に加え、新たに九州大学主催のSD研修へも参加することができ、事務局職員の資質向上を図ることができました。</p> <p>② 教員の士気を高める教育環境の整備については、平成25年度より教員表彰(ベストティーチャー)の公募を行いました。教員の授業担当数調査をもとに負担の平準化を進め、平成28年度開設の大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図りました。</p> <p>③ 教員の個人業績評価については、平成25年度に教員個人業績評価基準を大幅に見直し、客観性を高めた評価の枠組みの中で、平成26年度以降の個人業績評価を実施しました。</p> <p>④ 平成26年度に基本指針及び危機管理規程を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定しました。九州北部豪雨時には現地で孤立した学生・教員の救援に対し、適切な判断と対応をとることができました。防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図りました。学内施設を改修し、初めて男子寮を整備しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを3項目、Bを1項目とします。</p>
5. 財務	<p>【平成29年度】</p> <p>1 外部研究資金等の積極的確保については、外部研究資金公募情報をホームページに掲載し、全教員にメールを発信するとともに、科研費応募率向上のための研修会を実施しました。大学広報誌により県大基金への寄付金募集等を行うとともに、自主財源基金設立に対する検討を行いました。</p> <p>2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 業務改善による経費の削減については、急を要する物品以外は消耗品の集中発注システムを活用し、一括発注に努めました。ストレスチェック業務を外部委託しました。女子寮周辺の街灯をLED化するとともに、屋内蛍光灯が故障した際には随時LED灯への切替えを行いました。</p> <p>② 人件費の抑制については、教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、退職教員の補充においては若手教員採用に努めました。ワークライフバランスの推進と時間外勤務の縮減を図るため、週休日勤務の振替を徹底しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 外部研究資金獲得については、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することにより推進しました。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を開始しました。科研費を含む外部資金の獲得は、年平均約8,700万円と目標を大幅に上回りました。</p> <p>2 業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用しました。アウトソーシング可能な業務の検討を行い、国際交流関係業務とストレスチェック関係業務についてアウトソーシングを実施しました。退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めました。時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけ、大きな効果を上げました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを1項目とします。</p>

<p>6. 評価及び情報公開</p>	<p>【平成29年度】</p> <p>1 自己評価の見直しについては、県公立大学法人評価委員会の評価結果について大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知するとともに、教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を行い、ホームページに掲載しました。アニュアルレポートの見直しを行い、新たに学部等紹介、卒業時学修到達度調査結果を追加しました。</p> <p>2 県大ブランド力の強化については、ホームページのスマートフォン閲覧を可能とした結果、アクセス数が大幅に増加しました。フェイスブックを適宜更新し、広報活動の充実を図りました。本学の教育研究情報やイベント情報等について積極的に新聞社等へ情報提供しました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを2項目とします。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させました。毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学ホームページに公表しました。「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置しました。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学ホームページで公表を始めました。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置しました。平成27年度に認証評価ワーキンググループを設置し、平成28年度大学機関別認証評価を受審しました。</p> <p>2 ホームページの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施しました。平成27年度にはスマートフォンに対応したホームページを新規に作成、公開しました。文科省採択事業や大学コンソーシアム、全学横断型教育プログラムのパナー掲載を行いました。大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行いました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを2項目とします。</p>
<p>Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について</p>	<p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までのキャリア形成支援体制の強化については、プレ・インターンシップとインターンシップの取組を推進しました。GPAをもとに、優秀学生を表彰し、低GPA学生全員の面接指導・支援を行いました。 ・人間社会学部の改革については、全学横断型教育プログラムのうち「保健福祉情報プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」において、卒論に至るカリキュラムを整備しました。「保健福祉情報プログラム」ではゼミを開設しました。 ・附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、昨年度に引き続き、研究推進部において地域教育課題と医療福祉条法の重点領域研究を進めました。保健医療福祉分野の学術的共同研究活性化のため、国際シンポジウム「認知症の方とその家族への地域支援～看護と福祉の連携を考える～」を開催しました。 ・外部研究資金等の積極的確保については、ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から創設された科研費補助制度を運用しました。科研費を含む外部資金の獲得は、50,860千円と目標を上回りました。 <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までのキャリア形成支援体制の強化については、プレ・インターンシップとインターンシップの取組を推進しました。GPAをもとに、優秀学生を表彰し、GPAの低い学生全員の面接指導・支援を行いました。 ・人間社会学部の改革については、教員組織を大幅に見直し、学科所属から学部所属としました。その上で、教育体制を学科制からコース制に移行しました。連動して、全学横断型教育プログラムに対応した教員人事をおこないました。全学横断型教育プログラムのうち「保健福祉情報プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」において、卒論に至るカリキュラムを整備しました。「保健福祉情報プログラム」ではゼミを開設しました。 ・附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、附属研究所の組織改編を行い、附属研究所を中心とした研究部門の強化を図ることができました。研究部門では重点領域研究を立ち上げ、地域教育課題や医療福祉情報に関わる研究を推進しました。附属研究所の4センターを3センターに整理し、地域連携や社会貢献を中心とした活動を推進できる体制としました。 ・外部研究資金等の積極的確保については、事務局機能を強化し、ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を開始しました。科研費を含む外部資金の獲得は、年平均約8,700万円と目標を大幅に上回りました。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 1 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部との連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
----------------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	暫定 ↓ 中期	年度	自己評価		データ 番号	通し番号																	
			中期	年度				中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期		年度																	
1 教養教育の充実 公立大学法人 福岡県立大学の 教養教育は、豊 かな感性、柔軟 な思考力、緻密 な論理構成力お よび自己表現能 力の習得をめざ す。	1【カリキュラムと科目内容の検討・改 編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門科目の基礎と社会人・職業 人として身につけるべき教養科目 を中心に、カリキュラムや科目内 容を検討・改編する。 ○達成目標 ・学生の成績 ：教養科目全てを対象として C以上80%	1-1【平成29年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○新科目の設置に伴い、学生の教育効果に基いて 既存科目の見直しを行う。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身に つけるための新科目の実施に向けて準備をする。 ○全学横断型教育プログラム関連科目を実施する。 ○28年度に実施したスキルアップ・ゼミの課題を抽 出し、より高い教育効果を生むゼミ内容に改善、 実施する。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ2コースの改善及び実施 ・学生の成績：教養科目全てを対象として C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○既存科目の見直しについては、全学共通科目と全学横断型科目の再編成を行った。また、教養科目カテゴリーの 変更を検討した。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目については、「入門・数字で見る日本社会」、 「ライフキャリア論」を30年度開講に向けて準備した。 ○全学横断型教育プログラム関連科目の実施に関しては、本年度前期から「社会人基礎力演習」を、後期から 「データベース論」、「情報ネットワーク論」、「問題解決演習」を開講し実施した。 ○スキルアップ・ゼミの改善、実施については、「スタートダッシュのための就活塾」(2月、3月全2回)と 「Critical thinking and discussion on Japanese pop culture」(1月全4回)を昨年度の内容を改善し実施した。 ○目標実績 ・スキルアップゼミ2コースを改善し実施した。 ・学生の成績：教養科目全てを対象として C以上89.6%	A		【高く評価する点】 ・全学共通科目の再編成として 科目の削減及び次年度開講の キャリア形成支援2科目の準備 を行った。 ・全学横断型関連科目として新 たに4科目を開講し教育プログ ラムの充実を図った。 【実施(達成)できなかった点】		1																		
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、教養科目のカテゴリーの見直しを検討してきた。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新設科目として平成28年度より「社会人基礎力演 習」を開講することを決定した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善をしながら実施した。 ○全学横断型教育プログラムである保健福祉情報教育プログラムに必要な「数学概論」「情報処理応用演習」を平 成28年度より新規開設することを決定した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○既存科目を見直し全学共通科目と全学横断型科目の再編成を行った。また、教養科目カテゴリーの変更を検討 した。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新規科目「入門・数字で見る日本社会」「ライフキャ リア論」を30年度開講に向けて準備した。 ○全学横断型教育プログラム関連科目として、「子供学習支援論」「数学概論」「情報処理応用演習」「社会人基礎力 演習」「データベース論」「情報ネットワーク論」「問題解決演習」を開講した。 ○スキルアップゼミ2コースを開講し、更なる改善を行った。 ○学生へ豊かなカリキュラムを提供するため、放送大学との単位互換協定を活用し、科目の充実を図った。 ○目標実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">No.1</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">目 標 実 績</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="width: 5%;">H24</td> <td style="width: 5%;">H25</td> <td style="width: 5%;">H26</td> <td style="width: 5%;">H27</td> <td style="width: 5%;">H28</td> <td style="width: 5%;">H29</td> </tr> <tr> <td>学生の成績：教養科目全て C以上80%</td> <td style="text-align: center;">89.4%</td> <td style="text-align: center;">88.2%</td> <td style="text-align: center;">93.4%</td> <td style="text-align: center;">89.0%</td> <td style="text-align: center;">92.3%</td> <td style="text-align: center;">89.6%</td> </tr> </table>	No.1	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績：教養科目全て C以上80%	89.4%	88.2%	93.4%	89.0%	92.3%	89.6%	B ↓ A		【高く評価する点】 ・学生の教育効果に基づき幅広 く体系的な教養科目の履修を促 すために、全学共通科目を大幅 に見直し科目の削減と再編成を 行った。 ・全学横断型新規科目を複数増 設し再編成を行い、全学横断型 教育プログラムの充実に努め た。 【実施(達成)できなかった点】
No.1	目 標 実 績																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																						
学生の成績：教養科目全て C以上80%	89.4%	88.2%	93.4%	89.0%	92.3%	89.6%																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																										
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																								
※1 教養教育の 充実 の続き	2【教養演習・総合科目の改善】 ＜両学部の教養演習、総合科目＞ ①学生の課題発見・解決能力、 論理的思考力及び自己表現 能力を高めるために、教養演 習等における授業内容と方法 を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善 ②語学について、従来の語学 教育を見直し、アジアととも に発展する国際交流を推進さ せるために、アジア諸国の異文 化理解と共にコミュニケーション 能力を高める。 ・英語・中国語・コリア語教育 の充実 ○達成目標 ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ :全学の教養演習及び総合 科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目 内容の検討・改編 :2科目増設	2-1 【平成29年度計画】 【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して 行う。 ○学生編集委員会を中心に、平成28年度教養テ キストを改善し、改訂版を作成する。また、共 通テキストの内容について、さらなる改編の見 直し案作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応す るための新科目の実施に向けて準備をする。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から 導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年 生対象に一年生は年2回、二年生は年1回実施 する。 ○「教養演習英語クラス」を継続して開講する。 ○異文化理解のために購入した伝統衣装や伝統 工芸品、DVD等をコリア語教育、中国語教育に 積極的に活用する。 ○達成目標 ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ :全学の教養演習及び総合科目において C以上80%		1	【平成29年度の実施状況】 【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に関しては、本年度の担当者にワークショップを行った。また、担当者からの 相談に対応する体制をとった。 ○教養テキストの改善、共通テキストの改定見直し案については、内容を検討し改訂版を発行した。 ○グローバル化へ対応するための新科目の実施については、「グローバル社会論」を本年度後期に実施した。 ＜語学教育の充実＞ ○外部テストG-TELPを4月に各学部・学科の1年生に実施し、本年度後期には1・2年生に実施した。 ○「教養演習英語クラス」を後期に実施した。 ○異文化理解のために購入した資料は、コリア語教育、中国語教育において積極的に活用した。 ○目標実績 ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 全学の教養演習及び総合科目において C以上93.1%		A	【高く評価する点】 ・教養演習において学生の思考 力・表現力をより高めるために、 共通テキストの内容を改善し改 訂を行った。 ・グローバル社会への対応を促 す指導を目的とした新科目「グ ローバル社会論」を開講した。 【実施(達成)できなかった点】			2																								
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に向けての全学「教養演習」担当者会議を継続して行い、指導方法等につ いての検討と知識やスキルの共有を行った。 ○学生編集委員会を中心に、教養演習のテキストを改善し、改訂版を作成してきた。 ○グローバル化へ対応するための新科目「グローバル社会論」を平成28年度に新規開講することを決定した。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育においては、平成25年度から外部テストを導入し、各学部・学科の1、2年生対象に1年生は年2回、2年 生は年1回実施した。また、平成26年度から教養演習英語クラスを開講した。 ○コリア語教育、中国語教育においては、異文化理解のために伝統衣装や伝統工芸品、DVD等を購入し、積極的 に活用した。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討を行い、平成26年度後期から看護学部2年生の英語クラスを能 力別編成に変更し、平成27年度から看護学部・オーラルコミュニケーションⅡ(英語)を、これまでの2クラスから3クラ スに再編成して実施した。また、「Advanced English Achievement」を平成28年度から新規開講することを決定し た。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に向けて、授業担当者にワークショップを行い、相談に対応する体制を取った。 ○教養演習のテキストの内容を見直し改訂版を発行し、テキストの改善を行った。 ○グローバル化へ対応するための新科目「グローバル社会論」を開講した。 ＜語学教育の充実＞ ○英語外部テストG-TELPを1・2年生に実施し英語教育に活用した。 ○教養演習英語クラスの実施を継続した。 ○異文化理解のために購入した資料をコリア語、中国語教育において活用した。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討・実施を継続して行った。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1249 1514 2160 1665"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.2</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績：全学の教養演習及び総合科目 C以上80%</td> <td>92.3%</td> <td>94.5%</td> <td>98.9%</td> <td>91.4%</td> <td>97.1%</td> <td>93.1%</td> </tr> <tr> <td>語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編：2科目増設</td> <td></td> <td></td> <td>1科目増設</td> <td></td> <td>1科目増設</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No.2	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績：全学の教養演習及び総合科目 C以上80%	92.3%	94.5%	98.9%	91.4%	97.1%	93.1%	語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編：2科目増設			1科目増設		1科目増設			B ↓ A	【高く評価する点】 ・教養演習において学生の思考 力・表現力をより高めるために、 授業内容を改善し授業担当者 へのワークショップを開催する と共に共通テキストの改訂を行 った。 ・グローバル社会への対応を促 す指導を目的とした新科目「グ ローバル社会論」を準備し、開 講した。 【実施(達成)できなかった点】
No.2	目 標 実 績																																		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																													
学生の成績：全学の教養演習及び総合科目 C以上80%	92.3%	94.5%	98.9%	91.4%	97.1%	93.1%																													
語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編：2科目増設			1科目増設		1科目増設																														

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																				
2 専門教育の充実	1【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において C以上80%	1-1【平成29年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教育体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・学生が科目間の関係や履修の順序を理解しやすいよう示し、地域社会と国際共生の視点に立った教育の充実を図る。 ・演習や社会調査実習を通じて、学生が研究課題を主体的に設定、分析、考察できるよう支援する。 ＜社会福祉学科＞ ・平成28年度に改正した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実のためカリキュラムを実施する。なお、今後、社会福祉士養成教育課程の改正の動向があるので情報収集し、必要な対応の検討を開始する。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラム(基幹科目、コース展開科目、関連科目)の実施とともに、在学生への移行措置を実施・検証する。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行う。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムの評価と検討を行う。看護基礎教育のコアカリキュラムが平成29年10月以降に提示され、平成31年4月からの施行となることを受け、新カリキュラム作成に向けての準備を行う。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において : C以上 80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教育体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・公共社会学科専門教育科目にコアとなる科目群を設定し、カリキュラムマップの整備を進めた。 ・演習や社会調査実習を経て、学生がより主体的に独自性の高い卒業論文を作成できるよう、指導内容と方法を協議し、学生へのオリエンテーションや個別指導で示した。 ＜社会福祉学科＞ ・平成28年度に改正した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実のためカリキュラムを実施した(専門領域の担当教員による実習評価の導入、学校ソーシャルワーク実習時間の充実)。社会福祉士養成教育課程の改正の動向について情報収集を行った。 ＜人間形成学科＞ ・前年度に引き続き、新旧学則の移行期間における授業展開を確認し、特に科目の開講年について3・4年生に周知した。また、公認心理師、幼稚園教諭養成課程における再課程認定のためのカリキュラムや授業科目の変更等を行った。また、公認心理師の資格概要及び移行措置について在学生に周知した。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行う。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムについて、検証委員会及び教務部において見直し課題について検討を行った。また、10月に提示された文部科学省による「看護教育モデル・コア・カリキュラム(案)」(平成31年4月からの施行)を参考にしつつ、新カリキュラム策定部会を立ち上げ検討を進めた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図っている。また、実習での看護倫理に関する知識や態度を身につけられるように「実習のしおり」の内容の見直し、強化を図った。 ・倫理に関する講義を前期に4科目において計4コマ実施した。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において : C以上 87.4%	A	【高く評価する点】 ・人間社会学部において、公認心理師受験資格並びに幼稚園教諭養成課程における再課程認定のために大幅なカリキュラムの変更を行った。 【実施(達成)できなかった点】		3																						
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成25年度に作成した計画に基づき、学科制からコース制に移行する過程で、時代のニーズに合わせて履修コースの改廃と再構築を行い、専門性を高めるとともに資格科目を重視するためにカリキュラムの大幅な見直しを実施した。 ＜看護学部＞ ○平成24年度からの新カリキュラムの科目を滞りなく実施した。 ・新規科目及び変更科目(単位数の変更や科目名の変更など)について、4年間調査を継続的にを行い、カリキュラムを滞りなく実施した。 ・学生からの聞き取り調査について、4年間実施したことで、授業内容の検討やシラバスへの反映に役立てた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につけるために、1年生から4年生までを対象として、新入生オリエンテーションや実習前オリエンテーション時に倫理教育を継続的に行った。また、倫理に関する講義を継続的に実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成27年度までに計画された専門教育充実のためのカリキュラムの大幅な変更を行った。さらに公認心理師の申請や幼稚園教諭養成の再課程認定のためのカリキュラムの変更を行った。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラム検討委員会を立ち上げ、専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教育体制の検討を進めた。新カリキュラムを実施する中で、科目の新設・改廃等を行い、専門教育と資格関係科目の充実を行った。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1231 1753 2151 1900"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.3</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シラバスの改善: 全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> </tr> <tr> <td>学生の成績: 専門教育科目 C以上80%</td> <td>89.4%</td> <td>89.2%</td> <td>88.4%</td> <td>88.5%</td> <td>89.2%</td> <td>87.4%</td> </tr> </tbody> </table>		No.3			目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	シラバスの改善: 全専門科目	学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%						
No.3	目標実績																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
シラバスの改善: 全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目																									
学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%	88.4%	88.5%	89.2%	87.4%																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度															
※2 専門教育の 充実 の続き	2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	2-1 【平成29年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを実施する。 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」を実施した。 ○目標実績 ・学生の成績：教育プログラム C以上89.7%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		4	4																
		1			【平成24～27年度の実施状況概略】 ○東洋看護学演習については、その内容を充実させるために、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」を実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1255 783 2110 898"> <tr> <td>No.4</td> <td colspan="6">目 標 実 績</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>学生の成績：教育プログラム C以上80%</td> <td>100.0%</td> <td>98.2%</td> <td>98.9%</td> <td>90.9%</td> <td>93.8%</td> <td>89.7%</td> </tr> </table>						No.4	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績：教育プログラム C以上80%	100.0%
No.4	目 標 実 績																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
学生の成績：教育プログラム C以上80%	100.0%	98.2%	98.9%	90.9%	93.8%	89.7%																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																													
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																											
※2 専門教育の 充実 の続き	3【実践力強化のための実習教育の 充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護実践能力育成のための 実習教育の充実 ②人間社会学部における実習 教育の充実 ③実習前後における学習内容 の充実 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習 指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における 事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%	3-1 【平成29年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回 開催 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを 行う ・実習指導者研修会の内容を見直し、実施する。 ○コアカリキュラムが提示されることを受け、看護 基本技術習得支援の継続と項目の見直し を行う ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育につ いて現状を分析検討し、課題を明らかにして いく。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・社会調査実習の教育内容の明確化、調査技 法に基づく教育方法の標準化、教育実習の 事前指導の拡充を行う。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・各実習間の指導内容の標準化を図るための 取組を行う。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・実習指導体制と指導内容の見直しを行う。 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ：実習指導者研修会実施 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前 事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績：事前事後指導科目 C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、開催した(3月9日)。 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行った。 ・実習指導者研修会を実施した(9月12日)。 ○コアカリキュラムが提示されることを受け、看護基本技術習得状況について分析した。その結果をもとに、看護基本技術習得向上につながる教育、支援について検討した。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ・昨年度から教育実習実施の前年度に学校インターンシップを義務づけた。昨年度は6人が参加し、今年度も実習実施予定学生全員(13人)が行った。学生の実践的な指導力の育成に努めた。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・一般社団法人社会調査協会より、平成29年度助成対象教育組織に選定された。平成28年度に連続して優れた社会調査実習計画であることが評価された。社会調査実習担当者会議において、教育内容と方法の検討、実習の到達目標等の標準化、危機管理の確認を行った。実習中の被災においては適切な対応をとった。学生へのオリエンテーションを実施した。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・昨年度の検討をふまえて変更した記録様式を用いて実習を実施した。また、実習の履修条件や実習フィールド、時間数についても各大学の情報を収集中である。さらに10月11日に社会福祉コースFD会議を開催し、3実習における学生の様子や実習指導の方法、実習評価の方針等について情報共有した。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・各実習の指導内容の連関を高めるよう事前事後の指導について、教育成果の向上をねらい、学生に求める資質と自己評価の方法の修正を行った。学年間の指導の連続性については、実習後に報告会を実施して、異学年間で相互に学び合えるよう授業の体制を整え、実習の学びを具体的に見通せるようにした。 ○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 1回 ：実習指導者研修会実施 1回 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 100% ・学生の成績：事前事後指導科目 C以上91.9%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		5																													
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜看護学部＞ ○臨地実習の体制に関しては、毎年実習先の確保が難しい状況ではあるが、実習指導者連絡会を開催することで、臨床とのつながりを強化できた。また、研修会が臨床教授の申請の要件ともなっているため、看護学にとって重要な実習学習の質の担保につながった。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定し、実習指導の充実を図ってきた。 ・公共社会学科においては、教育実習事前・事後指導を強化し、平成25年度に「教職課程履修ガイド」を作成した。社会調査関係科目について開講年次の検討を行い、平成28年度から全体として開講年次を早めることとした。 ・社会福祉学科においては、教員を増やすなど実習指導体制の強化を行ってきた。平成26年度には、社会福祉士、精神保健福祉士、学校ソーシャルワークの各実習において、「実習の手引き」の改訂・作成、新たな実習先の開拓、実習教育プログラムの見直しなどを行った。 ・人間形成学科においては、実習の種類(保育所・施設・幼稚園)毎の実際の理解を深めるために、平成25年度に子どもコース学生交流会(実習報告・就職対策)、平成26年度に異学年合同授業、平成27年度に卒業生を招いて子どもコース就職懇話会・異学年交流会を企画・実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜看護学部＞ ・「教員・実習指導者研修会」ならびに「実習指導者連絡会」では、講演・演習を通して、実習指導者と教員間で、実習中の学生が抱えている問題を共有しながら、学生のやる気を育てる実習教育について学びを深めることができた。その結果、臨地実習教育における実習指導者と教員との連携の重要性を確認することができた。 ・学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入を行った。 ＜人間社会学部＞ ・3学科の学生に関連する教育実習では、実施の前年度に学校インターンシップを行い、平成28年度は6名、平成29年度は13名が参加した。学生の実践的な指導力の育成に努めた。 ・公共社会学科の社会調査実習は、一般社団法人社会調査協会より、平成28年度、平成29年度と優れた社会調査実習計画であることが評価された。社会調査実習担当者会議において、教育内容と方法の検討、実習の到達目標等の標準化、危機管理の確認を行い、学生へのオリエンテーションを実施した。 ・社会福祉学科の各実習における指導内容の連関性を高めるために、平成28年度に記録様式の修正・変更を行い、平成29年度から各実習で活用した。また、FD会議を行い、実習報告会、実習指導方法、実習評価の方針等について情報共有し、指導内容を見直した。 ・人間形成学科の子どもコースでは、各実習の実務経験がある教員を採用し、連携を確認した。事前事後指導において、日誌の刷新、各実習の指導内容の連関を高めるよう指導内容の相違点を確認し、成果の向上をねらい、修正を行った。学年間の指導の連続性については、実習後に報告会を実施して、異学年間の学生の交流を行い、相互に学べるよう体制を整えた。 ○目標実績 No.5 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%</td> <td>80.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>学生の成績：事前事後指導科目C以上80%</td> <td>95.4%</td> <td>94.0%</td> <td>94.4%</td> <td>90.8%</td> <td>96.1%</td> <td>91.9%</td> </tr> </tbody> </table>						目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	学生の成績：事前事後指導科目C以上80%	95.4%
	目標実績																																					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																
看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回																																
実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																
学生の成績：事前事後指導科目C以上80%	95.4%	94.0%	94.4%	90.8%	96.1%	91.9%																																

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度															
※2 専門教育の 充実 の続き	4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	4-1【平成29年度計画】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」として平成27年度から単位化した「専門職連携入門」を充実を図りながら実施 ○「全学横断型科目」(「不登校・ひきこもり援助論」、「子供学習支援論」、「問題解決演習」)を充実を図りながら実施 ○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施 ○社会貢献フォーラムの実施 ○公開卒論発表会の実施 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○「専門職連携入門(全8回)」は後期に開講し、53名が履修した。 ○「全学横断型科目」の「不登校・ひきこもり援助論」計242名(公共36、福祉54、形成57、看護92、交換留学生3)、「子供学習支援論」132名(公共22、福祉23、形成29、看護58)、「問題解決演習」:3名(福祉3)が受講した。 ○「海外語学実習事前指導」計27名(公共13、福祉2、形成7、看護5)を開講、「海外語学実習」計27名(公共13、福祉2、形成7、看護5)を実施した。 ○社会貢献フォーラムは後期(2月26日)に実施した(参加者157名)。 ○公開卒業論文発表会は後期に実施した(人間社会学部:社会福祉、公共社会、人間形成、看護学部:基盤看護、成人看護、老年看護、女性小児、精神看護、在宅地域看護、学校保健)。外部参加者は210名であった。 ○目標実績 ・学生の成績 :C以上 97.3%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			6																
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るために、平成26年度まではオムニバス方式で両学部が計画した内容の講座を行い、平成27年度にはそれらをまとめ、「専門職連携入門」として単位化した。 ○「両学部で学ぶ専門的連携科目」に関しては、名称を「全学横断型科目」に変更し、科目の見直し、整理統合、さらに新しい科目を加えた。 ○「海外語学実習事前指導」および「海外語学実習」を毎年度実施した。 ○社会貢献フォーラムを毎年度実施した。公開卒論発表会は、人間社会学部は平成24年度から、看護学部は平成27年度から実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○平成27年度から単位化した「専門職連携入門」の充実を図るために両学部による専門職を講師に招き、平成28年度から実施した。 ○地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって他者と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目指して、全学横断型科目として8科目を開講した。 ○「海外語学実習」を継続して実施した。 ○社会貢献フォーラム、公開卒論発表会を継続して実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1108 2151 1234"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.6</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績: C以上80%</td> <td>98.5%</td> <td>97.9%</td> <td>100.0%</td> <td>99.0%</td> <td>96.1%</td> <td>97.3%</td> </tr> </tbody> </table>	No.6	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績: C以上80%	98.5%	97.9%	100.0%	99.0%	96.1%	97.3%	B ↓ A	【高く評価する点】 ・学生同士が、学部学科の枠を超え、相互の専門性への理解を深めるため、全学横断型科目の充実により、魅力あるカリキュラムとすることができた。 【実施(達成)できなかった点】
No.6	目標実績																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
学生の成績: C以上80%	98.5%	97.9%	100.0%	99.0%	96.1%	97.3%																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																			
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																	
※2 専門教育の 充実 の続き	5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視 したカリキュラム体制にしていく ため、人間社会学部の改革検 討に合わせて大学院修士課程 の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率(入学者数)／(入学定員) :100%	5-1【平成29年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部 の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリ キュラムの見直し検討 心理臨床専攻 ・日本臨床心理士資格認定協会によるカリキュ ラムを維持しながら、公認心理師に必要な科 目を新設し、カリキュラムを整備する。 社会福祉専攻 ・計画的な論文作成を促すため、1年生及び長 期履修の1・2年生を対象とした新たな中間発 表の場を設ける。 子ども教育専攻 ・設置計画に即して申請したカリキュラムを着実 に実施する。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 子ども教育専攻 :100%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせた大学院修士課程カリキュラムを見直し検討 した。 ＜心理臨床専攻＞ ・公認心理師に必要な科目の新設および名称変更のために履修規則を改正し、開講科目確認書、心理実践実習 確認申請書を文部科学省・厚生労働省の担当課に11月27日に提出した。その結果、3月30日に実習演習科目に ついての基準を満たすとの回答を得た。 ＜社会福祉専攻＞ ・在籍するすべての学生を対象とした中間発表会(10月7日)を実施した。 ＜子ども教育専攻＞ ・開設1年目にあたる平成29年度は、設置計画に即して、申請したカリキュラムを着実に実施した。 ○目標実績 ・充足率 社会福祉専攻 :83.3% 心理臨床専攻 :133.3% 子ども教育専攻 :66.7% 人間社会学研究科全体:100%	A	【高く評価する点】 ・子ども教育専攻を開設し、申請 カリキュラムを着実に実施した。 また公認心理師受験資格のた めの大幅なカリキュラム改変を 行った。 【実施(達成)できなかった点】		7																																			
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学部改革に対応し、かつ時代のニーズに対応するために、地域教育支援専攻を廃止し、新たな専攻として「子 ども教育専攻」を開設する準備を行うとともに、社会人学生のニーズに合わせ土日開講を導入する等の目標である充 足率を達成できる体制を構築した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜心理臨床専攻＞ 公認心理師に対応する大幅なカリキュラム改変を行い、文部科学省・厚生労働省の認可を得た。 ＜社会福祉専攻＞ 研究法に関わる新たな科目を複数新設した。 ＜子ども教育専攻＞ 平成29年度に開設し、申請カリキュラムを着実に実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 1129 2169 1335"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.7</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>充足率: 社会福祉専攻 100%</td> <td>33.3%</td> <td>33.3%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>50.0%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>充足率: 心理臨床専攻 100%</td> <td>150.0%</td> <td>166.7%</td> <td>133.3%</td> <td>133.3%</td> <td>166.0%</td> <td>133.3%</td> </tr> <tr> <td>充足率: 地域教育支援専攻 100%</td> <td>100.0%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> <td>募集停止</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充足率: 子ども教育専攻 100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>33.0%</td> <td>66.7%</td> </tr> </tbody> </table>		No.7			目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	充足率: 社会福祉専攻 100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	50.0%	83.3%	充足率: 心理臨床専攻 100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%	166.0%	133.3%	充足率: 地域教育支援専攻 100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止			充足率: 子ども教育専攻 100%	
No.7	目標実績																																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																						
充足率: 社会福祉専攻 100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	50.0%	83.3%																																						
充足率: 心理臨床専攻 100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%	166.0%	133.3%																																						
充足率: 地域教育支援専攻 100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止																																								
充足率: 子ども教育専攻 100%					33.0%	66.7%																																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度															
※2 専門教育の 充実 の続き	6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互 交流による高度実践能力の 育成 ③大学間のがんプロフェッショ ナル連携の構築 ○達成目標 ・充足率(入学者数)/(入学定員) :100%	6-1	1	1	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースについては、継続して情報 収集及び教育の充実に向けた整備を行う。 ○現場看護職の相互交流による高度実践能力の 育成(継続) ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者の研究支援を行う ・CNSコース2コースの修了後の専門看護師資格 習得までの支援体制を整備(継続)</p> <p>○達成目標 ・充足率(入学者数)/(入学定員):100%</p>	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.1 「②入学者 選抜試験 (大学院)」	8	8																
		1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○高度な看護専門職教育としては、研究科コースのみならず3つのCNSコースを開設しそれぞれ専門看護師を輩出 して地域の看護力向上に貢献した。 ○特にCNSコースではCNSの再申請の要件ともなるため、修了後の継続的な研究支援などを実施した。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築では全体研修会などをとおして連携が深まった。</p> <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○CNSコースに関しては38単位コース移行に伴って継続した情報収集と教育の充実に向けた整備を行った。 ○研究科コース修了者の研究支援を行った。 ○がんCNSコースの最終の学生1名が平成29年度末に修了した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.8</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>充足率: 100%</td> <td>33.3%</td> <td>50.0%</td> <td>83.3%</td> <td>75.0%</td> <td>75.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	No.8						目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	充足率: 100%	33.3%	50.0%	83.3%
No.8	目 標 実 績																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
充足率: 100%	33.3%	50.0%	83.3%	75.0%	75.0%	100.0%																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																										
※2 専門教育の充実の続き	7【他大学との連携による教育の充実】 ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部> ①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。 ②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。 ○達成目標 ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上/年 <人間社会学部> ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 <看護学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 1回/年 :テレビ会議 2回以上/年	7-1 【平成29年度計画】 【他大学との連携による教育の充実】 <人間社会学部> ・公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討する。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施する。 ○ナーシングキャリアカフェを開催する。 ○連携大学での講義の単位互換または相互受講を実施する。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施する。 ○達成目標 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 2回/年 :テレビ会議 2回以上/年	1	1	【平成29年度の実施状況】 【他大学との連携による教育の充実】 <人間社会学部> ○実践型インターンシップとして他大学の学生と一緒に取り組む連携プログラムを実施した(9月~2月、本学学生2名)。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実。 ・連携9大学になりケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を4回開催した(6月9日、9月29日、12月1日、2月23日)。また、コンソーシアムの学長懇談会を開催した(12月8日)。 ○キャリア像確立講義のオンデマンド配信を行い、11名が受講した。(福岡県立大学9名、聖マリア学院大学2名) ○ナーシングキャリアカフェを6回開催した(沖縄県立看護大学9月9日~10日、琉球大学9月30日、聖マリア学院大学11月11日、産業医科大学12月19日、福岡県立大学1月20日、国際医療福祉大学2月10日)。 ○新たに単位互換包括協定を9大学で締結(9月1日)し、連携大学での講義の単位互換または相互受講は、国際看護論Ⅰ(聖マリア学院大学開講)に2名が受講(福岡県立大学)した。 ○災害看護領域における合同短期研修を実施し、7名の学生(福岡県立大学、聖マリア学院大学)が参加し(9月13日)、国際協力看護領域における合同短期研修は、2名の学生(福岡県立大学、琉球大学)が参加した(3月12日)。 ○目標実績 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる開講科目数 :2科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 5回 :テレビ会議 4回	A	【高く評価する点】 ・コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24~28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。 【実施(達成)できなかった点】		9																												
					【平成24~27年度の実施状況概略】 <人間社会学部> ○平成24年度から「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を通じて、連携9大学で「効果的かつ持続可能なインターンシップモデルプログラム」を開発し、平成25年度から1・2年次生を対象として「プレ・インターンシップ」を単位化した。平成26年度から「大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)」を通じて連携3大学で中長期・実践型インターンシップ・プログラムの開発に取り組み、中長期・実践型インターンシップを実施した。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実を図るために、学長会議を毎年開催した。 ○連携8大学において、平成26年度から講義の単位互換・相互受講を開始実施した。 ○連携8大学共同で、キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施した。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 <人間社会学部> ○他大学の学生と一緒に取り組む実践型インターンシップを継続して実施した。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実を図るために、学長会議を毎年開催した。 ○平成29年度に単位互換に関する包括協定をコンソーシアム連携9大学で再締結し、講義の単位互換・相互受講を継続実施するとともに、連携大学共同で、キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施した。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施した。 ○コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24~28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.9</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学間連携による開講科目数: 1科目以上</td> <td>1科目</td> <td>2科目</td> <td>3科目</td> <td>3科目</td> <td>2科目</td> <td>2科目</td> </tr> <tr> <td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議: 対面会議 2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>6回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議: テレビ会議 2回以上</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>0回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>		No.9			目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学間連携による開講科目数: 1科目以上	1科目	2科目	3科目	3科目	2科目	2科目	ケアリングアイランドコンソーシアム会議: 対面会議 2回	3回	3回	6回	3回	2回	5回	ケアリングアイランドコンソーシアム会議: テレビ会議 2回以上	2回
No.9	目標実績																																				
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																															
大学間連携による開講科目数: 1科目以上	1科目	2科目	3科目	3科目	2科目	2科目																															
ケアリングアイランドコンソーシアム会議: 対面会議 2回	3回	3回	6回	3回	2回	5回																															
ケアリングアイランドコンソーシアム会議: テレビ会議 2回以上	2回	2回	2回	0回	5回	4回																															

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																					
3 教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する	1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的実施(前期、後期)とその結果に基づきFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1-1【平成29年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価等に関するFDセミナーを開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価を実施した(前期・後期分)。 ○授業改善目標の設定については、教務・共通教育部会において連携して行った。授業評価アンケートの対応プランに関し意見を求めた。 ○授業評価等に関するFDセミナーを実施した。(1月31日) ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施した。(1月31日) ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :1回 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率92.5% ※授業評価アンケート回収率=(各科目の回収数合計)÷(各科目の履修登録者数合計)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		10																							
		1			【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学生による授業評価を実施した。 ○学生による授業評価を徴収するため、学生座談会を実施した。 ○授業評価アンケートの内容を見直した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○学生による授業評価を実施した(前期・後期分)。 ○授業改善目標の設定については、教務・共通教育部会に授業評価アンケートの対応プランに関し意見を求めるなど連携を行った。 ○授業評価等に関するFDセミナーを実施した。 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 940 2142 1092"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.10</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業評価結果を反映したFDセミナー開催:年1回以上</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>授業評価の回収率:各授業科目の回収率70%以上</td> <td>82.4%</td> <td>84.9%</td> <td>86.1%</td> <td>81.6%</td> <td>86.1%</td> <td>92.5%</td> </tr> </tbody> </table>					No.10	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	授業評価結果を反映したFDセミナー開催:年1回以上	1回	2回	1回	1回	1回	1回	授業評価の回収率:各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%
No.10	目 標 実 績																															
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																										
授業評価結果を反映したFDセミナー開催:年1回以上	1回	2回	1回	1回	1回	1回																										
授業評価の回収率:各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%	86.1%	81.6%	86.1%	92.5%																										

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																															
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																													
※3 教育効果を検証するシステムの構築の続き	2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。 ○数値目標 ・アンケート内容の見直し ：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数) ：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上	2-1 【平成29年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価システムの改善策を検討する。 ＜人間社会学部＞ ○卒業生の就職先からの評価を把握するため、就職先アンケートを実施する。 ○卒業生の実態を把握するため、卒業生アンケートを実施する。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、適切な対応を行う。 ・就職・進学に関する情報提供を行い、面接および指導を行う。 ・国家試験対策として、模試の実施・補講・個別指導を実施する。 ○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数) ：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価に用いるアンケートの項目及び対象の見直しを行った。 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケートを実施し、集計・分析を行った(対象：平成27年4月入職の事業所のうち送付先が判明している事業所、送付数176、回答数89、回収率50.6%、※両学部を合わせた数値)。 ○卒業生アンケートを実施し、集計・分析を行った(対象：平成27年3月卒の卒業生のうち送付先が判明している方、送付数：151、回答数：14、回収率：9.3%)。 ＜看護学部＞ ○病院就職説明会(4月19日)で就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した(対象：説明会参加病院、配付数67、回答数63、回収率94%)。 進路・生活支援部会にて就職先アンケートの内容を見直し、調査の実施、集計・分析を行った。 (対象：平成27年4月入職の事業所のうち送付先が判明している事業所、送付数：176、回収数：89、回収率：50.6% ※両学部を合わせた数値) ○進路・生活支援部会にて卒業生アンケートの内容を見直し、調査の実施、集計・分析を行った。 (対象：平成27年3月卒の卒業生のうち送付先が判明している方、送付数：63、回収数：11、回収率：17.5%) ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、適切な対応を行った。 ・病院・施設の情報をメール・展示で提供し、就職相談を随時実施した。 ・看護師国家試験対策(模試、対策講座の開講等)を実施した。 ○目標実績 ・アンケート内容の見直し：1回 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：97.9% (人間社会学部96.7%、看護学部100.0%) ・国家試験合格率 看護師：100.0% 保健師：100.0% 社会福祉士：66.7% 精神保健福祉士：88.2% (助産師については、課程の大学院移行のため平成27年度以降受験者なし)	A	【高く評価する点】 ・看護師および保健師国家試験合格率100.0%、看護学部就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。 【実施(達成)できなかった点】 ・社会福祉士の国家試験合格率(66.7%)が目標値(70%)を若干下回ったが、国家試験対策の強化を図り、合格率を4%上げることができた。今後も、さらに対策の強化を進めていきたい。	No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」	11																																																															
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○就職先アンケートを実施してきた(両学部)。 ○卒業生アンケートを平成26年度から実施してきた(両学部)。 ○アウトカム評価システムを構築し、評価の実施と改善を行ってきた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○就職先アンケートを実施した(両学部)。 ○卒業生アンケートを実施した(両学部)。 ○アウトカム評価システムを構築し、システムの充実を図った。 ○目標実績 No.11		A ↓ A			【高く評価する点】 ・期間中のすべての年度で就職率が目標値を上回った。 ・国家試験合格率では、保健師、助産師、精神保健福祉士が常に目標値を上回り、看護師、社会福祉士は6年間平均で目標値を上回った。 【実施(達成)できなかった点】	中期 11																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.11</th> <th colspan="7">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンケート内容の見直し：年1回以上</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>就職率：95%以上</td> <td>97.3%</td> <td>98.0%</td> <td>97.8%</td> <td>98.6%</td> <td>99.1%</td> <td>97.9%</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td>国家試験合格率：看護師 98%以上</td> <td>98.6%</td> <td>97.6%</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>95.2%</td> <td>100.0%</td> <td>98.4%</td> </tr> <tr> <td>国家試験合格率：保健師 90%以上</td> <td>96.3%</td> <td>93.9%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>98.4%</td> </tr> <tr> <td>国家試験合格率：助産師 90%以上</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>受験者なし</td> <td>(75.0%)</td> <td>(100.0%)</td> <td>(95.0%)</td> </tr> <tr> <td>国家試験合格率：社会福祉士 70%以上</td> <td>70.4%</td> <td>70.6%</td> <td>78.9%</td> <td>73.1%</td> <td>62.7%</td> <td>66.7%</td> <td>70.4%</td> </tr> <tr> <td>国家試験合格率：精神保健福祉士 70%以上</td> <td>88.0%</td> <td>100.0%</td> <td>88.5%</td> <td>95.0%</td> <td>100.0%</td> <td>88.2%</td> <td>93.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(助産師については、平成27年度以降、課程が大学院へ移行)</p>		No.11	目 標 実 績							H24		H25	H26	H27	H28	H29	平均値	アンケート内容の見直し：年1回以上	1回	就職率：95%以上	97.3%	98.0%	97.8%	98.6%	99.1%	97.9%	98.1%	国家試験合格率：看護師 98%以上	98.6%	97.6%	98.7%	100.0%	95.2%	100.0%	98.4%	国家試験合格率：保健師 90%以上	96.3%	93.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.4%	国家試験合格率：助産師 90%以上	100.0%	100.0%	100.0%	受験者なし	(75.0%)	(100.0%)	(95.0%)	国家試験合格率：社会福祉士 70%以上	70.4%	70.6%	78.9%	73.1%	62.7%	66.7%	70.4%	国家試験合格率：精神保健福祉士 70%以上	88.0%	100.0%	88.5%	95.0%	100.0%	88.2%						
No.11	目 標 実 績																																																																							
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																																																	
アンケート内容の見直し：年1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回																																																																	
就職率：95%以上	97.3%	98.0%	97.8%	98.6%	99.1%	97.9%	98.1%																																																																	
国家試験合格率：看護師 98%以上	98.6%	97.6%	98.7%	100.0%	95.2%	100.0%	98.4%																																																																	
国家試験合格率：保健師 90%以上	96.3%	93.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.4%																																																																	
国家試験合格率：助産師 90%以上	100.0%	100.0%	100.0%	受験者なし	(75.0%)	(100.0%)	(95.0%)																																																																	
国家試験合格率：社会福祉士 70%以上	70.4%	70.6%	78.9%	73.1%	62.7%	66.7%	70.4%																																																																	
国家試験合格率：精神保健福祉士 70%以上	88.0%	100.0%	88.5%	95.0%	100.0%	88.2%	93.3%																																																																	

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																															
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上80% ・教員間の授業参観システムの構築：教員間の授業参観を実施年1回以上	1-1 【平成29年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観を実施し、授業参観実施による相互の教育改善効果を検証する。 ○公開授業の実施および課題の抽出 ○教員の授業自己評価プランの策定・実施 ○達成目標 ・FDセミナー等教員参加率：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上80% ・教員間の授業参観：年1回以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナーを5回実施した。参加者数は、合計106名(教員全体98.2%)であった。授業改善の活用について検証した。 ○後期に授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を実施した(科目数：7科目、参加教員数：9名)。 ○11月29日の図書館セミナーにて、昨年度のベストティーチャーによる授業参観・公開授業を実施した。 ○平成28年度前・後期分と平成29年度前期分の授業評価アンケート結果について各教員が「授業自己評価・対応プラン」を作成した(平成28年度後期：99科目・教員数28名、平成29年度前期：80科目・教員数36名)。対応プランは掲示し学生に公開した。 ○目標実績 ・FDセミナー等教員参加率：98.2%(健康上等による理由で参加困難な教員を含める) ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上90.6% ・教員間の授業参観：7回 【新たな取り組み】 ・授業参観ウィークを実施し、教員間による教育改善に繋がった。	A	【高く評価する点】 ・授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開した。 ・授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。 【実施(達成)できなかった点】	No.10 「FD」	12																																	
				1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○教員間の授業参観の仕組みを整え、授業参観を実施した。 ○公開授業を実施し、地域の学校教員等からの参加を得た。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○FDセミナーを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証した。 ○全学一斉に授業参観ウィークを設定し、教員間で授業参観を行う機会を設け、相互の教育改善効果を検証した。 ○公開授業を実施し、参加者からも意見を聞き、課題の抽出を行った。 ○教員の授業自己評価・対応プランを掲示し、学生に公開した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.12</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD活動等への教員参加率：100%</td> <td>84.4%</td> <td>95.1%</td> <td>94.9%</td> <td>85.2%</td> <td>89.3%</td> <td>98.2%</td> </tr> <tr> <td>学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%</td> <td>90.0%</td> <td>91.2%</td> <td>90.8%</td> <td>89.5%</td> <td>90.9%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>教員間の授業参観システム実施：年1回以上</td> <td>0回</td> <td>1回</td> <td>延べ16回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> </tr> </tbody> </table>	No.12	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%	89.3%	98.2%	学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%	90.9%	90.6%	教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回	4回	7回	B ↓ A	【高く評価する点】 ・授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開した。 ・授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。 【実施(達成)できなかった点】
No.12	目標実績																																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																				
FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%	89.3%	98.2%																																				
学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%	90.9%	90.6%																																				
教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回	4回	7回																																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																					
※4 教員の教育能力の向上の続き	1 ※【教員のFD活動の推進】の続き	1-2	【平成29年度計画】 【教員のFD活動の推進】 <人間社会学研究科><看護学研究科> ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催 □学外の講師によるFDセミナーの開催 □学外で開催されるFDセミナーへの参加 ・大学院生へのアンケート実施 カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催 ○達成目標 ・大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95% ・大学院生の満足度:「中」以上:75%	1	【平成29年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 <人間社会学研究科><看護学研究科> ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議を開催した。(看護学専攻:12月13日、社会福祉専攻・心理臨床専攻・子ども教育専攻:12月20日) □学外の講師によるFDセミナーは、北海道大学から講師を招聘し、12月13日に開催した。 □学外で開催されるFDセミナーへの参加は、日本教育工学会主催のFD研修会(3月5日、東京工業大学大岡山キャンパス)に参加した。 ・大学院生へのアンケート実施は、10月に配布・回収し、結果の集計を終えた。 ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議を12月6日に開催した。 ○達成目標 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95.5%(67名中64名) 大学院生の満足度:「中」以上:94.7%(19名中18名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		13																							
		1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○大学院FD活動の推進として、毎年度各専攻によるFD研修会議、学外講師によるFDセミナーを開催した。また、学外で開催されるFDセミナーへ参加した。大学院教員の大学院FD研修会への参加(1回以上)は95%以上を達成した。 ○大学院生へのアンケートを実施し、カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を尋ねた結果、満足度「中」以上は75%以上を達成した。また、アンケート結果をもとに大学院生参画によるFD会議を開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○大学院FD活動の推進として、毎年度各専攻によるFD研修会議、学外講師によるFDセミナーを開催した。また、学外で開催されるFDセミナーへ参加した。大学院教員の大学院FD研修会への参加(1回以上)は95%以上を達成した。 ○大学院生へのアンケートを実施し、カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を尋ねた結果、満足度「中」以上は75%以上を達成した。また、アンケート結果をもとに大学院生参画によるFD会議を開催した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 1121 2139 1262"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.13</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院教員のFD研修会参加: 1回以上の教員:95%</td> <td>94.5%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>98.2%</td> <td>100.0%</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td>大学院生の満足度:「中」以上 75%</td> <td>97.1%</td> <td>96.6%</td> <td>96.2%</td> <td>100.0%</td> <td>96.2%</td> <td>94.7%</td> </tr> </tbody> </table>	No.13	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学院教員のFD研修会参加: 1回以上の教員:95%	94.5%	100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	95.5%	大学院生の満足度:「中」以上 75%	97.1%	96.6%	96.2%	100.0%	96.2%	94.7%	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.13	目標実績																															
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																										
大学院教員のFD研修会参加: 1回以上の教員:95%	94.5%	100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	95.5%																										
大学院生の満足度:「中」以上 75%	97.1%	96.6%	96.2%	100.0%	96.2%	94.7%																										

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																											
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																									
※4 教員の教育能力の向上の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数 ：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数 ：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数 ：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数 ：年に1回以上	2-1 【平成29年度計画】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討・実施 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を継続実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施（継続） ・教員と臨床教授等の合同講習会実施 ・ブラッシュアップのためのセミナー開催 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施する。 ○達成目標 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施（1件以上/年）（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施（1回以上/年） ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○社会福祉士養成校協会は、組織変更により、日本ソーシャルワーク教育学校連盟に統合されることになった。本学は運営委員校として、9月9日の運営委員会に出席、2月16日、17日の九州ブロック研究大会には5名の教員が参加した。 ○ブラッシュアップセミナーは、4月28日、ドイツから講師を招き「NRWカトリック大学のソーシャルワーク教育プログラム」をテーマに実施した。参加者12名。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行った。 ・臨床との共同研究を実施（5件の共同研究を継続中）。 ・教員と臨床教授等の合同研修会を実施した(9月12日)。 ・ブラッシュアップのためのセミナーを開催した(9月12日)。 ・実習に関する他大学との合同研修会(8月7日)、FD等を実施した(2月2日)。 ○目標実績 ・臨床との共同研究：5件 ・他大学との合同研修会、FD等を実施：2回 ・教員・指導者講習会実施数：2回 ・教員の臨床継続教育者数：1人	A	【高く評価する点】 ・昨年に引き続きドイツにおける専門職養成教育についての研修を実施した。28年度は施設長の立場から、29年度は大学の立場からソーシャルワーカー等の専門職教育のプログラムを報告してもらい、意見交換することができた。英米の情報に偏る傾向の中で、ドイツの専門職養成教育を学ぶ意味は大きい。 【実施(達成)できなかった点】	14	14																																											
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○社会福祉コースが中心となり、社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として毎年開催される研修会と研究大会に参加した。 ○平成24年度と25年度は、ブラッシュ・アップセミナーの検討期間であり、平成26年度から事業を開始した。平成26年度は、フィリピンのNPO団体の長を招き、ストリートチルドレン救済のための包括的な支援プログラムについて研修した。平成27年度は、元教員を招き、「親が離婚した子どもの面会交流を考える」をテーマに研修を実施した。 ＜看護学部＞ ○看護学部と臨床との看護ユニフィケーション構築に関しては実習調整会議や研究会などを通して実施した。 ○大学と臨床現場との看護実践・教育・研究の有機的に連携に関しても、研修会や研究指導などを実施して指導者の教育指導力向上に寄与した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○社会福祉コースが中心となり、社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として研修会と研究大会(約100名)に参加し、分科会で報告を行うなどしてきた。(平成24～27年も同様の取組をしてきた。) ○ブラッシュアップセミナーは、平成28年度は、ドイツの児童福祉施設長を招き「ドイツの児童福祉と専門職養成教育について」をテーマに、平成29年度は、ドイツの大学講師を招き「NRWカトリック大学のソーシャルワーク教育プログラム」をテーマに実施した。それぞれ10名程度が参加した。 ＜看護学部＞ ○臨床との連携を強化しながら、さらなる実習教育の充実を図るために、実習調整会議や研修会の内容を検討、実施した。 ○大学と臨床現場との看護実践・教育・研究の有機的な連携に関しても、研修会や研究指導などを実施して指導者の教育指導力向上に寄与した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.14</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成目標数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床との共同研究：年1件以上</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>16件</td> <td>6件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>教員・指導者講習会実施数：年に1回以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>教員の臨床継続教育者数：年に1人以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>他大学との合同研修会、FD等：年1回以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>			No.14		目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	達成目標数値							臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件	5件	5件	教員・指導者講習会実施数：年に1回以上					1回	2回	教員の臨床継続教育者数：年に1人以上					1人	1人	他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回	2回
No.14	目標実績																																																			
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																														
達成目標数値																																																				
臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件	5件	5件																																														
教員・指導者講習会実施数：年に1回以上					1回	2回																																														
教員の臨床継続教育者数：年に1人以上					1人	1人																																														
他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回	2回	2回																																														

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																																									
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																																							
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 :社会福祉学科 6.0倍以上 :人間形成学科 7.5倍以上 :看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、良好評価75%以上	1-1【平成29年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組を行う。 ・高大接続改革に対応する学部入試の見直し作業 ・英語検定試験の推薦入試での活用開始(看護学部) ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績や進路などの関連に関する分析をもとにした、現行の入試方法における課題抽出作業を実施した。 ・「高大連携に関する情報交換会」及び「高校生向けサマーセミナー」実施 <大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について取り組む。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):25%以下 ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員):大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組を行う。 ・高大接続改革に対応する学部入試の方針を決定した。 ・英語検定試験の看護学部・推薦入試での活用を開始した。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績や進路などの関連に関する分析をもとにした、現行の入試方法における課題抽出作業を実施した。 ・「高大連携に関する情報交換会」及び「高校生向けサマーセミナー」を秋のオープンキャンパスと同時開催した。それに伴い、「高校生向けサマーセミナー」は「オータムスクール」に名称を変更した。 「高大連携に関する情報交換会」参加者:高校教諭4校6名 「オータムスクール」参加者:人間社会学部スクール10名、看護学部スクール18名 <大学院> ○大学院入試部会を6回開催(4月26日、5月17日、10月11日、11月19日、1月24日、2月7日)し、現状分析及びアドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○両研究科とも、オープンキャンパスの相談コーナーで入試説明を行った。 ○目標実績 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(5.5倍)、社福(4.3倍)、形成(7.4倍)、看護(6.1倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):18.5%(61人/329人) ・大学院における充足率 :100% ・出前講義数及びアンケート :22回、良好評価 99.5%	B	【高く評価する点】 <学部> ・両学部における辞退率が低下した。 <大学院> ・充足率が100%となった。 【実施(達成)できなかった点】 <学部> ・一般入試の志願倍率が、公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科において、目標に達しなかった。	No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」	15																																																																									
		【平成24～27年度の実施状況概略】 <学部> ○高大接続改革へ向けて、学部入試全般の見直しを開始した。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について毎年分析する仕組みを構築した。 ○新たな高大連携事業として、「高大連携に関する情報交換会」でのニーズ把握を踏まえて、「高校生向けサマーセミナー」を開始した。 <大学院> ○大学院入試部会にて定員充足に関する課題を分析し、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保に取り組んだ。 ○大学院入試説明会を学内及び学外にて継続して実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 <学部> ○高大接続改革に対応する学部入試の方針案を策定した。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析した。 ○英語検定試験の看護学部・推薦入試での活用を開始した。 ○新たな高大連携事業である「高大連携に関する情報交換会」、「高校生向けサマーセミナー」を継続して実施した。 <大学院> ○オープンキャンパスで大学院志望者の相談を実施すると同時に、大学院大学院入試部会で現状分析及びアドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○目標実績 No.15 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="7">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般入試の志願倍率: 公共社会 6.5倍以上</td> <td>11.1倍</td> <td>4.0倍</td> <td>8.6倍</td> <td>7.4倍</td> <td>7.0倍</td> <td>5.5倍</td> <td>7.3倍</td> </tr> <tr> <td>": 社会福祉 6.0倍以上</td> <td>6.3倍</td> <td>4.8倍</td> <td>7.2倍</td> <td>6.6倍</td> <td>6.1倍</td> <td>4.3倍</td> <td>5.9倍</td> </tr> <tr> <td>": 人間形成 7.5倍以上</td> <td>9.0倍</td> <td>9.6倍</td> <td>8.1倍</td> <td>9.3倍</td> <td>6.7倍</td> <td>7.4倍</td> <td>8.4倍</td> </tr> <tr> <td>": 看護学科 5.5倍以上</td> <td>6.0倍</td> <td>5.1倍</td> <td>5.7倍</td> <td>5.9倍</td> <td>5.6倍</td> <td>6.1倍</td> <td>5.7倍</td> </tr> <tr> <td>両学部における辞退率: 25%以下</td> <td>24.5%</td> <td>24.8%</td> <td>20.9%</td> <td>21.5%</td> <td>19.5%</td> <td>18.5%</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>大学院における充足率: 100%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>81.5%</td> <td>87.5%</td> <td>85.2%</td> <td>100.0%</td> <td>81.3%</td> </tr> <tr> <td>出前講義: 20回以上</td> <td>30回</td> <td>26回</td> <td>31回</td> <td>25回</td> <td>24回</td> <td>22回</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>90.5%</td> <td>98.9%</td> <td>94.5%</td> <td>97.9%</td> <td>98.9%</td> <td>99.5%</td> <td>97.5%</td> </tr> </tbody> </table>					目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値	一般入試の志願倍率: 公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍	7.0倍	5.5倍	7.3倍	": 社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍	6.1倍	4.3倍	5.9倍	": 人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍	6.7倍	7.4倍	8.4倍	": 看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍	5.6倍	6.1倍	5.7倍	両学部における辞退率: 25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%	19.5%	18.5%	21.6%	大学院における充足率: 100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%	85.2%	100.0%	81.3%	出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回	26回	同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%
	目 標 実 績																																																																																	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																																																											
一般入試の志願倍率: 公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍	7.0倍	5.5倍	7.3倍																																																																											
": 社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍	6.1倍	4.3倍	5.9倍																																																																											
": 人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍	6.7倍	7.4倍	8.4倍																																																																											
": 看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍	5.6倍	6.1倍	5.7倍																																																																											
両学部における辞退率: 25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%	19.5%	18.5%	21.6%																																																																											
大学院における充足率: 100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%	85.2%	100.0%	81.3%																																																																											
出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回	26回																																																																											
同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%	97.5%																																																																											

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																				
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																		
※5 優秀な学生の確保の続き	2【積極的な広報活動】 ①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。 ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	2-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【積極的な広報活動】 ○広報活動を改善する。 ・夏のオープンキャンパス、秋のオープンキャンパス、夢ナビライブ2017福岡会場で、本学Facebookページ・入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」をPRした。フォロワー92名、投稿ごとの最高リーチ数551名 ・広報への動画活用方針を決定した。 ○目標実績 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1724名、良好評価 99.5% ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価 100% ・訪問高校数及びアンケート :40校、良好評価 98.5%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」 No.6 「オープンキャンパス」	16	16																																																			
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施した。 ○スマートフォン用ホームページ(入試情報)の運用を開始した。 ○広報活動の新しい取組として、大学入試資料請求サイトにバナー広告の掲載を開始した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施した。 ○SNSによる広報活動手法を確立した。 ○スマートフォン用ホームページ(入試情報)を充実させた。 ○目標実績 No.16 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス参加者数: 1000名以上</td> <td>1,195</td> <td>1,702</td> <td>1,402</td> <td>1,792</td> <td>1,711</td> <td>1,724</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>95.9%</td> <td>96.3%</td> <td>95.5%</td> <td>93.5%</td> <td>96.0%</td> <td>99.5%</td> </tr> <tr> <td>入試説明会: 10会場</td> <td>15会場</td> <td>11会場</td> <td>11会場</td> <td>10会場</td> <td>10会場</td> <td>10会場</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>100.0%</td> <td>98.7%</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問高校数: 30校</td> <td>27校</td> <td>37校</td> <td>32校</td> <td>30校</td> <td>30校</td> <td>40校</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>91.4%</td> <td>96.6%</td> <td>97.8%</td> <td>96.7%</td> <td>98.8%</td> <td>98.5%</td> </tr> </tbody> </table>							目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	オープンキャンパス参加者数: 1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792	1,711	1,724	同 アンケート: 良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%	96.0%	99.5%	入試説明会: 10会場	15会場	11会場	11会場	10会場	10会場	10会場	同 アンケート: 良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	訪問高校数: 30校	27校	37校	32校	30校	30校	40校	同 アンケート: 良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%
	目標実績																																																												
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																							
オープンキャンパス参加者数: 1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792	1,711	1,724																																																							
同 アンケート: 良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%	96.0%	99.5%																																																							
入試説明会: 10会場	15会場	11会場	11会場	10会場	10会場	10会場																																																							
同 アンケート: 良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%																																																							
訪問高校数: 30校	27校	37校	32校	30校	30校	40校																																																							
同 アンケート: 良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%	96.7%	98.8%	98.5%																																																							

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																							
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																					
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率 100% ・表彰制度の実施 ：表彰の実施(年1回)	1-1	2	2	【平成29年度の実施状況】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターの個別相談は、学生の就職活動繁忙期を予測し、効率的な相談室の運営を行った。また、進路・生活支援部会にオブザーバーとして相談室カウンセラーが出席し、状況報告等を行うことで教員との情報共有を行った。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座に関しては、キャリア形成支援講座を1年生・2年生向けに実施した。3年生に対しては、インターンシップや筑豊地域企業等見学バスツアーを実施した。 ○1・2年次のプレ・インターンシップの充実及び3年次以降のインターンシップにつなぐことに関しては、平成29年度夏季プレ・インターンシップを51名が履修した(平成28年度26名、平成27年度27名)。また夏季インターンシップには16名が参加し、うち6名がプレ・インターンシップ履修者であった。春季インターンシップには5名が参加した。うち1名がプレ・インターンシップ履修者であった。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定については、プレ・インターンシップで実施した。 ○未就職や離職・転職した卒業生がキャリアサポートセンターを利用できるようにするなどキャリア形成支援を行った。 ○優秀学生の表彰を卒業時に行い、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援として、平成28年度後期・平成29年度前期のGPAが2.0以下の学生を特定し、人間社会学部全学科、看護学部看護学科で面接指導を実施した。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」の実施については、「プレ・インターンシップ」単位取得者7名がインターンシップに取り組み、課題を検討した。 ○目標実績 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート：良好評価 100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価 87.5% ・GPA制度の活用状況調査：GPA2.0未満の学生面接率 100%(平成28年度後期・平成29年度前期) ・表彰制度の実施：1回 ・キャリアサポートセンター利用数：利用者実数：208名、延べ952件	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17																																																						
				2	2	2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するため、カウンセラーと学生支援班とで検討会を実施してきた。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座として、1年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ、2年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅲ、3年次生対象の就職ガイダンス等を実施してきた。 ○1・2年次生対象の「プレ・インターンシップ」を充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげてきた。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した「プレ・インターンシップ」(正課科目)を実施してきた。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行ってきた。 ○優秀学生の表彰の実施、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施してきた。 ○平成27年度に全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を試行し、課題を検討した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能強化として就職活動の流れを予測し効率的な相談室の運営を行った。また、センターと教員との情報の共有化のために進路・生活支援部会に相談室カウンセラーが出席した。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座として、1・2年次はキャリア形成支援講座を、3年次は夏季インターンシップや企業等見学バスツアーを実施した。 ○1・2年次対象に充実したプレ・インターンシップを実施し、3年次以降のインターンシップに繋げた。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定をプレ・インターンシップで実施した。 ○未就職や離職・転職した卒業生に対して継続的なキャリア支援を行った。 ○優秀学生の表彰を実施し、GPAの低い学生に対して面接指導を行った。 ○全学横断型プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討した。 ○目標実績 No.17 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上</td> <td>83.9%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上</td> <td>99.4%</td> <td>98.7%</td> <td>80.7%</td> <td>81.7%</td> <td>93.1%</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>GPA2.0未満の学生面接率：100%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>99.2%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>学生表彰の実施：年1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>キャリアサポートセンター利用者数：実数150人以上</td> <td>228</td> <td>261</td> <td>203</td> <td>201</td> <td>187</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>1,093</td> <td>1,102</td> <td>889</td> <td>878</td> <td>829</td> <td>952</td> </tr> </tbody> </table>		目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	プレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%	93.1%	87.5%	GPA2.0未満の学生面接率：100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%	学生表彰の実施：年1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	キャリアサポートセンター利用者数：実数150人以上	228	261	203	201	187	208	同	1,093	1,102	889	878	829	952	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
	目標実績																																																															
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																										
プレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																																										
キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%	93.1%	87.5%																																																										
GPA2.0未満の学生面接率：100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%																																																										
学生表彰の実施：年1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回																																																										
キャリアサポートセンター利用者数：実数150人以上	228	261	203	201	187	208																																																										
同	1,093	1,102	889	878	829	952																																																										

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																													
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																											
※6 学生支援の 充実 の続き	2【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議 2回以上/年	2-1 【平成29年度計画】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年、 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議年2回	1	1	【平成29年度の実施状況】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の体制づくりとして、9大学から14人の教職員が学生コンソーシアム担当者として支援を行った。本学からは2名の教員が担当した。 ○学生コンソーシアム会議を10回開催した。 ○学生フェスティバルの開催 11月11日に福岡女学院看護大学にて「かんたま祭(学生フェスティバル)」開催、ナーシング・キャリアカフェも同日開催した。県立大学より10名が参加。学生フェスティバルにおいては圏域を超えた交流を継続して行った。 ○大学コンソーシアム合同短期災害看護領域研修の中で学生の討議の時間を設け、学びの共有や大学を超えた交流が行われた。 ○目標実績 ・学生フェスティバルの開催:1回開催、学生参加数 県立大学から10名参加 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議10回開催	A	【高く評価する点】 ・学生フェスティバルにおいては圏域を超えた交流が行われている。 ・ナーシング・キャリアカフェと合同短期研修を共同教育推進事業からの継続事業として展開支援し、大学を超えた学生間のみならず卒業生等との交流が図られている。 【実施(達成)できなかった点】		18																													
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○本学が代表となり、12大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築した。 ○学生コンソーシアムを構築し、活発な学生間交流をおこなうことができた。 ○学生フェスティバルを毎年開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○本学が代表を継続し、9大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築し学生支援を行った。 ○学生コンソーシアムを構築し、圏域を超えた活発な学生間交流を行うことができた。 ○学生フェスティバルを毎年開催した。また、ナーシング・キャリアカフェを共同教育推進事業から引き継ぎ開催した。 ○大学コンソーシアム合同短期災害看護領域研修の中で学生の討議の時間を設け、学びの共有や大学を超えた交流が行われた。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1249 972 2145 1125"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.18</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生フェスティバルの開催: 年1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>同 県立大学からの参加: 20名以上</td> <td>15名</td> <td>5名</td> <td>延べ24名</td> <td>延べ23名</td> <td>21名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>学生コンソーシアム会議の開催: 対面会議年2回以上</td> <td>9回</td> <td>13回</td> <td>12回</td> <td>8回</td> <td>7回</td> <td>10回</td> </tr> </tbody> </table>					No.18	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生フェスティバルの開催: 年1回	2回	1回	1回	1回	1回	1回	同 県立大学からの参加: 20名以上	15名	5名	延べ24名	延べ23名	21名	10名	学生コンソーシアム会議の開催: 対面会議年2回以上	9回
No.18	目 標 実 績																																					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																
学生フェスティバルの開催: 年1回	2回	1回	1回	1回	1回	1回																																
同 県立大学からの参加: 20名以上	15名	5名	延べ24名	延べ23名	21名	10名																																
学生コンソーシアム会議の開催: 対面会議年2回以上	9回	13回	12回	8回	7回	10回																																

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																					
※6 学生支援の充実の続き	3【大学院生支援の充実】 ①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用を検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上/年	3-1 【平成29年度計画】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 <心理臨床専攻> ・アンケートを実施し、その結果に基づいて検討する。 <社会福祉専攻> ・履修相談の体制を確立し、土日祝日開講を実施する。 ・研究指導及び相談体制を強化するため、すべての学生に副指導教員をつける。 <看護学研究科> ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向け継続し検討する。 ・前年度の検討結果も踏まえ、具体案を作成する。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件以上 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 <心理臨床専攻> ・昨年度修了生に対するアンケートでは、改善点の指摘はなかった。在学生に対するアンケートに基づき、中間発表会の助言体制を充実させることを確認した。 <社会福祉専攻> ・前期及び後期の授業開始前に各学生と履修相談を行い、授業の土日祝日開講を実施した。 ・在籍するすべての学生について副指導教員を決定し、指導・相談体制の強化を図った。 <看護学研究科> ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し体制を整えた。また、大学院生からの要望に応えられるよう学年代表学生を選出して連絡・相談体制を強化した。修士論文作成・発表会が効果的に実施できるよう院生室のPC環境を改善した。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向け検討を行った。 ・前年度の検討結果も踏まえ、具体案を検討した。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件 【新たな取り組み】 ・大学院の広報紙を作成し、関係方面に配付した。 ・看護学研究科の修了生、在学生のネットワークを組織化した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		19	19																						
					【平成24～27年度の実施状況概略】 <人間社会学研究科> ○継続的な学生からの面接やアンケートにより学習や研究環境への要望を聞き取る相談体制を構築するとともに、土日祝日開講導入などにより聞き取った学生のニーズに対応する具体的な対応策を講じた。 <看護学研究科> ○連絡体制の整備(休講や災害時・緊急時の連絡方法など)を図るとともに、学習環境の整備として、院生講義室と研究室の整備(机、椅子、ロッカーの補充)、視聴覚教材の整備、パソコン機器の再整備等、学生の要望を取り入れた整備を実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 <人間社会学研究科> ○継続的にアンケート調査を行い対応を図った。土日の開講の実施や副指導教員の設置を行い、支援を充実させた。 <看護学研究科> ○大学院生への相談体制を整えた。 ・大学院生からの要望は、学部内(学務部会、FD部会)の連携により体制を整えることができた。 また、修士論文の作成過程に必要な院生室のPC等の環境整備を行った。 ・卒業生を対象とした、大学院入学金減免措置について検討を行った。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1231 1312 2151 1459"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.19</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>助成金の実施: 年1件以上</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>国内学会参加費補助制度の活用件数: 年1件以上</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table>		No.19				目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	助成金の実施: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件	国内学会参加費補助制度の活用件数: 年1件以上	/	/
No.19	目標実績																															
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																										
助成金の実施: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件																										
国内学会参加費補助制度の活用件数: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件																										

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																				
7 学習環境の充実 学部長及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率	1-1【平成29年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進する。 ・教員向け講習会の実施 ○コース開設数調査の実施 ○学生の利用率調査の実施 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :100コース ・学生の利用率 :70%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進した。 ・教員向け講習会を2回実施した。(6月7日 参加者50名、10月4日 参加者29名) eラーニングシステムをスマートフォンに対応させた。 ○コース開設数調査の実施 前期・後期合計 122コース (人間社会学部 67、看護学部 55) ○学生の利用率調査の実施 年間利用率 全学 91% (人間社会学部 87%、看護学部 100%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数 :122コース ・学生の利用率 :91%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20																						
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催した。 ○学生に対してアンケート調査を行い、より活用しやすいシステムにするために、改変などの検討及び実施を行った。IT教育システムの充実を図るために、平成27年度には情報処理教室の機材の入れ替えを行い、新しいシステムで学習できる環境を提供した。また、少人数でも学習できる教室を情報処理教室3として整えた。 ○教員が開設するコース数は各年度で目標を達成した。 ○学生の利用率は各年度で目標を達成した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催した。 ○平成28年度に学内LANシステムを更新し、無線LAN環境を改善した。また、学生の自主的学習を促すために、平成29年度にはeラーニングシステムをスマートフォンに対応させた。 ○教員が開設するコース数は各年度で目標を達成した。 ○学生の利用率は各年度で目標を達成した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 1073 2160 1220"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.20</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>e-ラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)</td> <td>87</td> <td>92</td> <td>119</td> <td>111</td> <td>115</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)</td> <td>74.3%</td> <td>82.3%</td> <td>88.0%</td> <td>87.0%</td> <td>86.5%</td> <td>91.0%</td> </tr> </tbody> </table>			No.20					目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	e-ラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)	87	92	119	111	115	122	学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)	74.3%	82.3%
No.20	目 標 実 績																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
e-ラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)	87	92	119	111	115	122																									
学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)	74.3%	82.3%	88.0%	87.0%	86.5%	91.0%																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																				
※7 学習環境の充実の続き	2【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度 : 参加した社会人のアンケート調査における良好評価 70%以上	2-1 【平成29年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備 ・eラーニングをより良く活用するための検討 ○研究生制度の見直し ＜看護学研究科＞ ・福岡県立大学大学院研究生規則第2条の「研究生の資格」の基準の検討。 ○達成目標 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数、2件以上 ・ビズコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上70%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出は、看護学研究科の2科目で実施(アドバンス生理学・病態生理学)。レポートの学生間でのWEB公開を人間社会学研究科の4科目で実施した。 ・eラーニングをより良く活用するため検討を行った。 ○研究生制度の見直し ・福岡県立大学大学院研究生規則第2条の「研究生の資格」の基準について検討した。 ＜看護学研究科＞ ○レポートのWEB提出は、看護学研究科の2科目で実施した(アドバンス生理学・病態生理学)。 ○研究生制度の見直し 福岡県立大学大学院研究生規則では、研究生の資格として「修士の資格を有する者」とあるが、現段階では制度の利用がない。研究生の資格として、学士の資格を有すると変更が必要である。 ○目標実績 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数 : 6件 ・ビズコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上87.5%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21																						
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○社会人が学びやすい学習環境としてサテライト教室の整備充実を行った。 ○既修得単位認定システムの整備を行った。 ○指導システムとしてeラーニングの活用や主にCNSコースの修了後の研究指導を行った。 ○研究生制度の積極的活用に関しては見直しを行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜人間社会学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの充実を図った。 ○研究生制度について、その積極的活用を図るため、「研究生の資格」基準について検討を行った。 ＜看護学研究科＞ ○IT環境の整備を行った。また、ビズコリ等のサテライトに対する満足度を調べて検討し、博多サテライト教室についての満足度を確認した。 ○福岡県立大学大学院研究生規則では、研究生の資格として「修士の資格を有する者」であり、研究生の資格の変更が必要である。 ○目標実績 No.21 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上</td> <td></td> <td></td> <td>4件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%</td> <td></td> <td>75.0%</td> <td></td> <td>80.0%</td> <td>66.7%</td> <td>87.5%</td> </tr> </tbody> </table>								目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上			4件	5件	6件	6件	博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%		75.0%
	目標実績																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上			4件	5件	6件	6件																									
博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%		75.0%		80.0%	66.7%	87.5%																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																		
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																
※7 学習環境の充実の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	3-1【平成29年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 ○ラーニング commons の利用とその促進 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充のために、11月29日に図書館セミナーを開催した。 ○ラーニング commons の利用とその促進のために、11月29日には図書館セミナーを開催した。 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜日開館を実施した。 ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録311件 ・ラーニング commons 利用者数 : 月409名(平均) ・開館延長時間内の利用者数 : 月371名(平均)	A	【高く評価する点】 ・図書館充実のために図書館セミナーを実施した。 ・機関リポジトリ登録件数が目標を大きく上回った。 【実施(達成)できなかった点】	No.11 「図書館」	22																																		
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○機関リポジトリについては、計画どおり平成26年度から導入した。 ○ラーニング commons については、計画より1年早い平成26年度に、看護学部分館に開設した。 ○平日の開館時間延長・日曜日開館は、看護学部分館において計画どおり実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○機関リポジトリWGを作り、研究情報公開の支援を行い、次期計画に向けて規則のあり方を検討した。 ○ラーニング commons WGを作り、図書館本館にはノートPC40台を設置した。 ○看護学部分館の開館時間を延長し、看護実習時の支援を行った。 ○平成28、29年度に選書ツアーを実施した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.22</th> <th colspan="7">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機関リポジトリ登録件数: 新規登録数 年30件以上</td> <td></td> <td></td> <td>21件</td> <td>16件</td> <td>43件</td> <td>311件</td> <td>98件</td> </tr> <tr> <td>ラーニング commons 利用者数: 月300名以上</td> <td></td> <td></td> <td>259</td> <td>209</td> <td>311</td> <td>409</td> <td>297</td> </tr> <tr> <td>開館延長時間内の利用者数: 月200名以上</td> <td></td> <td>205</td> <td>202</td> <td>124</td> <td>322</td> <td>371</td> <td>245</td> </tr> </tbody> </table>						No.22	目標実績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値	機関リポジトリ登録件数: 新規登録数 年30件以上			21件	16件	43件	311件	98件	ラーニング commons 利用者数: 月300名以上			259	209	311	409	297	開館延長時間内の利用者数: 月200名以上	
No.22	目標実績																																										
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																				
機関リポジトリ登録件数: 新規登録数 年30件以上			21件	16件	43件	311件	98件																																				
ラーニング commons 利用者数: 月300名以上			259	209	311	409	297																																				
開館延長時間内の利用者数: 月200名以上		205	202	124	322	371	245																																				
8 人間社会学部の改革	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 ○達成目標 ・改革案の作成 : 平成25年度までに作成	1-1【平成29年度計画】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進める。 ・年度末のゼミ選択に向け、卒論にいたるカリキュラムとして新設された保健福祉情報プログラムを学生に周知する。新任教員の意見等も反映しつつキャリア形成支援プログラムのカリキュラムを完成させるとともに、残る2全学横断型教育プログラム(援助力養成、国際交流)の充実を図る。	2	2	【平成29年度の実施状況】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進めた。 ・全学横断型教育プログラムのうち、卒論にいたるカリキュラムとして新設された保健福祉情報教育プログラムについては、学生への周知を行った。また同プログラムの追加により必要となった3年次からの新たなゼミ選択方式を決定した。その結果に基づき9名の学生が同プログラムを選択した。他の3プログラムについても充実化を検討し、キャリア形成支援プログラムについては卒論にいたるカリキュラム案を完成させた。	A	【高く評価する点】 ・全学横断型教育プログラムのうち保健福祉情報とキャリア形成支援の両プログラムについて卒論に至るカリキュラムを作成し、保健福祉情報教育プログラムではゼミを開設した。 【実施(達成)できなかった点】	23																																			
人間社会学部は平成4年の設置時に10年間の設置を予定していた。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。	2【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成25年度に作成した学科制からコース制への改変と全学横断型教育プログラム開設に基づく改革案を、平成26、27年度に実施し、計画通りの体制を構築し、この改革に対応した人事採用やカリキュラム改変等を実行した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○全学横断型教育プログラムの充実が図られた。保健福祉情報教育プログラムは卒論にいたるゼミを開設し、プログラム強化の為に新規教員を採用、ゼミ選択方式を決定し、9名の学生を受け入れた。国際交流プログラムでは4年間で卒業可能な留学コースを設定した。援助力養成プログラムでは新たに「子供学習支援論」を開設した。キャリア形成支援プログラムについてはプログラム強化のための新規教員を採用し、カリキュラム案を完成させた。	A ↓ A			【高く評価する点】 ・全学横断型教育プログラムのうち保健福祉情報とキャリア形成支援の両プログラムについて卒論に至るカリキュラムを作成し、保健福祉情報教育プログラムではゼミを開設した。 【実施(達成)できなかった点】					中期 23																																	

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
9 両学部連携の 大学院博士課程 の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科統が連携した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1【平成29年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。		1	【平成29年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を第3期中期計画策定委員会等で検討した。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部改革及び大学院修士課程再編を踏まえ、博士課程の新設について方向性を検討してきた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を改革推進会議等で検討した。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	中期 24			
ウェイト総計			中期 26	29年度 26	項目数計				中期 24	29年度 24

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項(平成29年度)

- (平成29年度)
- ①学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。
 - ②看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。
また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。
 - ③人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。
 - ④看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。
 - ⑤コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。
また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。
 - ⑥看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。
 - ⑦授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。
 - ⑧教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。
 - ⑨大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。
 - ⑩機関リポジトリの拡充、及びラーニングコモンズ利用促進のため、図書館セミナーを実施した。

教育に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

- (平成24年度)
- ①文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。
 - ②文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。
 - ③放送大学との連携協定を締結した。
 - ④ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セイフティ・ネットワーク(通称:CSN)」を構築し、展開するための協定を締結した。
- (平成26年度)
- ⑤両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。
全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。
 - ⑥情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。
- (平成27年度)
- ⑦文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組(8大学連携)が最高ランクのS評価を受けた。47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。
 - ⑧文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)の中間評価において、本学を代表とする取組(3大学連携)が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。
- (平成28年度)
- ⑨大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。
「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」
 - ⑩学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。
 - ⑪学生の主体的な勉学・研究をさらに促進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。
- (平成29年度)
- ⑫学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。
 - ⑬看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。
また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。
 - ⑭人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。
 - ⑮看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。
 - ⑯コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。
また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。
 - ⑰看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。
 - ⑱授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。
 - ⑲教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。
 - ⑳大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。
 - ㉑機関リポジトリの拡充、及びラーニングコモンズ利用促進のため、図書館セミナーを実施した。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 2 研究		大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																																																																																					
項目	実施事項	平成29年度計画	中期	年度	暫定 ↓ 中期		年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																																																																																																																				
1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進	<p>1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。</p> <p>①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。</p> <p>○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 : 3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 : 隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 : シンポジウムの開催隔年1回 ・産学連携契約件数 : 年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 : 年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 : 年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 : 3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) : 人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) : 人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 : 共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 : 共同研究応募件数 3件以上/年</p>	<p>1-1【平成29年度計画】</p> <p>【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>研究推進部及び3センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。</p> <p>○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトについて検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討する。 ○産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討する。 ○協定校(大邱韓医科大学、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学)との研究者や学生、院生の交流促進について国際交流推進部と連携して検討する。 ○保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、国際シンポジウムを開催する。</p> <p>○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 : 3件以上/年 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) : 人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) : 人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 1回 ・保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 : シンポジウムの開催 1回</p>			2	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>研究推進部及び3センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。</p> <p>○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトとして、昨年度に引き続き研究推進部において地域教育課題、医療福祉情報の重点領域研究部門のプロジェクトを立ち上げ研究支援を実施した。</p> <p>○学際的研究プロジェクトの成果発表については、1月22日から26日まで成果報告会を実施した(3件)。</p> <p>○田川地域包括連携協定の協働事業について、自治体の状況把握と今後の活動方針について確認を行った。</p> <p>○協定校(大邱韓医科大学、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学)との研究者や学生、院生の交流促進について国際交流推進部と連携し、随時受け入れと派遣を行った。</p> <p>○保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、4月28日に国際シンポジウムを開催し、報告書を作成した。 テーマ「認知症の方とその家族への地域支援ー看護と福祉の連携を考えるー」</p> <p>○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数 : 3件 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回 ・研究シーズ発表会への参加 3名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) : 人間社会学部年間 70件 看護学部年間 41件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) : 人間社会学部年間 9件 看護学部年間 6件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件 招聘件数 2件 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 1回 ・保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 : シンポジウムの開催 1回</p>	B	【高く評価する点】	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」	25																																																																																																																					
				2	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○4センターが独自の研究を推進できるよう調整を行ってきた。また、27年度においては国際会議を2大学および地域の研究所と共同開催することで研究の推進を図った。</p> <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○附属研究所の改組を行ったことで、附属研究所を中心とした研究部門の強化を図ることができた。研究部門では重点領域研究を立ち上げ、地域教育課題や医療福祉情報に関わる研究の推進を図ることができた。併せて、附属研究所のセンターを4センターから3センターと整理し、地域連携や社会貢献を中心とした活動の推進を図った。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.25</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学術的研究プロジェクト数: 年3件以上</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>同 成果発表会: 隔年1回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>同 報告書発刊: 隔年1回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5回</td> <td></td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>学術的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回</td> <td></td> <td>1回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>産学官連携契約件数: 2件</td> <td>7件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>6件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>知的財産セミナーの開催: 1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>メールマガジンの発行: 年12回以上</td> <td>15回</td> <td>17回</td> <td>15回</td> <td>18回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>研究シーズ発表会への参加: 3名以上</td> <td>2名</td> <td>15名</td> <td>4名</td> <td>4名</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>論文数: 人間社会学部 年間40件以上</td> <td>21件</td> <td>34件</td> <td>14件</td> <td>36件</td> <td>17件</td> <td>70件</td> </tr> <tr> <td>同 : 看護学部 年間40件以上</td> <td>71件</td> <td>40件</td> <td>35件</td> <td>50件</td> <td>30件</td> <td>41件</td> </tr> <tr> <td>学会発表: 人間社会学部 年間10件以上</td> <td>8件</td> <td>7件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>8件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>同 : 看護学部 年間10件以上</td> <td>9件</td> <td>6件</td> <td>1件</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>提携協定校との共同研究数: 年2件以上</td> <td>5件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>同 招聘件数: 年2件以上</td> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>1件</td> <td>0件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>同 共同研究応募件数: 年3件以上</td> <td>3件</td> <td>2件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>	No.25	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	学術的研究プロジェクト数: 年3件以上	4件	4件	5件	6件	3件	3件	同 成果発表会: 隔年1回	3回	2回	1回			1回	同 報告書発刊: 隔年1回				5回		1回	学術的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回		1回				1回	産学官連携契約件数: 2件	7件	2件	2件	6件	2件	2件	知的財産セミナーの開催: 1回	メールマガジンの発行: 年12回以上	15回	17回	15回	18回	12回	12回	研究シーズ発表会への参加: 3名以上	2名	15名	4名	4名	3名	3名	論文数: 人間社会学部 年間40件以上	21件	34件	14件	36件	17件	70件	同 : 看護学部 年間40件以上	71件	40件	35件	50件	30件	41件	学会発表: 人間社会学部 年間10件以上	8件	7件	5件	6件	8件	9件	同 : 看護学部 年間10件以上	9件	6件	1件	3件	1件	6件	提携協定校との共同研究数: 年2件以上	5件	2件	2件	3件	3件	2件	同 招聘件数: 年2件以上	3件	5件	1件	0件	2件	2件	同 共同研究応募件数: 年3件以上	3件	2件	3件	4件	3件	3件	B ↓ B	【高く評価する点】		中期 25						
No.25	目標実績																																																																																																																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																																									
学術的研究プロジェクト数: 年3件以上	4件	4件	5件	6件	3件	3件																																																																																																																									
同 成果発表会: 隔年1回	3回	2回	1回			1回																																																																																																																									
同 報告書発刊: 隔年1回				5回		1回																																																																																																																									
学術的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回		1回				1回																																																																																																																									
産学官連携契約件数: 2件	7件	2件	2件	6件	2件	2件																																																																																																																									
知的財産セミナーの開催: 1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回																																																																																																																									
メールマガジンの発行: 年12回以上	15回	17回	15回	18回	12回	12回																																																																																																																									
研究シーズ発表会への参加: 3名以上	2名	15名	4名	4名	3名	3名																																																																																																																									
論文数: 人間社会学部 年間40件以上	21件	34件	14件	36件	17件	70件																																																																																																																									
同 : 看護学部 年間40件以上	71件	40件	35件	50件	30件	41件																																																																																																																									
学会発表: 人間社会学部 年間10件以上	8件	7件	5件	6件	8件	9件																																																																																																																									
同 : 看護学部 年間10件以上	9件	6件	1件	3件	1件	6件																																																																																																																									
提携協定校との共同研究数: 年2件以上	5件	2件	2件	3件	3件	2件																																																																																																																									
同 招聘件数: 年2件以上	3件	5件	1件	0件	2件	2件																																																																																																																									
同 共同研究応募件数: 年3件以上	3件	2件	3件	4件	3件	3件																																																																																																																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																				
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	2【外部研究資金の獲得の推進】 ①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 :年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)	2-1【平成29年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 :年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く)		1	【平成29年度の実施状況】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に非常勤職員を雇用し、事務局機能を強化を図った。また、外部研究資金等の情報を適宜ホームページに掲載(科研費情報掲載は10月)するとともに、全教員へメールにより情報発信した。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度を実施した。 ・不採択となったがA評価だった教員の申請に対し助成を行った。(100千円×2名) ○科研費応募率向上のための研修会を開催した(9月)。 ○目標実績 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 :31件、4,109万円 ・科研費応募率 :95.1%		B	No.19 「研究」		26																																					
			1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○科研費申請繁忙期に非常勤職員を雇用し、事務局機能を強化した。外部研究資金等の情報を適宜ホームページに掲載した。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度を実施した。 ・不採択となったがA評価だった教員の申請に対し助成を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会を開催した。 ○目標実績		A ↓ A	【高く評価する点】 ・外部資金獲得状況はいずれの年度も目標を上回り、年度平均額は5,300万円を超えた。また、応募率については90%を超える実績を積み上げた。 【実施(達成)できなかった点】		中期	26																																				
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.26</th> <th colspan="7">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部資金(科研費)獲得件数:年間30件以上</td> <td>32件</td> <td>30件</td> <td>38件</td> <td>34件</td> <td>35件</td> <td>31件</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>同 獲得金額:年間4,000万円以上(単位:万円)</td> <td>6,177</td> <td>5,759</td> <td>6,473</td> <td>4,910</td> <td>4,461</td> <td>4,109</td> <td>5,315</td> </tr> <tr> <td>科学研究費応募率:80%以上</td> <td>70.1%</td> <td>94.3%</td> <td>92.1%</td> <td>94.3%</td> <td>95.9%</td> <td>95.1%</td> <td>90.3%</td> </tr> </tbody> </table>		No.26	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値	外部資金(科研費)獲得件数:年間30件以上	32件	30件	38件	34件	35件	31件	33件	同 獲得金額:年間4,000万円以上(単位:万円)	6,177	5,759	6,473	4,910	4,461	4,109	5,315	科学研究費応募率:80%以上	70.1%	94.3%	92.1%	94.3%	95.9%	95.1%	90.3%			
No.26	目 標 実 績																																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																								
外部資金(科研費)獲得件数:年間30件以上	32件	30件	38件	34件	35件	31件	33件																																								
同 獲得金額:年間4,000万円以上(単位:万円)	6,177	5,759	6,473	4,910	4,461	4,109	5,315																																								
科学研究費応募率:80%以上	70.1%	94.3%	92.1%	94.3%	95.9%	95.1%	90.3%																																								

中期計画		平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																		
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上	3-1【平成29年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備については、外部有識者をいれたCOI審査を行った。 ○オンライン研究倫理教育の受講を徹底した。 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組として、規定改訂案の草案を作成した。また、規定改訂案の草案の作成のための小委員会を15回程度行った。 ○個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行い、その内容を若手研究者に対するセミナーで取り扱った。 ○目標実績 ・学外での研修参加：1名 ・セミナー開催：1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：2回開催(4月4日、1月31日)	A	【高く評価する点】 ・外部有識者をいれたCOI審査体制を活用し、3件の審査を実施した。 ・個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行った。 【実施(達成)できなかった点】			27																																	
				1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○オンライン研究倫理教育を導入した。 ○動物実験に関するガイドラインを策定し、実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○研究倫理審査体制の整備については、外部有識者をいれたCOI審査を行った。 ○オンライン研究倫理教育の受講を徹底した。 ○動物実験に関する外部検証を受け、それに基づいた実施ガイドラインを徹底のための委員会開催(小委員会も含む)及び規定改訂案の草案を作成した。 ○個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行い、その内容を若手研究者に対するセミナーで取り扱った。 ○目標実績 No.27 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="7">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学外での研修参加：年1人以上</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>セミナー開催：年1回</td> <td></td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>動物実験に関する委員会：年2回以上</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	目 標 実 績								H24	H25	H26	H27	H28	H29	学外での研修参加：年1人以上	1人	1人	1人	1人	1人	1人	セミナー開催：年1回		1回	1回	1回	1回	1回	動物実験に関する委員会：年2回以上	2回	2回	3回	3回	2回	2回	B ↓ A	【高く評価する点】 ・外部有識者をいれたCOI審査体制を活用し、3件の審査を実施した。 ・個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行った。 【実施(達成)できなかった点】
目 標 実 績																																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																					
学外での研修参加：年1人以上	1人	1人	1人	1人	1人	1人																																					
セミナー開催：年1回		1回	1回	1回	1回	1回																																					
動物実験に関する委員会：年2回以上	2回	2回	3回	3回	2回	2回																																					
		ウエイト総計	中期 4	29年度 4			項目数計	中期 3	29年度 3																																		

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項(平成29年度)

研究に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

(平成28年度)

①附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。
新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 3 社会貢献</p>	<p>「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。</p>
------------------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年	1-1【平成29年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大、三育大、北京中医药大学、南京師範大、コンケン大、威徳大との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・地域の学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを推進する ○国際交流センターの事業推進 ○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年	1	1	【平成29年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 大邱韓医大を訪問し、文化・学術交流推進に関する協議を行った(9月26日、27日)。交流教職員数:7名 吉林大学珠海学院を訪問し、老年看護に関する情報交換を行った。交流教職員数:3名 三育大と、交流の活性化に伴う協定内容の変更のため訪問した(2月9日)。教員数:1名 大邱韓医大から教員を受け入れた(2月~)。教員数:2名 威徳大での文化交流プログラムを実施した(3月20日~24日)。:参加学生数 10名 教員数:4名 三育大を訪問し、短期留学プログラムについて検討した(3月28日、29日)。教員数:3名 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・後藤寺小学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施した(1月17日)。 韓国からの長期留学生6名が参加。 ・伊田小学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施した(1月30日)。 韓国からの短期留学生10名が参加。 ○国際交流センターの事業推進 国際交流センターを活用した、チューターによる受け入れ学生の学習支援を実施した。 ○目標実績 ・教員交流数 :20名 ・文化交流プログラムの実施 :2回 【新たな取り組み】 ・本学プロモーションビデオ(国際版)の制作に向けた取り組みを実施した(3月ビデオ完成)。	A	A	28	28	
		【平成24~27年度の実施状況概略】 ○協定締結校との文化・学術交流事業を推進した。 ○威徳大(韓国)と新たに協定を締結した。 ○国際交流センターを開設した。 ○中国、韓国からの視察団・学生訪問団を受け入れた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○協定締結校への訪問、あるいは協定締結校からの教員の受け入れを通して、協定締結校との関係性と強化し、文化・学術交流を推進することができた。また国際交流センターでのチューターによる受け入れ学生の学習支援の取り組みは、学生間の国際文化交流の意識向上につながった。また平成29年度に作成した本学プロモーションビデオ(国際版)は、本学で学ぶ魅力を伝えるツールとして活用されることが期待される。 ○地域住民との国際交流事業を行った。 ○新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定を締結した。 ○目標実績			A ↓ A					A ↓ A

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
教員交流数:年間延べ20名以上	16名	11名	15名	22名	25名	20名
文化交流プログラム実施:年1回以上	1回	1回	3回	3回	4回	2回

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																		
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・受入留学生数:30人以上(私費留学生を含む)／年	2-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施する。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・協定校を対象とした短期留学(受入)プログラムの実施 ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供する。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・プログラムの継続的实施に向けた調整を行う。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・受入留学生数:20名以上(私費留学生含む)	A	【高く評価する点】 ・英国短期語学研修への参加学生数が増加した。研修を通して、学生の語学に対する意識の向上が確認できた。また本プログラムは、福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、実施することができた。 ・短期・長期派遣留学経験者へ向け、国際交流プログラム評価のための調査を実施し、本看護学部紀要に投稿し採択された。なお本調査は継続中である。 【実施(達成)できなかった点】	29																			
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○海外短期語学研修をイギリスにて実施した。 ○短期海外研修を開始した。 ○短期の留学受入を開始した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○平成29年度のイギリスでの海外短期語学研修は、参加学生が27名と増加した。語学・文化交流プログラムに加えて、学生の専門分野への意識向上を目的とした「専門分野を学ぶプログラム案」の交渉、企画を行った。この取組が、大邱韓医科大学からの看護学生受け入れの研修プログラムの企画、受け入れにつながった。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1234 2139 1360"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>留学を経験した学生の報告会:年1回以上</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>受入留学生数:30名以上(私費留学生含む)</td> <td>11名</td> <td>15名</td> <td>16名</td> <td>25名</td> <td>22名</td> <td>30名</td> </tr> </tbody> </table>							H24	H25	H26	H27	H28	H29	留学を経験した学生の報告会:年1回以上	1回	2回	3回	4回	2回	4回	受入留学生数:30名以上(私費留学生含む)	11名	15名	16名
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																					
留学を経験した学生の報告会:年1回以上	1回	2回	3回	4回	2回	4回																					
受入留学生数:30名以上(私費留学生含む)	11名	15名	16名	25名	22名	30名																					

中期計画		平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																															
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 ：平成27年度までに作成	3-1	【平成29年度計画】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○産炭地復興に関する国際シンポジウムを開催する。	1	【平成29年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○産炭地復興に関する国際シンポジウムを10月14日に開催し、本国際シンポジウムの報告書を作成した。 テーマ「石炭産業終焉後の"地域ビジョン"をめぐってーポスト工業社会における暮らしと文化ー」	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			30																																
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクション絵画4点に記された日本語説明文について英文翻訳を行い、翻訳物については、山本作兵衛コレクション保存管理計画(日本語版・英語版)に盛り込み、英語版をユネスコに提出した。 ○地域の方々との日記現代語訳作業部会は、継続的に開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○附属研究所の改組に伴い、山本作兵衛コレクションの保存・活用の見直しと整理を図った。英文アーカイブの基礎となる翻訳作業については、平成27年度に終了した。 ○山本作兵衛氏の日記現代語訳作業部会の活動は、全ての日記を研究叢書として出版できたことにより、平成28年度をもって終了した。 ○国際学術研究交流として、日独国際シンポジウムを開催した。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 30																																
2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1-1	【平成29年度計画】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討・実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1	【平成29年度の実施状況】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の今後の活動について調整を行った。 ○田川市郡との包括連携事業の推進について、活動状況の確認を行った。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムについて、県立三大学連携県民公開講座を開催した(10月)。 ○目標実績 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21 「産学官連携」		31																																
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福岡県立大学と田川市および田川郡町村との包括連携協定を締結し、連携事業の内容について協議を行った。 ○県立三大学で連携し、公開講座を実施した。他大学に教員の派遣を行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○福岡県・田川市郡との産学官事業については継続的に協議を行い、調整を図った。 ○県立三大学で連携し、公開講座を実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1795 2151 1963"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.31</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県・田川市郡との産学官連携事業: 年1件以上</td> <td>1件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>田川市郡との包括連携事業: 年5件以上</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>県立三大学連携による社会貢献共同プログラム: 年1企画以上</td> <td>1企画</td> <td>1企画</td> <td>1企画</td> <td>2企画</td> <td>5企画</td> <td>1企画</td> </tr> </tbody> </table>	No.31	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	福岡県・田川市郡との産学官連携事業: 年1件以上	1件	4件	4件	1件	1件	1件	田川市郡との包括連携事業: 年5件以上	4件	3件	3件	5件	5件	5件	県立三大学連携による社会貢献共同プログラム: 年1企画以上	1企画	1企画	1企画	2企画	5企画	1企画	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	
No.31	目標実績																																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																				
福岡県・田川市郡との産学官連携事業: 年1件以上	1件	4件	4件	1件	1件	1件																																				
田川市郡との包括連携事業: 年5件以上	4件	3件	3件	5件	5件	5件																																				
県立三大学連携による社会貢献共同プログラム: 年1企画以上	1企画	1企画	1企画	2企画	5企画	1企画																																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																									
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																							
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業 ・アンビシャス親子広場の見直し ・福祉用具研究会における県との連携強化 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(年間6回以上) ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」	32	32																								
		1	1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を拡充しながら実施した。 ○福祉用具研究会の開催など福祉分野を中心に地域貢献事業を推進した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を拡充しながら実施した。 ○福祉用具研究会、アドボチャイルドなど福祉分野を中心に地域貢献事業を推進した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1060 2160 1218"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.32</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉用具研究会の開催：年6回以上</td> <td>7回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>9回</td> <td>9回</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上</td> <td>80.0%</td> <td>90.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>						No.32	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	福祉用具研究会の開催：年6回以上	7回	8回	8回	9回	9回	9回	参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	80.0%	90.0%	100.0%
No.32	目標実績																																	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																												
福祉用具研究会の開催：年6回以上	7回	8回	8回	9回	9回	9回																												
参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																												

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																													
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																											
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-2	1	<p>【平成29年度計画】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</p> <p><ヘルスプロモーション実践研究センター></p> <p>○健康教室の実施・修正</p> <p>○福祉・教育・健康の相談事業の検討・実施</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教室等: 20件 参加者数: 延べ 800名 参加者アンケート: 良好評価 75%以上 	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</p> <p>○健康教室の実施・修正</p> <p>健康教室(マザークラス田川) 6回実施、39名参加 健康教室(マザークラス福岡) 6回実施、142名参加 健康大使への継続教育 1回実施、16名参加 筑豊市民大学ヘルシー・エイジングゼミ 11回実施、313名参加 健康教室(ヒーリング) 11回実施、110名参加 「癒やしの空間」の管理運営 4回実施、12名参加 食によるヒーリングパワー 3回実施、17名参加</p> <p>○福祉・教育・健康の相談事業の検討</p> <p>女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」 2回実施、参加9名 性の健康に関する事業 19回実施、244名参加 エンド・オブ・ライフケア教育 3回実施(県立大)、290名参加</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教室等: 66件 参加者数: 延べ 1,192名 参加者アンケート: 98.2% 	B	【高く評価する点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	33																													
		<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p><ヘルスプロモーション実践研究センター></p> <p>○健康教室の実施・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度から、新たに地域住民を対象とした高齢者宅訪問を開始し、健康長寿文化を育むための取り組みを継続している。 平成25年度から、新たに性教育出前講座を開始し、性の健康に関する事業拡大を図った。 平成26年度においては、保育士を対象とした保育看護学会の開催規模(回数)を拡大し、子どもの病気の手当等について保育士の健康支援に関する能力向上を図った。 平成27年度においては、多職種がんセミナーの実施回数をこれまでの2倍(4回実施)とすることで、地域住民に対し、終末期における在宅医療について意識向上を図った。 <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○地域住民に対する健康課題解決のための事業を継続的に行った。妊娠・出産、子育て、高齢期の課題解決に対する事業が中心であり、研究にも結び付いている。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.33</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康教室等: 20件</td> <td>26件</td> <td>20件</td> <td>11件</td> <td>11件</td> <td>60件</td> <td>66件</td> </tr> <tr> <td>参加者数: 延べ800名</td> <td>3,782</td> <td>3,225</td> <td>1,933</td> <td>2,402</td> <td>1,321</td> <td>1,192</td> </tr> <tr> <td>参加者アンケート: 良好評価 75%以上</td> <td>98.6%</td> <td>98.6%</td> <td>99.0%</td> <td>98.0%</td> <td>99.7%</td> <td>98.2%</td> </tr> </tbody> </table>		No.33						目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	健康教室等: 20件	26件	20件	11件	11件	60件	66件	参加者数: 延べ800名	3,782	3,225	1,933	2,402	1,321	1,192	参加者アンケート: 良好評価 75%以上	98.6%	98.6%
No.33	目 標 実 績																																					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																
健康教室等: 20件	26件	20件	11件	11件	60件	66件																																
参加者数: 延べ800名	3,782	3,225	1,933	2,402	1,321	1,192																																
参加者アンケート: 良好評価 75%以上	98.6%	98.6%	99.0%	98.0%	99.7%	98.2%																																

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-3 【平成29年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと推進する。 ○達成目標 ・サポーター派遣人数：140名以上 ・教員対象研修回数：10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名以上 ・登校開始率：37% ※ 登校開始率とは・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	1	1	【平成29年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数275名、延べ2,503名が活動した。 ○教員対象研修事業は、49回の研修を3,386名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数22名、延べ1,252名が通級した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」について、学生活動において明らかになった問題点等を明確化し、センターやプログラムのそれぞれの課題を月2回実施している運営会議の中で検討した。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施した。 地域の教育委員会主催の学習支援を実施している11箇所へ学生を派遣した。派遣学生数は68人、派遣延回数は1,729回であった。 ○県内教育支援センターと民間団体における不登校支援体制の整備に向けて、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施した。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数：275名 ・教員対象研修回数：49回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：22名 ・登校開始率：68.2% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	A	No.38 「不登校・ひきこもりサポーター」	34	34	
		【高く評価する点】 ・派遣事業など、目標値を大きく上回ったため。 【実施(達成)できなかった点】								
			1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○中期計画に基づいて、各年度とも年度計画を上回って実施した。平成25年度より、「キャンパス・スクール・夏」を開始し、キャンパススクール事業を拡大した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○中期計画に基づいて、各年度とも年度計画を上回って実施した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施した。 ○平成29年度より福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施した。 ○平成28年度より実施した「土曜の風」は、各年度とも当初計画の延べ500回を超える実績を上げた。 ○目標実績 No.34	A ↓ A	【高く評価する点】 ・各年度とも目標値を大きく上回り、さらに新規事業に取り組んだ。 【実施(達成)できなかった点】	34	34	

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																					
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																			
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-4	1	1	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施</p> <p>○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援</p> <p>○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上</p> <p>○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと推進する。</p> <p>○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 年2回</p>	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、外部団体の登録件数は187件となり、76件のボランティア依頼情報を学生に提供した。また、延べ1618人の学生相談に応じ、コーディネートにより延べ744人の学生が活動を行った。</p> <p>○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援については、延べ1618人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。学内のボランティアサークルとの懇談会を3回実施し、11グループからの相談に対応した。</p> <p>○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上については、社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会として、「認知症サポーター養成講座」を1月に実施し22名の学生が参加した。</p> <p>○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している11箇所を派遣した。派遣学生数は68人、派遣延べ回数は1,729回であった。</p> <p>○目標実績 ・外部団体・機関登録件数 187件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 延べ744人 ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 2回</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>・達成目標における外部団体・機関登録数、及びセンターのコーディネートにより活動を行った学生数が、いずれも当初の目標値を2倍以上と大きく上回った。 また、土曜の風の派遣学生数が、当初計画の3倍を超える実績を上げた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.16 「学生サークル」	35																																				
		1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、毎年度、目標値を超える実績を上げたほか、行政等の関係機関と連携し、ひとり親家庭の学習支援や東北被災地支援など社会的に特に貢献が求められる活動分野の開拓を行った。</p> <p>○毎年度、社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を目標値を上回る回数で開催するとともに、学生ボランティアサークル等の支援を積極的に行った結果、センターが学生の活動の拠点として認知され、活用されるようになった。</p> <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネート数は、毎年度、目標値を超える実績を上げた。そのほか、LGBT問題の啓発活動サークル立ち上げ支援や、熊本地震及び北部九州豪雨災害の災害支援活動など、社会的に特に貢献が求められる活動分野の開拓を行った。</p> <p>○平成28年度より実施した「土曜の風」は、各年度とも当初計画の延べ500回を超える実績を上げた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.35</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部団体・機関登録数：90件以上</td> <td>118件</td> <td>131件</td> <td>148件</td> <td>163件</td> <td>174件</td> <td>187件</td> </tr> <tr> <td>コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人</td> <td>304人</td> <td>447人</td> <td>414人</td> <td>509人</td> <td>477人</td> <td>744人</td> </tr> <tr> <td>社会貢献フォーラム開催：1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	No.35	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件	174件	187件	コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人	477人	744人	社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回				社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回	2回	2回	<p>【高く評価する点】</p> <p>・学生活動数、センター利用学生数が増加した。さらに土曜の風の派遣学生数が、当初計画の3倍を超える実績を上げた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>
No.35	目 標 実 績																																													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																								
外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件	174件	187件																																								
コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人	477人	744人																																								
社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回																																											
社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回	2回	2回																																								

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																								
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																						
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 ：年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名	2-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 「特別支援教育・スキルアッププログラム」:5回実施、参加者延べ145名 「平成29年度直方市要保護児童対策地域協議会研修会 ペアレントトレーニングのスキルアップ講座」:5回実施、参加者延べ155名 ○教育研修活動の実施 「筑豊英語教員フォーラム」:22回開催、参加者延べ330名 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 リカレントセミナー実施:2回実施、参加者120名 平成28年度のリカレントセミナーの内容を、「福岡県立大学社会福祉学会第8回大会特集号」(平成30年3月刊行)の中で、掲載した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育の実施 看護職へのリカレント教育 1回実施(看護師2名、助産師36名うち卒業生2名)(事業完了) 保健師リカレント教育 2回実施(保健師41名、看護師41名うち卒業生22名)(事業完了) 地域住民の感染症予防スキルアップ事業 11回実施(一般214名)(事業完了) 看護技術追跡調査実施 :看護師、保健師、助産師各リカレント教育時に調査実施(1回) ○目標実績 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 ・社会福祉士及び精神保健福祉士対象のリカレント教育 1事業実施 ・看護師対象のリカレント教育 1事業実施 ・助産師対象のリカレント教育 1事業実施 ・保健師対象のリカレント教育 2事業実施 ・卒業生参加数 :卒業生参加数 看護学部 年間24名 人間社会学部 年間42名 ・看護技術追跡調査実施 :1回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	36																																																								
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○生涯福祉研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を実施した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○各種リカレント教育を実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○生涯福祉研究センターの資源を生かして、地域ニーズの極めて高い発達障害や児童虐待に対応するため、「特別支援教育・スキルアッププログラム」や「直方市要保護児童対策地域協議会研修会」など、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を実施した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○ニーズの変化に対応しながら、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を継続実施した。 ・保健師、助産師、看護師ともにリカレント教育の充実を図った。どの看護職においても必要な「看護倫理」について、学内外が受講できるよう「源流塾」として実施した。 ・大学院入学生確保においても、リカレント教育と連動させて教育内容の充実を図るため検討した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1231 1381 2181 1675"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.36</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉士・精神保健福祉士対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>1事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> <td>1事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>看護師対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>4事業</td> <td>3事業</td> <td>4事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>助産師対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>保健師対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>4事業</td> <td>1事業</td> <td>3事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> </tr> <tr> <td>卒業生参加数(人間社会学部): 10名</td> <td>51名</td> <td>57名</td> <td>48名</td> <td>44名</td> <td>43名</td> <td>42名</td> </tr> <tr> <td>卒業生参加数(看護学部): 10名</td> <td>10名</td> <td>10名</td> <td>12名</td> <td>11名</td> <td>17名</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>看護技術追跡調査実施状況: 年1回</td> <td></td> <td></td> <td>11回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>			No.36		目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	社会福祉士・精神保健福祉士対象のリカレント教育: 1事業以上	1事業	2事業	1事業	1事業	2事業	1事業	看護師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	3事業	4事業	2事業	2事業	1事業	助産師対象のリカレント教育: 1事業以上	2事業	2事業	2事業	2事業	1事業	1事業	保健師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	1事業	3事業	2事業	2事業	2事業	卒業生参加数(人間社会学部): 10名	51名	57名	48名	44名	43名	42名	卒業生参加数(看護学部): 10名	10名	10名	12名	11名	17名	24名	看護技術追跡調査実施状況: 年1回			11回	8回
No.36	目標実績																																																																
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																											
社会福祉士・精神保健福祉士対象のリカレント教育: 1事業以上	1事業	2事業	1事業	1事業	2事業	1事業																																																											
看護師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	3事業	4事業	2事業	2事業	1事業																																																											
助産師対象のリカレント教育: 1事業以上	2事業	2事業	2事業	2事業	1事業	1事業																																																											
保健師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	1事業	3事業	2事業	2事業	2事業																																																											
卒業生参加数(人間社会学部): 10名	51名	57名	48名	44名	43名	42名																																																											
卒業生参加数(看護学部): 10名	10名	10名	12名	11名	17名	24名																																																											
看護技術追跡調査実施状況: 年1回			11回	8回	2回	1回																																																											

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	3-1	【平成29年度計画】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開の検討 ○公開講座の実施 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	1	【平成29年度の実施状況】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開の検討については、滋賀県議会の視察受入を行った(11月)。 ○公開講座の実施については、10月及び2月に3講座開催した。 ○MOW「山本作兵衛の日記等」の保存・管理をユネスコ基準に則り適切に行った。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討のため、昨年度に引き続き12月に視察を行った。 ○目標実績 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :5回 ・公開講座の実施回数 :3回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37	
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○公開講座については、本学で実施するだけでなく県立三大学で連携して行った。 ○不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、毎年、全国の県議会、団体等の視察を受け入れた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○公開講座について、県立三大学で連携して開催できるよう調整を図り、実施した。 ○不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、文部科学省、並びに4府県議会および1県外市議会の文教委員会の視察を受け入れた。 ○目標実績	B ↓ A					【高く評価する点】 ・不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、毎年全国の県議会、団体等の視察を受け入れ、大学の認知度アップにつながった。 【実施(達成)できなかった点】

No.37	目標実績					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29
附属研究所活動紹介の回数: 年5回以上	7回	7回	12回	14回	5回	5回
公開講座の実施: 年3回以上	4回	4回	4回	3回	3回	3回

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																														
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																												
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	4【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率 ：(志願者数/募集人員) ：1.5倍以上 ・認定合格率：90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催：年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修会：年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催：年1回以上 参加者アンケート：良好評価75%以上 ・健康教室：年3回以上開催 参加者アンケート：良好評価75%以上	4-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) 患者教育研究会延べ参加者数：計34名(4月21日、6月9日、8月25日、10月27日、1月30日) リカレントセミナー：参加者数244名(7月16日) フォローアップ研修会：参加者数18名(8月12日) ○糖尿病健康教育活動の実施 糖尿病予防教育(出前講義)：計386名(6月10日、7月16日) 糖尿病教育(出前講義)：計36名(7月14日、15日) 糖尿病予防教育(近隣高校への出前講義)：118名(1月24日、25日) ○積極的な広報活動 8月5日のオープンキャンパスでの説明会(9名参加) リクルートのためのリカレントセミナー参加者(7月16日実施、244名)に募集案内のチラシ配布 第56回日本糖尿病学会・九州地方会(10月13日、14日開催)で募集案内(二次募集)のチラシ配布(50枚) 修了生に入学試験募集案内(二次募集)のチラシを配布 ○目標実績 ・入学試験志願倍率(12名/18名) 0.7倍 ・認定審査合格率：100%(12名) ・患者教育研究会延べ参加者数：計34名/5回 ・セミナー参加者数：244名、アンケート良好評価94.6% ・糖尿病予防教育(出前講義) 開催回数 6回、アンケート良好評価97.4%	B			【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・志願倍率が0.7と前年度より下がっている。病院からの派遣が多く、診療報酬の改正の影響を受けやすい。		38																																																												
				1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○認定看護師教育においては、平成24～27年度は4年連続で認定審査合格率100%を達成した。(全国の糖尿病看護分野教育機関で唯一) この点は、平成27年度の教育機関更新認定審査においても日本看護協会より高い評価を得た。平成28年5月現在、累計103名の糖尿病看護認定看護師を輩出している。 ○教育機関数の増加、認定看護分野の増加・特定行為に係る看護師等の他の専門資格の増加の影響により、入学試験志願倍率が平成24年度から平成26年度において減少していたが、広報活動の強化及び受験希望者への相談会等を実施したことにより、平成27年度は0.89倍へと若干の増加に転じた。 ○リカレント教育、糖尿病健康教育活動については、毎年度計画どおり実施した。特に、リカレント教育では目標を大きく上回る参加者数であり、参加者アンケートでも常に90%以上の高評価を得た。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○認定看護師教育については、正課時間外も含めたきめ細かい学習・生活に関する相談対応や専門的学習の支援を継続し、認定審査合格率100%の維持を目指し、教育した。 ○受験希望者に向けた説明・相談会を強化し、より具体的な情報提供を行うとともに、個別の疑問点等に対応した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.38</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学試験志願倍率：1.5倍</td> <td>1.5倍</td> <td>1.06倍</td> <td>0.78倍</td> <td>0.89倍</td> <td>2.2倍</td> <td>0.7倍</td> </tr> <tr> <td>認定審査合格率：90%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>患者教育研究会延べ参加者数：20名以上</td> <td>58名</td> <td>40名</td> <td>73名</td> <td>71名</td> <td>49名</td> <td>34名</td> </tr> <tr> <td>研修会・セミナー参加者数：50名以上</td> <td>159名</td> <td>317名</td> <td>400名</td> <td>248名</td> <td>249名</td> <td>244名</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート：良好評価75%以上</td> <td>94.3%</td> <td>95.3%</td> <td>97.5%</td> <td>97.0%</td> <td>98.3%</td> <td>94.6%</td> </tr> <tr> <td>糖尿病予防教育：年3回以上</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート：良好評価75%以上</td> <td>89.7%</td> <td>90.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>92.0%</td> <td>97.4%</td> </tr> </tbody> </table>	No.38	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	入学試験志願倍率：1.5倍	1.5倍	1.06倍	0.78倍	0.89倍	2.2倍	0.7倍	認定審査合格率：90%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	患者教育研究会延べ参加者数：20名以上	58名	40名	73名	71名	49名	34名	研修会・セミナー参加者数：50名以上	159名	317名	400名	248名	249名	244名	同 アンケート：良好評価75%以上	94.3%	95.3%	97.5%	97.0%	98.3%	94.6%	糖尿病予防教育：年3回以上	3回	4回	3回	3回	3回	6回	同 アンケート：良好評価75%以上	89.7%	90.0%	100.0%	100.0%	92.0%	97.4%	B ↓ B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.38	目 標 実 績																																																																						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																	
入学試験志願倍率：1.5倍	1.5倍	1.06倍	0.78倍	0.89倍	2.2倍	0.7倍																																																																	
認定審査合格率：90%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																																																	
患者教育研究会延べ参加者数：20名以上	58名	40名	73名	71名	49名	34名																																																																	
研修会・セミナー参加者数：50名以上	159名	317名	400名	248名	249名	244名																																																																	
同 アンケート：良好評価75%以上	94.3%	95.3%	97.5%	97.0%	98.3%	94.6%																																																																	
糖尿病予防教育：年3回以上	3回	4回	3回	3回	3回	6回																																																																	
同 アンケート：良好評価75%以上	89.7%	90.0%	100.0%	100.0%	92.0%	97.4%																																																																	
ウェイト総計			11	11	項目数計				11	11																																																													

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

社会貢献に関する特記事項(平成29年度)

(平成29年度)

- ①本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。
- ②福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。
- ③日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。
- ④福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。

社会貢献に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

(平成26年度)

- ①11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。

(平成27年度)

- ②韓国の威徳大学との交流協定を締結した。
- ③外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先(社会福祉・ボランティア活動)として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。
- ④4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。
- ⑤不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団(長崎国際大学・佐世保市)を受け入れた。

(平成28年度)

- ⑥「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。
- ⑦長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。
- ⑧学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。
- ⑨新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。
- ⑩福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣を行った。

(平成29年度)

- ①本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。
- ②福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。
- ③日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。
- ④福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 4 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。
----------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度
1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。	1【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。 ○達成目標 ・プロパー職員の採用 ：平成27年度まで8名以上	1-1【平成29年度計画】 【事務局機能の強化】 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修への派遣及び学内SD研修の実施 ○事務局データベースとしてのファイル共有システムの活用 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の事例検討 ○防犯講習会の開催(年2回) ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防災訓練の実施・充実 ○県立三大学の事務処理共通化について、三大学経営管理部会議を開催して引き続き検討する ○学内LANシステムの全面更新を行い学内ネットワークの効率化を図る ○事務局PC及びファイル共有システムの更新による事務の効率化を図る。 ○達成目標 ・防災訓練の実施 :1回/年		1	【平成29年度の実施状況】 【事務局機能の強化】 ○九州大学主催のSD研修(新任主任級2名、新任課長級1名)及び公立大学協会主催の事務職員会計研修に2名派遣した。また、学内研修(大学改革セミナー)を11月に実施した。(参加者:61名) ○ファイルサーバー更新に伴い、新ファイル共有システムへの移行及び有効活用を推進した。 ○職員・学生からのヒヤリ・ハット事象の収集方法を検討した。 ○新入生と在校生への防犯講習会を対象別に開催した。(4月) ○女子寮の防災訓練(6月)、全学の防災訓練(12月)を実施した。 ○三大学共用の会計システム運用会議を年3回(9月・12月・2月)実施した。また、他業務に対する会議等の定例化開催に対する呼び掛けを行った。 ○学内LANシステムの全面更新(平成28年度実施)により学内ネットワークの効率化を図った。 ○事務局PC及びファイルサーバーを更新し事務の効率化を図った。 ○目標実績 ・防災訓練の実施 :2回 ◎特殊要因に伴う取組 平成27年度までに採用した8名のプロパー職員に欠員が生じ、補充に係る職員採用試験を実施した。(平成30年4月1日付 2名採用)		A			39
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○プロパー職員の採用については、計画どおりに進めた。 ○事務局機能強化のため、平成25年度から総務、財務管理、教務企画の3班を経営企画、総務財務、教務入試の3班に再編した。また、統一様式による業務マニュアルを作成し、共有ファイルシステムの運用を開始した。 ○新規採用プロパー職員を中心に、公立大学協会主催の事務職員対象研修に参加させた。また、事務職員を対象としたSD研修を実施した。 ○安全管理体制の充実に関しては、防犯講習会の開催、防火訓練の実施を行った。 ○県立三大学の事務担当者会議、経営管理部会議を開催し、事務処理の共通化等について検討した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○プロパー職員退職(2名)による欠員の補充のため、平成29年度に採用試験を実施した。(平成30年4月1日付採用) ○ファイル共有システムの有効活用を推進し、情報の共有化により事務作業の効率化等を図った。 ○九州大学主催のSD研修や公立大学協会主催の事務職員研修へ積極的に参加させるとともに、学内研修も実施し事務職員職員の能力向上を図った。 ○学内LANシステムやファイルサーバーを更新し、学内ネットワークの効率化及び蓄積情報の共有化を図った。 ○防犯講習会及び女子寮と全学を対象とした防災訓練を実施した。また、職員及び学生よりのヒヤリ・ハット事象の情報収集手法の検討を行った。(次期計画期間より収集開始予定) ○三大学で共用する「会計システム」の運用会議を定期的実施するとともに、他業務に関する会議等の定例化を呼びかけた。 ○目標実績		B ↓ A		中期 39	

No.39	目 標 実 績					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29
	プロパー職員の採用: 8名以上(H27年度までに)	2名	3名(計5名)	2名(計7名)	1名(計8名)	
防災訓練の実施: 年1回		1回	1回	2回	2回	2回

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																					
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																			
※1 運営体制の改善の続き	2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) : 毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 : 30%	2-1【平成29年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保する。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を準備する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 : 30%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○ベストティーチャー表彰を行った。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保した。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を検討した(看護学部)。 ○目標実績 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) : 1名 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 : 30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		40																					
		【平成24~27年度の実施状況概略】 ○ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。 ○研究奨励交付金における学長留保分5%枠を確保した。 ○新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。 ○研究奨励交付金における学長留保分5%枠を確保した。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を検討した(看護学部)。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1240 898 2160 1054"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.40</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員表彰の実施</td> <td>未実施</td> <td>2名</td> <td>該当者なし</td> <td>1名</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>研究費に占める研究奨励金の割合: 30%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> </tr> </tbody> </table>			No.40					目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	教員表彰の実施	未実施	2名	該当者なし	1名	1名	1名	研究費に占める研究奨励金の割合: 30%	30.0%
No.40	目標実績																													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																								
教員表彰の実施	未実施	2名	該当者なし	1名	1名	1名																								
研究費に占める研究奨励金の割合: 30%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%																								
3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	3-1【平成29年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した評価基準に基づく教員個人業績評価を実施する。	1	1	【平成29年度の実施状況】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成28年度実績に係る教員個人業績評価を実施した。 ・評価対象者 95名(うち評価猶予者 1名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	41																							
	【平成24~27年度の実施状況概略】 ○平成24年度から教員個人業績評価基準の見直しに関する検討を行い、平成25年度に見直し方針・見直し案を策定した。見直した教員個人業績評価基準に基づく教員個人業績評価は、平成27年度(平成26年度分)から実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○見直した教員個人業績評価の改正基準により評価を実施した。			A ↓ A				【高く評価する点】 ・評価基準の大幅な見直しを行い、適切な運用に努めた。 【実施(達成)できなかった点】	中期 41																					

中期計画		平成29年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	4-1		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※1 運営体制の改善の続き	4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1	【平成29年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○各個別マニュアルの必要に応じた修正		1	【平成29年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○国際交流に関する個別危機管理マニュアルの見直しを行った。 ○7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。 ○防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。		A	【高く評価する点】 ・九州北部豪雨時に適切な対応が出来た。 ・防犯カメラの増設等による安全対策を強化した。 【実施(達成)できなかった点】		42
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度に実施した他公立大学のリスクマネジメント体制の調査、潜在するリスクの洗い出し作業を基に、平成25年度に基本指針(案)、洗い出したリスク別の対応方法(案)を作成した。 平成26年度に基本指針及び危機管理規定を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○危機管理基本マニュアルの周知を図るとともに、国際交流に関する個別危機管理マニュアルの見直しを行った。 ○九州北部豪雨時に社会調査実習に行き孤立した学生・教員の救援に対し適切な対応を取ることができた。 ○防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。		B ↓ A	【高く評価する点】 ・九州北部豪雨時に適切な対応が出来た。 ・防犯カメラの増設等による安全対策を強化した。 【実施(達成)できなかった点】		中期 42
		ウエイト総計		中期	29年度			項目数計		中期	29年度
				4	4					4	4

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

<p>業務運営に関する特記事項(平成29年度)</p> <p>(平成29年度)</p> <p>①新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。 ②平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。 ③防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。 ④学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。</p>
<p>業務運営に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)</p> <p>(平成25年度)</p> <p>①福岡県立大学憲章を制定した。 ②学内委員会・部会の抜本的見直しをおこなった。教員の負担等に配慮し、再編統合により委員会・部会数を減じた。また、理事長のもと、全学的課題の改革推進を担当する改革推進委員会を学内協議機関として新たに設置した。</p> <p>(平成26年度)</p> <p>③組織規則を改正し、理事長のもとに新たに5つの委員会(総務人事委、予算委、教務入試委、学生委、地域連携委)を学内協議機関として設置した。この主要5委員会のもとに全ての部会を位置づけ階層性を持たせた。理事長・学長のリーダーシップに基づく意志決定の流れを明確化し、部会の活性化を図った。</p> <p>(平成29年度)</p> <p>④新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。 ⑤平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。 ⑥防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。 ⑦学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。</p>

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 5 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。</p>
----------------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度
1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。	1 【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額 :年間5,000万円以上	1-1 【平成29年度計画】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報の実施 ○自主財源基金化スキームの平成29年度実施に向けた検討 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得金額 :年間5,000万円以上	2	2	【平成29年度の実施状況】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○適宜、ホームページに外部研究資金公募情報を掲載するとともに、全教員へのメール発信を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会を実施した。(9月) ○県大基金への寄附金等を増加させるため、ホームページ掲載情報の充実を図った。 ○自主財源基金化スキームについて検討を行った。 ○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額 :5,086万円	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.19 「研究」	43	43
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報活動として、「大学広報」、大学HPへの掲載を行った。また、自主財源基金化スキームの実現に向けた検討を行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○ホームページ掲載やメール発信により、外部研究資金等の情報提供機能の充実・速報性を高め、応募率向上のための研修会を開催するとともに、申請手続き等の繁忙期における事務局機能の強化を図った。また、科研費応募者へのインセンティブ制度(不採択となったがA評価だった申請者に対する助成)も継続して実施した。 ○県大基金への寄附金等を増加させるため、広報誌やホームページを活用した広報を行った。なお、ホームページは、掲載情報の見直しを行い充実化を図った。また、自主財源基金化スキームについての検討を行った。 ○目標実績			A ↓ A					

No.43	目標実績						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値
外部研究資金等獲得金額:年間5,000万円以上(単位:万円)	11,100	10,055	11,168	8,331	6,291	5,086	8,672

中期計画		平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																			
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																	
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成29年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年		1	【平成29年度の実施状況】 【業務改善による経費の削減】 ○急を要する物以外は、消耗品集中発注システムの積極的活用を推奨し、一括発注に努めた。 ○ストレスチェックの導入に伴い、事務局の業務負荷を軽減させるため、当該業務を外部委託した。 ○省エネ対策推進のため、女子寮周辺の外灯をLED灯に改修した。また、室内電灯の蛍光管も随時LED管に更新している。 ○目標実績 ・業務改善件数 1件(女子寮周辺外灯のLED化)		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44																		
			1	【平成24~27年度の実施状況概略】 ○業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用した。アウトソーシング可能な業務の検討を行い、平成25年度から国際交流関係業務についてアウトソーシングを実施した。また、授業評価アンケート等大量の集計作業のアウトソーシングについて検討した。 ○省エネ対策(節電対策)については、空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施し、夏期の節電を呼びかけた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○消耗品の集中発注システムについて、より一層の積極的な活用を推奨した。また、ストレスチェック導入に伴い、当該業務の外部委託化を行い事務局の業務負荷を軽減させた。 ○省エネ対策として、外灯(正門側通路、駐車場、女子寮)をLED灯に改修した。また、室内電灯の蛍光管を随時LED管に更新している。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1240 808 2122 919"> <tr> <td>No.44</td> <td colspan="6">目 標 実 績</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>業務改善件数: 年1件以上</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> </table>	No.44	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	業務改善件数: 年1件以上	3件	1件	2件	1件	1件	1件		B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.44	目 標 実 績																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																						
業務改善件数: 年1件以上	3件	1件	2件	1件	1件	1件																						

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号		通し番号																				
項目	実施事項	平成29年度計画	中期		年度	暫定 ↓ 中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度	中期	年度																	
※2 運営経費の削減・抑制の続き	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1【平成29年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成29年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H29年度新規事業分を除く)		1	【平成29年度の実施状況】 【人件費の抑制】 ○退職教員の補充においては、教育水準の維持・向上に配慮した上で、極力若手教員の採用に努めた。 ○ワークライフバランスの推進と時間外勤務の縮減を図るため、週休日勤務に対する振替を徹底した。 ○目標実績 ・平成29年度時間外勤務時間数：前年度比 ▲3%		A	【高く評価する点】 ・ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「経費削減」		45																		
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めた。 ○時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、極力若手教員の採用に努めた。また、ワークライフバランスの推進と時間外勤務の縮減を図るため、週休日勤務に対する振替を徹底した。 ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>No.45</td> <td colspan="6">目 標 実 績</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>時間外勤務時間数：前年度を下回ること</td> <td>508</td> <td>▲ 318</td> <td>512</td> <td>▲ 3,130</td> <td>▲ 1%</td> <td>▲ 3%</td> </tr> </table>	No.45	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318	512	▲ 3,130	▲ 1%	▲ 3%		B ↓ A	【高く評価する点】 ・ワークライフバランスの推進を図り、時間外勤務の大幅な縮減ができた。 期間中▲24.5% (H24 13,710H → H29 10,353H) 【実施(達成)できなかった点】
No.45	目 標 実 績																												
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																							
時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318	512	▲ 3,130	▲ 1%	▲ 3%																							
		ウエイト総計	中期	29年度			項目数計		中期	29年度	3	3																	

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項(平成29年度)

(平成29年度)
①ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。

財務に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

(平成28年度)
①正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。
②「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。
③アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。

(平成29年度)
④ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 6 評価及び情報公開	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。
--------------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度
1 自己点検・評価の効率的な実施 自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。	1【自己点検・評価の見直しと実施】 ①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ②各教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を実施し、教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPに掲載する。 ③次期認証評価に向けて、必要なデータを蓄積する仕組みを検討し、認証評価の準備を行う。	1-1【平成29年度計画】 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ○教員の教育・研究・社会貢献報告書を作成し、HPに掲載する。 ○平成28年度の大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価の結果を受けて、自己点検評価実施体制の基礎データとなるアニュアルレポートの見直しを行う。		1	【平成29年度の実施状況】 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を、大学改革セミナー(11月29日)で教職員に周知した。部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○平成29年度の教員の教育・研究・社会貢献の実績を作成し、平成30年4月に本学HPに掲載した。 ○平成28年度アニュアルレポートを発行した(11月10日)。アニュアルレポートの見直しを行い、平成28年度から新たに学部等紹介、卒業時学修到達度調査結果を追加した。		B			46
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学HPに公表した。 ○平成25年度に「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置した。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学HPで公表した。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置した。平成27年度に認証評価W.G.を設置し、平成28年度大学機関別認証評価の受審に向けて準備を進めた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○県評価委員会からの評価結果を、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○毎年、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学HPに公表した。 ○平成28年度に大学改革支援・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審し、本学が「大学評価基準を満たしている」と認定された。アニュアルレポートを毎年作成し、大学HPで公表した。		B ↓ B			中期 46	

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	暫定 ↓ 中期	自己評価		データ 番号	通し番号																																																								
			中期	年度			年度	中期 年度		中期 年度																																																								
2 広報活動の充実・強化 大学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1-1【平成29年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの全面更新を行い、内容の更新チェックを定期的に行う ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1	1	【平成29年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○ホームページリニューアル(平成28年度実施)の後、随時掲載内容のチェック等を行い更新した。また、紹介動画(国際版)を作成し掲載した。 ○スマートフォンにも対応したホームページとしたことにより、アクセス数が大幅に増加した。(平成28年度:約227,000件 → 平成29年度:315,000件) ○ホームページの教育情報中の任意情報についても随時更新を行った。 ○入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)を随時更新し、広報活動の充実を図った。 ○報道機関に対し、大学主催事業(フォーラム等)の情報を積極的に発信した。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回 ・出前講義数及びアンケート :出前講義 22回、良好評価 99.5% ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :4件(オープンキャンパス 2回、高校等訪問、高校等来校) ・メディアに取り上げられた件数 :新聞(地方版) 19件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・残念ながら全国版でメディアに取り上げられる情報が発信できなかった。	No.5 「出前講義」	47	47																																																								
					【平成24~27年度の実施状況概略】 ○HPの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施した。平成27年度にはスマートフォンに対応したHPを新規に作成した。 ○教育プログラム等の広報については、HPで公表している教育情報の更新・充実を図った。文科省採択事業や「ブレインターニッシュ」をはじめとする特色ある教育プログラム等の掲載や、「全学横断型教育プログラム」のバナー掲載を行った。 ○広報活動においては、「大学案内」、「大学広報」の刊行、高校への出前講義によるPR活動を実施した。また、大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○ホームページを見やすくリニューアルし、掲載情報も随時更新を行った。また、新たに作成した紹介動画(国際版)をホームページに掲載し情報の充実を図った。 ○ホームページに掲載している教育プログラム等情報を随時更新するとともに、オープンキャンパス、高校訪問及び来校時に積極的な広報活動を行った。 ○フェイスブックを活用した新たな情報発信を開始し、広報活動の充実を図った。 ○大学発のイベント等を実施する際には、積極的に報道機関への情報発信を行うこととした。 ○目標実績 No.47 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学案内パンフレット作成: 2種類</td> <td>1種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> </tr> <tr> <td>広報誌の作成: 年2回発行</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>出前講義: 20回以上</td> <td>30回</td> <td>26回</td> <td>31回</td> <td>25回</td> <td>24回</td> <td>22回</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>90.5%</td> <td>98.9%</td> <td>94.5%</td> <td>97.9%</td> <td>98.9%</td> <td>99.5%</td> </tr> <tr> <td>教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上</td> <td>1件</td> <td>7件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上</td> <td>18件</td> <td>18件</td> <td>22件</td> <td>16件</td> <td>12件</td> <td>19件</td> </tr> <tr> <td>同 : 全国版 1件以上</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>							目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類	2種類	2種類	広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回	2回	2回	出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回	同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%	教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件	4件	4件	メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件	12件	19件	同 : 全国版 1件以上
	目 標 実 績																																																																	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																												
大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類	2種類	2種類																																																												
広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回	2回	2回																																																												
出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回																																																												
同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%																																																												
教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件	4件	4件																																																												
メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件	12件	19件																																																												
同 : 全国版 1件以上	2件	2件	2件	1件	2件	0件																																																												
ウェイト総計	2	2	項目数計	2	2																																																													

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成29年度)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成24年度~平成29年度)

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
 ※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項(平成29年度)	関連する通し番号
【教育】	
①学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。	1
②看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。 また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。	3
③人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。	7
④看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。	8
⑤コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。	9
⑥看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。	11
⑦授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。	12
⑧教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。	14
⑨大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。	19
⑩機関リポジトリの拡充、及びラーニングコモンズ利用促進のため、図書館セミナーを実施した。	22
【社会貢献】	
⑪本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。	28
⑫福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。	29
⑬日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。	30
⑭福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。	34
【業務運営】	
⑮新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。	39
⑯平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。	42
⑰防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。	42
⑱学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。	
【財務】	
⑲ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。	45

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
 ※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項(平成24年度～平成29年度)	関連する通し番号
(平成24年度)	
①文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。	9
②文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。	9
③放送大学との連携協定を締結した。	1
④ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セーフティ・ネットワーク(通称:CSN)」を構築し、展開するための協定を締結した。	9
(平成25年度)	
⑤福岡県立大学憲章を制定した。	
⑥改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編を行った。	46
(平成26年度)	
⑦両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。	1
⑧11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。	
⑨情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。	20
⑩ガバナンス改革の一環として、学内委員会・部会を抜本的に再編し、全部会を主要5委員会の下に位置付けた。これにより、意思決定の枠組みが明確となり、委員会・部会の活性化が図られた。	46
⑪西鉄バス筑豊(株)との協議により、平成27年3月21日から「筑豊特急」線(福岡～田川伊田)が本学構内への乗り入れ(始発・終着)を開始し、本学学生・教職員のみならず、地域住民の利便性向上が図られた。	
(平成27年度)	
⑫文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組(8大学連携)が最高ランクのS評価を受けた。47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。	9
⑬文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)の中間評価において、本学を代表とする取組(3大学連携)が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。	9
⑭韓国の威徳大学との交流協定を締結した。	28
⑮外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先(社会福祉・ボランティア活動)として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。	28
⑯4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。	29
⑰不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団(長崎国際大学・佐世保市)を受け入れた。	34

特記事項(平成24年度～平成29年度)	関連する 通し番号
(平成28年度)	
⑱大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。 「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」	15
⑲学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。	22
⑳学生のアクティブラーニングを推進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。	22
㉑附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。 新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。	26
㉒「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。	25,28
㉓長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。	28
㉔学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。	28
㉕新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。	28
㉖福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣を行った。	34
㉗正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。	44
㉘「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。	44
㉙アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを、グループワーク時に簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。	44
(平成29年度)	
⑳学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。	1
㉑看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。 また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。	3
㉒人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。	7
㉓看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。	8
㉔コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。	9
㉕看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。	11
㉖授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。	12
㉗教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。	14
㉘大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。	19
㉙機関リポジトリの拡充、及びラーニングコモンズ利用促進のため、図書館セミナーを実施した。	22
㉚本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。	28
㉛福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。	29
㉜日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。	30
㉝福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。	34
㉞新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。	39
㉟平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と敏速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。	42
㊱防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。	42
㊲学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。	
㊳ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。	45

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)		差額 (b)-(a)
		費用の部	1,896	1,944	48	-
		経常費用	1,896	1,890	▲ 6	
		業務費	1,690	1,680	▲ 10	
		教育研究経費	335	312	▲ 23	
		受託研究費等	-	6	6	
		人件費	1,355	1,361	6	
		一般管理経費	205	207	2	
		(減価償却費 再掲)	▲ 89	▲ 96	▲ 7	
		財務費用	-	2	2	
		臨時損失	-	53	53	
		収益の部	1,896	1,957	61	
		経常収益	1,865	1,878	13	
		運営費交付金収益	1,030	1,034	4	
		授業料収益	592	586	▲ 6	
		入学金収益	114	118	4	
		検定料収益	25	22	▲ 3	
		その他業務収益	-	1	1	
		受託研究等収益	-	6	6	
		受託事業等収益	-	0	0	
		補助金等収益	1	3	2	
		寄付金収益	0	2	2	
		資産見返物品受贈額戻入	43	46	3	
		資産見返運営費交付金等戻入	4	4	0	
		資産見返寄附金戻入	1	2	1	
		資産見返補助金戻入	13	12	▲ 1	
		資産見返補償金戻入	0	0	0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	36	36	0	
		臨時利益	-	79	79	
		純利益	-	13	13	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	0	
		目的積立金取崩額	31	-	▲ 31	
		総利益	-	13	13	

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画		実績		
2. 資金計画予算		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
		資金支出	2,026	2,015	▲ 11	
		業務活動による支出	1,795	1,761	▲ 34	
		投資活動による支出	11	21	10	
		財務活動による支出	26	33	7	
		翌年度への繰越金	193	198	5	
		資金収入	2,026	2,015	▲ 11	
		業務活動による収入	1,800	1,789	▲ 11	
		運営費交付金による収入	1,030	1,029	▲ 1	
		授業料等による収入	732	710	▲ 22	
		受託研究等による収入	-	7	7	
		補助金等による収入	1	2	1	
		寄附金等による収入	0	1	1	
		その他収入	36	37	1	
	投資活動による収入	0	0	0		
	財務活動による収入	-	-	-		
	前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	-		
	前年度からの繰越金	225	225	0		
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。			該当なし	-	
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし			該当なし	-	
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。			該当なし	-	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし			該当なし	-	

2017（平成 29）年度

福岡県立大学教育・研究・社会貢献活動一覧

福岡県立大学

凡例

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2017（平成 29）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2018（平成 30）年 3 月の時点で、1 人あたり 2 頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己 PR として記載している。「研究業績」は、過去 3 年間分を記載している<2015（平成 27）年度～2017（平成 29）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (3) 「外部研究資金」は、2017（平成 29）年度に資金を得ているものを記載している。
- (4) 「受賞」は、2017（平成 29）年度の実績を記載している。
- (5) 「所属学会」は、2017（平成 29）年度の所属状況を記載している。
- (6) 「担当授業科目」は、原則として 2017（平成 29）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (7) 「社会貢献活動」は、2017（平成 29）年度の状況を記載している。
- (8) 「学外講義・講演」は、2017（平成 29）年度の実績を記載している。学会での講演は、
- (9) 「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはここに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2017（平成 29）年度の状況を記載している。

記載事項は、以上であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していないことがある。

<目 次>

はじめに
凡例

【掲載順】人間社会学部については職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

<人間社会学部>

● 教授	池田 孝博	1
● 教授	石崎 龍二	4
● 教授	岩橋 宗哉	7
● 教授	上野 行良	9
● 教授	神谷 英二	10
● 教授	小嶋 秀幹	12
● 教授	住友 雄資	14
● 教授	田代 英美	16
● 教授	郝 暁卿	18
● 教授	福田 恭介	20
● 教授	許 棟翰	23
● 教授	細井 勇	26
● 教授	本郷 秀和	29
● 教授	森脇 敦史	32
● 教授	吉岡 和子	34
● 准教授	大久保 淳子	36
● 准教授	岡本 雅享	38
● 准教授	奥村 賢一	40
● 准教授	金 恩愛	44
● 准教授	櫻井 国芳	46
● 准教授	佐野 麻由子	48
● 准教授	杉野 寿子	50
● 准教授	Ian Stuart Gale	52
● 准教授	堤 圭史郎	56
● 准教授	中村 晋介	59
● 准教授	藤澤 健一	61
● 准教授	三隅 讓二	63
● 准教授	美谷 薫	64
● 准教授	麦島 剛	66
● 准教授	村山 浩一郎	68
● 准教授	鷺野 彰子	70
● 講師	池 志保	73
● 講師	伊勢 慎	76
● 講師	河野 高志	78
● 講師	小山 憲一郎	80
● 講師	阪井 裕一郎	82
● 講師	坂無 淳	85
● 講師	柴田 雅博	87
● 講師	寺島 正博	89
● 講師	中原 雄一	91

● 講師	松岡 佐智	94
● 講師	吉武 由彩	96
● 助教	中藤 広美	98
● 助教	畑 香理	100
● 助教	二見 妙子	102
● 助手	佐藤 繁美	104

<看護学部>

◎基盤看護学系

● 教授	石田 智恵美	106
● 教授	江上 千代美	108
● 教授	小池 祐子	111
● 教授	永嶋 由理子	113
● 准教授	芋川 浩	115
● 准教授	四戸 智昭	118
● 准教授	杉野 浩幸	120
● 准教授	渊野 由夏	121
● 講師	加藤 法子	123
● 講師	小出 昭太郎	125
● 講師	塩田 昇	126
● 講師	藤野 靖博	128
● 講師	増満 誠	130
● 助教	於久 比呂美	134
● 助教	清水 夏子	135
● 助教	松山 美幸	137
● 助手	清原 智佳子	138
● 助手	宮崎 千尋	139

◎臨床看護学系

● 教授	鳥越 郁代	140
● 准教授	石村 美由紀	143
● 准教授	椋 直美	145
● 准教授	田中 美樹	148
● 准教授	古庄 夏香	150
● 准教授	古田 祐子	152
● 准教授	松枝 美智子	155
● 准教授	渡邊 智子	159
● 講師	中井 裕子	162
● 講師	安河内 静子	164
● 講師	安永 薫梨	166
● 講師	吉川 未桜	168
● 助教	江上 史子	170
● 助教	小林 絵里子	172
● 助教	佐藤 繭子	175
● 助教	道園 亜紀	179
● 助教	中本 亮	180
● 助教	廣瀬 理絵	182
● 助教	政時 和美	184
● 助教	松井 聡子	186
● 助教	宮崎 初	188
● 助教	吉田 静	190

● 助手	笹山 万紗代	192
● 助手	仲村 彩	193
● 助手	吉田 麻美	194

◎ヘルスプロモーション看護学系

● 教授	尾形 由起子	195
● 教授	松浦 賢長	199
● 准教授	原田 直樹	201
● 准教授	山下 清香	204
● 准教授	吉田 恭子	207
● 講師	小野 順子	209
● 助教	猪狩 崇	211
● 助教	梶原 由紀子	213
● 助教	手島 聖子	215
● 助教	檜橋 明子	217
● 助手	杉本 みぎわ	219
● 助手	中村 美穂子	221
● 助手	田原 千晶	222
● 助手	平塚 淳子	223

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	池田 孝博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了

1992.4-1997.3 慶應義塾中等部

1997.4-2009.3 佐賀短期大学 (現；西九州大学短期大学部)

2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了

2009.4- 本学着任

博士 (スポーツ健康科学)

人間の運動パフォーマンスや健康行動・健康意識の測定評価を研究分野としている。

①幼児の体力・運動能力の発育発達およびそれらに影響を及ぼす諸要因に関する研究

②日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究

③体育授業のカリキュラム・学習評価に関する研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・池田知子・池田孝博・青柳領, 日本と韓国の女子大学生の身長, 体重, BMIおよび理想BMIと初経年齢の関連. 学校保健研究, 59(3): 155-163, 2017.
- ・伊勢慎・大久保淳子・櫻井国芳・池田孝博, 子どもの「生きる力」と学校内での遊び方の関連. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 25(2): 41-48, 2017.
- ・大久保淳子・伊勢慎・櫻井国芳・池田孝博, 幼児期における性役割の形成；性的ラベリングとその関連要因. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 25(2): 49-58, 2017.
- ・Ikeda, T. & Aoyagi, O., Classification, Gender and Age Differences, and Seasonal Changes in Relation to Patterns of Distribution Curves for Physique and Motor Performance in Preschool-Aged Japanese Children. Journal of Sports Science (ISSN2332-7839), 5(1): 45-57, 2017. doi: 10.17265/2332-7839/2017.01.005
- ・池田孝博・青柳領, 集成材の剣道場床面の機能性評価に関する因子構造の特徴と床面特性と機能性評価の関連. 体育学研究, 61(2): 435-448, 2016.
- ・Ikeda, To., Ikeda, Ta. & Aoyagi, O., The relationship among stress response, weight management, and physical exercise in Japanese university students. Journal of Sports Science (ISSN2332-7839), 4(3): 163-169, 2016. doi: 10.17265/2332-7839/2016.03.006
- ・池田孝博・青柳領, 幼児期における運動能力の偏りと生活環境要因の関連. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 24(2): 23-39, 2016.
- ・池田孝博・中藤広美・青柳領, 幼児期における「はだし保育」と体力の関連. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 24(1): 73-83. 2015.
- ・Ikeda, T. & Aoyagi, O., The reliability and validity of toe grip strength as an index of physical development in 4- to 5-year-old children. Journal of Sports Science (ISSN2332-7839), 3(1): 22-28, 2015. doi:10.17265/2332-7839/2015.01.003
- ・池田孝博・青柳領, 幼児の運動パフォーマンスの二極化傾向と性, 年齢, 体力, 運動スキルおよび発現契機との関連. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 22(2): 21-34. 2014.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・池田孝博・青柳領・Choi, T.H.・Han, N.I.・Nam, Y.S.・Seo, Y.H. (ポスター発表) 児童期後期における「運動の楽しさ」に関する日韓比較. 九州体育・スポーツ学会第65回大会 (長崎国際大学), 2016.
- ・Ikeda, T., Aoyagi, O., Choi, T.H., Han, N.I., Nam, Y.S., Seo, Y.H., Koo, K.S. & Seo, Y.H. (Invited lecture) Comparison of factor structures on pleasure derived from physical activity

- by 10- to 12-year-old children in South Korea and Japan. 2016 International Sport Science Congress (ISSC), (Hanyang University, Korea), 2016.
- Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Aoyagi, O., Han, N.I., Choi, T.H., Hong, Y.J., Nam, Y.S. & Koo, K.S. (Poster Session) Comparison of the implementation status of weight control and physical activities between South Korean and Japanese university students. 2016 International Sport Science Congress (ISSC), (Hanyang University, Korea), 2016.
 - Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Keynote lecture) Motivation for Physical Activity in Late Childhood: A Comparative Study between South Korea and Japan. The 21st Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (上海交通大学, China), 2016.
 - Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K. (E-poster) Examining weight control and diet behavior among university students in Japan and South Korea. 21st annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Austria Center Vienna, Austria), 2016.
 - Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Conventional poster session) Comparing factors determining the enjoyment of physical activity in 10-12 year-old children in Japan and South Korea. 21st annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Austria Center Vienna, Austria), 2016.
 - 池田孝博・青柳領・Choi, T.H. (ポスター発表) 児童期後期における身体活動動機づけに関する因子構造の日韓比較. 九州体育・スポーツ学会第64回大会(西九州大学), 2015.
 - 池田孝博・高橋健太郎・武藤健一郎・青柳領 (口頭発表) 少年剣道実践者による剣道用試作マットの主観的評価. 日本武道学会第48回大会(日本体育大学), 2015.
 - 池田孝博・青柳領・Choi, T.H. (口頭発表) 身体活動に関する動機づけと運動技能、学習動機および活動状況の構造的関連—日本と韓国の小学生を対象として—. 日本体育学会第66回大会(国士舘大学), 2015.
 - Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Han, N.I., Choi, T.H., Nam, Y.S. & Koo, K.S. (Poster Session) A Comparison of Body Type and Ideals between Korean and Japanese Female University Students. The 20th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan), 2015
 - Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Relationship between Lifestyle and Motivation for Physical Activity among Korean and Japanese Elementary School-Aged Children. The 20th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan), 2015
 - Ikeda, To. & Ikeda, Ta. (E-poster) The relationship between stress response and weight management among university students. 20th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Malmö, Sweden), 2015.
 - Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Mini oral Session) The relationship between motivation for physical activity and lifestyle in 10- to 12-year-old children in South Korea and Japan. 20th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Malmö, Sweden), 2015.
 - 池田孝博・青柳領 (口頭発表) はだし保育は子どもの体力を向上させるか?. 日本発育発達学会第13回大会(日本大学), 2015.
 - 池田孝博・青柳領 (口頭発表) 児童期後期における身体活動および学習動機づけの構造的関連. 日本体育学会第65回大会(岩手大学), 2014.
 - Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Motivation for physical activity and learning in late childhood: comparison of factors between Korean and Japanese children. The 19th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Busan University, Korea), 2014
 - Ikeda, T. & Aoyagi, O. (Mini oral Session) Item analysis of toe grip on preschool-aged children. 19th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Amsterdam, the Netherlands), 2014.

③過去の主要業績

- ・池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領，剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連。武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- ・Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between gender difference in motor performance and age, movement skills and physical fitness among 3- to 6-years old Japanese children based on effect size calculated by meta-analysis. School Health 5: 9-23. 2009.
- ・Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement 5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究(C)一般 研究課題名「主観評価と客観指標に基づく剣道に適した専用サーフェイスの検討と開発」課題番号 16K01627
(研究期間 平成 28～30 年度) 研究代表者：池田孝博

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本体育学会，日本発育発達学会，日本測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会，日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The European College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)

6. 担当授業科目

<学 部>

健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期，
体育Ⅰ・2単位・2年・通年，体育Ⅱ・2単位・3年・通年，
演習・2単位・3年後期~4年前期，卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>

7. 社会貢献活動

該当なし

8. 学外講義・講演

該当なし

9. 附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究プロジェクト

研究課題名「地域教育課題に関する研究」研究代表者：池田孝博

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	石崎 龍二
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用、②散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析、③異常拡散現象の機構の解明と新しい統計の探求等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, "Time-series analysis of multiple foreign exchange rates using time-dependent pattern entropy", Physica A, Vol.490 No.15, pp. 967-974, 2018.
- ・ 猪狩崇, 石崎龍二, 樫直美, 柴田雅博, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 尾形由紀子「地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察」, 『福岡県立大学看護学研究紀要』, 第15巻, pp.83-90, 福岡県立大学, 2018年3月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「統計教育科目における学生の自己評価と学習到達度の分析(2016)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第25巻第2号, pp.21-40, 福岡県立大学, 2017年2月.

②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価に基づいた教育効果の検証(2017)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第26巻第2号, pp.205-220, 福岡県立大学, 2018年2月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2016年)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第26巻第1号, pp.63-79, 福岡県立大学, 2017年9月.
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 松崎貴之, 岩倉聡, 白石潤「社会福祉法人における業務支援システムの導入と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第26巻第1号, pp.57-66, 2017年9月.
- ・ 尾形由起子, 樫直美, 小野順子, 檜橋明子, 猪狩崇, 杉本みぎわ, 石崎龍二, 柴田雅博「在宅医療推進における医療福祉情報に関する研究」『平成28年度附属研究所重点領域研究事業(研究奨励交付金)報告書』, 2017年3月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの相関とエントロピー」統計数理研究所共同研究リポート「経済物理とその周辺(13)」, 第378巻, pp.11-17, 2017年3月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2015年)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第25巻第1号, pp.63-79, 福岡県立大学, 2016年9月.

- ・ 石崎龍二「外国為替レートのパターン・エントロピーと相関」統計数理研究所共同研究レポート「経済物理学とその周辺(12)」, 第360巻, pp.74-79, 2016年3月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤 繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2015年)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号, pp.105-118, 福岡県立大学, 2016年2月.
- ・ 石崎龍二, 増本賢治「福岡県立大学人間社会学部におけるコンピュータリテラシー教育の効果(2014年)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第1号, pp.103-125, 福岡県立大学, 2015年9月.

<学会報告>

- ・ 石崎龍二, 井上政義「複数外国為替レート時系列に対するエントロピーによる分析」, 日本物理学会第73回年次大会(2018年)(東京理科大学野田キャンパス), 2018年3月.
- ・ 中村晋介, 柴田雅博, 石崎龍二, 森脇敦史「大学生のITセキュリティ実践の現状と課題—新たな教育プログラムの構築に向けて」大学ICT推進協議会2017年度年次大会(広島国際会議場), 2017年12月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「複数外国為替レート時系列に対するエントロピーによる分析」第123回日本物理学会九州支部例会(鹿児島大学郡元キャンパス), 2017年12月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの不安定性とエントロピー」, 日本物理学会2017年秋季大会(岩手大学上田キャンパス), 2017年9月.
- ・ 柴田雅博, 中村晋介, 石崎龍二, 森脇敦史「文系大学生のITセキュリティ意識と実践に関する調査」第16回情報科学技術フォーラム(東京大学本郷キャンパス), 2017年9月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H28度第2回研究会(統計数理研究所), 2017年3月.
- ・ 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「ACトラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と揺らぎの統計的性質」, 日本物理学会第72回年次大会(大阪大学), 2017年3月.
- ・ 池志保, 中村晋介, 石崎龍二「大学生の「就業力」についての縦断調査研究」, 日本発達心理学会第28回大会(広島国際会議場), 2017年3月.
- ・ 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「ACトラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と揺らぎの統計的性質」, 第122回日本物理学会九州支部例会(福岡大学), 2016年12月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H28度第1回研究会(キャノングローバル戦略研究所), 2016年8月.
- ・ 柴田雅博, 石崎龍二「保健福祉系大学における全学横断型での統計・情報教育拡充への取り組み」, 情報処理学会第134回コンピュータと教育研究会(京都情報大学院大学), 2016年3月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 日本物理学会第71回年次大会(東北学院大学泉キャンパス), 2016年3月.
- ・ 石崎龍二「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H27度第2回研究会(統計数理研究所), 2016年1月.
- ・ 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「ACトラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と不安定性」, 第121回日本物理学会九州支部例会(九州工業大学), 2015年12月.

③過去の主要業績

- ・ Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, "Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy", Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- ・ 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998年.
- ・ Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, "Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map", Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会, 科学研究費基盤研究 (C), 「大学生の IT セキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」(研究代表者: 中村晋介) 3,380,000 円,平成 28 年度~平成 30 年度, 研究分担者.

4. 受賞

5. 所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会 (APS)、日本心理学会

6. 担当授業科目

<学部>

数学概論・2 単位・1 年・前期、プレ・インターンシップ・2 単位・1・2 年・通年、
情報科学・2 単位・1 年・後期、専門職連携入門・1 単位・1 年・後期、情報数学・2 単
位・2 年・前期、プログラミング概論・2 単位・2 年・後期、データ処理とデータ解析
I・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析 II・1 単位・3 年・後期、公共社会学
研究 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単
位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	岩橋 宗哉
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

（1）現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（2）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをも明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（3）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

論文

- ・下地まどか・岩橋宗哉「窪地」による気分の変化—特性不安に着目して—
『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2017年3月

② その他最近の業績

- ・村田節子・岩橋宗哉・岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム第3報—ロールプレイ演習とリフレクションによる評価—」第30回日本がん看護学会学術集会 高知 2017年2月
- ・岩橋宗哉「かたちになる部分とかたちにならない部分」『福岡県立大学心理臨床研究』第8巻 2016年3月
- ・村田節子・岩橋宗哉・岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム第2報—ロールプレイ演習とリフレクションによる評価—」第30回日本がん看護学会学術集会 千葉 2016年2月

③ 過去の主要業績

- ・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚—精神分裂病者との心理療法過程から—」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月
- ・岩橋知子・岩橋宗哉「重度痴呆性老人の体験を共有しようとする試み—抱える環境としてのプレバーバルな関わり—」『心理臨床学研究』第17巻第1号 1999年4月
- ・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号 1998年6月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

6. 担当授業科目

臨床心理学・2単位・3年・前期、心理面接演習・2単位・3年・後期、演習・2単位、3～4年、
通年、教育相談・2単位・4年・前期、カウンセリング・2単位・4年・前期、卒業論文・
6単位・4年・通年、臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理面接特論・4単位・
1,2年・通年(前期担当)、臨床心理学特論・4単位・1,2年・通年(後期担当)、臨床心理
実習・2単位・2年・通年、心理臨床実習(施設)・1単位・2年・前期、特別研究・4単
位・1～2年・通年、臨床心理学特論(看護学研究科)・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・久留米大学病院精神神経科付属カウンセリングセンター臨床心理士
- ・飯塚市子どもなんでも相談事業専門相談員
- ・福岡県臨床心理士会代議員

8. 学外講義・講演

- ・教員免許状更新講習 教育の最新事情 「教育相談」講師 2017年8月23日

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 室長

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	上野 行良
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。
 個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

上野行良 (2015) 「わかりやすく伝えようープレゼンテーション」(「レポートの書き方入門'15」福岡県立大学)

②その他最近の業績

〈雑誌〉

上野行良 (2017) 「思いやりのウチとソト」児童心理, 1043.

③過去の主要業績

上野行良 (2006) 「感情心理学」(山岡重行編著『サイコナビ 心理学案内』ブレーン出版)
 上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006) 「非行の抑制要因と促進要因-福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書 V. 25.
 上野行良 (2003) 「ユーモアの心理学ー人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

3. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会

4. 担当授業科目

〈学部〉

対人心理学・2単位・1年・前期、心理学・2単位・1年・後期、心の科学の現在・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、人間関係の科学・2単位・3年・前期、演習(人間形成学科)・2単位・3~4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、人間関係特論・2単位・修士1年・後期、特別研究・4単位・修士1~2年・通年

5. 学外講義・講演

- ・教育福祉関連 (福岡県精神保健福祉協会、ふれあいHANDS など)
- ・行政機関 (福岡県、大分県、久留米市など)
- ・看護医療関連 (国立病院機構、医師会、看護協会、保健師協議会など)
- ・その他 (大分県警察署、新日鐵住金など)

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	教授	氏名	神谷 英二
----	-----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を主な研究分野としています。また、医療機関や地方自治体の人材育成にも取り組んでいます。

- a. 詩・断章・日記・書簡に現れる都市の集合的記憶に基づく「小さな物語」の現象学的解釈学的研究
- b. 集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究
- c. 「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究
- d. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラムの開発と実践
- e. 医療倫理体制構築を主な手段とする医療機関の経営品質向上の研究と実践
- f. ロジカルシンキング、ロジカルライティング、文書添削及びコーチングを中心とする地方自治体における人材育成プログラムの開発と実践

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

(単著)「瓦礫の記憶論のために」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2016年、77-90

(単著)「灰を忘却から救出するためのメモランダム」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2017年、59-68

(共著)新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の気遣いの世界—祖父母的ジェネラティヴィティの源を探る—」、『西南女学院大学紀要』Vol.21、西南女学院大学保健福祉学部、2017年、1-8

(単著)「消尽と救済としての物語(1)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2018年、163-173

②その他最近の業績

<シンポジウム>

(単独)「ポスト工業社会における新たな公私の協働」、日独国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—」提題、2017年10月14日、福岡県立大学

<教科書>

(共著)田中哲也編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方—2016年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2016年(担当箇所「第2章 レポートとは?」、21-37)

(共著)田中哲也編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方—2017年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2017年(担当箇所「第2章 レポートとは?」、21-37)

③過去の主要業績

<著書>

(共著)千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ—ヘーゲル以後フッサールまで—』理想社、2006年。(担当箇所「第9章 他者経験の起源—発生的現象学におけるヒュレー・キネスターゼ・他者—」、255-277)

<学術論文>

(単著)「規範の生成—世代発生的現象学に基づく倫理学の可能性—」、『西日本哲学会年報』第9号、西日本哲学会、2001年、107-120

(共著) 神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理—患者の権利とインフォームド・コンセント—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2005年、75-94

(単著)「遊歩者・記憶・集団の夢—ベンヤミン『バサージュ論』による記憶論構築のために—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2009年、67-79

<翻訳>

(単著)A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243

<書評>

(単著)「武内大著『現象学と形而上学—フッサール・フィンク・ハイデガー』の書評」、実存思想協会編『思想としての仏教』実存思想論集26、理想社、2011年、179-182

5. 所属学会

日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会、日本老年看護学会、各会員

6. 担当授業科目

哲学Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、生命倫理・2単位・1年・前期、哲学Ⅱ・2単位・1年・後期、論理学・2単位・2年・前期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、問題解決演習・1単位・2年・後期、倫理学・2単位・2-3年・前期、哲学要論・2単位・3年・後期、看護倫理・1単位・看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程、スタートダッシュのための就活塾・単位外・3年・後期

7. 社会貢献活動

<福岡県田川市>経営評価改革推進委員会委員長

<福岡県直方市>消防本部職員採用試験員

<福岡県田川郡香春町>情報公開審査会会長、個人情報保護審査会会長、政治倫理審査会会長、行政改革推進委員会会長、総合戦略検証委員会委員長、総合計画審議会委員

<福岡県京都郡みやこ町>行政改革推進委員会委員長

<株式会社麻生・飯塚病院>倫理委員会委員、臨床研究管理委員会委員

8. 学外講義・講演

<公務員研修>福岡県市町村職員研修所「ディベート研修」、「文書添削力向上研修」、「先進地視察研究<四王寺塾>」、田川市職員研修「スキルアップ神谷塾」、久留米市新任主査研修、直方市職員「チームング研修」、京都郡みやこ町職員人材育成研修、糟屋郡須恵町面接官研修、糟屋郡粕屋町面接官研修など

<医療職向け講演>株式会社麻生・飯塚病院「人生の最終段階における医療の症例報告会」など

<市民向け講演>筑豊市民大学講演「暇と退屈のエチカ」、一般財団法人メンタルケア協会「メンタルケア・スペシャリスト養成講座」など

9. 附属研究所の活動等

附属研究所生涯福祉研究センター長

生涯福祉研究センター地域支援員（筑豊市民大学アドバイザー・講座部担当）

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
----	---------------	----	----	----	-------

1. 主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防対策に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法に興味を持っている。近年の主な取り組みには、福岡県内を中心とした自殺予防ゲートキーパー研修会講師がある。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、思春期の精神保健（自傷行為やひきこもりの問題）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

2. 研究業績

①著書・論文

- ・井上拓哉、小嶋秀幹：保健福祉系大学生のインターネット依存傾向と精神的健康の関連、福岡県立大学心理臨床研究 10；23-26, 2018.
- ・大石史香、小嶋秀幹：低出生体重児の親の会が参加者に提供する心理的支援—会話内容の質的分析—。福岡県立大学心理臨床研究 9；3-12, 2017.
- ・小嶋秀幹、中島貴子：自傷行為をする親友に関わる際の心理についての質的調査。精神療法 42 (6)；75-84, 2016.
- ・田中玲衣、小嶋秀幹：若手のスクールカウンセラーがその職務体験から得た意識についての質的調査。福岡県立大学心理臨床研究 8；11-24, 2016.
- ・権 静香、小嶋秀幹：在日コリアン青年の名のり行動形成に伴う心理的プロセス。福岡県立大学心理臨床研究 7；31-42, 2015.

②その他の業績

<学会報告>

- ・小嶋秀幹：大学・専門学校教員を対象にした、学生の心理的危機に初期対応する自己学習教材の効果。第 37 回日本社会精神医学会, 2018.
- ・阿部 望、小嶋秀幹：ストレングスをを用いた認知再構成法による心理教育プログラムの効果、第 42 回日本認知・行動療法学会, 2016.
- ・Nozomi Abe & Hideki Kojima, A comparison of strengths-based cognitive restructuring and standard cognitive intervention for college students: A pilot trial. Cognitive Therapy Special Interest Group Exposition, The 50th Association for Behavioral and Cognitive Therapies, New York, 2016.
- ・小嶋秀幹：教育機関での取り組み～アルコール問題の啓発劇～。第28回九州アルコール関連問題学会, 2016.
- ・小嶋秀幹、中島貴子：自傷行為をする親友と関わる際の心理についての調査。第 39 回日本自殺予防学会, 2015.

<教材開発>

- ・小嶋秀幹：大学や専門学校の教員が心理的危機状態にある学生と関わる際の手引き（平成 29 年度日本教育公務員弘済会研究成果物）、2018 年.

③過去の主要業績

- ・小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—。自殺予防と危機介入 34 (1)；41-47, 2014.
- ・小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス—インタビュー内容の質的分析—。日本社会精神医学会雑誌 22 (2)；92-105, 2013.
- ・小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32 (1)；68-71, 2012.

3. 外部研究資金

- ・平成 29 年度日本教育公務員弘済会研究奨励金（心理的危機状態にある学生との対話モデルを自己学習する教材の開発とその効果検証、研究代表者）968,550 円

4. 受賞 なし

5. 所属学会

- ・九州精神神経学会評議員・編集委員
- ・日本精神神経学会精神科専門医
- ・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本産業衛生学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、日本保健福祉学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

精神保健学・2単位・1年・前期、精神保健学Ⅰ・2単位・2年・前期、精神医学Ⅰ・2単位・3年・前期、老年期医学・2単位・3年・前期、精神保健学Ⅱ・2単位・2年・後期、精神医学Ⅱ・2単位・3年・後期、演習・2単位・3～4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期、特別研究・4単位・大学院1年・通年、臨床心理実習（学内）・1単位・大学院2年・通年、臨床心理査定演習・4単位・大学院1年・前期、臨床心理面接特論・4単位・大学院1年・後期、臨床心理基礎実習・2単位・大学院1年・通年、臨床心理実習（施設）・1単位・大学院2年・前期

7. 社会貢献活動

北九州いのちの電話評議員、北九州市役所嘱託産業医、田川市役所嘱託産業医、ホームレス自立支援センター北九州嘱託医、田川児童相談所虐待カウンセリング医、産業医科大学医学部非常勤講師、福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、心神喪失等医療観察法判定医

8. 学外講義・講演

- ・ストレスについて、西日本工業大学ゲートキーパー研修、6月
- ・心の健康と心の病、北九州教育委員会メンタルヘルス講座、8月
- ・ストレスとこころの病気について知ろう、熊本県立東稜高等学校出前講義、8月
- ・子どもの問題行動と関わり方、教員免許更新研修（県大）、8月
- ・発達障害と不登校～特性の理解とその支援～、福岡県適応指導教室職員研修、8月
- ・具体的事例から学ぶ、水巻町民生委員研修会（講義と介護うつ病の啓発劇）、9月
- ・ゲートキーパーの役割、中間市民生委員研修会（講義とうつ病の啓発劇）、9月
- ・学生のメンタルヘルス、福岡県看護専門学校教員研修、9月
- ・自傷行為をする友人への関わり方、福岡教育大学ゲートキーパー研修、11月
- ・うつ病について、田川市こころの健康研修会（講義とうつ病の啓発劇）、11月
- ・精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話相談員研修、11月・12月
- ・パーソナリティ障害の理解と関わり方、田川保健所研修、1月
- ・職場のメンタルヘルス、田川市役所管理職研修会、1月
- ・パーソナリティ障がい理解と関わり方、宗像遠賀保健所研修、2月
- ・自殺予防の基礎知識と対応、福津市ゲートキーパー研修会、2月
- ・相談対応事例検討会、京築保健所管内職員研修、3月

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター幹事

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	住友雄資
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には300万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

山崎めぐみ・住友雄資 (2018) 「精神科病院の精神保健福祉士が行う退院支援に関する研究動向と課題—長期入院の精神障害者に対する取り組みに着目して—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26 (2), 55-69.

新海朋子・住友雄資 (2018) 「精神障害をもつ人のリカバリー概念に関する文献検討」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26 (2), 71-85.

林志帆・住友雄資 (2016) 「精神障害者のきょうだいへの支援—精神保健福祉士による支援内容から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24 (2), 21-36.

②その他最近の業績

(学会報告)

鈴木孝典・岩崎香・大塚淳子・松本すみ子・大谷京子・松浦智和・石田賢哉・越智あゆみ・住友雄資・石川到覚 (2016) 「精神科医療機関における精神保健福祉士の配置と長期入院患者の動向との関連」『日本精神保健福祉学会第5回学術研究集会要旨集』(沖縄大学), 2016年6月24日.

(教育実践報告)

畑香理・住友雄資・奥村賢一・平林恵美・平川明美 (2017) 「2016年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』—事前学習の充実と実習報告会に向けた取り組みについて—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(1), 85-95.

畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・平川明美 (2016) 「2015年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習』・『精神保健福祉援助実習指導』—新カリキュラム完成年度の取り組みについて—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25(1), 81-90.

畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介 (2015) 「2014年度教育実践報告：旧カリ『精神保健福祉援助実習』・新カリ『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24(1), 127-135.

(書評)

住友雄資 (2015) 「書評 赤畑淳『聴覚障害と精神障害をあわせもつ人の支援とコミュニケーション』ミネルヴァ書房」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23 (2), 87-90.

③過去の主要業績

住友雄資 (2007) 『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版.
(単著)

杉本敏夫・住友雄資編 (2006) 『改訂 新しいソーシャルワーク』中央法規出版。
(共編著)

住友雄資 (2001) 『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版。(単著)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 代議員・査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

精神科リハビリテーション学Ⅰ・2単位・3年・前期
精神科リハビリテーション学Ⅱ・2単位・3年・後期
精神保健福祉論Ⅲ・2単位・3年・後期
精神保健福祉演習・1単位・3年・前期
精神保健福祉援助演習・2単位・3年・通年
精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年
精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年
社会福祉学演習・2単位・3年・後期～4年・前期
卒業論文・6単位・4年・後期

(大学院)

社会福祉研究法・2単位・前期
質的研究法・1単位・前期
特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

直方市障害者施策推進協議会 会長
田川市障害者総合自立支援協議会 会長

8. 学外講義・講演

(出前講義)

福岡県立東鷹高校「ソーシャルワーカーの援助」(2017年9月22日)

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。

研究分野は都市社会学、生活構造論、公共社会学。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの協同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマである。グローバル化とローカル化が同時に進行する現在、私たちの生活の拠点としての地域社会、ともに生きていく拠り所となる協同性や公共性が改めて問われている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための課題を明らかにしたい。具体的な研究テーマとして、地域における公共交通や河川整備、特にそこでの住民参加、また、東日本大震災による避難/移住者の生活過程について実証的な調査研究を続けている。

理論的な側面では、都市社会におけるこれまでの生活問題研究に学びながら、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

田代英美・佐藤繁美・菊池義昭「石井記念友愛社の事業展開と地域におけるネットワーク形成——児嶋草次郎理事長へのインタビュー記録から——」『石井十次資料館研究紀要』第18号、pp.219-234、社会福祉法人石井記念友愛社発行、2017年8月。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究(2)——埼京線・SR・TXと北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第二次報告」『日本都市学会年報』VOL.50、pp.361-365、2017年5月。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究(1)——埼京線・埼玉高速鉄道・TXと北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第一次報告」『日本都市学会年報』VOL.49、pp.315-319、2016年5月。

田代英美「遠方避難における生活再建と地域社会の課題」『社会分析』43号、pp.25-43、2016年3月。

田代英美・佐藤繁美『公共社会学入門 公共性の社会学 テキスト』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2017年4月。

②その他最近の業績

<学会発表>

田代英美「交通インパクトと都市・地域社会の構造変動(5)——九州新幹線沿線地域の事例分析」日本社会学会第90回大会(東京大学)、2017年11月5日。

田代英美「平常化する地域社会の見えない避難」、開催校企画テーマセッション『「フクシマ」をひらく——原発事故をめぐる社会の現在と未来」報告者、日本社会学会第89回大会(九州大学)、2016年10月9日。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究(2)」日本都市学会第63回大会(岡崎市)、「報告要旨集」pp.54-55、2016年10月30日。

田代英美・伊東啓太郎・田中優太・山下絢子・揚野慎一郎・伊藤拓「“かわまちづくり”への参加に関わる住民の行動・意識要因——福岡県田川市における調査から」日本景観生態学会第25回全国大会(九州工業大学)、「講演要旨集」p.77、2015年6月6日。

<日独国際シンポジウム(福岡県立大学特別公開講座)>

ウルリヒ・ボルスドルフ・田代英美(訳・編)「新たな地域文化を目指して——ユネスコ・世界遺産ツォルフェルアインの挑戦——」、福岡県立大学、2017年10月14日。

<教育実践報告>

田代英美・佐野麻由子「公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践 2016」、『福

岡山県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、pp.81-92、2017年2月。

田代英美・佐野麻由子「公共社会学におけるアクティブ・ラーニングの実践」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、pp.119-131、2016年2月。

<書評>

田代英美「書評 関西学院大学災害復興制度研究所他編著『原発避難白書』(2015、人文書院、241頁。)」、『社会分析』44号、pp.145-147、2017年4月。

<コラム>

田代英美「研究室めぐり 福岡県立大学人間社会学部公共社会学科」『西日本社会学会ニュース』No.154、p.6、2017年11月17日。

③過去の主要業績

田代英美「遠方個別避難における『被災』、『避難』、『生活再建』の構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、pp.45-56、2015年2月。

田代英美「東日本大震災による遠方への避難の諸要因と生活再建期における課題」、『西日本社会学会年報』第11号、pp.63-75、2013年3月。

田代英美「地方公共交通の再編とコミュニティの情報提供機能」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、pp.65-77、2013年1月。

田代英美・佐藤繁美編『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、総ページ数77、2011年3月。

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、pp.51-70、2010年3月。

田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14～16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書、2005年6月。

3. 外部研究資金

科学研究費基盤研究(B)「交通インパクトの社会的効果に関する研究——量と質とビジュアルの混合研究法——」平成26年度～平成29年度、研究分担者。

科学研究費基盤研究(C)「平常化する地域社会の見えない避難——広域避難者にとって生活再建とは何か」平成29年度～平成31年度、研究代表者。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会、日本都市学会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>

公共性の社会学・2単位・1年・前期、社会学概論・2単位・1年・後期、社会調査実習・2単位・2年・通年、環境社会学・2単位・2・3年・後期、地域社会分析法A(地域と生活)・2単位・3年・前期、地域社会学特講・2単位・3年、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

田川市地域公共交通会議委員、田川市経営評価改革推進委員会委員、田川市産業振興会議委員、田川の宝!彦山川を創る会会長、添田町地域公共交通会議委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	郝 曉 卿
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

グローバル時代における中国の国内政治を基点として、中国の現代史と国際環境との関係などを主な研究分野としている。その内容として、1、現在の中国の内政と外交に多大な影響を与えた文化大革命の国際的な背景の検討と、2、高度成長を伴う深刻な環境問題に対する中国政府の対策への調査、検討等である。具体的には、1の場合、文化大革命の発生から終息までの原因の一つとして、当時の国際環境に照準を定め、問題の解明を行ってきたが、現在はアメリカの要素を中心に、50～70年代における米国の対中政策を中国の国内情勢にいかなる影響を及ぼしたかを明らかにしようとしている。2については、世界、とくにアジアに深刻な影響を与えた中国の環境問題を注目し、現地調査で入手した資料などを参考にしながら、中国の環境問題などを制度的に検討するとともに、国際協力で、世界からいかなる越境支援を受け、また、何の問題があるのかを研究しようとしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

論文

②その他最近の業績

- ・平成27年度研究奨励交付金（南京師範大学との教育研究交流を推進するプロジェクト研究）

③過去の主要業績

著書

- ・『転換期の東アジア』、共著、ナカニシヤ出版、佐々木武夫 豊田謙二編、1998年5月、第4章「過渡期における中国の労働問題」担当
- ・『社会主義の世紀』、共著、法律文化社、熊野直樹 星乃治彦編、2004年11月、第8章「ユートピアと現実との間」担当

論文

- ・「中国の環境問題と国際協力」、単著、2006年11月、『福岡県立大学紀要』、第15巻第1号
- ・「文化大革命と国際環境」(4)、単著、2007年11月、『福岡県立大学紀要』、第16巻第1号
- ・「中国文化における中医学」、単著、2009年7月、『福岡県立大学紀要』、第18巻第1号

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本国際政治学会

6. 担当授業科目

- ・中国語Ⅰ－(1)・中国語Ⅰ－(2)・2単位・通年・1年、中国語Ⅱ－(1)・中国語Ⅱ－(2)・2単位・通年・2年、中国語Ⅲ－(1)・中国語Ⅲ－(2)・2単位・通年・3年、

国際関係論・1単位・前期・1年、中国の社会と文化・1単位・前期・2年、教養演習・1
単位・前期・1年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部 人間形成学科	職名	教授	氏名	福田 恭介
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1. まばたきに関する研究：まばたきは、情報を待ちかまえたり情報を取り込んで処理したりしているときには抑制され、情報処理が終了した瞬間にまばたきが生じることを示してきた。このことは、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じるだけでなく、期待、処理、処理終了、さらには選択的注意といった認知過程と関連していることを示している。最近では、反応を抑制させると補完するかのようにまばたきが発生し、とくに発達障害を抱えた児童では、まばたきのタイミングが遅れやすく、前頭前皮質の活動とまばたきが関連していることを示している。このことは、まばたきによる発達障害アセスメントの可能性を示すものと考えている。
- 2.ペアレントトレーニング（ペアトレ）に関する研究：ペアトレは、親の子育て支援だけでなく、保育園や学校における保育者や教師の子ども支援にも役立つことを示している。子どもの行動を観察・記録すると、子どもの行動の意味が見えてくる。親・保育者・教師が子どもの不適切な行動に注目するのではなく適切な行動に注目すると、子どもの行動が変化する。それによって親・保育者・教師が自信を回復している。こういった取り組みが子ども支援に効果的であることを示すための特別支援プログラムの実施も行っている。
3. 保有学位・資格：文学博士・臨床心理士

2. 研究業績

①最近の著書・論文

1. 森久美子・福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人 (2015) 感情語提示時における大学生の瞳孔反応と抑うつ・不安との関連 福岡県立大学人間社会学部紀要, 23 (2), 33-44. 査読あり
2. Nomiya, H., Fukuda, K., Matsuo, T., Shidoji, K., & Hayami, T. (2015). The difference of detection performance between intermittent and continuous presentation of facial expression changes. *Joint international Symposium on "Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution" and "e-Asia Functional Materials and Biomass Utilization"* p-29, 1-4. 査読あり
3. Korenaga, Y., Yoshioka, K., Nakafuji, H., Nakamura, E., Sakai, S., Shinaya, K., & Fukuda, K., (2015). Improvement of Teachers' Skill for Children's Behavioral Problem in Schools through a Cognitive-Behavioral Approach by Parent Training. *Joint international Symposium on "Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution" and "e-Asia Functional Materials and Biomass Utilization"* p-30, 1-3. 査読あり
4. 福田恭介(2017)「眼球運動」・「瞳孔運動」『生理心理学と精神生理学』日本生理心理学会（企画）堀忠雄・尾崎久記（監修）坂田省吾・山田富美雄（編集）第12章「視覚－運動系」1節・2節，北大路書房 223-231.
5. 福田恭介・小山憲一郎・中村恵美子・中藤広美・酒井志織・香月眞美(2018)「ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果」福岡県立大学心理臨床研究 10, 11-21. (印刷中) 査読あり

②その他最近の業績

1. 福田恭介(2015)「福岡県立大学山本作兵衛コレクション保存管理計画」ユネスコ提出資料 福岡県立大学附属研究所 p.1-6.
2. Fukuda, K. (2015) Fukuoka Prefectural University Preservation and Management Plan for the Sakubei Yamamoto Collection. *Fukuoka Prefectural University Research Institute Report*, p.1-12.
3. 福田恭介・上江洲成美・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人(2015)「表情画像の呈示時間が瞬目発生に及ぼす効果」第33回日本生理心理学会大会（大阪人間科学大学）
4. 福田恭介(2016)「心理学実験演習における瞬目利用」第24回まばたき研究会（大阪人

間科学大学)

5. 福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人(2016)「Go課題・No-Go課題時における瞬目時間分布」第34回日本生理心理学会大会(名古屋大学)
6. 福田恭介・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人(2016)「Go課題・No-Go課題時における発達障害児の瞬目変動」九州心理学会第77回大会(西南学院大学)
7. 鈴木梓・福田恭介・志堂寺和則・早見武人・松尾太加志(2016)「ワーキングメモリ課題中における瞬目変動」九州心理学会第77回大会(西南学院大学)
8. 結田希望・福田恭介(2016)「表情と顔の呈示数が表情探索課題に及ぼす影響」九州心理学会第77回大会(西南学院大学)
9. 福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人(2017)「Go/No-Go刺激の呈示比率と瞬目時間分布」第35回日本生理心理学会大会(江戸川大学)
10. 福田恭介(2017)「瞬目発生のタイミングと心理過程」第35回日本生理心理学会大会シンポジウム「生理反応測定と行動科学とのつながりー瞬目・自律系に注目してー」(江戸川大学)
11. 早見武人・松尾太加志・福田恭介・志堂寺和則(2017)「固視反復作業におけるサッカーボール加減速の非対称性」日本心理学会第81回大会(久留米大学)

③過去の主要業績

1. 田多英興・山田富美雄・福田恭介(編著(1991)「まばたきの心理学ー瞬目行動の研究を総括する」北大路書房(京都)
2. Fukuda, K. (2001) Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*. 40, 239-245.
3. Fukuda, K., Stern, J.A., Brown, T.B., & Russo, M.B. (2005) Cognition, Blinks, Eye-Movements, and Pupillary Movements During Performance of a Running Memory Task. *Aviation, Space, and Environmental Medicine*. 76 (7), Section 2, C75-C85.
4. 福田恭介(編著)(2011)「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきょうまくいく。子どもの発達支援」あいり出版(京都)

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本生理心理学会(理事), 九州心理学会(理事), 日本心理学会, 日本行動療法学会, 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会, International Organization of Psychophysiology (IOP)

6. 担当授業科目

<学部>

心理学実験演習Ⅰ・2単位・2年・前期, 心理学実験演習Ⅱ・2単位・2年・後期, 幼児教育心理学・2単位・2年・前期, 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 心理学研究法・2単位・2年・後期, 知覚心理学・2単位・3年・前期, 認知心理学・2単位・3年・後期, 演習・2単位・3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>

臨床心理基礎実習・2単位・修士1年・通年, 心理学研究法特論・2単位・修士1年・前期, 認知心理学特論・2単位・修士1年・後期, 臨床心理実習(学内)・1単位・修士2年・通年, 臨床心理実習(施設)・1単位・修士2年・前期, 特別研究・2単位・修士1・2年通年

7. 社会貢献活動

附属図書館長, 田川市教育支援委員会委員長, 九州心理学会理事, 日本生理心理学会理事,
Journal of Forensic Sciences Reviewer

8. 学外講義・講演

1. 特別支援教育スキルアッププログラム (6月2日, 6月16日, 6月30日, 7月14日, 7月28日) 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター
2. 平成29年度豊前市教職員全員研修会「ペアレントトレーニングによる気になる子どもたちへの対応について」(7月28日) 豊前市教育委員会
3. 教員免許状更新講習「ペアレントトレーニング」(8月23日) 福岡県立大学
4. 子育てボランティア養成講座「ペアレントトレーニングってなに?」(10月20日) 田川市子育て支援センター
5. 出前講義「目は心の窓というのは本当か?」(11月15日) 福岡県立伝習館高等学校
6. 保育士と教師のための特別支援スキルアッププログラム(1月5日, 1月12日, 1月26日, 2月9日, 2月23日) 直方市こども育成課
7. 田川郡学校保健会研修会「特別な支援が必要な子への養護教諭の関わりについてー理解と親子支援を中心にー」(2月5日) 田川総合庁舎
8. 多職種で考える発達障害と療育研究会「ペアレントトレーニングの保育・教育・医療現場での活用について」(2月16日) 北九州地区小児科医会
9. 明治学園小学校教員研修会「ペアレントトレーニングによる子ども支援」(3月27日) 明治学園小学校教員研修会

9. 附属研究所の活動等

- ・ 第34回・第35回お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)の企画と運営
- ・ 第11回特別支援教育スキルアッププログラム(ペアレントトレーニングに基づいた保育士・教師のためのスキルアッププログラム)の企画と運営
- ・ 第7回直方市保育士・教師のための特別支援スキルアップセミナーの企画と運営

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	許 棟翰
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年3月慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。博士（商学）。専門分野は、労働経済学、人的資源管理論、労使関係論。

1998年4月から九州国際大学経済学部経済学科で「労働経済学」（大学院では「企業政策研究」）を担当。2008年3月から韓国明知大学経営学部経営学科で「人的資源管理論」、「労使関係論」、「経営組織論」（大学院では人事・組織関連の科目）を担当。2015年4月より本学に着任。

私の初期研究は、満足度の高い働き方と効率的な人事管理のあり方について「賃金支給システム」に焦点を当てて行われた。企業の賃金支給システムを「配分の仕方」という観点からアプローチした。

その後、働き方の変化、すなわち非正規職の増加や雇用形態の多様化によって企業内部の技能養成方式はどう変わっていくのかについて研究を続けている。雇用形態の多様化が企業内部の技能養成方式や技能伝授の様子をどう変えたのかを究明するため、日本の生産現場の調査を行っている。

いまは「これからの働き方」について、IoTの普及やAIの発達など「第4次産業革命」の影響を中心に研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

(単著)「韓国の労働市場の変化と若者の雇用問題」『アジア共生学会年報』No.11, 2015年, pp.34~38.

②その他最近の業績

<専門誌論稿>

(単著)「日本企業における人員規模の決定 - 適正人件費との連携を中心に -」『人事管理』第318号, 2016年.

(単著)「柔軟勤務制度導入拡大の実態とその背景」『人事管理』第327号, 2016年.

(単著)「新卒一括採用から多様な採用制度への拡大」『人事管理』第331号, 2017年.

(単著)「Recruiting から Talent Acquisition へと認識の変化」『人事管理』第335号, 2017年.

(単著)「ブラインド採用と逆行する方案 - 日本企業の事例を中心に -」『人事管理』第338号, 2017年.

(単著)「第4次産業革命によるHRマネジメントの変化」『人事管理』第341号, 2018年.

(単著)「日本企業における役割・職務給人事管理の動向」『人材経営』Vol.156, 2018年.

<調査報告>

(共同)Jaegu Kim, Jeonghyun Lee, Donghan Hur & Sangmin Lee, 「グローバル自動車メーカーの弾力的人事運営の事例研究」, 韓国自動車産業協会, 2016年10月31日.

③過去の主要業績

- (単著)「同一価値労働同一賃金原則と企業内男女間賃金格差の実証分析」『三田商学研究』第37巻第4号, 1994年, pp. 51~67.
- (単著)「日本の雇用形態多様化と知的熟練の必要性」『Journal of Knowledge Studies』7(2), 2009年, pp. 113~139.
- (単著)「自動車産業における生産方式の変化と技能伝授-NPWを中心として」『Productivity Review』27(1), 2013年, pp. 313~335.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本労務学会, 日本組織学会, 韓国人事組織学会, 韓国人事管理学会(理事), 韓国企業経営学会, 韓国経営教育学会, 韓国生産性学会(常任理事), 韓国国際地域学会, 韓国労使関係学会, 韓日経商学会(理事), 韓国日本学会

6. 担当授業科目

経済学A・2単位・1年・前期, 教養演習・1単位・1年・前期, 経済学B・2単位・1年・後期, 仕事の経済学・2単位・2年・前期, 公共性研究C-I(社会保障論I)・2単位・2年・前期, 暮らしの経済学・2単位・2年・後期, 公共性研究C-II(社会保障論II)・2単位・2年・後期, 公共社会学研究I・1単位・3年・前期, 公共社会学研究II・1単位・3年・後期, 社会調査実習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

あか村まち・ひと・しごと総合戦略策定委員会委員(2015年6月12日~2017年6月11日)

8. 学外講義・講演

<講演>

「福岡と韓国の交流 - 九州地域の朝鮮人労働者を中心に -」

日時: 2017年5月16日

主催: (韓国)世宗研究所

「日本の第4次産業革命の現況と展望 - 企業の対応と政府政策を中心に -」

日時: 2017年7月14日

主催: (韓国)同伴成長委員会、大・中小企業・農漁業協力財団

<出前講義>

「幸せの経済学」2017年8月3日、香椎高等学校

9. 附属研究所の活動等

(共同)「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」

研究種別：平成28年度附属研究所重点領域研究

研究代表：寺島正博

研究メンバー：石崎龍二、柴田雅博、許棟翰

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	細井 勇
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、とくに、近代日本におけるキリスト教の受容、その隣人愛に触発された慈善事業に関心がある。これまで、岡山孤児院と石井十次に関する研究を続けてきたが、最近では、その事業のモデルとなった英国バーナードズ、児童ケアの日英比較に発展し、さらに現在では、日英比較では見えてこないドイツ等におけるソーシャル・ベタゴジーに注目するようになり、その日本の社会的養護界への導入を試行しようとしている。旧産炭地筑豊の生活保護史とキリスト教学生運動史の研究は、もう一つのライフワークである。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

細井勇「石井十次とアメリカン・ボードー宣教師ペティーから見た岡山孤児院」細井勇、小笠原慶彰他編『福祉にとっての歴史 歴史にとっての福祉 一人物で見る福祉の思想』ミネルヴァ書房、2017年

細井勇「自由と全体性」杉山博昭編『戦前期における社会事業の展開—自由と全体性の変遷をめぐって—』社会福祉形成史研究会、2015年

〈論文〉

細井勇「嶋田啓一郎におけるキリスト教と社会正義論」『キリスト教社会福祉学研究 第50号記念特集』24-34, 2018年

細井勇「国際的観点から見たドイツにおける家族政策と要保護児童対策」『社会保障研究』2-2, 3, 233-248, 2017年

細井勇「正義と自由としての社会福祉—『商品化』論と『脱商品化』論の関係—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25-2, 1-20, 2017年

細井勇「ドイツの児童福祉と日本の児童福祉—ドイツ児童・青少年援助法と児童福祉施設—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25-1, 1-21, 2016年

細井勇「ソーシャル・ベタゴジーと児童養護施設—福祉レジームの観点からの国際比較研究」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24-2, 1-21, 2016年

細井勇「岡山孤児院12則と里親委託」『社会的養護とファミリーホーム』6号、122-127, 2015年

細井勇「アメリカン・ボード宣教師 J. H. ペティーから見た岡山孤児院—The Missionary Heraldの掲載記事より—」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ, 95-106, 2015年

②その他最近の業績

〈書評〉

細井勇「書評：木原活信著『社会福祉と人権』」『キリスト教社会福祉学研究』46号、2015年

〈その他〉

細井勇他編『(国際学術シンポジウム報告書) 認知症の方とその家族への地域支援 看護と福祉の連携を考える』国際学術シンポジウム実行委員会、2018年3月18日

細井勇、田代英美編『(日独国際シンポジウム報告書) 石炭産業終焉後の“地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—』日独国際シンポジウム実行委員会、2018年3月31日

細井勇「学際的な国際協働研究の進展に向けて」『社会福祉研究』130号, 2017年
 細井勇「ドイツの児童福祉施設を訪問して一浮かび上がる日本の児童福祉の課題―」
 『石井十次資料館研究紀要』18, 2017年
 細井勇「2015年度の研究活動報告」『石井十次資料館研究紀要』17, 2016年
 細井勇「児童養護のルーツ」日本児童養護実践学会関西ブロック『こそだち』創刊号, 2016年
 細井勇「ドイツ・ペタゴギーとラウエハウスドイツの児童福祉施設を訪問して」『石井十次資料館研究紀要』16, 2015年
 細井勇「2104年度の研究活動報告並びに科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究(2010-2014)の成果報告」『石井十次資料館研究紀要』16, 2015年
 細井勇「発刊にあたって」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ(科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇最終報告書) 2015年
 細井勇「結びにかえて」並松秀邦編『福岡県立大学社会福祉学会報告書 平成22年～26年、大会報告』福岡県立大学, 2015年

〈学会報告等〉

細井勇「ドイツにおける社会的養護と青少年支援」日本ソーシャルペタゴギー学会第1回大会、2018年1月28日(於東京)
 森茂起、細井勇他「(応募シンポジウム) これからの施設養護に求められるもの: 国際的に評価される実践モデルを目指して」第22回日本子ども虐待防止協会(於いて大阪国際会議場) 2016年11月25日
 細井勇「(基調講演) 日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペタゴギーの役割と意義について」日本児童養護実践学会第8回研究大会(於大阪成蹊短期大学) 2016年2月28日
 細井勇、山内未紗希、三原博光「ドイツ・ペタゴギーと児童養護施設一現地訪問調査を通じて」日本社会福祉学会63回秋季大会(於留米大学) 2015年9月20日

③過去の主要業績

細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全3巻、不二出版、2009年
 細井勇『石井十次と岡山孤児院―近代日本と慈善事業―』ミネルヴァ書房、2009年
 田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996年
 共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会(理事)、社会事業史学会、日本ソーシャルペタゴギー学会(理事)、司法福祉学会、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止研究会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会(会長)

6. 担当授業科目

(学部)

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年前期、社会福祉史入門・2単位・1年後期、児童福祉論・2単位・2年前期、社会福祉発達史・2単位・3年後期、社会福祉相談援助実習指導・3単位・2年～3年、社会福祉相談援助実習・4単位・3年、相談援助演習C・1単位・3年後期、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年後期

(大学院)

社会福祉研究・2単位・前期、社会福祉演習・1単位・後期、特別研究・4単位・通年、フィールドワーク・2単位・1年後期

7. 社会貢献活動

福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員
児童養護施設栄光園 評議員

8. 学外講義・講演

細井勇「学童保育基礎講座 社会福祉論」学童保育協会（於クロバープラザ）2017年12
月17日

所属	社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----	---------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、福祉活動に取り組むNPO法人において、社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、高齢者福祉活動(ソーシャルワークや介護、各種の生活支援)に取り組むNPO法人の役割にこれまで着目してきました。

現在の主要研究テーマとしては、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービス(特にNPO法人が提供するサービス)に関する研究、2)高齢者の権利擁護に関する研究(例:介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等)、3)高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワークの今後の展開(特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等)に関するものがあります。研究上で特に意識することとして、机上のみではなく、実際に高齢者の方や様々な専門職の方等と顔がみえる関係を築きながら、現実の福祉問題の把握と理解に心がけながら研究を進めようと考えています。また、社会福祉に関する各種調査等を通じて福祉問題を抽出・発見し、その結果を福祉実践にフィードバックすることで現実の社会福祉サービスの向上に貢献できればと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文(2015-2017年度)

- 1)本郷秀和・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理、「フィンランドにおける高齢者虐待の関連機関の状況-2017年度ヒアリング調査結果の要約報告-」『地域ケアリング』Vol.20.No.5.2017.(株)北陸館,2018年5月発行予定。(投稿済・依頼原稿:調査報告)
- 2)本郷秀和・畑香理・鬼崎信好・永田千鶴、「基礎資格別みた高齢者虐待の認識に関する介護支援専門員の課題-6政令市における看護職・介護職・相談援助職の視点の検討-」日本社会福祉学会九州部会発行、『九州社会福祉学』第14号.2018年3月(査読有)。
- 3)松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太、「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の効果と課題-地域包括支援センターにおけるインタビュー調査を通して-」日本高齢者虐待防止学会発行、『高齢者虐待防止研究』,2018年3月。(査読有)
- 4)本郷秀和・松岡佐智、「介護支援専門員と高齢者虐待-基礎資格別みた自由記述結果とインタビュー調査結果の要約-」『地域ケアリング』Vol.20.No.2.(株)北陸社,2018.2018年2月(依頼論文)
- 5)本郷秀和「第14章 ソーシャルワーク-社会福祉の相談援助-」『第16章 社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待』,鬼崎信好・本郷秀和編著、『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』,講談社,2017年2月。
- 6)矢部航・本郷秀和、「福祉NPO法人におけるボランティア受け入れの課題-九州・沖縄地方の福祉NPO法人に対する質問紙調査の結果から-」日本社会福祉学会九州部会発行、『九州社会福祉学』第13号.2017年3月。(査読有)
- 7)本郷秀和「介護支援専門員の高齢者虐待の兆候認識に関する現状と課題-政令指定都市における介護支援専門員の意識調査を通じて-」日本高齢者虐待防止学会発行、『高齢者虐待防止研究』,2017年3月。(査読有)
- 8)本郷秀和「高齢者虐待における介護支援専門員の課題-地域包括支援センターとの連携に向けて-」『地域ケアリング』Vol.19.No.4.2017.(株)北陸館,2017年3月。(依頼論文)
- 9)下田学・本郷秀和「認知症高齢者に関する成年後見制度の利用支援の課題-福岡県内の主要相談機関を中心に-」『九州社会福祉学』第12号,日本社会福祉学会九州部会,2016年3月。(査読有)
- 10)本郷秀和・梶原浩介・田中将太「相談援助実習ガイドラインからみた相談援助実習の学習意識-福岡県立大学「相談援助実習」履修生の学習課題-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第1号,2015年9月。

②その他最近の業績(2015-2017年度)

- 1)永松美奈子・本郷秀和、「北九州市における特別養護老人ホームの職場内集合研修の現状と課題1-介護職員へのアンケート調査結果の紹介-」日本社会福祉学会第56回大会九州部会口頭発表(会場:九州保健福祉大学),平成27年6月。
- 2)相浦京子・本郷秀和、「認知症高齢者の家族支援に関する現状と課題-北九州市の介護支援専門

員実態調査から-」日本社会福祉学会第57回大会九州部会口頭発表(会場:長崎ウエスレヤン大学),平成28年6月.

3) 畑香里・本郷秀和・永田千鶴・荒木剛,「介護支援専門員の高齢者虐待の遭遇経験と兆候察知の現状-福岡市・北九州市に着目して-」日本社会福祉学会第57回大会九州部会口頭発表(会場:長崎ウエスレヤン大学),平成28年6月.

4) 本郷秀和・畑香里・永田千鶴・鬼崎信好,「基礎資格別にみた介護支援専門員の高齢者虐待の認識状況等に関する研究-全国6政令市における質問紙調査を通じて-」日本社会福祉学会第58回大会九州部会口頭発表(会場:九州看護福祉大学)平成29年5月.

5) 松岡佐智・本郷秀和・荒木剛・村山浩一郎・田中将太,「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の課題-ヒアリング調査の結果より-」日本社会福祉学会第58回大会九州部会口頭発表(会場:九州看護福祉大学)平成29年5月.

6) 本郷秀和(研究代表),「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題-地域包括支援センターにおけるソーシャルワークの役割-」(平成26-29年度 科学研究補助金【基盤研究C】調査研究報告書)2018.3月(※福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター発行).

③過去の主要業績

1) 本郷秀和・西島衛二・永田俊明,「福祉移送サービスの現状の問題点と課題-介護サービスを実施するNPO法人のケーススタディ-」『介護福祉学』Vol.12,日本介護福祉学会,2005年10月.

2) 本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄,「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」『日本の地域福祉』第20巻,日本地域福祉学会,2006年3月.

3) 本郷秀和,「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題-福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識-」『社会福祉学』第54号第2巻,日本社会福祉学会,2013年8月.

3. 外部研究資金

1) 平成26-29年度 科学研究費補助金【基盤研究C】(共同)※研究代表:本郷秀和,テーマ:「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」(総額)360万.

2) 平成28-30年度(予定)科学研究費補助金【基盤研究C】(共同)※研究代表:荒木剛(西南女学院大学 保健福祉学部)テーマ:「地域包括支援センターにおける地域のインフォーマル資源の主体形成を図る実践」(総額)100万円.

3) 平成29年度(第44回)大和証券ヘルス財団 調査研究助成(共同)※研究代表:松岡佐智,「施設内虐待予防のためのセルフチェックシート開発に向けた介護老人福祉施設職員の意識調査」(2017年11月~2018年10月),(総額)100万円.

4. 受賞 . . . なし

5. 所属学会

- 1) 日本社会福祉学会(理事),2) 日本地域福祉学会, 3) 日本社会福祉士会,
- 4) 日本介護福祉学会,5) 日本高齢者虐待防止学会

6. 担当授業科目(2017年度)

〈人間社会学部:社会福祉コース〉

- 1)「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」(2単位・1年後期),2)「相談援助実習指導」(3単位・3年通年・共同),
- 3)「相談援助実習」(4単位,3年通年),4)「相談援助実習指導」(3単位・2年通年・共同),5)「相談援助の理論と方法B」(2単位・2年前期),6)「社会福祉学演習」(4単位・3年後期~4年前期・通年),7)「卒業論文」(6単位・4年次後期),8)「相談援助演習A」(2単位・2年通年),
- 9)「相談援助演習C」(1単位,3年後期)

〈大学院:人間社会学研究科(社会福祉専攻)〉

- 10)「高齢者福祉研究」(2単位・1年後期),11)「高齢者福祉演習」(2単位・1年前期),12)「特別研究」(4単位・1-2年通年),13)フィールドワーク」(2単位・1年後期),14)「量的研究法」(1単位・1年前期)

7. 社会貢献活動(2017年度)

- 1) 福岡県社会福祉審議会 審議委員(平成30年6月6日迄任期予定)

- 2) 福岡県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会長(平成30年6月6日迄任期予定)
- 3) 福岡県高齢者保健福祉計画策定検討委員会 会長(平成31年7月迄予定)
- 4) 福岡県青少年健全育成協議会 会長(平成28-30年3月迄)
- 5) 福岡県ひきこもり対策連絡調整会議 委員長(福岡県,平成30年3月31日迄任期予定)
- 6) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長(平成28-30年3月迄)
- 7) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 審査部 会長(平成28-30年3月迄)
- 8) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護サービス苦情処理委員会 委員 (平成30年4月迄)
- 9) 福岡県人権施策推進講話会 委員(平成28-30年7月31日迄)
- 10) 福岡県フリースクール支援事業費補助金審査会 委員(平成30年3月末迄予定)
- 11) 福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会 委員(平成27年-29年3月迄)
- 12) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 委員(平成28-30年3月迄)
- 13) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 苦情解決小委員会 委員(平成30年3月迄)
- 14) 日本社会福祉学会 九州ブロック担当事務・運営委員(平成28-30年3月迄)
- 15) 日本社会福祉学会 全国フォーラム企画・運営担当
- 16) 日本社会福祉学会九州地域ブロック発行誌、『九州社会福祉学』編集委員長・査読委員
- 17) 福岡県田川市 地域包括ケアシステム推進協議会 認知症支援部会委員(平成32年9月迄予定)
- 18) 福岡県田川市 市民生活部所管施設等整備事業者選定委員会 委員長(平成27年-29年4月迄)
- 19) 福岡県田川市 教育委員会 青少年問題協議会 会長(平成28-30年3月迄)
- 20) 福岡県嘉麻市地域福祉計画 策定委員(平成28年5月～平成30年5月迄)
- 21) 社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会 評議員(平成33年3月末迄任期予定)
- 22) 特定非営利活動法人 地域たすけあいの会 理事長(代表理事)
(活動概要: サービス付高齢者住宅,住宅型有料老人ホーム,通所介護(2),訪問介護,居宅介護支援,居宅介護,重度訪問介護,就労支援A,日中一時支援,同行援護,学童保育(2),高齢・障がい者配食サービス,特定相談支援事業,福祉有償運送,人材育成,地域縁がわ事業,独自生活支援事業,被災地支援等)
- 23) 荒尾玉名地区(熊本県)「障害者児の生活を豊かにする会」会計監査. ※以下略

8. 学外講義・講演

- 1) 福岡県立大学 国際学術シンポジウム「認知症の方とその家族への地域支援における看護と福祉の連携ー福祉の立場からー」報告(大会テーマ:「認知症の方とその家族への地域支援 看護と福祉の連携を考える」ドイツおよび日本からの報告.2017.4.27)
- 2) 福岡県筑紫地域医療ソーシャルワーカー研修 「ソーシャルワーク記録の基礎」講師.2017.11
- 3) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費審査委員会 研修講師:テーマ「高齢者虐待と介護支援専門員」(会場:福岡県国民健康保険団体連合会).2017.11.
- 4) 日本社会福祉学会 全国フォーラム コーディネーター テーマ「高齢者福祉サービスの質の向上を考える」(12月9日,会場:アクロス福岡)※フォーラム企画・運営委員
- 5) 福岡県国民健康保険団体連合会 市町村職員研修「介護保険と苦情対応」講師(会場:福岡県国民健康保険団体連合会)2018.2.8.
- 6) 福岡県立大学 不登校・引きこもりサポートセンター 10周年記念フォーラム・公開講座基調講演「近年の児童福祉をめぐる諸問題とこれからの課題」(2018.2.26)
- 7) 福岡県立大学社会福祉学会 「権利擁護の視点から家族支援を考える」コーディネーター(2018.3.3)

9. 附属研究所の活動等

- 1) 福岡県立大学 不登校・ひきこもりサポートセンター長
(活動概要: 不登校・ひきこもり児童等に対する各種支援,各種支援会議,公開講座関連業務(司会等),フォーラム支援等)
- 2) 附属研究所調整部会 委員.
- 3) 学位・資格等
博士(社会福祉学),社会福祉士,精神保健福祉士,介護福祉士,介護支援専門員,救急救命士,専門社会調査士他.

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇 敦史
----	-----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考えている。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景についても研究を進めている。合衆国憲法において表現の自由が一定の保護を受けるようになったのは1940年代頃からであるが、無制限の保護が不可能である以上、規制されうる言論と規制され得ない言論の線引きが必要となる。個人・社会の多様化が進む日本において、あるべき言論の自由法理を提示するため、そのような線引きをいかなる理論的枠組みにより行おうとしたのかを検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

君塚正臣編、河野良継、白水隆、福岡久美子、早瀬勝明、丸山敦裕、合原理映、福島力洋、山田隆司、森脇敦史、前田正義、中村孝一郎、森口佳樹、片山智彦、青田テル子、岡室悠介、村上玲、田中佑佳、今田浩之、上石圭一、中曾久雄著『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（信教の自由、司法権、憲法訴訟）、2017年4月

②その他最近の業績

中村晋介、柴田雅博、石崎龍二、森脇敦史「大学生のITセキュリティ実践の現状と課題—新たな教育プログラムの構築に向けて」大学ICT推進協議会2017年度年次大会ポスターセッション、2017年12月

③過去の主要業績

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様—CDA、COPA、CIPAの事例から—」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「発言する政府、設計する政府」松井茂記、市川正人、紙谷雅子、鈴木秀美、福島力洋、森脇敦史、渡辺武達、宮崎寿子、田中智佐子、野原仁、ミッシェル・マクレラン、丹羽俊夫、木村哲也『メディアの法理と社会的責任』127-150頁、ミネルヴァ書房、2004年

森脇敦史「キャス・サンスティン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾、大林圭吾、葛西まゆこ、平地秀哉、奈須祐治、尾形健、大江一平、大河内美紀、中川律、山本龍彦、森脇敦史、横大道聡『アメリカ憲法学の群像 理論家編』255-274頁、尚学社、2010年1月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会、合衆国最高裁判所判例研究会

6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、憲法・2単位・1年・後期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、現代社会論C（情報社会と法）・2単位・2年・後期、問題解決演習・1単位・2年・後期、法律学概論Ⅰ・2単位・3年・前期、法律学概論Ⅱ・2単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員
築上町個人情報保護審査会委員
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
福智町地方創生推進委員会（委員長）
川崎町情報公開審査会委員
古賀市情報公開・個人情報保護審議会委員
田川市立病院倫理委員会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	吉岡 和子
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。

主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方に関する研究②アサーション・トレーニング・プログラムの実践研究③心理アセスメントを用いた強迫性障害理解のための研究です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・小野田瑠璃・吉岡和子（2017）「家庭における居場所感と家族とのコミュニケーションの関連」『福岡県立大学心理臨床研究』9, 13-26.
- ・寺嶋 愛・吉岡和子（2017）「母親の情緒的関わり、母娘の絆と娘の安心感、本来感および「いい子」との関連」『福岡県立大学心理臨床研究』9, 35-48.
- ・米倉志穂・吉岡和子（2017）「容姿についての悩みと親子関係の関連—容姿に対する被評価経験、養育態度及び信頼感に着目して」『福岡県立大学心理臨床研究』9, 57-63.
- ・吉岡和子（2016）千島・村上論文「現代青年における"キャラ"を介した友人関係の実態と友人関係満足感の関連」についてのコメント『青年心理学研究』27（2）, 177-181.
- ・久保山明梨・吉岡和子（2015）「自己アピールの苦手意識に対するアサーション・トレーニングの効果—「自分のこだわり」を語るワークを取り入れて」『福岡県立大学心理臨床研究』7, 21-30.
- ・大和美季子・吉岡和子（2015）「相手との関係性から捉えた間接的攻撃言動表出と心情」『福岡県立大学心理臨床研究』7, 53-65.

②その他最近の業績

<研究報告>

- ・吉岡和子（2016）「グループ・ファシリテーターの養成方法の検討—発達障がいの子どもを育てる親グループでの体験報告を通して」『福岡県立大学心理臨床研究』8, 49-67.

③過去の主要業績

<著書>

- ・富田真弓・吉岡和子・河本 緑（2014）強迫性障害の心理アセスメント 高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際—クライアント理解と支援のために』（第3章）金子書房
- ・吉田加代子・吉岡和子（2014）ロールシャッハ法の学び方—研修会が担う役割について 高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際—クライアント理解と支援のために』（第8章）金子書房
- ・吉岡和子（2014）社会的スキル 後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野 久・白井利明・平石賢二・佐藤有耕・若松養亮（編）『新・青年心理学ハンドブック』福村出版
- ・高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床、現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.
- ・吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

<論文>

- ・吉岡和子（2007）「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24（6）, 日本心理臨床学会.
- ・吉岡和子（2002）「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13, 青年心理学会.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

九州臨床心理学会 日本人間性心理学会 日本青年心理学会 日本心理臨床学会
日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会 日本パーソナリティ心理学会
日本精神分析学会 各会員

6. 担当授業科目

<学部> 人格心理学・2単位・1年・後期, 専門職連携入門・1単位・1年・後期, カウンセリング・2単位・4年・前期, 家族心理学・2単位・4年・前期, 教育相談(幼児教育)・2単位・4年・前期, 演習・2単位・3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期
<大学院> 臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年, 臨床心理学特論・2単位・1年・前期, 臨床心理査定演習・2単位・1年・後期, 臨床心理実習(学内)・1単位・2年・通年, 臨床心理実習(施設)・1単位・2年・前期, 特別研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長
- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 理事/相談員
- ・福岡女学院大学 心理査定委託相談員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」6月25日
- ・産業カウンセラー養成講座「コミュニケーションの理論と活用」7月29-30日
- ・福岡県市町村職員研修所「カウンセリング・マインド養成研修」8月1-2日
- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 ロールシャッハ研修会講師(8月~3月:計6回)
- ・平成28年度教職免許状更新講習会「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」(岩橋宗哉教授と共同担当)8月23日
- ・産業カウンセラー養成講座「パーソナリティ理論・アセスメント」8月27日
- ・平成29年度 まちづくり・人づくりを担う人材育成研修 コミュニケーション力育成講座「相手に伝わりやすい話の構成・『伝え方』~アサーションの考え方を基にして~」8月28日
- ・人権相談従事職員研修カリキュラム「人権相談I(対人援助の技法)」9月26日、28日
- ・放送大学面接授業 専門科目:心理と教育「アサーション」12月2日-3日
- ・北九州LD等発達障害親の会 すばる勉強会 1月21日

9. 附属研究所の活動等

- <生涯福祉研究センター>
- ・お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)の企画と運営
- <心理教育相談室>
- ・相談室委員
 - ・相談室紀要編集委員幹事

所属	人間社会学部人間形成学科	職名	准教授	氏名	大久保 淳子
----	--------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

近年、幼児教育から高等教育に至るまで、様々な教育政策が打ち出され改革が行なわれております。現在、保育現場では、「保育の質」が問題となっており、「保育の質」は、保育者の生活体験・自然体験、コミュニケーション能力とも関連があると指摘されています。以上を踏まえて、保育者の子どもの頃の体験やコミュニケーション能力の実態について、調査し研究をしております。また、ベトナムのホーチミン市の幼稚園を視察する機会があり、東アジアの幼児教育にも関心を持っております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・大久保淳子, 余公裕次: ベトナムの就学前教育と絵本の位置づけ, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26 (2), 119-127, 2017
- ・余公裕次, 大久保淳子: 「幼保小連携に係る教育課程の検討ー保育内容「人間関係」と小学校「生活科」「道徳」「特別活動」との関連を中心にー」, 九州龍谷短期大学紀要 64号, 23-40, 2017
- ・余公敏子, 大久保淳子, 余公裕次: 「アプローチカリキュラムの編成・実施を阻害する要因の考察ー幼稚園等新任教諭の認知度に関連してー」, 九州龍谷短期大学紀要64号 99-111, 2017
- ・伊勢慎, 大久保淳子, 櫻井国芳, 池田孝博: 子どもの「生きる力」と学校内での遊び方の関連, 福岡県立大学, 人間社会学部紀要 25(2), 41-48, 2017
- ・大久保淳子・伊勢慎・櫻井 国芳・池田 孝博: 「幼児期における性役割の形成 一性的ラベリングとその関連要因ー」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 25(2), 49-58, 2016
- ・大久保淳子: 「保育を専攻する学生の生活体験・自然体験の実態-A 短期大学保育学科学生の生活体験の現状と課題-」, 総合学術研究論集, 第 6 号, 21-24, 西日本短期大学, 2016

②その他最近の業績

- ・自主シンポジウム: 「幼保小連携の現状と課題」、企画・司会: 余公裕次 (福岡県春日市立春日原小学校) 話題提供: 余公裕次 (福岡県春日市立春日原小学校), 大久保淳子 (福岡県立大学), 余公敏子 (九州龍谷短期大学), 小堀晶弘 (熊本大学大学院医学教育学部), 指定討論: 小田豊 (聖徳大学), 日本乳幼児教育学会, 第27回大会, 西南学院大学, 2017
- ・口頭発表: 「保育者養成校における保育・教育実習前後の学生の意識の検討」, 桑原広治 (佐賀女子短期大学), 大久保淳子 (福岡県立大学), 日本保育学会, 第70回大会, 川崎医療福祉大学, 2017

③過去の主要業績

- ・大久保淳子: 「保育専攻学生の保育者たる職業意識と保育の質 - 保育者としての資質と専門性の捉え方における学生への質問紙調査から -」, 総合学術研究論集, 第4号, 69 - 73, 西日本短期大学, 2014
- ・大久保淳子: 「保育現場における特別支援教育の現状と課題ー保育の質の視点からー」, 総合学術研究論集, 第3号, 69 - 75, 西日本短期大学, 2013
- ・大久保淳子・井上和子・余公敏子・熊谷節子: 「保育現場における特別支援教育の現状と課題ー保育の質, 視点からー」, 自主シンポジウム, 日本乳幼児教育学会, 第21回大会, 東京成徳大学, 2011
- ・大久保淳子: 「幼児教育を専攻する学生のコミュニケーションの育成について」, 日本生活体験学習学会誌, 第10号, 69 - 75, 2010

- ・大久保淳子：(共著)「実例から学ぶ子ども福祉学」, 山根正夫, 七木田敦編著, 第2章児童福祉施設(分担), 保育出版社, 125 - 130, 2010
- ・大久保淳子：(共著)「こころを育てる人間関係」寺見陽子編著, 人との関わりを育てる環境構成(分担), 保育出版社, 39 - 40, 1999

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本保育学会, 日本乳幼児教育学会, 日本生活体験学習学会, 日本発達心理学会

6. 担当授業科目

・保育者論・2単位・1年・後期, 保育学・2単位・2年・前期, 児童文学・2単位・3年・前期, 子どもと遊び・2単位・3年・前期, 保育方法論・2単位・3年・後期, 幼稚園教育実習Ⅰ・2単位・3年・後期, 幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 幼稚園教育実習Ⅱ・2単位・4年・前期, 保育・教職実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期, 保育内容演習・2単位・4年・後期, 子ども教育課程研究・2単位・1年・前期, 教育課題研究・2単位・1年・前期, 子ども教育課程演習・2単位・1年・後期, 子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期, 教育課題演習・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・「カンボジアの子ども達の教育を支援する会」会員
- ・福岡県幼児教育アドバイザー
- ・福岡県嘉穂郡桂川町立幼稚園運営審議会委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡市私立幼稚園連盟主催新任採用教員研修会講師

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	岡本 雅享
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies) でVisiting Scholar。学内外で“Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

2. 研究業績

①著書・論文（2015～2017年度）

<著書>

- ・『出雲を原郷とする人たち』（単著）藤原書店、2016年

<論文>

- ・「日本的民族認同一從「出雲民族」案例看多元民族國家觀的建構」『民族学界』第36期、2015年、台湾国立政治大学

②その他の業績（2015～2017年度）

- ・新聞連載「出雲を原郷とする人たち」『山陰中央新報』2011年4月～2016年1月（全104回）
- ・書評『日本型排外主義』（樋口直人著）『大原社会問題研究所雑誌』675号、2015年1月
- ・週刊誌「神話と日本の民族意識」『週刊金曜日』23巻5号、2015年2月6日
- ・新聞連載「越佐と出雲一交流をたどって」『新潟日報』2016年2月～5月（全7回）
- ・招聘報告「日本の多元文化格局与教育问题」新疆师范大学国际研讨会《多元文化与教育：一带一路与教育发展》2016年6月26日、中華人民共和国新疆ウイグル自治区ウルムチ市
- ・新聞連載「出雲を原郷とする人たち・番外編」『山陰中央新報』2016年10月（2回）

③過去の主要業績（2015年度以前、3点）

- ・『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- ・『日本の民族差別一人種差別撤廃条約からみた課題』明石書店、2005年（監修・編著）
- ・「日本におけるヘイトスピーチ拡大の源流とコリアノフォビア」『レイシズムと外国人嫌悪』明石書店、2013年

3. 外部研究資金（今年度）

4. 受賞（今年度）

5. 所属学会（今年度）

- ・日本平和学会、エミシ学会

6. 担当授業科目 (2017年度)

国際政治学・2単位・1年・前期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2
単位・2年・後期、政治学Ⅰ・2単位・2年・前期、政治学Ⅱ・2単位・2年・後期、社会調
査実習・4単位・3年・通年、教養演習・2単位・1年・前期、公共社会学研究・4単位・3
年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

7. 社会貢献活動 (2017年度)

8. 学外講義・講演・インタビュー・新聞記事 (2017年度)

・新宿紀伊国屋セミナー「全国出雲再発見の旅」2017年7月1日

9. 附属研究所の活動等 (2017年度)

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私が現在行っている主要な研究分野は、以下の三点になります。

一つ目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の学校教育問題を解消していくためにスクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実践研究を行っています。

二つ目は、「児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくための支援方法として、アウトリーチを中心としたソーシャルワークについて研究を行っています。

三つ目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。ノーマライゼーションの理念普及から知的障害・発達障害（児）者においても地域生活の充実を推進していく動きが高まっていますが、現実的には利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しています。これらの状況から、地域生活の質を向上させる専門的支援方法等の研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・奥村賢一 (2017) 「第5章 教育と福祉の協働を具体化するスクールソーシャルワーカー」藤林武史編『児童相談所改革と協働の道のり—子どもの権利を中心とした福岡市モデル—』, 明石書店, 186-210.
- ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編 (2016) 『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』, 学事出版.

<論文>

- ・奥村賢一「ネグレクト児童の支援におけるスクールソーシャルワーカーの役割に関する一考察—小学校教員を対象としたアンケート調査から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻, 第2号, 2018年2月.
- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーの立場から教師を支える」『こころの科学』第197号, 54-58.
- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一・平川明美 (2017) 「2016年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』—事前学習の充実と実習報告会に向けた取り組みを中心に—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻, 第1号.
- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一・平川明美 (2016) 「2015年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導—新カリキュラム完成年度の取り組みについて—』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻, 第1号.
- ・奥村賢一 (2016) 「スクールソーシャルワーカーが相談対応する児童虐待の実態と実践課題—配置型と派遣型の活動形態に焦点化して—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻, 第2号.
- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介 (2015) 「2014年度教育実践報告：旧カリ「精神保健福祉援助実習」・新カリ「精神保健福祉援助実習」」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻, 第1号.
- ・奥村賢一 (2015) 「スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン」『学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望』日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌.

<報告書>

- ・奥村賢一 (2017) 「福岡県スクールソーシャルワーカー協会5周年を迎えての回顧録」『福岡県スクールソーシャルワーカー協会5周年記念誌』.
- ・奥村賢一 (2016) 『ネグレクト防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する基礎的研

究』科学研究費助成事業（若手研究 B）研究報告書。

- ・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・大門俊樹・奥村賢一（2016）『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン・プログラム』科学研究費助成事業（基盤研究 B）研究報告書。

<学会講演・シンポジウム・報告等>

- ・奥村賢一（2016）「校種の違いによる学校で見えるネグレクトと対応方法の実際—スクールソーシャルワーカーの実践から—」日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか，応募シンポジウム（大阪国際会議場），2016年11月。
- ・奥村賢一（2016）「子どもの貧困とスクールソーシャルワーカーの役割—子ども中心の支援について考える—」日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄部会第9回研究大会，基調講演（沖縄国際大学）。
- ・奥村賢一（2016）「子どもの貧困と学校ソーシャルワーク」第30回自治体学会，分科会（日田市民文化会館）。
- ・奥村賢一（2015）「学校ソーシャルワーク研究の展望と課題」日本ソーシャルワーク学会セミナー2015，シンポジウム（大妻女子大学）。
- ・奥村賢一（2015）「スクールソーシャルワーカーの組織化を図る—福岡県スクールソーシャルワーカー協会の活動を通して—」日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会，基調報告（福岡国際会議場）。

<書評>

- ・山下英三郎監修，日本スクールソーシャルワーク協会編（2016）『子どもにえらばれるためのスクールソーシャルワーク』『ソーシャルワーク研究』，第42号，第3巻。

③過去の主要業績

<著書>

- ・門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーのしごと—スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版。

<論文>

- ・奥村賢一（2009）「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察—パワー交互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻。
- ・奥村賢一（2009）「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察—軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号。

3. 外部研究資金

- ・科学研究費（基盤研究C）「不登校児童生徒の早期発見・未然防止に向けたスクリーニングシートの開発」208万円，平成28年度～平成30年度。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会（理事兼事務局長）、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

<学部>学校ソーシャルワーク論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位、4年・前期、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、相談援助の理論と方法C・2単位・2

年・後期、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・後期、家族福祉論・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位、3～4年・通年、不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期
 <大学院> 子ども家庭福祉研究・2単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉演習・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本学校ソーシャルワーク学会・理事兼事務局長
- ・福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
- ・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡県重点課題研究推進連絡協議会・専門委員
- ・福岡県教育委員会 不登校児童生徒学校等復帰支援事業運営協議会・委員
- ・田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
- ・福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長
- ・香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長
- ・糸島市いじめ防止等対策委員会・委員
- ・糸島市・市政アドバイザー
- ・福岡県社会福祉審議会・臨時委員
- ・北九州市立今町小学校・学校評議員・学校関係者評価委員

他

8. 学外講義・講演

<講演>

- ・スクールソーシャルワーカー活用事業運営協議会「学校ソーシャルワーク再考—10年目の原点回帰—」長崎県教育センター，2018年2月。
- ・平成29年度児童虐待防止講演会「子どもの貧困と児童虐待—負の連鎖を断ち切るための支援について—」川崎町コミュニティセンター，2018年1月。
- ・筑豊ブロック民生委員・児童委員協議会主任児童委員研修会「子どもと家庭を地域で支えるチームの力—児童虐待防止に向けた支援方法について—」田川青少年文化ホール，2017年12月。
- ・糟屋区中学校PTA連合会役員研修会「子どものSOSを見逃さないために—スクールソーシャルワーカーの視点から—」2017年12月。
- ・2017年度香川スクールソーシャルワークセミナー「学校ソーシャルワーク再考—10年目の原点回帰—」ユープラザうたづ，2017年11月。
- ・福岡市城南区子どもの虐待防止講演会「子どもと家庭を地域で支えるチームのちから—要保護児童支援地域協議会メンバーとしての役割—」城南区役所，2017年10月。
- ・第2回上毛町子育て力向上講習会「児童虐待—子どもを中心とした支援と地域の役割について—」上毛町太平支所，2017年10月。
- ・福岡県青少年の支援に携わる人の研修会「子どもの貧困と虐待—負の連鎖を断ち切るための支援について—」吉塚合同庁舎，2017年9月。
- ・ひびきの市民センター生涯学習市民講座「思春期の心のサイン—受け止める力ありますか?—」ひびきの市民センター，2017年9月。
- ・小郡市民生委員児童委員協議会「地域で育む子どもの未来—民生委員・主任児童委員への期待—」小郡市総合保健福祉センター，2017年9月。
- ・福岡県介護支援専門員協会筑豊支部研修会「相談援助場面における面接スキル—信頼に基づいた援助関係—」福岡県立大学，2017年9月。
- ・スクールソーシャルワーク活用講座 in SGU 2017「チーム学校に向けた多職種連携—

- ーシャルワークの視点から」四国学院大学, 2017年8月.
- ・平成29年度専門研修講座教育相談研修会「ストレスマネジメントを用いた児童生徒理解ー人間関係づくりの視点から」嘉麻生涯学習センター, 2017年8月.
- ・春日市人権・同和教育研究会夏期研修会「学校・家庭・地域の協働に向けた子ども理解ー今、私たちにできるこー」春日市ふれあい文化センター, 2017年8月.
- ・田川市要保護児童対策地域協議会実務者会議委員研修会「児童虐待の対応の基本と記録の重要性についてーソーシャルワークの視点から」田川市民会館, 2017年8月.
- ・平成29年度長崎市教育研究所夏期研修講座「チーム学校に向けたスクールソーシャルワーカーとの協働ーソーシャルワークの視点と児童生徒理解」長崎市民会館, 2017年7月.
- ・第2回スクールソーシャルワーカー連絡協議会「スクールソーシャルワーカーと学校の協働の在り方」福岡市教育センター, 2017年6月.
- ・小郡市・三井郡教育研究所生徒指導研修講座「対人スキルの向上に向けた構成的グループエンカウンター入門ー気になる子どもの人間関係づくり」小郡市総合保健福祉センター, 2017年6月.
- ・福岡県教育庁筑豊教育事務所校長及び人権・同和教育担当者研修会「子どもの貧困と児童生徒理解ー学校ソーシャルワークの視点から」福智町地域交流センター, 2017年6月.
- ・平成29年度福岡市要保護児童対策調整機関調整担当者研修「要保護児童対策地域協議会の運営」福岡市こども総合相談センター, 2017年5月.
- ・平成29年度大野城市立小・中学校スクールソーシャルワーカー活用連絡協議会「スクールソーシャルワーカーの効果的活用に向けて」大野城市すこやか交流プラザ, 2017年5月.
- ・平成29年度福岡県児童福祉司任用前講習会「ソーシャルワークの基本」福岡児童相談所, 2017年4月.

他

<メディア>

- ・西日本新聞「S S W待遇格差」28面, 2017年12月28日.
- ・有明新報「子ども支援へ連携ー福祉や教育などネットワーク研修に70人」4面2017年8月14日.

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	金 恩愛
----	-----------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、日韓対照研究。とりわけ、日本語と韓国語における表現様相の相違点の解明を中心テーマとする。韓国語と日本語は、同じ漢字文化圏という背景とともに、文法的な類似性もあって、両言語間に存在する表現様相の違いにはなかなか気づきにくい。私は、日本語と韓国語のこうした違いを、表現のあり方を問う表現様相という観点から捉えなおしている。表現様相という観点から見たとき、まず言えるのは、日本語は韓国語に比べ相対的に名詞的な表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ相対的に動詞的な表現が好まれるという点である。こうした日韓表現様相論に立脚した研究成果は、言語教育にも即応用できるものである。今後は、韓国語と日本語における表現様相の違いを明らかにしていく研究とともに、そこから得られた研究成果を、言語教育の現場にどのように還元できるか、教材作りや、辞書編纂、日韓翻訳という角度から考えていきたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 金恩愛 (2015) 「일본어 -사에 대응하는 한국어 표현(日本語の「-さ」に対応する韓国語の表現)」 『일본의 한국어학(日本韓国語学)』、韓国:サムギョン、2015年3月
(金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか—翻訳テキストを用いた表現様相の研究—」東京:日本語教育学会、『日本語教育』129号の再録(一部修正後・翻訳))
- ・ 金恩愛 (2015) 『間違いやすい韓国語表現 100 上級編(韓国語実力養成講座3)』、東京:白帝社、2015年6月
- ・ KIM Eunae. 2018. Korean. In Tasaku Tsunoda(ed.), *Levels in clause linkage. A crosslinguistic survey*, 353-401. Berlin&Boston: De Gruyter Mouton.

②その他最近の業績

<研究ノート>

- ・ 金恩愛 (2016) 「日本語と韓国語の名詞についての研究ノート」 『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第25巻第1号、2016年9月

<翻訳>

- ・ 金恩愛 (2015.4~2017.5) 「日本 와시노 아키코 선생님의 음악교육열전(鷺野彰子先生の)音楽教育熱伝『Music Friends』韓国:ヒョンデウマク(現代音楽)全26回

<エッセイ>

- ・ 金恩愛 (2015.4~2018.3) 「日本の風景」(原文は韓国語) 『福岡韓国教育院 心』全29回

③過去の主要業績

- ・ 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造と(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verb-oriented structure)」 『朝鮮学報』第188輯。天理:朝鮮学会
- ・ 金恩愛 (2006) 「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか—翻訳テキストを用いた表現様相の研究—」 『日本語教育』129号。東京:日本語教育学会
- ・ 油谷幸利、金恩愛 (2007) 『韓国語実力養成講座1間違いやすい韓国語表現100 初級編』東京:白帝社 総233頁

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

・朝鮮学会、朝鮮語教育研究会、福岡朝鮮語教育研究会、日本語教育学会、韓国日本語教育学会、韓国日本語学会

6. 担当授業科目

・韓国語Ⅰ-(1)・韓国語Ⅰ-(2)・2単位・1年・通年、韓国語Ⅱ-(1)・韓国語Ⅱ-(2)・2単位・2年・通年、韓国語Ⅲ-(1)・韓国語Ⅲ-(2)・2単位・3年・通年、教養演習・1単位・1年・前期、韓国の社会と文化・2単位・2年・後期、グローバル社会論・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

・「第4回九州ハンゲル学校韓国語弁論大会」(審査員) 2017年10月28日
・「第8回「話してみよう韓国語」福岡大会」(審査員) 2017年12月9日

8. 学外講義・講演

・金恩愛「韓国のことばと文化を学ぼう」(出前講義: 女学院高等学校) 2017年12月21日

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	櫻井 国芳
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

上越教育大学大学院学校教育研究科芸術系コース（美術）修了。1998年、本学に着任。絵画制作を主な研究主題とし、公募展やグループ展、コンクールへの出品を続けている。授業は、保育士や幼稚園教諭養成のための「造形」や「表現」などを担当している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

<作品発表>

- ・2016年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）
- ・2016年10月 MBCサムホール美術展（鹿児島・黎明館）
- ・2017年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）

<教育実践記録等>

- ・鷺野彰子, 櫻井国芳, 2018 幼児の表現活動における音楽「教材」と造形「教材」に関する研究ノート 福岡県立大学紀要 26(2), 129-137.
- ・櫻井国芳・池田孝博・伊勢慎・古橋啓介 2018 田川・筑豊地区の基礎自治体における基本計画等にもみる地域教育課題 福岡県立大学人間社会学部紀要 26(2),101-110.
- ・櫻井国芳・池田孝博・伊勢慎・古橋啓介 2018 道徳・規範意識の芽生えを意図した保育教材の開発 福岡県立大学人間社会学部紀要 26(2),151-161.

③過去の主要業績

<学術論文>

- ・櫻井国芳 1999 構成的表現・モダンテクニックに見られる表現過程の在り方 福岡県立大学紀要 8 (1), 81-93

<作品発表>

- ・2004年10月 第72回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- ・2012年4月 2012独立春季選抜展（東京都美術館）

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

なし

6. 担当授業科目

造形Ⅰ・2単位・1年・通年、造形Ⅱ・2単位・2年・通年、保育内容表現Ⅰ・1単位・3年・前期、保育内容表現Ⅱ・1単位・3年・後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・1単位・4年・後期、保育内容演習・2単位・4年・後期、演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

附属研究所重点課題研究（地域教育）に関するプロジェクトへの参加～27年度成果の発表等.

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	佐野 麻由子
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士(社会学)の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、社会運動(変動)。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1)ネパールをフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会的分析、(2)左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000~2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003~2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、ネパールにおける「失われた女性たち(男児選好による女兒の中絶、少女売買、女兒の育児放棄)」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

佐野麻由子, 2017, 「現代ネパールと開発問題」渋谷淳一・本田量久編『21世紀国際社会を考える:多層的な世界を読み解く38章』, 旬報社, 238-247.

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司, 2015, 『開発社会学を学ぶための60冊:援助と発展を根本から考えよう』明石書店.

佐野麻由子, 2015, 「途上社会の貧困, 開発, 公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣, 148-165.

<論文>

佐野麻由子, 2016, 「ネパールにおけるジェンダー、カースト・民族、階級関係:男児選好の促進要因の考察から(paper ID942)」, 査読無, Proceedings of the 3rd Asia Future Conference :Environment & Coexistence.

②過去の主要業績

<著書>

佐野麻由子, 2013, 「身体経験にみるジェンダー秩序とその変容」鈴木紀・滝村卓司編『みんなばく実践人類学8巻 国際開発と協働・NGOの役割とジェンダーの視点』明石書店, 157-192.

佐野麻由子, 2013, 「北の女性と南の女性—相対化と判断停止」伊藤陽一他編『グローバル・コミュニケーション—キーワードで読み解く生命・文化・社会』ミネルヴァ書房, 105-122.

佐野麻由子, 2012, 「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院, 240-258.

小川(西秋)葉子・川崎賢一・佐野麻由子共編著, 2010, 『〈グローバル化〉の社会学:循環するメディアと生命』恒星社厚生閣.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研費補助金・若手研究B、研究課題名「ネパールの男児選好にみるジェンダー、カースト・民族、機能分化的社会関係」(課題番号15K117189)(平成27~29年度)

3900千円（研究代表者）。

文部科学省科学研究費補助金基盤研究B「戦後日本の「開発経験」を編み直す～日本から発信する開発社会学研究として」（平成28～30年度）（研究分担者）。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会

6. 担当授業科目

国際社会学Ⅰ・2単位・1年・前期、国際社会学Ⅱ・2単位・1年・後期、国際協力論・2単位・3年・後期、NPO論・2単位・3年生・後期、社会調査実習・2単位・3年・通年、公共社会学研究・2単位・3年・前期、公共社会学研究・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年。

7. 社会貢献活動

田川郡添田町総合戦略検証委員会委員（2017年）

8. 学外講義・講演

佐野麻由子・Sangeeta Bhandari「アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）主催アジア研究者ネットワークセミナー「ネパールの男児選好の現在」（2017年12月15日14:00～16:00 於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ小セミナールーム）。

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	杉野 寿子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外で、さまざまな困難な状況で生活をされている人々と出会ってきたことから、「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、障がいのある子どもの地域療育に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワークスキルに関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、これからの子ども・子育て支援において鍵となる、保護者支援や地域における子育てを重視できる保育士養成を進めていくため、保育士のソーシャルワーク実践に関する研究です。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文 (2015～2017年度)

- ・ 杉野寿子 (共著) 「第8章これまでの障害児保育・教育 第2節 「障害」概念の到達点 『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』小林徹・栗山宣夫 (編著) 他著者, みらい, 2016年
- ・ 杉野寿子 (共著) 「第5章 地域社会の変容と家庭支援」『保育と家庭支援論』井村圭壯・相澤譲治 (編著) 他著者, 学文社, 2015年
- ・ 杉野寿子 (単著) 「『児童家庭福祉』受講生のこども観についての一考察: 『こどもへのねがい・誓いワーク』から」福岡県立大学人間社会学部紀要第26巻第2号, 2018年
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀 (共著) 「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取り組みから」地域福祉サイエンス第3号, 2016年
- ・ 杉野寿子 (単著) 「ヨルダンにおける障害に関する意識調査—近年の意識傾向を探る—」社会福祉科学研究第4号, 2015年

②その他最近の業績 (2015～2017年度)

<学会発表>

- ・ 「保育現場におけるソーシャルワークの意識に関する研究～A市認可保育所・認定こども園の保育者を対象としたアンケート調査より～」日本保育ソーシャルワーク学会第4回研究大会口頭発表, 2017年
- ・ 「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチ」日本社会福祉学会九州地域部会第57回研究大会口頭発表, 2016年
- ・ 「ヨルダンにおける障害に関する意識調査」日本地域福祉学会第29回大会口頭発表, 2015年

③過去の主要業績 (3点以内)

- ・ 杉野寿子 (共著) 「第13章 相談援助の事例Ⅲ-福祉型入所施設-」『児童家庭福祉の相談援助』相澤譲治・井村圭壯・安田誠人 (編著) 他著者, 建帛社, 2014年
- ・ 杉野寿子 (単著) 「CBRマトリックスを活用した地域福祉活動分析に関する一考察—日本のA事業所の取り組みとBさんの生活を事例に—」別府大学短期大学部紀要第33号, 2014年
- ・ 杉野寿子 (単著) 「ヨルダンの障がい者事情とジェンダー」アジア女性研究第17号, 2008年

3. 外部研究資金 (2017年度)

なし

4. 受賞 (2017年度)

なし

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本社会福祉士会

6. 担当授業科目 (2017年度)

〈学部〉

社会福祉Ⅰ (2単位・1年前期)、児童家庭福祉 (2単位・2年前期)、相談援助 (1単位・2年後期)、社会的養護 (2単位・2年後期)、社会的養護内容Ⅰ (1単位・3年前期)、保育実習指導Ⅰ (2単位・2～3年通年)、保育実習Ⅰ (4単位・3年前期)、保育実習指導Ⅲ (2単位・3年後期)、保育実習Ⅲ (2単位・3年後期)、家庭支援論 (2単位・3年後期)、演習 (2単位・3年通年)、施設養護論 (2単位・4年前期)

〈大学院〉

子どもの福祉研究 (2単位・前期)、教育課題研究 (2単位・前期)、子ども教育課題演習 (2単位・後期)、子どもの福祉演習 (2単位・後期)

7. 社会貢献活動 (2017年度)

- ・ 福岡県幼児教育アドバイザー (11月、2月に訪問指導)
- ・ NPO法人やまびこクラブ理事
- ・ 田川市農業委員

8. 学外講義・講演 (2017年度)

- ・ 平成29年度大分市介護支援専門員協会多職種連携研修会講師 (9月、1月)
- ・ 福岡県内保育所の園内研修講師 (2月)
- ・ 大分市内保育所の園内研修講師 (2月)

9. 附属研究所の活動等 (2017年度)

なし

所属	人間社会学部・基盤教育センター	職名	准教授	氏名	Stuart Gale
----	-----------------	----	-----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined the staff at Fukuoka Prefectural University in the spring of 2007.

His research activities are focused upon three areas of enquiry. The first concerns the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from developing methodologies and courses in pursuit of this objective, Stuart Gale has also authored the textbook *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) and *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture* (2018) to accompany his courses at FPU. His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification in pursuit of more effective teaching. The results of this research have been incorporated into an academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012), the virtual learning website, and writing classes and academic writing seminars at FPU. His third and final area of research (and topic of his most current and in-process research paper) concerns the development of study abroad programmes for the enhancement of intercultural competence.

Stuart Gale was invited as a guest speaker to present on the teaching of writing and critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012, 2013 and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014.

Online profile on the FPU website: <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/english/graduate/human/staff/gale.html>

2. 研究業績

①最近の著書・論文

Gale, S., Namoto, T., Suzuki, S. & Eguchi, M. (2018). *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture*. Tokyo: Nan'un-do.

Gale, S., Fukuhara, S. (2016). *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis*. Tokyo: Nan'un-do.

Gale, S., Fukuhara, S. & Cross, T. (2012). *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever*. Tokyo: Nan'un-do.

②その他最近の業績

- Designer and teacher, UK-study abroad programme.
- Designer and author, Fukuoka Prefectural University's online *Virtual Language Laboratory*.
- Designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*.
- Author, *Fukuoka Prefectural University's Entrance Exam* (English).
- Author, *Fukuoka Prefectural University's official English language version website*.

③過去の主要業績

Mori, R. and Gale, S. (2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, Vol. 33, No. 5.

Gale, S. (2010) “編著, 楽しみながら英語力アップ 大学生になったら洋書を読もう!”, アルク.

Gale, S. (2018). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for East Asian EFL. *The Journal of Asia TEFL*, Vol. 15, No. 2.

Gale, S. (2018). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. *The Journal of English as an International Language*, forthcoming.

University Journals

Gale, S. (Sept. 2002). Standing in the way of progress: the social and pedagogic implications of Japan's hidden curriculum. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 34, No. 2 (No. 133), pp. 733-747.

Gale, S. (Dec. 2002). A wealth of limited potential: thoughts on the Internet and the extent and nature of its impact upon the language learning programmes of the future. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 1, pp. 17-22.

Gale, S. (Sept. 2003). A nice idea in theory: examining the conflict between progressive learning theory and conservative practice in Japanese schools. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 2 (No. 137), pp. 611-621.

Gale, S. (Dec. 2003). Make of it what you will: a brief evaluation of the principles behind Communicative Language Teaching and the role of Task-Based Learning. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 2, pp. 17-24.

Gale, S. (Dec. 2003). Persistent, if nothing else: evaluating Situational Language Teaching and the extent of its contribution to communicative competence. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 3 (No. 138), pp. 1137-1145.

Gale, S. (June 2004). No substitute for the real thing: the future of online learning, a virtual reality check. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 1 (No. 140), pp. 175-186.

Gale, S. (Dec. 2004). Mistakes are good, but failure is better: devising an appropriate classroom response to the pragmatic dilemma. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*,

No. 3, pp. 29-36.

Gale, S. (March 2005). The nature and implications of language change and its impact upon teaching practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 4 (No. 143), pp. 1081-1097.

Gale, S. (June 2005). Feed the medium: reconciling the nature of language with pedagogic practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 37, No. 1 (No. 144), pp. 83-96.

Gale, S. (2007). Towards a culture-sensitive pedagogy: critical awareness versus student-ethnocentric learning. *Gengo Bunka Ronkyu (Kyushu University Studies in Languages and Cultures)*, No. 22, pp. 67-88.

Gale, S. (July 2011). L1, consensus nil: Factors affecting the erratic application of oral translation as an EFL vocabulary teaching techniques at Japanese universities. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.

Kato, N., Torigoe, I., Yoshimura, M., Gale, S., Imokawa, Y., Hur, D., Okamoto, M., & Matsuura, K. (Forthcoming). A study on student awareness regarding international exchange programs open to Fukuoka Prefectural University students. *Faculty of Nursing Journal, Fukuoka Prefectural University*, March 2019.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Member, *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter).

Member, *Asia TEFL*

6. 担当授業科目

英語 I 1単位 1年 前期 後期 (3 classes per semester)

英語 III 1単位 2年 前期 後期 (3 classes per semester)

海外語学実習事前指導 (UK programme preparation course, first semester only)

海外語学実習 (UK programme, second semester only)

Introduction to studying in English (英語で学ぶ; 入門編) (教養演習, first semester only)

Advanced English Achievement (英語で学ぶ; 高度) (教養演習, second semester only)

In addition, I have also taught the following 4-part skill-up seminars:

The basic essentials of academic essay writing

International languages: Reading about and listening to music in English

Data analysis and discussion on social issues

Critical thinking and discussion on Japanese pop culture A

Critical thinking and discussion on Japanese pop culture B

7. 社会貢献活動

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28th, 2012.

8. 学外講義・講演

Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching technique. Academic society lecture at the *2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium*, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11, 2006.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28, 2012.

Gale, S. (2012) How to teach writing. JTE/ALT training presentation at the *2012 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, December 3, 2012.

Gale, S. (2013) Teaching critical thinking skills. JTE/ALT training presentation at the *2013 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, November 25, 2013.

Gale, S. (2014) Developing critical thinking skills among Japanese junior high and high school students. JTE/ALT training presentation at the *2014 ALT Skills Development Conference*, Oita Prefectural Board of Education, November 20, 2014.

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	堤 圭史郎
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。同大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、一般社団法人社会調査協会より、第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究・生活困窮者支援モデルに関する研究・大都市都心のコミュニティ状況把握等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

鯉坂学・丸山真央・上野淳子・加藤泰子・堤圭史郎, 2015, 『『都心回帰』時代の名古屋市都心部における地域コミュニティの現状—マンション住民を焦点として』同志社大学社会学部『評論・社会科学』113:1-106.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

内田龍史・堤圭史郎, 「社会的排除地域析出の試み— 2010年国勢調査から」日本都市社会学会第33回大会, 静岡県立大学, 2015年9月.

〈討論者〉

日本社会病理学会第32回大会公開シンポジウム「生活困窮問題の現状と課題」にて討論者 (2016年9月24日。於福岡県立大学)

〈学会シンポジウム〉

西日本社会学会第75回大会シンポジウム『熊本地震と社会学—被災のリアリティと政策形成を繋ぐ視点』にてコーディネーター・司会 (2017年5月14日。於松山大学)

〈研究報告書等〉

特定非営利活動法人 抱樸, 2017, 『ひきこもり状態にある若年者・児童およびスネップ状態にある者とその家族を支える包摂型世帯支援の構築と、世帯の支援メニューと支援ツールの開発、および困窮世帯を支える市民参加型の地域連携の在り方に関する調査・研究事業報告書』厚生労働省平成28年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業)。(第3章3節2項を執筆)

堤圭史郎, 2016, 「経済・就労の状況」福岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課『平成27年度隣保館人権課題把握調査報告書』, 17-32.

特定非営利活動法人 抱樸, 2016, 『地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業報告書』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書。(第1章・第4章を執筆)

特定非営利活動法人 抱樸, 2015, 『生活困窮者に対する就労訓練事業(社会的就労提供事業所)を支える伴走型支援体制、地域社会資源体制の仕組み作り、及び地域における相互多重型支援ネットワーク構築に関する調査・研究事業』厚生労働省平成26年度社会福祉推進事業報告書。(第3章を執筆)

〈書評〉

堤圭史郎, 2016, 「友枝敏雄編『リスク社会を生きる若者たち- 高校生の意識調査から- 』
『西日本社会学会年報』14:95-6.

〈エッセイ〉

堤圭史郎, 2016, 「『ヤマちゃん』は語るができるか- ホームレスの人々と人権- 」福
岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課『私たちはなぜ、人権について学ぶのか』,
61-4. (若者人権講座テキスト)

〈講演録〉

池勝・鍋山公一・山田明・堤圭史郎, 2017, 「シンポジウム 住民の人権意識と啓発の課題」
『リベラシオン』166.

堤圭史郎, 2016, 「生活困窮が深まる中で、学校に期待すること」田川地区子どもの人権・
進路保障確立協議会『2016年度報告書』.

③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

Tsutsumi, Keishiro, “Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese
Homeless Issue in Globalization,” “The 2nd International Conference on
Locality and Humanities—Locality, Beyond the border of Space and Cognition,”
Pusan National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮
と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究- 福岡県立大学人間社会
学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89. (本稿にて第4回社会
調査協会賞『社会と調査』賞を受賞)

堤圭史郎, 2013, 「多重債務世帯への社会的介入- 『伴走型支援』を通じた当事者の主観的
意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ- 排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ
書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5章「家族規範とホームレス
—扶助か桎梏か」(妻木進吾との共著)を執筆。本稿にて第7回日本都市社会学会
賞(磯村記念賞)を共同受賞)

3. 外部研究資金

- ・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究C)『生活困窮者支援組織を核とした参加包摂
型地域社会の形成過程』、2015~17年度、研究分担者(研究代表者:稲月正・北九州市立
大学)。
- ・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究C)『地域的に顕現する社会的排除の動態的把
握—大阪府・国勢調査データの独自集計を中心に』、2017~2019年度、研究分担者(研究
代表者:妻木進吾・龍谷大学)。

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、日本都市社会学会(編集委員)、地域社
会学会、西日本社会学会(編集委員等)、ソシオロジ同人、貧困研究会

6. 担当授業科目

社会学A・2単位・1年・前期
社会病理学・2単位・2年・前期
社会変動と社会問題・2単位・2年・後期
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期
社会調査実習・2単位・2年・通年
地域問題研究・2単位・大学院・後期

社会学B・2単位・1年・後期
社会調査の設計・2単位・2年・後期
卒業論文・6単位・4年・通年
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期
日本事情B・2単位・留学生・前期（分担）

7. 社会貢献活動

- ・大阪市国勢調査を活用した実態把握プロジェクトチーム委員
- ・添田町子ども・子育て会議・会長
- ・田川市社会教育委員
- ・田川市生活困窮者自立支援協議会・会長
- ・特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・編集委員
- ・特定非営利活動法人抱樸・2017年度厚生労働省社会福祉推進事業・研究員

8. 学外講義・講演

- ・筑豊教育事務所管内市町村教育委員・社会教育委員等人権・同和教育研修会にて講演（「子どもの貧困の現状と課題」）・パネルディスカッションにて司会・コーディネーター（「子どもの居場所づくりの現状 貧困の連鎖を断ちきるために」。2017年9月6日。於田川青少年文化ホール□）。
- ・筑豊市民大学にて講義（「貧困問題の過去と現在- 社会とホームレスの人々の関係を中心に」。2017年11月19日。於福岡県立大学附属研究所）

9. 附属研究所の活動等

附属研究所副所長

所属	人間社会学部 総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村 晋介
----	------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究：「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観、社会観、就業観、web に対する意識など）の解説を試みています。
- 2.ジェンダー論・結婚観に関する研究：日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会的な観点から研究しています。
- 3.社会学理論に関する研究：主にフランスの社会学者ピエール・ブルデューの業績や思想についての研究をおこなっています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

1. 中村晋介・柴田雅博・石崎龍二・森脇敦史「大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題——新たな教育プログラムの構築に向けて」『大学 ICT 推進協議会 2017 年度年次大会発表論文集』（CD-ROM），2017 年 12 月。
2. 池志保・中村晋介「学科の専門性と『就業力』についての縦断調査研究——大学生を対象として」日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集（CD-ROM），2017 年 10 月。
- 3.中村晋介「大学生と恋愛——恋愛に対する積極性の促進要因と阻害要因に着目して」『現代の社会病理』No.31,2016 年 9 月。

②その他最近の業績

<研究ノート等>

1. Shinsuke Nakamura, "Actual Conditions of Web Security Practice: From Survey of University Students /Survey of Local Government Employees," Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2016, December 2016.
- 2.中村晋介・池志保「福岡県立大学「就業力アンケート調査」の再検討」（共著）『福岡県立大学心理教育相談室紀要』vol.7, 2016 年 3 月。
3. Shinsuke Nakamura "Obstruction actor of Self-Support among Public Assistance Recipients: From the Statistical Analysis of Recipients in Tagawa Counties, Fukuoka Prefecture," Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, October 2015.

<学会等発表>

1. 中村晋介・柴田雅博・石崎龍二・森脇敦史「文系大学生の web 利用の実態と問題点」『シンポジウム・これからの大学の情報教育』（広島大学），2017 年 12 月。
2. 中村晋介・柴田雅博・石崎龍二・森脇敦史「大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題——新たな教育プログラムの構築に向けて」『大学 ICT 推進協議会 2017 年度年次大会』（広島国際会議場），2017 年 12 月。
3. 柴田雅博・中村晋介・石崎龍二・森脇敦史「文系大学生の IT セキュリティ意識と実践に関する調査」『第 16 回情報科学技術フォーラム』（東京大学），2017 年 9 月。
- 4.池志保・中村晋介「学科の専門性と『就業力』についての縦断調査研究——大学生を対象として」日本教育心理学会第 59 回総会（名古屋国際会議場），2017 年 10 月。
- 5.池志保・中村晋介・石崎龍二「大学生の『就業力』についての縦断的研究」日本発達心理学会第 28 回大会（広島国際会議場）2017 年 3 月。

6. Shinsuke Nakamura, "Actual Conditions of Web Security Practice: From Survey of University Students /Survey of Local Government Employees," Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2016, (Tagawa City Hall), December, 2016.
7. 中村晋介「福岡県立大学福祉用具研究会—福祉用具に関する啓発と開発支援のあゆみ」第18回西日本国際福祉機器展（西日本総合展示場），2016年11月。
8. 中村晋介「若者の恋愛離れの実態と背景」玉川大学人文科学研究センター学術公開シンポジウム（玉川大学），2015年5月。
9. Shinsuke Nakamura, "Obstruction actor of Self-Support among Public Assistance Recipients: From the Statistical Analysis of Recipients in Tagawa Counties, Fukuoka Prefecture," Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, (Fukuoka Prefectural University), October 2015.

③過去の主要業績

1. 中村晋介「大学生のwebセキュリティ実践」『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.21-2, 2013年。
2. 中村晋介「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木謙編『現代高校生の規範意識（第2版）』九州大学出版会, 2005年。
3. 中村晋介「社会学者と社会参加—ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3, 2005年。

3. 外部研究資金

日本学術振興会，科学研究費基盤研究（C），「大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」3,380,000円，平成28年度～平成30年度，研究代表者。

5. 所属学会

日本社会学会、日本社会病理学会、日本発達心理学会、日本社会分析学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、プレ・インターンシップ・2単位・1～2年・通年、社会調査法・2単位・2年・前期、現代社会論A（ジェンダー・世代）・2単位・2年・前期、質的調査法・2単位・2年・後期、社会調査実習・4単位・3年・通年、社会学の分析法C（マクロ社会理論）・2単位・3年・後期、日本事情A・2単位・留学生・分担・前期

7. 社会貢献活動

1. 川崎町子ども・子育て会議 会長、2. 川崎町子どもの権利条例策定委員会 副会長
3. 行橋市総合計画審議会 副会長、4. 福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
5. NPO 福祉用具ネット 理事、6. 筑豊市民大学 アドバイザー

8. 学外講義・講演

1. 「『公共』とはなにか」九州国際大学付属高等学校、2017年12月。
2. 「ニセ科学の見分け方」熊本県立宇土中学校・高等学校、2017年10月。
3. 「少年の犯罪は増えてきているのか？—メディア・リテラシーをきたえよう」筑豊市民大学、2017年6月。

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター運営部会員

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	藤澤 健一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学専攻、教育制度・政策史の理論と歴史、教員史、教員団体史、教育会史、師範学校史、教員養成史の研究。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

編著『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成 解説・総目次・索引』不二出版、2016年10月

編著『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016年10月

編著『「文教時報」解説・総目次・索引』不二出版、2017年9月

②その他最近の業績

藤澤健一・近藤健一郎「追補遺(二) あらたに見出された『沖縄教育』に関する解説、ならびに附表の再改訂」(共同執筆)『復刻版 沖縄教育』第39巻、不二出版、2015年6月(査読なし)

藤澤健一「近代沖縄における学務担当者の変容過程—一九〇〇年前後から一九四〇年代はじめまでの人的構成」(単著)法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』45号所収、2018年3月(査読あり)

書評:照屋信治著『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方—沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』の研究』溪水社、2014年、日本歴史学会編『日本歴史』803号、吉川弘文館、2015年4月

書評:ひめゆり平和祈念資料館『戦後70年特別展 ひめゆり学徒隊の引率教師たち』2016年3月、『琉球新報』2016年5月22日

書評:山本和行著『自由・平等・植民地性—台湾における植民地教育制度の形成』国立台湾大学出版中心、2015年5月、日本教育学会編『教育学研究』第83巻第3号、2016年9月

③過去の主要業績

単著『近代沖縄教育史の視角—問題史的再構成の試み』社会評論社、2000年4月

単著『沖縄／教育権力の現代史』社会評論社、2005年10月

編著『「沖縄教育」解説・総目次・索引』不二出版、2009年11月

編著『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年3月

3. 外部研究資金

研究代表者:科学研究費補助金基盤研究(B)「沖縄における教育指導者層の変容過程に関する研究—沖縄戦前後の人的構成に着目して」15H03475(2015年度~2019年度)、総額(直接経費)660万円

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本教育制度学会、日本教育政策学会、日本教育行政学会、日本教育学会

6. 担当授業科目

教育学概論B・2単位・1年前期、教育史・2単位・2年前期、教育思想論・2単位・2年後期、教育実習事前事後指導・2単位・3年後期から4年前期、公共社会学研究

I・2 単位・3 年前期、公共社会学研究Ⅱ・2 単位・3 年前期、社会調査実習・2 単位・2 年通年、卒業研究・4 年、「日本事情」・留学生対象

7. 社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長
田川市教育事務点検評価委員会委員長
添田町教育委員会事務点検評価委員

8. 学外講義・講演

法政大学総合講座「沖縄を考える」講師（「沖縄現代史—教員史の視点」）
教員免許更新講習「教育の最新事情」講義担当および全体統括責任者
新聞記事：「あらたに見出された『沖縄教育』（上）」『沖縄タイムス』2015 年 4 月 7 日
新聞記事：「米軍占領初期の教員団体機関誌①」『沖縄タイムス』2015 年 9 月 7 日
新聞記事：「『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成』が完結」『琉球新報』2016 年 12 月 1 日
新聞記事：「教育行政から見える現代沖縄史 文教時報復刻」『琉球新報』2017 年 11 月 7 日

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	三隅 譲二
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

集合行動論、社会的コミュニケーション論、情報社会論

2. 研究業績

①最近の著書・論文

2009 地域生活の総合的満足度の意味及び生活の質に関する質問項目との関係
福岡県立大学人間社会学部紀要 18号

②その他最近の業績

2009 犯罪社会学会発表(大阪市立大学)「田川郡における被保護者の自立阻害要因と
貧困の世代的再生産にかかる分析」

2008 田川住民の地域満足度調査(平成17年度社会調査実習調査報告書)

2009 大学生の職業意識調査(平成19年度社会調査実習調査報告書)

2010 大学生の友人調査調査(平成21年度社会調査実習調査報告書)

2011 福岡県立大学における携帯電話に関する調査(平成22年度社会調査実習報告書)

2012 大学生の居留意識に関する調査(平成23年度社会調査実習報告書)

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

福岡県監査保護課・受託研究「田川郡における被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的
再生産にかかる分析」
(5,168,354円:2007年8月～2008年3月)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

集合行動論、現代社会論B(情報社会論)、社会学の分析法A(マイクロ理論)、社会学
の分析法B(組織・集団論)、日本事情A、公共社会学研究I・II、卒業論文

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	美谷 薫
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2005年 筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科地球環境科学専攻(5年一貫制)修了, 博士(理学)。宇都宮市役所市政研究センター専門研究嘱託員, 埼玉大学教養学部非常勤講師などを経て, 2009年, 宇都宮市役所入庁, 上下水道局経営企画課などに勤務。2016年4月より本学に着任。専門分野は人文地理学, 地域行政論。

大学院在籍時には, 1950年代の「昭和の大合併」や高度経済成長期の合併後の市町村行政における地域経営の特徴を, 長期スパンでの事業費配分などに着目して明らかにすることを研究課題とした。

その後, 宇都宮市役所市政研究センター在職時には, 「平成の大合併」の時期にあわせて導入された地域自治制度の実態調査のほか, 大都市制度や道州制といった地方制度の再編とその宇都宮市への影響に係る研究などを担当した。また, 宇都宮市役所在籍時には(担当業務としてであるが)行政サービスの地域差などについての調査に取り組んできた。

今後は, 「平成の大合併」が落ち着いてから10年超が経過することもあり, 市町村合併に伴う行政体制の再編や, 地域社会・地域経済への合併の影響について, 丁寧な事例調査に基づき明らかにしていきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文(2015~2017年度)

- ・ 美谷 薫・梶田 真 2017. ローカル・ガバナンスをめぐる政策的展開—市町村行政の「守備範囲」と「公共」の担い手を中心に。佐藤正志・前田洋介編『ローカル・ガバナンスと地域』ナカニシヤ出版, 20-38.

②その他最近の業績(2015~2017年度)

【報告書】

- ・ 美谷 薫編 2017. 『社会調査実習報告書2016 飯塚市における合併後のまちづくりと住民意識』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科。

【学会発表】

- ・ 美谷 薫 2017. 水道料金の地域差とその要因に関する一考察。日本地理学会2017年春季学術大会「新しい公共」の地理学研究グループ研究集会(筑波大学)。

【その他】

- ・ 日本地理学会「新しい公共」の地理学研究グループ2016年度冬季研究会(福岡県立大学) 巡検「炭都・田川の現在をあるく」企画・実施担当。
- ・ 愛知大学三遠南信地域連携研究センター 2017年度「越境地域政策研究フォーラム」分科会3「地理学的視点からみる越境地域」コメンテーター。

③過去の主要業績(2014年度以前)

【著書】

- ・ 神谷浩夫・梶田 真・佐藤正志・栗島英明・美谷 薫編著 2012. 『地方行財政の地域的文脈』古今書院。
- ・ 美谷 薫 2009. 平成の大合併。齋藤 功・石井英也・岩田修二編『日本の地誌6 首都圏II』朝倉書店, 80-84.

【論文】

- ・ 美谷 薫 2006. 宇都宮市における地区間の親密度に関する研究。市政研究うつのみや 2: 54-59.
- ・ MITANI, Kaoru 2005. A Geographical Study on Areal Management of Municipalities in Terms of Distribution of Public Investment: A Case Study of Utsunomiya City and Kawachi Town, Tochigi Prefecture, Japan. 筑波大学大学院生命環境科学研究科博士論文。

- ・ 美谷 薫 2003. 千葉県市原市における都市経営の展開と公共投資の配分. 地理学評論 76 : 231-248.

【報告書】

- ・ 美谷 薫 2008. 『「平成の大合併」直後の合併市町村における地域自治・地域行政の動向―「市町村合併と地域内分権に関するアンケート」調査報告書(2)―』うつのみや市政研究センター.

3. 外部研究資金 (2017年度)

該当なし

4. 受賞 (2017年度)

該当なし

5. 所属学会 (2017年度)

日本地理学会 (「新しい公共」の地理学研究グループ事務局担当), 人文地理学会, 経済地理学会, 地理空間学会, 日本行政学会, 日本公共政策学会

6. 担当授業科目 (2017年度)

社会政策論・2単位・1年・後期	地理学概論・2単位・2年・前期
社会調査実習・2単位・3年・通年	地域社会分析法C・2単位・3年・前期
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期	地域計画論・2単位・3年・後期
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期	日本事情B・2単位・留学生・前期 (分担)
日本事情A・2単位・留学生・後期 (分担)	
卒業論文・6単位・4年・通年	

7. 社会貢献活動 (2017年度)

該当なし

8. 学外講義・講演 (2017年度)

該当なし

9. 附属研究所の活動等 (2017年度)

該当なし

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	麦島 剛
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害とcatecholamine神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHDを併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHDにおける衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・麦島 剛 (2014) 注意欠陥・多動性障害 (ADHD) の注意障害の行動神経科学—ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向— 福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.
- ・麦島 剛 (2015) アルツハイマー病の動物モデル—高齢期の生理心理学における研究法の一方性— 福岡県立大学心理臨床研究, 7, 67-76.
- ・麦島 剛 (2016) 神経経済学の進展と視座：衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座. 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.
- ・麦島 剛 訳 (2018) Naatänen, R., Elyse S. Sussman, E.S., Salisbury, D., Shafer, V.L. 著 認知機能不全の指標としてのミスマッチ陰性電位. 福岡県立大学心理臨床研究, 10, in print.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・麦島剛・久保浩明・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHDモデル動物ELマウスの遅延価値割引事象における衝動的選択に対する治療薬atomoxetine投与の効果. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
- ・永井友幸・久保浩明・木村裕・林奈津美・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 環境明瞭度の増大が報酬比の大きい遅延価値割引下のELマウスの選択行動に与える影響. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
- ・久保浩明・木村裕・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題におけるELマウス (ADHDモデル) の主観的等価点および不注意に関する考察. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
- ・Mugishima, G., Kubo, H., SAKA, N., NAGAI, T., ISOZAKI, S., KIMURA, H., SHINBA, T. Attenuated latent inhibition of taste aversion learning in EL mouse as an animal model of ADHD. 2015年9月, The 75th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・Saka, N., Shinba, T., Kubo, H., Miyagawa, Y., Hayashi, M., Kimura, H., Mugishima, G. The effect of methylphenidate on the evoked potential to auditory paired stimulation in SHR as an animal model of ADHD. 2015年9月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・森寺亜伊子・坂徳子・麦島剛. 高血圧自然発症ラット (SHR) の大脳皮質および海馬の自発脳波に対するmethylphenidate投与効果 —Attention deficit hyperactivity disorder (ADHD) モデル動物を用いた脳波学的検討— 2015年9月, 日本心理学会第79回大会.
- ・麦島剛・坂徳子・久保浩明・林美徳・榎葉俊一. ADHDモデルラットSHRの大脳皮質およびCA1における音脈分擬知覚に関連したミスマッチ陰性電位様反応に対する methylphenidate 投与の効果. 2016年5月, 第34回日本生理心理学会大会.
- ・Moridera, A., Saka, N., Mugishima, G. Effect of methylphenidate on the electroencephalogram (EEG) frequency patterns at cerebral cortex and hippocampus in spontaneously hypertensive rat (SHR) as a model of attention deficit hyperactivity disorder (ADHD). 2016年7月, The 31st International Congress of Psychology.
- ・麦島剛・久保浩明・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHDモデル動物ELマウスの遅延価値割引事象における衝動的選択に対する治療薬atomoxetine投与の効果. 2016年9月, 日本行動分析学会第35回年次大会.
- ・永井友幸・久保浩明・木村裕・林奈津美・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 環境明瞭度の増大が報

酬比の大きい遅延価値割引下のELマウスの選択行動に与える影響. 2016年9月, 日本行動分析学会第35回年次大会.

- ・久保浩明・木村裕・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題におけるELマウス (ADHDモデル) の主観的等価点および不注意に関する考察. 2016年9月, 日本行動分析学会 第35回年次大会.
- ・麦島剛・久保浩明・坂徳子・井上真澄・吉井光信・榛葉俊一. ADHDモデルラットSHRの大脳皮質および海馬におけるミスマッチ陰性電位様反応に対するmethylphenidate投与効果. 2017年5月, 第35回日本生理心理学会大会.
- ・久保浩明・永井友幸・池田麻帆・岩崎萌・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引事象における EL マウス (ADHD モデル) の衝動性の検討: 離散試行型手続きと並立連鎖スケジュールの比較. 2017年8月, 日本動物行動学会 (第36回)・日本動物心理学会 (第77回)・応用動物行動学会・日本家畜管理学会 (2017年度 秋季)・日本行動神経内分泌研究会 (第27回) 合同大会.
- ・麦島剛・中山奈菜美・永井友幸・久保浩明. 遅延価値割引課題における衝動的選択とインターネット依存との関連 —大学生のADHD傾向に関する検討— 日本心理学会第81回大会.

〈学会シンポジウム〉

- ・麦島剛 (2017) 認知症研究における動物実験と行動分析的視点. 吉野俊彦 (企画) 超高齢社会における行動分析学. 日本行動分析学会第35回年次大会 学会企画シンポジウム

③過去の主要業績

- ・Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*, 20, 1037-1049.
- ・麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. *動物心理学研究*, 47, 91-98.
- ・麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発 —行動薬理実験への応用— 早稲田心理学年報, 30, 55-62.
- ・Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*. 25, 1629-40.
- ・麦島 剛. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) をめぐる動向: 新たな研究法の確立に向けて. (2006) 福岡県立大学人間社会学部紀要, 14 (2), 51-63.
- ・中本百合江・麦島 剛・佐藤弥都子・中山 繁・高松幸雄・池田和隆・吉井光信 (2007) ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. *日本神経精神薬理学雑誌*. 27(5), 297, 11-25.
- ・Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy. *Physica A: Statistical Mechanics and its Applications*, 87 (13), 3145-3154.
- ・麦島 剛 (2009) 第10章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.
- ・春木 豊・麦島 剛 (2014) 学習 梅本堯夫・大山正(編著) 心理学への招待 [改訂版] サイエンス社 Pp. 97-132.
- ・麦島 剛 (2014) 注意欠陥・多動性障害 (ADHD) の注意障害の行動神経科学—ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向— 福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.

3. 外部研究資金

- ・日本学術振興会 科学研究費基盤研究(C) (単独獲得) 「ADHD動物の不注意脳波と不注意オペラント行動への環境調整と治療薬の有効性の原理」 課題番号17K04362, 442万円, 2017~2019年度

5. 所属学会

- ・日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

6. 担当授業科目

生理心理学 2単位, 2年後期、心身科学 2単位, 2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年, 実験測定法 I 2単位, 2年前期、実験測定法 II 2単位, 2年後期、老年心理学 2単位, 3年後期、心理学研究法, 2単位, 2年後期、演習 2単位, 3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

8. 学外講義・講演

- ・職業訓練法人福岡地区職業訓練協会 福祉用具専門相談員養成課程「高齢者等の心理」 2017年9月.

9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	村山 浩一郎
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・村山浩一郎「第9章 地域福祉」, 鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』, 講談社, 2016年2月
- ・池本賢一・村山浩一郎「新しい地域包括支援体制における市町村社会福祉協議会の役割ー福岡県鞍手町の地域福祉計画策定を通してー」, 『地域福祉実践研究』第8号, 日本地域福祉学会, 2017年5月
- ・永松美菜子・村山浩一郎「特別養護老人ホームにおける介護職員への職場内集合研修の現状と課題ー北九州市における特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)を中心にー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第1号, 2016年9月

②その他最近の業績

<調査報告書>

- ・共著, 科研費調査報告書『介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題ー地域包括支援センターにおけるソーシャルワークの役割ー』(研究代表: 本郷秀和, 福岡県立大学), 2018年3月

③過去の主要業績

- ・村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題: 3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」, 『リハビリテーション連携科学』第14巻2号, リハビリテーション連携科学学会, 2013年12月
- ・村山浩一郎「小地域ネットワーク活動の課題に関する研究ー北九州市のふれあいネットワーク事業を担う福祉協力員に対する質問紙調査の分析からー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号, 2010年
- ・村山浩一郎「北九州市における小地域福祉活動の活動実態と課題に関する研究」, 『西南女学院大学紀要』第13巻, 2009年

3. 外部研究資金

- ・平成26-29年度 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】(共同) ※研究代表: 本郷秀和(福岡県立大学), 研究課題: 「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」

4. 受賞 なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 日本社会学会, 福祉社会学会, 地域社会学会, リハビリテーション連携科学学会

6. 担当授業科目

- <学部>福祉行財政と福祉計画 (2単位・3年・前期), 社会福祉計画論 (2単位・3年・前期), 地域福祉論 I (旧カリ: 2単位・3年・前期), 地域福祉論 I (新カリ: 2単位・2年・後期), 地域福祉論 II (2単位・3年・後期), 相談援助実習指導 (3単位・2年~3年・通年), 相談援助実習 (4単位・3年・通年), 相談援助演習B (2単位・3年・通年), 相談援助演習C (1単位・3年・後期), 社会福祉学演習 (2単位・3年~4年・後期~前期), 卒業論文 (6単位・4年・後期)
- <大学院>地域福祉研究 (2単位・1・2年・前期), 地域福祉演習 (2単位・1・2年・後期)

7. 社会貢献活動

- ・芦屋町地域福祉計画推進委員会・委員長
- ・苅田町地域福祉推進委員会・委員長
- ・北九州市社会福祉協議会総合企画委員会・委員
- ・北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員会・委員長
- ・鞍手町地域福祉総合計画推進委員会・委員長
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健(予防)・生活支援部会・部会長
- ・田川市地域福祉計画推進会議・委員長
- ・田川市子どもの貧困対策推進計画策定検討委員会・委員長
- ・福岡県多重的見守り活動強化検討会議・委員長
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会・委員長
- ・福岡県共同募金会 共同募金推進委員会 作業部会・部会長
- ・福智町地域福祉活動計画推進委員会・アドバイザー
- ・福智町第3次人権と福祉のまちづくり総合計画・アドバイザー
- ・福智町高齢者福祉計画策定委員会・委員長
- ・福津市福祉施策策定審議会・委員
- ・みやこ町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会・委員長
- ・みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進実務者会議・座長

8. 学外講義・講演

- ・飯塚市社会福祉協議会・評議員・役員合同研修会・講師
- ・飯塚市社会福祉協議会・飯塚市社会福祉法人地域公益活動連携協議会設立総会・講演
- ・大野城市民生委員・児童委員連合協議会民生委員制度創設100周年記念講演会
- ・川崎町社会福祉協議会・保健・福祉の相談窓口研修会・講師
- ・北九州市社会福祉協議会・小地域福祉活動計画策定研修・講師
- ・北九州市社会福祉協議会・地域福祉活動専門研修・講師
- ・北九州市社会福祉協議会・サロン活動セミナー・基調講演
- ・北九州市社会福祉協議会・地域支援コーディネーター研修・講師
- ・北九州市八幡東区いきいき21推進協議会・第3回実務担当者勉強会・講師
- ・北九州市教育委員会・生涯学習指導者育成セミナー・講師
- ・田川市社会福祉協議会・田川市社会福祉大会・記念講演
- ・田川市地域づくり講座・講師
- ・福岡県社会福祉協議会・市区町村社協会長・常務理事・事務局長研修会・講師
- ・福岡県社会福祉協議会・地域福祉基礎研修・講師
- ・福岡県ひとり暮らし高齢者等多重的見守り活動推進研修会・講師
- ・福津市社会福祉協議会・福津市社会福祉法人連絡会・講演
- ・豊前市社会福祉協議会・地域支え合い講演会
- ・宗像市社会福祉協議会・宗像市社会福祉法人研修会・講師

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部 人間形成学科	職名	准教授	氏名	鷺野 彰子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業。ニューヨーク州立大学パーチエス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了。大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了（文学博士）。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏家。19世紀の演奏様式を研究しており、20世紀初期録音やピアノロール等の資料を用いた演奏分析を行っている。本学では、ピアノの個人指導や音楽理論等音楽関係の授業のほか、幼児教育（音楽表現）等の授業を担当している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【論文】

- 鷺野彰子, 2015 「ピアノロールのデータ分析の試み：パデレフスキによるショパン《ワルツ Op.34-1》演奏のワルツのリズム部分に着目して」『福岡県立大学紀要』24(1), 55-71.
- 中藤広美, 鷺野彰子, 2015 「実習前教育における学生教育の課題と方法：環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて」『福岡県立大学紀要』24(2), 17-31.
- 鷺野彰子, 2016 「パデレフスキのルバート：ピアノロールの分析試論(1)」『フィロカリア』33, 27-58.
- 鷺野彰子, 2016 「パデレフスキのルバート：ピアノロールの分析試論(2)」『阪大音楽学報』14, 1-33.
- 鷺野彰子, 2017 「ピアノロールの計量的解析によるショパン《ワルツ Op.42》の演奏分析」大阪大学文学研究科博士論文.
- 鷺野彰子, Craig Stuart Sapp, 2017 「演奏分析資料としてのピアノロール」『福岡県立大学紀要』26(1), 27-48.

【教育実践記録等】

- 鷺野彰子, 2018 「弾き歌い」曲に占める主要三和音の割合：ピアノ初心者のための「弾き歌い」指導方法再考の必要性」『福岡県立大学紀要』26(2), 139-150.
- 鷺野彰子, 櫻井国芳, 2018 「幼児の表現活動における音楽「教材」と造形「教材」に関する研究ノート」『福岡県立大学紀要』26(2), 129-137.

②その他最近の業績

【学会発表】

- 鷺野彰子 「ピアノロールの計量的解析によるパデレフスキのルバート奏法分析」日本音楽表現学会 沖縄県立芸術大学（沖縄）2015年6月
- 中藤広美, 鷺野彰子 「実習前における学生の環境構成についての意識の現状と課題」全国保育士養成協議会第54回研究大会 ロイトン札幌（北海道）2015年9月
- Akiko Washino, A performance analysis utilizing the piano rolls of Chopin's op. 42, Conference "Ghosts in the machine: The Player-Piano" Cornell University (Ithaca, USA), 2017年5月
- 鷺野彰子 「同一演奏者による複数回の演奏におけるサイトその傾向：基本的テンポと速度の緩急」日本音楽表現学会 東京音楽大学（東京）2017年6月

【書評】

- 鷺野彰子「シューマンの結婚：語られなかった真実」（ピート・ワッキー・エイステン著、風間美咲訳）『週刊読書人』2015年6月19日版, 6.
- 鷺野彰子「ピアノ、その左手の響き」（智内威雄）『週刊読書人』2016年4月22日版, 6.
- 鷺野彰子「コンスタンツェ・モーツァルト「悪妻」伝説の虚実」（小宮正安）『週刊読書人』2017年5月5日版, 6.
- 鷺野彰子「ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から」（ウエルナー・ヒンク著、小宮正安訳）『週刊読書人』2018年2月9日版, 6.

【新聞】

- 鷺野彰子, 2015 「民音音楽博物館西日本館」『大阪日日新聞』2015年9月9日版, 18.

【雑誌】

- 鷺野彰子, 2015 「ショパン《ワルツ Op.34-1》の作品比較」『Music Friends』（韓国）92, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「もうひとつのショパン《ワルツ Op.34-1》：2つの楽譜からショパンの作曲行程を探る」『Music Friends』（韓国）93, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「トリルをどう弾くか？」『Music Friends』（韓国）94, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「シューマンの実像」『Music Friends』（韓国）95, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「作曲家による自作自演」『Music Friends』（韓国）96, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「ショパンの《ノクターン》に見られる旋律の「歌い返し」方」『Music Friends』（韓国）97, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「マルコム・ビルソン名誉教授」『Music Friends』（韓国）98, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「技術」『Music Friends』（韓国）99, 20-24.
- 鷺野彰子, 2015 「楽器博物館」『Music Friends』（韓国）100, 20-24.
- 鷺野彰子, 2016 「アルバート・ロトというピアニスト」『Music Friends』（韓国）101, 20-24.
- 鷺野彰子, 2016 「子どものための音楽教育（1）：何を教えるか？」『Music Friends』（韓国）102, 20-25.
- 鷺野彰子, 2016 「子どものための音楽教育（2）：どのように教えるか。」『Music Friends』（韓国）103, 20-24.
- 鷺野彰子, 2016 「新しい視点」『Music Friends』（韓国）104, 20-23.
- 鷺野彰子, 2016 「スタンフォード大学滞在記：スタンフォード大学」『Music Friends』（韓国）105, 20-23.
- 鷺野彰子, 2016 「演奏法の授業」『Music Friends』（韓国）106, 20-23.
- 鷺野彰子, 2016 「アメリカにおける古楽演奏の学会と古楽音楽祭」『Music Friends』（韓国）107, 20-24.
- 鷺野彰子, 2016 「スタンフォードの夏休み：サンフランシスコ」『Music Friends』（韓国）108, 22-27.
- 鷺野彰子, 2016 「スタンフォードの夏休み：サンノゼのベーターヴェン・センター」『Music Friends』（韓国）109, 22-28.
- 鷺野彰子, 2016 「AMICA」『Music Friends』（韓国）110, 23-28.
- 鷺野彰子, 2016 「スタンフォード・シアターで観た2つの『メリー・ウィドウ』」『Music Friends』（韓国）111, 23-28.
- 鷺野彰子, 2016 「スタンフォード大学音楽図書館」『Music Friends』（韓国）112, 23-28.
- 鷺野彰子, 2017 「スタンフォード大学音楽図書館(2): Archive of Recorded Sound」『Music Friends』（韓国）113, 26-31.
- 鷺野彰子, 2017 「平成28年度【音楽振興部門】ピアノロールの計量的解析によるルバート奏法分析」『サウンド』32, 22-24.
- 鷺野彰子, 2017 「風光明媚なシリコンバレー」『Music Friends』（韓国）114, 25-29.

鷺野彰子, 2017 「CRMA と CCARH」『Music Friends』(韓国) 115, 24-29.
鷺野彰子, 2017 「ロサンジェルス : Nethercutt Collection と El Capitan Theatre」『Music Friends』(韓国) 116, 25-31.
鷺野彰子, 2017 「演奏分析」『Music Friends』(韓国) 117, 26-29.

③過去の主要業績

【ラジオ】

リューベン・ヘルソン (Bas) 鷺野彰子 (Pf) 北オランダ放送 2000年6月

【演奏会】

鷺野彰子 「シューベルトとヴォジーシェク」

ザ・フェニックスホール 2007年2月, 大倉山記念館 2007年1月

鷺野彰子 「モーツァルトとショパン〜隠れた水脈〜」

衍芸館 2008年10月, ザ・フェニックスホール 2008年10月

鷺野彰子 「クラヴィコードand/orピアノ」 ザ・フェニックスホール 2009年12月

3. 外部研究資金

平成27-29年度 科学研究費補助金・若手研究(B)

「ピアノロールの計量的解析によるワルツ作品の演奏分析」(課題番号:15K16642)

研究代表者 3,640,000円

4. 受賞

5. 所属学会

日本音楽学会 日本音楽表現学会

6. 担当授業科目

音楽Ⅰ・2単位・1年・通年, 音楽Ⅱ・2単位・2年・通年, 音楽理論とソルフェージュ・1単位・2年・後期, 保育内容・表現Ⅰ・1単位・3年・前期, 保育内容・表現Ⅱ・1単位・3年・後期,

保育内容演習・2単位・4年・後期, 演習・2単位・3年・後期, 保育・教育実践演習(幼稚園)・2単位・4年・前期, 子ども教育研究B・修士1年・2単位・前期, 教育課程研究・修士1年・2単位・前期, 教育課題演習・修士1年・1単位・後期

7. 社会貢献活動

福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部/人間社会学研究科	職名	講師	氏名	池 志保
----	-----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

医療（精神科・神経科・心療内科）及び教育を主な心理臨床のフィールドとしています。医療では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院で非常勤心理職として従事しています。教育では、福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、現在も本学の学生相談室にて相談員を務めています。

研究では、「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1. 創造性とパーソナリティとの関連、2. 創造性と発達促進的環境との相互作用を主な研究テーマとしています。

2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。2014年より、福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師。その他、中村学園大学短期大学部幼児保育学科非常勤講師（2009年度後期「精神保健学」、2015年度前期「保育内容人間関係」）、西南学院大学大学院非常勤講師（2016年度集中「発達心理学特論」）、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師（2018年度より現在前期「総合医科学」）など。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

[著書]

- 池志保（共著）「8章2節 タイプ分けと得点化—類型論と特性論」「10章3節 心の状態を判断する—心理アセスメント過程—」「あなたも実感No.19」「こんなところにNo.20」、『自ら実感する心理学—こんなところに心理学』土肥伊都子編著，他共同執筆，保育出版社，pp.107-109, p.73, 2016.

[論文]

- 池志保・山本斉（共著）「バウムテストに見られる創造性の特徴—M-GTAによる理論生成の試み」，福岡県立大学人間社会学部紀要，第24巻第1号，pp.85-102, 2015. 査読有.
- 渡邊つかさ・池志保（共著）「他者に頼りたくても頼れない要因～自己愛と友人との付き合い方の観点から～」，福岡県立大学心理臨床研究，第9巻，2016. 査読有.

②その他最近の業績

[特集]

- 池志保（共著）「障害と創造性の臨床心理学」、『特集1 アウトサイダーアート入門』北山修編集，他共同執筆，日本心理臨床学会 心理臨床の広場，8巻2号，2016.

[学会発表]

- 池志保（単独）「創造性はパーソナリティと関連するか—青年期を対象にした創造性カテゴリ及びTEGIIの分析—」，日本教育心理学会第58回総会，2016.
- 池志保・中村晋介・石崎龍二（共同）「大学生の「就業力」についての縦断調査研究」，日本発達心理学会第28回大会，2017.
- 池志保・中村晋介（共同）「学科の専門性と「就業力」についての縦断調査研究：大学生を対象として」，日本教育心理学会第59回大会，2017.
- 池志保（司会）Aspects of the Empathic Presence and Empathic Failures. Yossi Tamir 先生セミナー（講師：Yossi Tamir 指定討論：富樫公一，JFPSP 英語相互学習グループ主催），兵庫県民会館，2017.

[翻訳]

- 池志保・外山敬（共著）「心理療法における共感と失敗 講演論文翻訳：講師ヨシ・タミア」，福岡県立大学心理臨床研究，10巻，pp.57-63, 2018.
- 池志保（単独）「どのように「失敗」が精神分析的關係性の中に現れるか？Tamir論文『心理療法における共感と失敗』へのコメント 指定討論者：富樫公一Ph.D., L.P.」，福岡県立大学心理臨床研究，10巻，pp.65-68, 2018.

[報告]

- ・ 池志保 (単独) 「バウムテストによる創造性の特徴—青年期を対象とした理論生成の試み」, Characteristics of creativity determined by the Baum test: creating new theories targeted at adolescents, 福岡県立大学研究奨励交付金 (個別研究) 平成26年度採択分報告書, 2015.
- ・ 池志保 (単著) 「子どもの発達促進的環境を考える」, 福岡県立大学公開講座 I 『現代を生きる子どもたち』 第1回報告書, 福岡県立大学附属研究所, 2015.
- ・ 池志保・池永真義 (共著) 「大学生の創造性を発揮させる教育とは: 対話型鑑賞事例のCFBS分析」, 福岡県立大学心理臨床研究第9巻, 2016.
- ・ 中村晋介・池志保 (共著) 「就業力アンケート調査の再検討」 研究ノート, 福岡県立大学心理臨床研究, 8巻, 2016.
- ・ 池志保 (単独) 症例検討, 福岡精神分析研究会, 2016.
- ・ 池志保 (単独) 「創造性とパーソナリティとの関連—バウムテスト及びTEGを用いて—」, The relationship between creativity and personality: Analyses of the Baumtest and TEG, 福岡県立大学研究奨励交付金 (個別研究) 平成27年度採択分報告書, 2016.
- ・ 池志保 (単独) 「巻頭言: 心理臨床家のネガティブ・ケイパビリティ」 福岡県立大学心理臨床研究, 10巻, 2018.

[書評]

- ・ 池志保 (単著) 「アレンM.シーゲル著、岡秀樹訳『コフォートを読む』」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 第26巻第2号, pp.253-255, 2018.

③過去の主要業績

[辞典]

- ・ 池志保 (共著) 「創造」, 『日常臨床語辞典』 北山修監督・妙木浩之編, 他共同執筆者, 誠信書房, pp.266-270, 2006.

[論文]

- ・ 池志保 (単著) 「鬱を呈する引きこもり青年との面接過程」, 精神分析研究第51巻第2号, pp.85-90, 2007. 査読有.
- ・ 池志保 (単著) 「心理臨床における芸術と創造性について」, 九州大学心理臨床研究第26巻, pp.217-225, 2007. 査読有.
- ・ 池志保 (単著) 「「非創造的」に生きていた芸術活動者—3種に分類した創造性の観点から事例理解を試みる—」, 心理臨床学研究第30巻第6号, pp.899-910, 2013. 査読有.

[書評]

- ・ 池志保・北山修 (共著) 「『ウィニコット著作集4 子どもを考える』 D.W.ウィニコット著、牛島定信・藤山直樹・生地新監訳」, 精神分析研究第53巻第2号, pp.232-233, 2009.

3. 外部研究資金

[その他 (学内研究助成金) 2016年度]

- ・ 福岡県立大学 平成28年度研究奨励交付金 (若手奨励研究)、研究課題名「創造性とパーソナリティとの関連②—バウムテスト及びTEGを用いて—」、研究代表者: 池志保 (平成28年度期間、82,080円)。
- ・ 福岡県立大学 平成28年度研究奨励交付金 (全学横断型プログラム)、研究課題名「キャリア形成支援プログラムにおける教育効果の向上及びインターンシップ推進を目的とした調査研究」、研究代表者: 石崎龍二、研究協力者: 中村晋介・森脇敦史・松岡佐智・池志保 (平成28年度期間、306,052円)。

4. 所属学会

[学会]

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology) (各正会員)

[その他の研究会]

日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、コフート研究会、日本精神分析的自己心理学協会（各正会員）

[役員]

日本精神分析的自己心理学協会ウェビナー委員（2017年度より現在）

5. 担当授業科目

[学部]

発達心理学Ⅰ-A（2単位・1年・前期）、発達心理学Ⅰ-B（2単位・1年・前期）、発達心理学Ⅱ（2単位・1年・後期）、演習（2単位・3年前期・4年前期）、卒業論文（6単位・4年後期）。

[大学院]

臨床心理実習（学内）（1単位・2年・通年）、臨床心理基礎実習（2単位・1年・通年）、発達心理学特論（2単位・1・2年・前期）、臨床心理実習（施設）（1単位・2年・前期）、臨床心理学研究法特論（2単位・1・2年・後期）。

6. 社会貢献活動

- ・（査読）福岡県立大学心理臨床研究
- ・（司会）福岡県立大学大学院 心理教育相談室開室10周年記念講演会「きたやまおさむ講演会「心」を見つめて」2017年9月18日。

7. 学外講義・講演

- ・池志保・小山憲一郎（共同）LOVE FM /Top of the Morning (DJ: Anna) 出演 2017年9月6日。

8. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員
- ・福岡県立大学学生相談室 部会長・学生相談員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	伊勢 慎
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

保育者として現場経験が3年あります。授業や研究においてもその時の経験を活かし、子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。特に、初めての実習である保育実習Ⅰを担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、書類等の書き方など指導に力を入れています。

主な研究分野は、幼児教育、保育の内容に関すること、保育者養成に関することなどで、近年では、園内研修や保育者の働き方についても研究をしています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

- ・森英子, 伊勢慎, 斉藤健司: 『子育て考—子ども集団の中で一人ひとりを大切にしたい人的・物的環境の一例』, ふくろう出版, 2016

【論文】

- ・伊勢慎, 大久保淳子, 櫻井国芳, 池田孝博: 「子どもの「生きる力」と学校内での遊び方の関連」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 25(2), 2017
- ・伊勢慎, 中坪史典, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔: 「KJ法を用いた園内研修において保育者はどのような振る舞いをしているのか」, 幼年教育研究 38, 2016

②その他最近の業績

- ・Makoto ISE: Research into Factors for Long Employment of Kindergarten Teachers in Private Kindergartens in Japan. The 16th Annual Hawaii International Conference on Education, 2018
- ・伊勢慎: 「長期勤務保育士の特徴」, 日本保育学会第70回大会, 2017
- ・伊勢慎: 「私立保育園保育士の勤務継続にかんする要因」, 日本乳幼児教育学会第27回大会, 2017
- ・伊勢慎, 永淵美香子: 「保育者の勤務について」, 第10回九州保育研究会, 2016
- ・伊勢慎: 保育職における長期勤務の継続要因への着目. 日本保育学会第68回大会, 2015
- ・Makoto ISE: Factors behind Long-Term Employment in Child Care in Japan. Pacific Early Childhood Education Research Association 16th Annual Conference, 2015

③過去の主要業績

- ・伊勢慎, 森英子: 『子育て考—特に三歳未満児までの大切な育児法—』, ふくろう出版, 2014
- ・Makoto ISE: Laying the Groundwork New Kindergarten Teachers in Career, The 8th KSECE Biennial International Conference, 2014
- ・伊勢慎, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔: 園内研修は保育所から幼稚園に異動した保育者に何をもちたか—「プレッシャー」を緩和する「コミュニケーションの場」としての役割—, 第67回日本保育学会, 2014
- ・伊勢慎, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔, 中坪史典: 園内研修における対話を促進させる要因—保育者個々の発言の特徴に着目して—, 第25回日本発達心理学会, 2014
- ・Makoto ISE, Miho KURAMITSU: The Attitude of Nursery School Teachers' Toward Internship Guidance at Nursery Schools: A Research Paper, Pacific Early Childhood Education Research Association 14th Annual Conference, 2013
- ・伊勢慎, 倉光美保: 保育士の実習指導姿勢について3. 第66回日本保育学会, 2013
- ・伊勢慎: 『保育暦』, ふくろう出版, 2012
- ・後藤善友, 仲嶺まり子, 伊勢慎(他3名): 保育士養成校における初年次教育の成果と

課題九州ブロック保育士養成校である大学・短期大学に対する訪問調査をとおして、全国保育士養成協議会第51回研究大会、2012

- ・阿部敬信、仲嶺まり子、伊勢慎（他3名）：保育士養成校における初年次教育の実態—九州ブロック保育士養成校である大学・短期大学に対するアンケート調査をとおして、全国保育士養成協議会第51回研究大会発表、2012
- ・横松友義、渡邊祐三、伊勢慎（他3名）：保育目標のとらえ方と保育実践の両者を質的に向上させる保育実践開発に関する考察、『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第147号、125-133頁、2011
- ・横松友義、安達保雄、伊勢慎（他2名）：異年齢保育に関する体系的研究の重要性、『岡山大学教育学部研究集録』、第132号、69-76頁、2006
- ・伊勢慎、横松友義：子育ての知恵に基づく和多美知子の保育論構築—家庭教育研究の成果に基づく保育論構築—、日本家庭教育学会誌『家庭教育研究』第9号、23-31頁、2004

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業、若手研究（B）「質的・量的にみる保育士の長期勤務におけるポジティブな要因に関する研究」、課題番号17K13995、2017-2018

4. 受賞

なし。

5. 所属学会

日本保育学会、日本子ども社会学会、日本質的心理学会、日本発達心理学会、日本乳幼児教育学会、日本混合研究法学会

6. 担当授業科目

- ・教育学概論A・2単位・1年・前期
- ・保育内容総論・2単位・2年・前期
- ・保育課程論・2単位・2年・後期
- ・保育実習指導I・2単位・2～3年・通年
- ・保育実習I・4単位・3年・前期
- ・乳児保育・2単位・3年・前期
- ・保育実習指導II・1単位・3年・後期
- ・保育実習II・2単位・3年・後期
- ・演習・2単位・3年～4年・後期・前期
- ・保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期
- ・子ども教育課程研究・2単位・修士1年・前期
- ・子ども教育課程演習・2単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・香春町教育委員会評価委員委員長
- ・福岡県私立幼稚園振興協会幼稚園定着支援調査研究委員会委員

8. 学外講義・講演

- ・北九州市社会福祉研修所保育士研修・領域『言葉』『こどもにとっての言葉とは?』講師

9. 附属研究所の活動等

- ・伊田小学校3年次講義「大学ってどんなところ」

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	河野 高志
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の抽出、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討を行ってきました。今後は、地域包括ケアシステムにおける多職種連携を中心に、ソーシャルワーク実践として多分野で活用可能なケアマネジメント方法の構築を目指して研究を進めていきます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

河野高志「地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークの可能性」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻 第2号、福岡県立大学人間社会学部、2018年

太田義弘・中村佐織・安井理夫 編著、太田義弘・西梅幸治・安井理夫・中村佐織・小柴住まゆ子・山口真里・山東綾乃・御前由美子・長澤真由子・伊藤佳代子・河野高志・加藤由衣・菊池信子・西内章・松久宗丙・溝渕淳 著『高度専門職業としてのソーシャルワーク 理論・構想・方法・実践の科学的統合化』光生館、2017年

河野高志「多分野のソーシャルワーク実践におけるケアマネジメント展開の比較 —福岡県内の相談支援事業所へのアンケート調査から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻 第1号、福岡県立大学人間社会学部、2015年

②その他最近の業績

《調査報告》

河野高志「日本のソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の状況（2） —展開内容の枠組みと分野ごとの比較—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻 第1号、福岡県立大学人間社会学部、2016年

河野高志・中村佐織「離島における福祉施設職員の研修の実態に関する一考察 —伊豆大島でのヒアリング調査による質的分析—」『福祉社会研究』第16号、京都府立大学福祉社会研究会、2016年

河野高志「日本のソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の状況（1） —ケアマネジメントに関わる問題と実施方針—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻 第2号、福岡県立大学人間社会学部、2016年

《学会講演》

日本学校ソーシャルワーク学会 九州ブロック第10回研究大会 基調講演「アウトリーチの展開とソーシャルワーク」講師、大会シンポジウム「スクールソーシャルワーカーが行うアウトリーチについて考える」コメンテーター、2018年2月10日

《学会発表》

河野高志・中村佐織「離島における福祉施設職員の研修の実態 —A島でのヒアリング調査からの考察—」日本社会福祉学会 第64回秋季大会、佛教大学、2016年9月11日

河野高志「多分野のソーシャルワーク実践にみるケアマネジメント展開の特徴 —相談支援機関へのアンケート調査から—」日本ソーシャルワーク学会 第32回大会、日本社会事業大学、2015年7月19日

《雑誌論文》

河野高志「地域包括ケアシステムにおける多職種連携を進める視点」『地域ケアリング』第19巻 第9号 通巻257号、北隆館、2017年

③過去の主要業績

河野高志『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築—実践研究による方法の理論的検証—』京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文、2012年3月

河野高志「海外のソーシャルワーク事情 - 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 -」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社、2010年、pp.12-14

河野高志「ソーシャルワークにおけるケアマネジメント・アプローチの意義 - 先行研究の分析を通して -」『福祉社会研究』第7号、京都府立大学福祉社会研究会、2007年

3. 外部研究資金

平成29～31年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究（B）「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法と効果に関する研究」（研究代表者：河野高志）1,950千円

平成28年度～30年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究「日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信—中国・韓国・台湾を中心に—」（研究代表者：中村佐織、研究分担者：齊藤順子、西梅幸治、加藤由衣、河野高志）2,860千円

平成27年度～29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（研究代表者：丸山裕子、研究分担者：西梅幸治、伊藤佳代子、安井理夫、加藤由衣、河野高志、中村佐織、西内章）9,360千円

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

6. 担当授業科目

＜学部＞

「社会福祉学概論Ⅱ」（2単位・1年・後期）、「相談援助演習A」（2単位・2年・通年）、「相談援助実習指導Ⅰ」（2単位・2年・通年）、「相談援助実習指導Ⅱ」（1単位・3年・通年）、「相談援助の理論と方法A」（2単位・2年・前期）、「相談援助実習」（4単位・3年・通年）、「相談援助の理論と方法D」（2単位・3年・前期）、「相談援助演習C」（1単位・3年・後期）、「社会福祉学演習」（2単位・3年後期～4年前期）、「卒業論文」（6単位・4年・後期）、「日本事情A」（2単位・留学生・後期）

＜大学院＞

「ソーシャルワーク研究」（2単位・1～2年・前期）

「ソーシャルワーク演習」（2単位・1～2年・後期）

7. 社会貢献活動

田川市男女共同参画センター運営委員会 委員
一般社団法人日本社会福祉学会 第4期代議員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部人間形成学科	職名	講師	氏名	小山 憲一郎
----	--------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2013年3月鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を修了。摂食障害患者の知能に関する研究を行い、医学博士を取得しました。また臨床心理士として、心療内科にて心身症、精神科において主にうつ病、不安障害に対する認知行動療法を実践し、研究を行ってききましたが、2015年10月に本学に着任しました。現在は、ストレス関連疾患における認知行動療法の研究、不安の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を主に行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・松浦隆信 小山憲一郎 不安の受容を促す介入技法の作用機序に関する実験心理学的検討—不安に対する教示の心理・生理的反応に対する予備的研究— 日本森田療法学会雑誌別冊 第28巻第2号 129-138,2017

・Ken Ichiro Koyama, Haruka Amitani, Ryo Adachi, Toshiki Morimoto, Megumi Kido, Yuka Taruno, Keizaburo Ogata, Marie Amitani, Akihiro Asakawa & Akio Inui. Good appearance of food gives an appetizing impression and increases cerebral blood flow of frontal pole in healthy subjects International Journal of Food Sciences and Nutrition 67,1, 2016

・小山憲一郎 乾明夫 FD診療ガイド「困った症例」問診や信頼関係の構築がうまくいかない患者にはどう対応すればよいか？, 株式会社 ヴァンメディカル, 2015年, 単行本(学術書)

・小山憲一郎 肥満症患者への適切な心理的アプローチ：臨床心理士の立場から(特集 現在の肥満症治療のあり方), 日本医事新報, 4698,36-42, 2015

②その他最近の業績

・緒方慶三郎 小山憲一郎 乾明夫 ドロップアウト防止を目的とした肥満に対するインターネットによる介入を加えた認知行動療法の試み—フォローアップを含めた検討— 日本認知・行動療法学会 第42回大会 2016

・松浦隆信 小山憲一郎 不安の受容を促す介入技法の作用機序に関する実験心理学的検討—生理指標を用いて— 公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団 研究助成報告集(27) : 109-114, 2015

③過去の主要業績

・小山憲一郎・乾明夫 認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療：WAIS-IIIを利用した心理社会的アプローチ(特集 過敏性腸症候群の病態と診療)Psycho-social approach to the treatment of IBS using the assessment of cognitive functions 消化器内科 59 (3) ,237-241,2014

3. 外部研究資金

特記なし

4. 受賞

特記なし

5. 所属学会

日本認知療法・認知行動療法学会 日本心身医学会 日本生理心理学会 日本スポーツ心理学学会 日本摂食障害学会 日本肥満症治療学会 日本心理臨床学会 等

6. 担当授業科目 障害者(児)心理学(4年前期 2単位) ストレスマネジメント論(2年後期 2単位) 子供学習支援論(1年後期 1単位) 不登校・ひきこもり援助応用演習(4年後期 1単位) 演習(3年後期—4年前期 2単位) 教養演習(1年前期 1単位)

大学院

臨床心理実習（学内）（1単位・2年・通年）、臨床心理基礎実習（2単位・1年・通年）、
臨床心理学特論（2単位・1年・前期）、臨床心理実習（施設）（1単位・2年・前期）、

7. 社会貢献活動

（査読）福岡県立大学心理臨床研究

（査読）Obesity Resarch and Clinical Practice

8. 学外講義・講演

直方市スキルアップセミナー1月12日～2月23日 5回 直方市公民館

9. 附属研究所の活動等

1. 「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」
2. 「教師・保育士のための特別支援教育スキルアッププログラム」

所属	人間社会学部 公共社会学科	職名	講師	氏名	阪井 裕一郎
----	---------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

愛知県出身。慶應義塾大学文学部卒業、慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。慶應義塾大学、津田塾大学、立教大学などで非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PDを経て、2017年4月より本学に着任。

専門は社会学、特に家族社会学・歴史社会学・質的調査研究。これまでおこなってきた主な研究内容は、1) 近代日本の家族・結婚に関する歴史社会学的研究、2) 事実婚や同棲といったパートナー関係に関する質的調査研究である。最近は、家族をこえて実践される共同生活に関心を持っている。北西欧社会に目を向ければ、従来の家族関係とは異なる多様なケア関係や共同生活が実践されており、家族研究の分野でも同棲（cohabitation）やレズビアン・ゲイカップルによる子育て、シェア居住等の多様な家族実践に注目が集まっている。現在は、こうした新たな家族や共同生活について国内外でフィールド調査・インタビュー調査をおこなっている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

阪井裕一郎, 2017, 「多様化するパートナーシップと共同生活」永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社, 133-149.

阪井裕一郎, 2015, 「親密性の変容」(p291)「親密圏」(p297)「家族の友人化/友人の家族化」(p297-8)「対抗的公共圏」(p298)比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂.

<論文>

阪井裕一郎, 2017, 「マイホーム主義を問いなおす——ホームと連帯の再構築へ」『三田社会学』三田社会学会, 第22号, 55-75.

阪井裕一郎・本多真隆・松木洋人, 2015, 「事実婚カップルはなぜ『結婚』するのか——結婚をめぐる差異化と同一化の語りから」『年報社会学論集』関東社会学会, 第28号, 76-87.

②その他最近の業績

<評論等>

阪井裕一郎, 2017, 「変化するパートナー関係と共同生活——家族主義を問う」*Synodos* (<https://synodos.jp/society/20198>)

阪井裕一郎, 2017, 「学びなおしの5冊<家族>」『 α -Synodos』第223号.

渡辺秀樹・阪井裕一郎, 2017, 「特集『<家族主義>を超えて——戦後70年の家族と連帯』に寄せて」『三田社会学』第22号, 1-2.

<書評>

阪井裕一郎, 2016, 「書評：深海菊絵著『ボリアモリー 複数の愛を生きる』」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第81号, 109-117.

阪井裕一郎, 2015, 「文献紹介：ウルリッヒ・ベック/エリーザベト・ベック＝ゲルンスハイム(著)伊藤美登里(訳)『愛は遠く離れて——グローバル時代の「家族」のかたち』」『家族社会学研究』日本家族社会学会, 第27巻1号, 91.

<学会報告>

阪井裕一郎, 「『マイホーム主義』を問いなおす——家族を超える連帯のために」2016年度三田社会学会大会シンポジウム, 慶應義塾大学, 2016年7月.

阪井裕一郎, 「非法律婚カップルの語りから問う結婚——聞き取り調査に基づくレトリック

ク分析」第25回日本家族社会学会大会，追手門学院大学，2015年9月。

<討論者>

2017年度家族問題研究学会大会シンポジウム「家族研究と政策提言——少子化対策に焦点をあてて」2017年度家族問題研究学会大会，早稲田大学，2017年7月。

③過去の主要業績

<著書>

- 阪井裕一郎，2014，「『独身者』批判の論理と心理——明治から戦時期の出版物をとおして」椎野若菜編『境界を生きるシングルたち(シングルの人類学1)』人文書院，165-186。
- 阪井裕一郎，2013，「居場所を求める若者／受験競争する若者——インタビュー調査にみる日韓の学校生活と友人関係」渡辺秀樹・金鉉哲・松田茂樹・竹ノ下弘久編『勉強と居場所——学校と家族の日韓比較』勁草書房，120-149。
- 阪井裕一郎，2012，「アトミズム／ホーリズム」(pp20-21)「価値付与／価値剥奪」(p194)「ソキエタス」(p822)見田宗介(編集顧問)・大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編『現代社会学事典』弘文堂。

<論文>

- 阪井裕一郎，2013，「家族主義という自画像の形成とその意味——明治・大正期における知識人の言説から」『家族研究年報』家族問題研究学会，38号，75-90。
- 阪井裕一郎，2012，「家族の民主化——戦後家族社会学の(未完のプロジェクト)」『社会学評論』日本社会学会，第249号，36-53。
- 阪井裕一郎，2009，「明治期『媒酌結婚』の制度化過程」『ソシオロジ』第166号，89-105。

<調査報告書>

- 阪井裕一郎，2014，「インタビュー調査にみる事実婚と同棲の現状」松木洋人・阪井裕一郎・本多真隆『法律婚をこえた共同性とケアの実践——事実婚と同棲の事例からみる家族の現在』第一生命財団調査研究報告書，38-67。
- 阪井裕一郎，2014，「欧米における同棲(cohabitation)の研究動向」松木洋人・阪井裕一郎・本多真隆『法律婚をこえた共同性とケアの実践——事実婚と同棲の事例からみる家族の現在』第一生命財団調査研究報告書，3-15。
- 阪井裕一郎，2011，「現代青少年の友人関係の構造と類型——首都圏とソウルでのインタビュー調査を中心として」渡辺秀樹編『青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究』平成20～22年度科学研究費(基盤研究B)研究報告書，82-108。

<国際会議>

Sakai, Yuichiro, "Civilization and Familism in Modern Japan: Focusing on Institutionalization of Marital Norms" GCOE-CGCS Global Seminar: Civil Society, Governance and Democracy, Department of Government, Uppsala University, Sweden, 2009.

3. 外部研究資金

文部科学省，科学研究費補助金(研究活動スタート支援)「家族をこえる多面的なホームと共同生活に関する社会学的研究」2017年度～2018年度，研究代表者。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、日本家族社会学会、家族問題研究学会、関東社会学会、比較家族史学会

6. 担当授業科目

公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期
教養演習・1単位・1年・前期
日本事情B・2単位・留学生・前期（分担）

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

（研究内容）

1. 近代日本の家族・結婚に関する歴史社会学的研究
2. パートナーシップ制度（事実婚・同棲、同性婚等）に関する国際比較研究
3. 家族をこえて実践される共同生活の調査研究

（保有学位）

博士（社会学）

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	坂無 淳
----	--------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。男女の平等や性別役割分業についてデータを集めることで、社会的に何が明らかになるか、そしてどのようにジェンダー平等を達成できるか研究しています。具体的なテーマとしては、1つめに研究者という職業でのジェンダー平等についてです。大学院生や入職の段階、研究者になった後など各段階で、ジェンダーによる差がどのようなものか、またワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2つめに、コミュニティと子育てについてです。共同保育についての事例調査や戦後日本の保育の歴史について研究をしています。3つめに、大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生が自身でデータを集め、分析する科目を教えてきましたが他科目でもファシリテーションを取り入れ、教育と研究を行なっています。

経歴：東京大学文学部卒業、北海道大学大学院文学研究科修士課程修了、同博士後期課程単位取得満期退学。山形大学男女共同参画推進室助教、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科助教を経て、2017年4月に本学に着任。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

長倉真寿美・岡田哲郎・坂無淳, 2016, 「石巻プログラム：高齢者福祉、地域福祉の知識や経験を駆使して——実務担当者からの解説」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室『復興支援ってなんだろう？——人とコミュニティによりそった5年間』本の泉社, 121-7.

<論文>

坂無淳, 2018, 「日本の高等教育と科学技術におけるジェンダー政策——男女共同参画基本計画と科学技術基本計画を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2)：頁未定。(掲載決定).

坂無淳, 2017, 「保育不足に親たちはどう対処してきたか：埼玉県新座市の団地共同保育の事例から考える」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』18：85-101.

坂無淳・北澤泰子・空閑厚樹, 2016, 「大学教育におけるファシリテーション(2)——スキルの習得と実践(立教大学とお茶の水女子大学を事例に)」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』18：57-74.

佐藤壮広・河東仁・坂無淳, 2016, 「大学教育におけるファシリテーション(3)——アウトプット(作品化)の事例を中心に」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』18：75-91.

坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4)：592-610.

坂無淳・沖直子・河東仁・空閑厚樹, 2015, 「大学教育におけるファシリテーション——立教大学コミュニティ福祉学部の実践例から」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』17：21-41.

②その他最近の業績

<学会発表・研究会>

坂無淳, 2017, 「大学院生の不安とメンタルヘルスに関する統計分析——ジェンダーの観点を中心に」第69回(2017年度)日本教育社会学会大会(於一橋大学), 10月21日.

坂無淳, 2017, 「研究者のキャリアとジェンダー、子育ての共同とジェンダー」2017年度第2回ジェンダー研究者ネットワーク会議(於公益社団法人アジア女性交流・研究フォーラム), 7月8日.

坂無淳, 2017, 「日本の高等教育、科学技術におけるジェンダー政策」第65回(2017年度)北海道社会学会大会(於北海道情報大学), 6月10日.

Jun Sakanashi, 2016, "The Context, Process and Consequence of Positive Action Policy

for Gender Equality in Academia in the Japanese Government and Universities”, Third ISA Forum of Sociology, Vienna, Austria, July 10-14.

坂無淳, 2016, 「団地コミュニティにおける共同保育の開始・継続の条件——新座団地の事例から」第11回戦後保育運動史研究会（於立教大学）, 3月26日.

坂無淳, 2015, 「子育ての共同・子育て支援と都市コミュニティ」第63回（2015年度）北海道社会学会大会（於旭川大学）, 6月29日.

<書評・評論・エッセイ>

坂無淳, 2018, 「公益財団法人東海ジェンダー研究所編『資料集 名古屋における共同保育所運動 1960年代～1970年代を中心に』『立教大学教育学科研究年報』61: 頁未定（掲載決定）.

坂無淳, 2017, 「コミュニティで支えあい、学びあう」『立教大学コミュニティ福祉学会 まなびあい』10: 231-2.

坂無淳, 2016, 「書評 妙木忍著『秘宝館という文化装置』（青弓社, 2014年）」『現代社会学研究』29: 83-88.

③過去の主要業績

<著書>

坂無淳, 2014, 「ワーク・ライフ・バランスとジェンダー」坂田周一・三本松政之・北島健一編『コミュニティ政策学入門』誠信書房, 183-202.

<論文>

坂無淳, 2009, 「シンガポールにおける高学歴男性の将来設計」『日本ジェンダー研究』12: 93-108.

坂無淳, 2007, 「大学研究室とハラスメント——閉鎖性とホモソーシャルリティ」『現代社会学研究』20: 19-36.

3. 外部研究資金 該当なし

4. 受賞 該当なし

5. 所属学会

ISA (International Sociological Association), RC32 Women in Society, RC52 Sociology of Professional Groups,
日本社会学会、日本ジェンダー学会、日本教育社会学会、北海道社会学会

6. 担当授業科目

2017年度 統計学・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動 該当なし

8. 学外講義・講演

坂無淳, 2017, 「統計の重要性とその活用方法」文部科学省スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業・福岡県立鞍手高等学校・人口問題研究班・講師（於福岡県立鞍手高等学校）, 9月22日.

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センターアドボチャイルド香春町子ども食堂の参加

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	柴田 雅博
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。1年間財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータを利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。

本学では情報学教育を中心として、保健福祉情報教育プログラムに携わっている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 柴田雅博:「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2016年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.25, No.2, pp.69-80, (2017.2).
- ・ 柴田雅博:「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2017年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.26, No.2, pp.191-204, (2018.2).

② その他最近の業績

- ・ 柴田雅博, 石崎龍二:「保健福祉系大学における全学横断型での統計・情報教育拡充への取り組み」, 第134回コンピュータと教育研究会, (2016.3).
- ・ 柴田雅博, 中村晋介, 石崎龍二, 森脇敦史:「文系大学生のITセキュリティ意識と実践に関する調査」, 第16回情報科学技術フォーラム, (2017.9).
- ・ 中村晋介, 柴田雅博, 石崎龍二, 森脇敦史:「大学生のITセキュリティ実践の現状と課題——新たな教育プログラムの構築に向けて」, 大学ICT推進協議会2017年度年次大会, (2017.12).
- ・ 中村晋介, 柴田雅博, 石崎龍二, 森脇敦史:「文系大学生のweb利用の実態と問題点」シンポジウム・これからの大学の情報教育, (2017.12).

③ 過去の主要業績

(論文)

- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 田中省作:「Web上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援」, 『情報処理学会論文誌』, Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美:「雑談自由対話を実現するためのWWW上の文書からの妥当な候補文選択手法」, 『人工知能学会論文誌』, Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- ・ M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: "Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English", *Procedia - Social and Behavioral Sciences*, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

他

3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会, 科学研究費基盤研究(C), 「大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」(研究代表者: 中村晋介) 3,380,000円, 平成28年度~平成30年度, 研究分担者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

情報処理学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 日本情報教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期, 情報処理の基礎と演習・2単位・1年・前期, 情報処理応用演習・1単位・1年・後期, Webデザイン演習・1単位・2年・前期, 情報ネットワーク論・2単位・2年・後期, データベース論・2単位・2年・後期, グローバル社会論・2単位・2年・後期 (オムニバス)

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	寺島 正博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、障害福祉サービス従事者における無意識の虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていないと言えない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今の新聞等が大きく報道するように、障害者への虐待は重大な人権侵害である。このような虐待問題の解消に取り組むため、国内外において未だ明らかにされていない障害福祉サービス従事者が行う無意識の虐待等について研究している。具体的には従事者が無意識の虐待等に対してどのような意識であるのか、無意識の虐待等と従事者の個人属性や労働環境がどのような関係にあるか、また従事者が無意識であることから間接手法を用いて観察従事者による加害従事者の無意識の虐待等について明らかとしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・（単著）「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究—全国アンケート調査による無意識の不適切行為の認識からの検討—」『九州社会福祉学』第13号, 2017年, 56-67.
- ・（共著）寺島正博 石崎龍二 柴田雅博 許棟翰 松崎貴之 岩倉聡 白石潤「社会福祉法人における業務支援システムの導入と課題」『福岡県立人間社会学部大学紀要』（研究ノート）第26巻第1号, 2017年, 57-66頁.
- ・（単著）「無意識の不適切行為の防止に関する研究—全国アンケート調査における観察従事者の視点—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号, 福岡県立大学人間社会学部, 2015年, 1-16頁.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の解消に関する研究—インタビュー調査による無意識の要因と意識化の要素からの検討—」寺島正博『日本社会福祉学会第64回全国大会』査読有, 口頭発表 (2016) .
- ・「A Study on the Prevention of Unconscious Maltreatment of People with Disabilities Committed by Disability Welfare Service Employees—Consideration Based on Occurrence Factors and Resolution Conditions of Practice Sites by a Nationwide Interview Survey—」Masahiro TERAJIIMA, e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, poster presentation (2015) .

<報告書>

- ・（単独）「□□□ □□□ □□□□□□ □□ □□□ □□」『□ □ □』Korea Disabled people's Development Institute, Vol. 237, 2016, pp28-29.
- ・（単独）「障害福祉サービスで起こる『無意識の虐待』の存在と防止モデルに関する研究」平成25年度科学研究費助成事業（基盤研究C）

<解説集>

- ・（共著）『2018社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2017年.
- ・（共著）『2018精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2017年.

- ・ (共著) 『2017社会福祉士国家試験過去問解説集』 (障害者に対する支援と障害者自立支援制度・就労支援サービス) 中央法規, 2016年.
- ・ (共著) 『2017精神保健福祉士国家試験過去問解説集』 中央法規, 2016年.
- ・ (共著) 『2016社会福祉士国家試験過去問解説集』 中央法規, 2015年.
- ・ (共著) 『2016精神保健福祉士国家試験過去問解説集』 中央法規, 2015年.

③過去の主要業績

<著書>

- ・ (単著) 『障害者の地域移行への援助ーグループホーム従事者の専門職性』 文芸社, 2012年.

<論文>

- ・ (単著) 「知的障害者のグループホーム従事者による利用者のコンピテンス評価の課題ー全国調査による一人暮らしのニーズに対する阻害要因からー」 『東京福祉大学・大学院紀要』 第2巻第2号, 東京福祉大学, 2012年, 133-140頁.
- ・ (単著) 「知的障害者グループホーム利用者と地域住民の交流に対する意義と促進要因の研究ー地域住民と知的障害者グループホーム従事者のインタビュー調査からー」 『社会科学論集』 第2号, 2010年, 27-108頁.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本ソーシャルワーク学会
- ・ 日本発達障害学会
- ・ 日本発達障害支援システム学会

6. 担当授業科目

障害者福祉論 (2単位・2年・前期)、精神保健福祉論 I (2単位・2年・後期)、相談援助実習指導 I (2単位・2年・通年)、相談援助実習指導 II (2単位・3年・通年)、社会福祉学演習 (2単位・3年～4年・後期～前期)、相談援助演習 B (2単位・3年・通年)、相談援助演習 C (1単位・3年・後期)、教養演習 (2単位・1年・前期)。

7. 社会貢献活動

- ・ 糸田町地方創生人口減少対策委員
- ・ みやこ町障害福祉施策検討委員

8. 学外講義・講演

- ・ 宗像市虐待防止研修会 (私ができること～無意識の不適切行為 (完結編) と組織体制のチェック～)
- ・ 社会福祉法人桑の実会職員研修 (障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究)

所属	人間社会学部・総合人間社会コース	職名	講師	氏名	中原 雄一
----	------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

国立大学法人 鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
博士（体育学）

運動・スポーツを行うことの重要性について研究を行っており、現在は精神的健康面に及ぼす影響について主に青年期を対象に検討している。また、大学のスポーツ振興についても興味・関心を持っており、研究を進めたいと考えている。さらに、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員の資格を活かし、幅広く運動指導も行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・**中原（榎藤）雄一**、楽しく学ぶ運動遊びのすすめ ―ポートフォリオを活用した保育実践力の探求―（柴田卓、石森真由子編著）．みらい、担当ページ：86, 126-128. 2017.

<論文>

- ・**中原雄一**、池田孝博. 全国調査との比較にみる本学学生のスポーツ経験と意識に関して. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 221-229. 2018.
- ・池田孝博、伊勢慎、櫻井国芳、**中原雄一**、古橋啓介. 田川市立幼稚園における道徳・規範意識の芽生えを意図した教材開発のための運動遊びの介入と観察. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(2): 111-118. 2018.
- ・**中原雄一**、角田憲治、池田孝博、具志堅武、重田唯子、藤本敏彦、鈴川一宏. 体育系と福祉系の大学生における身体活動量と精神的健康度の比較. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26(1):49-56. 2017.
- ・**中原（榎藤）雄一**、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉. 勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討. 厚生指標, 63(5): 1-6. 2016.
- ・**中原（榎藤）雄一**、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉. 大学生における運動部活動参加の有無による精神的健康度の相違. 体力研究, 114: 42-46. 2016.
- ・**中原（榎藤）雄一**、永松俊哉. 女性勤労者におけるストレッチングが気分ならびにストレスに及ぼす効果の基礎的検討. 体力研究, 113: 15-18. 2015.
- ・永松俊哉、**中原（榎藤）雄一**、角田憲治、甲斐裕子. 介護職従事者のストレスに及ぼすストレッチ運動の効果. 体力研究, 113: 1-8. 2015.

②その他最近の業績

<一般紙論稿>

- ・黒川修行、**中原（榎藤）雄一**. 近年の子どもたちの肥満について～平成 27 年度学校保健統計調査報告書から見てきたこと～. 健康教室, 67(8): 76-79. 2016.

<パネルディスカッション>

- ・**中原雄一**. 介護を行っている勤労者の実態～精神的健康度と身体活動量について～. 第 35 回日本臨床運動療法学会学術集会（横浜）, 2016.

<シンポジウム>

- ・藤本敏彦、**中原雄一**、永松俊哉. 大学生のメンタルヘルスへの身体運動の効用. 第 72 回体力医学会大会（松山）, 2017.

<学会発表>

- ・**中原雄一**、池田孝博、萩原悟一、元安陽一。日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(2)－NCAA会長の講演から考える地方大学の役割－。九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- ・池田孝博、**中原雄一**、萩原悟一、元安陽一。日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(1)－日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会における議論を中心に－。九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- ・萩原悟一、池田孝博、**中原雄一**、元安陽一。日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(3)－地方版大学スポーツ振興の可能性－。九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- ・元安陽一、池田孝博、**中原雄一**、萩原悟一。日本の大学スポーツ振興に関する動向と課題(4)－地方私立大学におけるスポーツブランディング事業－。九州地区大学体育連合平成29年度春期研修会(北九州), 2018.
- ・Kitano N, Jindo T, **Nakahara-Gondoh Y**, Sakamoto S, Gushiken T, Suzukawa K, Nagamatsu T. Building Grit in Japanese Male High-School Students: Examining the Role of Belonging to an Organized Sports Activity. Society for Adolescent Health and Medicine 2018 Annual Meeting. (Seattle, USA), 2018.
- ・神藤隆志、北濃成樹、永松俊哉、**中原(権藤)雄一**、酒本勝太、具志堅武、鈴川一宏。男子高校生におけるスポーツ実践とストレス対処力、気分の関連性～学校サッカー部とJリーグユースチームに着目して～。第19回日本健康支援学会年次学術集会(京都), 2018.
- ・**Nakahara-Gondoh Y**, Tsunoda K, Fujimoto T. The Benefits of Extracurricular Sports Activities on Physical and Psychological Health in University Students. The 8th Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science. (Bangkok, Thailand), 2017.
- ・**中原(権藤)雄一**、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における運動部活動の参加は学生生活の不安を軽減させるか?～2年間の縦断研究からみた検討～。第72回日本体力医学会大会(松山), 2017.
- ・**中原(権藤)雄一**、鈴川一宏、重田唯子、池田孝博。一般大学生との比較にみる体育系大学生の精神的健康度。日本学校保健学会第64回大会(仙台), 2017.
- ・**中原(権藤)雄一**、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。運動部活動実施による大学生の1年間の体力と精神的健康度、ストレス対処能力の変化。日本体育学会第67回大会(大阪), 2016.
- ・**中原(権藤)雄一**、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における運動部活動の参加は学生生活の不安を軽減させるか?～1年間の縦断研究からみた検討～。第71回日本体力医学会大会(盛岡), 2016.
- ・**Nakahara-Gondoh Y**, Tsunoda K, Fujimoto T, Nagamatsu T. Physical and Psychological Status of Participants in Extracurricular Sports Activities at a Japanese University. American College of Sports Medicine 62nd Annual Meeting (San Diego, USA), 2015.
- ・**中原(権藤)雄一**、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における体力レベルと精神的健康度、ストレス対処能力とその関係。日本体育学会第66回大会(東京), 2015.
- ・**中原(権藤)雄一**、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における過去および現在の運動部活動の参加状況と身体的・精神的健康度。第70回日本体力医学会大会(和歌山), 2015.
- ・**中原(権藤)雄一**、角田憲治、甲斐裕子、永松俊哉。介護を行っている勤労者の精神的健康度と身体活動量。第28回日本保健福祉学会学術集会(京都), 2015.
(最優秀学会発表賞 受賞)

③過去の主要業績

- ・**Gondoh Y**, Sensui H, Kinomura S, Fukuda H, Fujimoto T, Masud M, Nagamatsu T, Tamaki H and Takekura H. Effects of aerobic exercise training on brain structure and psychological well-being in young adults. J Sports Med Phys Fitness. 49(2): 129- 135, 2009.

- ・ **Gondoh Y**, Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R and Fujimoto T. Evaluation of individual skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604, 2009.
3. 外部研究資金
 - ・ 全国大学体育連合 平成29年度大学体育研究助成 一般課題 (代表): 大学体育における実技と講義の同時受講は実技のみの受講よりも教育効果を高めるか, 20万円, 平成29年3月～平成30年2月
 - ・ 東北大学 高度教養教育開発推進事業 (分担): 体育の授業を通じた自主的な身体作りと5段階評価への取組, 170万円, 平成27年度～平成30年度
 4. 受賞
 - ・ 第18回川井記念賞 (厚生労働統計協会) 平成29年11月16日
 5. 所属学会
 - ・ 日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本学校保健学会、日本運動・スポーツ科学学会、九州体育・スポーツ学会
 6. 担当授業科目
 - <学 部> 健康スポーツ論・2単位・1年前期, 教養演習・1単位・1年前期,
健康科学実習Ⅰ・1単位・1年前期, 健康科学実習Ⅱ・1単位・1年後期
 - <大学院> 子ども教育研究C・2単位・1年前期, 子ども教育演習C・2単位・1年後期
 7. 社会貢献活動
 - ・ 学術論文の査読: Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation
Journal of Physical Therapy Science
 - ・ 福岡市市政アンケート調査協力員
 8. 学外講義・講演
 - ・ 嘉穂東高等学校 模擬授業「運動・スポーツにかかわる仕事 (進路) について考える」
2017年10月
 - ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構熊本総合病院 労働安全衛生に係る研修会 講師
「職場におけるこころと体の健康づくり～運動の効用とリフレッシュ運動～」 2018年1月
 9. 附属研究所の活動等
 - ・ 附属研究所重点領域研究: 研究課題名「田川市郡を中心とする地域における保育の質の向上を目指す取り組みの実態調査」 (研究代表者: 古橋啓介) メンバー

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	松岡 佐智
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は現在、高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では、これまで、「高齢者の生きがい支援のあり方」、「認知症高齢者に係る職員の職務意識と資質向上に関する研究」等について取り組んできました。現在は、自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ、「高齢者虐待の予防・再発防止に向けた課題」について研究を進めています。特に、虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の介護職員に焦点を当て、「施設内虐待予防に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また、社会福祉教育分野では、社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして、「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」、「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して、社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法、及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文 [2015 (平成 27) 年度～2017 (平成 29) 年度]

- (1) 本郷秀和・松岡佐智「介護支援専門員と高齢者虐待—基礎資格別にみた自由記述結果とインタビュー調査結果の要約—」『地域ケアリング』Vol.20、No.2、2018年2月
- (2) 松岡佐智「第11章精神保健福祉」、鬼崎信好(編)、『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』、講談社、2016年2月

②その他の業績

〈学会発表〉

- (1) 松岡佐智・本郷秀和・荒木剛・村山浩一郎・田中将太、「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の課題—ヒアリング調査の結果より—」日本社会福祉学会第58回大会九州部会口頭発表(会場：九州看護福祉大学)、平成29年5月。
(調査報告書)
- (1) 本郷秀和(研究代表)・村山浩一郎編集、鬼崎信好、永田千鶴、荒木剛、松岡佐智、畑香理、袖井智子、田中将太「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題—地域包括支援センターにおけるソーシャルワークの役割—」福岡県立大学附属研究所発行、2018年3月。(平成26～29年度科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書)

③過去の主要業績

- (1) 松岡佐智・田中将太・袖井智子「社会福祉士養成における相談援助実習の実態と課題 (1)—旧相談援助実習ガイドラインからみた実習内容の課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、福岡県立大学、2014年1月1)
- (2) 松岡佐智「第9章 社会福祉のニーズとサービス」、鬼崎信好(編)、『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2012年4月
- (3) 本郷秀和、荒木剛、松岡佐智、袖井智子「介護系NPOの実態と課題—平成21年度制度外サービスを実施するNPO法人全国実態調査における自由回答の分析を中心に—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第19巻第2号、福岡県立大学、2011年1月
- (4) 松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究—福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性II—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学、2009年1月

3. 外部研究資金（平成 29 年度）

- (1) 大和証券ヘルス財団 平成 29 年度（第 44 回）調査研究助成 テーマ：「施設内虐待予防のためのセルフチェックシート開発に向けた介護老人福祉施設職員の意識調査」100 万円、2017 年 11 月～2018 年 10 月、研究代表者
- (2) 平成 26-29 年度 科学研究費補助金【基盤研究 C】研究代表：本郷秀和、テーマ：「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」468 万円（総額） 共同研究者

4. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本高齢者虐待防止学会

5. 担当授業科目

- (1) 「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」(2 単位・1 年前期)
- (2) 「教養演習」(1 単位・1 年前期)
- (3) 「プレ・インターンシップ」(2 単位・1・2 年通年・共同)
- (4) 「相談援助演習 A」(2 単位・2 年通年)
- (5) 「相談援助実習指導Ⅰ」(3 単位・2 年通年・共同)
- (6) 「相談援助実習指導」(3 単位・3 年通年・共同)
- (7) 「相談援助実習」(4 単位、3 年通年)
- (8) 「相談援助演習 C」(1 単位、3 年後期)
- (9) 「社会福祉学演習」(4 単位、3 年後期～4 年前期・通年)
- (10) 「卒業論文」(6 単位・4 年後期)
- (11) 「社会福祉特講 A(ボランティア論)」(2 単位・2・3 年後期)

6. 社会貢献活動

- (1) 福岡県介護保険審査会 三者合議体委員
- (2) 川崎町地域包括ケアシステム推進委員
- (3) 飯塚市指定管理者評価委員会委員

7. 学外講義

- (1) 中津北高校出前講義「社会福祉入門」

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	講師	氏名	吉武 由彩
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2012年に九州大学大学院人間環境学府修士課程を修了。修士(文学)。日本学術振興会特別研究員(DC)、下関市立大学経済学部特任教員(地域貢献担当)等を経て、2017年に本学着任。主な研究分野は、福祉社会学、地域社会学。地域や親族集団の弱体化など、これまで人々の生活を支えていた対面的な連帯が弱まるなか、非対面的な連帯に着目し実証研究に取り組んでいる。具体的には、非対面のボランティア的行為の一例として献血を取り上げ、見知らぬ他者への贈与の実態を分析している。加えて、農山村における高齢者の社会参加活動、生きがい、社会関係や地域意識等に関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・吉武由彩, 2016, 「福祉——高齢化と支え合う社会」山本努編『新版 現代の社会学的解読——イントロダクション社会学』学文社, 115-136.
- ・吉武由彩, 2016, 「社会調査の名著——量的社会調査の成果」山本努編『新版 現代の社会学的解読——イントロダクション社会学』学文社, 177-185.
- ・吉武由彩, 2017, 「過疎地域における住民主体の地域福祉活動の展開とその可能性——下関市豊北町の事例から」難波利光編『地域の持続可能性——下関からの発信』学文社, 251-265.
- ・松本貴文・吉武由彩, 2017, 「大学による地域貢献の現状と課題——下関市立大学附属地域共創センターの事例から」難波利光編『地域の持続可能性——下関からの発信』学文社, 225-234.

<論文>

- ・吉武由彩, 2015, 「献血行動の規定要因分析——社会階層および社会関係との関わりから」下関市立大学学会『下関市立大学論集』59(2): 41-57.
- ・吉武由彩, 2016, 「社会的支援論」日本社会分析学会『社会分析』43: 101-107.
- ・松本貴文・吉武由彩, 2016, 「大学による地域貢献の現状とその可能性——下関市立大学附属地域共創センターを事例に」西日本社会学会『西日本社会学会年報』14: 75-81.
- ・土屋敏夫・外柁保大介・吉武由彩, 2016, 「城下町長府の歴史的遺産とその活用」下関市立大学附属地域共創センター『地域共創センター年報』9: 19-27.
- ・吉武由彩, 2017, 「多回数献血の規定要因分析」下関市立大学学会『下関市立大学論集』60(3): 167-184.
- ・吉武由彩, 2018, 「R.ティトマスの『贈与関係論』再考——社会的連帯の形成に向けて」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 1-18.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・水谷利亮・松本貴文・吉武由彩・吉津直樹, 2016, 『2015年度 長門市油谷宇津賀地区 調査研究報告書』(3章前半、2章および4章の一部などを担当).

<学会発表>

- ・吉武由彩, 「献血行動の規定要因」『第38回山口地域社会学会例会』, 山口, 2015年7月.
- ・Yui Yoshitake, "Helping Strangers: Exploring the 'Gift Relationships' in Blood Donation" J.I.S.R.I. e-ASIA 2015 (Tagawa, Japan), October 2015.
- ・吉武由彩, 「献血者における互酬的想定の意味するもの」『第131回日本社会分析学会例会』, 福岡, 2016年7月.
- ・吉武由彩, 「多回数献血の規定要因」『第42回山口地域社会学会例会』, 山口, 2016年11月.

月。

・吉武由彩, 「献血者とは誰か?—データからひも解くボランティア精神の現在と献血推進」『第41回日本血液事業学会』シンポジウム6「血液事業を支える献血者～若年層への献血構造改革～」, 福岡市(福岡国際会議場), 2017年11月2日(招待講演・シンポジウム).

<その他>

・土屋敏夫・外柁保大介・吉武由彩, 『城下町長府マップ』, 2016年3月.

③過去の主要業績

・吉武由彩, 2013, 「若年層における献血の一断面——福祉的行為の生成過程をもとに」日本社会病理学会『現代の社会病理』28: 117-126.

・吉武由彩, 2013, 「社会学的想像力の現代的意義と可能性——『他者性想像力』に着目して」日本社会分析学会『社会分析』40: 125-142.

・吉武由彩, 2014, 「非対面のボランティア的行為と想像力の問題——多回数献血者への聞き取り調査の結果から」西日本社会学会『西日本社会学会年報』12: 21-35.

3. 外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金(若手研究B)「過疎地域における共助の論理の検討による包括的ボランティア論の構築に関する研究」、2016～2018年度、研究代表者.

・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究B)「過疎地域の生活構造分析による人口減少に対応する地方社会モデルの再構築」、2016～2018年度、研究分担者(研究代表者: 高野和良・九州大学).

・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究B)「何が『被害者』の連帯を可能にするのか——『葉害HIV』問題の日英比較」、2017～2019年度、研究分担者(研究代表者: 本郷正武・和歌山県立医科大学).

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、西日本社会学会、日本社会分析学会、福祉社会学会、日本地域福祉学会、日本社会病理学会、山口地域社会学会、日本村落研究学会

6. 担当授業科目

社会調査実習・2単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

川崎町地域公共交通会議委員、田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員、田川市都市計画審議会委員

8. 学外講義・講演

・下関市立大学公開講座「生きづらさの社会学」2017年6月27日

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部	職名	助教	氏名	中藤広美
----	--------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育および保育者養成に携わった経験を基盤とした研究活動です。

① ペアレントトレーニングプログラムに関する研究

これまでプログラムの実施によって親たちはわが子の目標行動に対して環境の構造化、強化、スケジュールの活用などを用いるようになり、さらに養育スキルは上達し、それに伴い親自身の養育に伴うストレスや抑うつは減少することが明らかにすることができました。今後は、親の養育態度が質的に変化するを明らかにしていきたいと考えています。

② 子どもの行動と保育環境

①の研究を基に近隣の自治体の保育園で子どもの行動と保育環境についての研究にとりかかっています。具体的には園児の困った行動を目立たなくしたり、望ましい行動を増やしたりするための物理的・空間的環境の構造化、物的環境の選択、人的環境として保育者の手助けの方法、日課の展開について、実際の保育の場面で実態調査をし、効果的な保育環境のありかたについて検討をしています。今後も協力園と連携して調査や検討をすすめ、その効果の検証にあたりたいと思います。

③ 実習前・後における学生教育の課題と方法

保育を行う際の環境を整えることは、非常に重要かつ有益です。学生が保育・教育実習に臨むにあたって、自分を含めた環境資源をどのように利用しようとしているのかを把握し、よりよい学生教育のありかたを探っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

(論文)

・ 中藤広美、鷲野彰子「実習前教育における学生教育の課題と方法 —環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 17-31

・ 池田孝博、中藤広美、青柳領 「幼児期における「はだし保育」と体力の関連」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 73-83

(報告)

・ 中藤広美、酒井志織「ペアレントトレーニングを保育現場に応用するための講座および研修会の実践報告」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2016, Vol 25, No2 (印刷中)

・ 中藤広美 (単著)「子どもの望ましい行動をはぐくむ」, 福岡県立大学公開講座 I 『現代を生きる子どもたち』第1回報告書, 福岡県立大学附属研究所, 2015.

②その他 最近の業績

・ 中藤広美、酒井志織, 『ペアレントトレーニングを保育の視点へ汎用するためのプログラムの検討 (1)』—A 市内における講座の事例を通して—, 日本発達心理学会, (2017. 3. 27)

・ 酒井志織, 中藤広美, 『ペアレントトレーニングを保育の視点へ汎用するためのプログラムの検討 (2)』—A 市内における研修の事例を通して—, 日本発達心理学会, (2017. 3. 27)

・ 中藤広美、渡辺好庸, 『靴の装着が足部骨格および歩容の偏倚などを有する子どもに及ぼす影響』, 第12回子ども学会議 (日本子ども学会学術集会) (2015. 10. 10),

- ・ 中藤広美・鷲野彰子, 『実習前における学生の環境構成についての意識の現状と課題』, 全国保育士養成協議会第54回研究大会(2015.9.23)
- ・ Yoko Korenaga, Kazuko Yoshioka, Hiromi Nakafuji, Emiko Nakamura, Shiori Sakai, Kiyoko Shinaya, & Kyosuke Fukuda, 『IMPROVEMENT OF TEACHERS' SKILL FOR CHILDREN' S BEHAVIORAL PROBLEM IN SCHOOLS THROUGH A COGNITIVE-BEHAVORIAL APPROACH BY PARENT TRAINING』, J. I. S. R. I e-ASIA2015 (2015.10.1)

③過去の主要業績

- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」 福田恭介、中藤広美 2000年11月30日
- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価(2)」福田恭介、中藤広美、本多潤子、興津真理子 2005年3月17日
- ・ 西原尚之、中藤広美、『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～/母子世帯・父子世帯』福岡県監査保護課・受託研究報告書、2008・3
- ・ 中藤広美「1部-4,2部-1,4,5,6,3部-8」福田恭介編、『ペアレントトレーニング実践ガイドブック-きょうとうまくいく子どもの発達支援-』, あいり出版, 2011年

3. 外部研究資金

4. 受賞 なし

5. 所属学会 日本保育学会、日本発達心理学会、日本こども学会、九州心理学会

6. 担当授業科目

保育内容・環境Ⅰ、保育内容・環境Ⅱ、幼児教育心理学、保育・教職実践演習(幼稚園)

7. 社会貢献活動

NPO 福祉用具ネット理事、福岡県保健所運営協議会委員、社会福祉法人三和会評議員選任・解任委員、福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

- ・ 『特別支援教育を行うためのスキルアッププログラム(福岡県立大学)-小学校・養護学校・幼稚園・保育園の先生方向へ-』, 6月2日, 6月16日, 6月30日, 7月14日, 7月28日
- ・ 嘉麻市公立保育所職員等研修会, 『乳幼児及び気になる子の発達支援について-子どもを理解するところみ-』, 2018年2月2日
- ・ 幸袋こども園職員研修会, 『子どもの望ましい行動をはぐくむ～ペアレント・トレーニングの視点を保育に～』, 10月20日
- ・ 『保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」(直方市)』, 1月5日, 1月12日, 1月26日, 2月9日, 2月23日

9. 附属研究所の活動等

- ・ お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)
- ・ 特別支援教育スキルアッププログラム
- ・ 足と靴の相談室
- ・ おもちゃとしょかん・たがわ
- ・ 福祉用具研究会
- ・ 生涯福祉研究センターHP更新 その他

所属	人間社会学部	職名	助教	氏名	畑 香理
----	--------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族の方への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。

近年、我が国の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げています。効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会とをつなぎ、患者や家族の方を支援していく役割を担っています。地域での安寧な生活を継続できる社会が求められる中、今後ますます医療ソーシャルワークの専門的支援方法の向上が必要になってくると考えます。

そのため、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践の課題に対する検討等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・本郷秀和・畑香理・鬼崎信好・永田千鶴「基礎資格別にみた高齢者虐待の認識に関する介護支援専門員の課題－6政令市における看護職・介護職・相談援助職の視点の検討－」『九州社会福祉学』第14号、日本社会福祉学会九州部会、2018年3月。
- ・畑香理・住友雄資・奥村賢一・平林恵美・平川明美「2016年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－事前学習の充実と実習報告会に向けた取り組みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻（1）、2017年9月。
- ・畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・平川明美「2015年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－新カリキュラム完成年度の取り組みについて－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻（1）、2016年9月。
- ・畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介「2014年度教育実践報告：旧カリ『精神保健福祉援助実習』・新カリ『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻（1）、2015年9月。

②その他最近の業績

- ・本郷秀和・畑香理・永田千鶴・鬼崎信好「基礎資格別にみた介護支援専門員の高齢者虐待の認識状況等に関する研究－全国6政令市における質問紙調査を通じて－」日本社会福祉学会九州地域部会第58回大会 口頭発表（会場：九州看護福祉大学）、2017年5月。
- ・畑香理・本郷秀和・永田千鶴・荒木剛「介護支援専門員の高齢者虐待の遭遇経験と兆候察知の現状（その1）－福岡市・北九州市に着目して－」日本社会福祉学会九州地域部会第57回大会 口頭発表（会場：長崎ウエスレヤン大学）、2016年6月。

③過去の主要業績

<著書>

- ・畑香理「第15章 社会福祉の実践事例：医療ソーシャルワーカーと多職種連携」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第3版）』講談社、2017年2月。

<論文>

- ・今村浩司・本郷秀和・畑香理「成年後見制度に関する一考察－北九州成年後見センターの取り組みを参考に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第19巻（2）、2011年1月。

<その他>

- ・住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』一新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻（1），2014年9月。

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業【基盤研究C】研究代表者：本郷秀和（福岡県立大学）「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」平成26年度～平成29年度，研究分担者。
- ・科学研究費助成事業【若手研究B】「大腿骨骨折を経験した女性高齢者への支援に関する基礎的研究」平成28年度～平成29年度，研究代表者。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会
日本保健福祉学会
日本ソーシャルワーク学会
日本医療社会福祉学会
日本高齢者虐待防止学会
日本地域福祉学会
日本医療ソーシャルワーク学会
福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年
社会福祉特講C・2単位・3年・前期
精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・日本社会福祉学会 九州地域ブロック事務局
- ・日本社会福祉学会 全国フォーラム企画・運営委員
- ・福岡県立大学社会福祉学会 事務局
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会 委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県筑紫地域医療ソーシャルワーカー研修 講師，テーマ「福祉支援と記録－医療福祉編－」（会場：福岡徳洲会病院），2017年11月。
- ・宗像市在宅介護家族の会 相談員研修会 講師，テーマ「相談援助における援助者の基本的姿勢について」（会場：宗像市社会福祉協議会），2017年7月。
- ・福智町社会福祉協議会主催 心配ごと相談員等研修会 講師，テーマ「相談員の基本的姿勢～相談時のラポールの形成と課題整理～」（会場：福智町社会福祉協議会），2017年5月。

9. 附属研究所の活動等

- ・平成29年度リカレントセミナー運営担当スタッフ

所属	人間社会学部 生涯福祉研究所	職名	助教	氏名	二見妙子
----	----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学研究を土台としたインクルーシブ教育（保育）の研究を行っています。これまでには、1970年代に日本各地で展開された障害児教育運動の分析を行いました。今後は、インクルーシブ保育（教育）を発展させるための実践内容の研究を進めたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- (1) 『インクルーシブ教育の源流—1970年代の豊中市における原学級保障運動』
(現代書館;2017年4月15日出版)

<論文>

- (1) 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」
(熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文 2016年1月)

②その他最近の業績

<学会報告>

- (1) 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」
(障害学研究会九州沖縄部会；九州看護福祉大学2017年3月19日)
- (2) 「共生社会実現に向けたインクルーシブ教育の推進と『個別カルテ』の関係—1970年代の大阪府豊中市北丘小学校の取り組みを事例に」
(公教育計画学会：専修大学神田校舎2017年6月18日)

③過去の主要業績

- (1) 「『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編
『共生の障害学』2012年 第6章。
- (2) 「子どもの声をどのように聞き、どのように伝えるか」堀正嗣編
『子どもアドボカシー実践講座』2013年158-161頁。
- (3) 「インクルーシブ教育を再活性化する要因—大阪府豊中市1970年代の運動における条件整備論の分析から」公教育計画学会編『公教育計画研究4』2013年76-91頁。
- (4) 「大阪府豊中市における障害児優先入園（所）運動の経緯—保育者の「加配」をめぐる」公教育計画額改編『公教育計画研究5』2014年134-144頁。

3. 外部研究資金 なし

4. 受賞 なし

5. 所属学会

障害学会、公教育計画学会 日本社会福祉学会

6. 担当授業科目

障害児保育・2単位・2年・通年、
教育課題研究・2単位・大学院1年・前期・オムニバス
教育課題演習・2単位・大学院1年・後期・オムニバス

7. 社会貢献活動

- (1) 家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。
(2) 福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

- (1) 「インクルーシブ教育の源流—1970年代の豊中市における原学級保障運動」

- (公益社団法人子ども情報研究センター 2017年8月11日)
(2) 「インクルーシブ教育について」
(苅田町人権研究会特別支援教育部会 2017年8月23日 苅田中学校)

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター：アドボチャイルド

(子どもの権利の立場から子どもの声を聴く市民を養成する講座)

- (4月) 学習会、子どもの権利について
(5月) 学習会、子どもの時間聞いて欲しかった私の気持ち
(6月) 学習会、就学前の子どもに寄り添うということ (講師、河西千津美さん)
(7月) 夏祭り、伊田商店街にて
(8月) オープンキャンパス、パネル展示と試写会「風は生きよという」
(映画「風は生きよという」上映実行委員会)
(10月) 学習会、「発達障害当事者の経験—共に生きる社会を求めて」
(講師 井上裕介さん)
(8月～3月) 香春町子ども食堂協力 (月1～3回)

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・大原孫三郎の研究
- ・地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・石崎龍二、佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価に基づいた教育効果の検証(2017)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、2018年2月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2016年)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第1号、2017年9月
- ・田代英美、佐藤繁美、菊池義昭「石井記念友愛社の事業展開と地域におけるネットワーク形成—児嶋草次郎理事長へのインタビュー記録から—」『石井十次資料館研究紀要』第18号、2017年8月
- ・「統計教育科目における学生の自己評価と学習到達度の分析(2016)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、2017年2月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2015年)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第1号、2016年9月
- ・石崎龍二、佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2015年)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、2016年2月

②その他最近の業績

- ・田代英美、佐藤繁美『公共社会学入門「公共性研究A(公共性の社会学)」テキスト』2017年4月

③過去の主要業績

- ・佐藤繁美『生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程』
「大原孫三郎の経営思想」、科学研究費研究成果報告書、2005年6月
- ・佐藤繁美『香春町史』、香春町資料編纂委員会 編、香春町史料編纂委員会、2001.3

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・日本社会学会
- ・関西社会学会
- ・社会分析学会

6. 担当授業科目

(学部)

- ・社会調査実習(補助) 2単位・3年・実習・通年
- ・データ処理とデータ解析Ⅰ(補助) 1単位・3年・演習・前期
- ・データ処理とデータ解析Ⅱ(補助) 1単位・3年・演習・後期

7. 社会貢献活動
8. 学外講義・講演
9. 附属研究所の活動等

所属	看護学部/基盤看護学系	職名	教授	氏名	石田 智恵美
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他、卒後教育の一貫として、卒後1～2年目の看護職者を対象とした、タスクマネージメント研修や、臨床の看護師を対象とした研究指導を行っている。また、看護実習指導者講習会、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・中本亮 石田智恵美 自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 — 自由記述をコーレスポネンダ分析して —, 福岡県立大学看護学研究紀要 2016年3月
- ・清水夏子 石田智恵美 看護学生の東洋(漢方)医学のイメージと「東洋医学概論」の受講意欲に関する調査研究, 福岡県立大学看護学研究紀要 2017年3月
- ・児玉裕美 石田智恵美 安酸史子 中堅看護師の新人看護師への教育的役割行動と自己効力感の関係, 産業医科大学雑誌 2017年12月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・石田智恵美 中本亮 看護学生の知識の構造化を目指した講義・演習・実習連携授業に関する研究 日本教育工学会 第31回全国大会 2015年9月 東京
- ・中本亮 石田智恵美 自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果 日本教育工学会 第31回全国大会 2015年9月 東京
- ・石田智恵美 看護実践力向上を目指した思考トレーニングプログラムの開発に関する研究 第35回日本看護科学学会 2015年12月 広島
- ・石田智恵美 看護学生の体温・血圧測定課題に関する思考とその効果 日本教育工学会 第32回全国大会 2016年9月 大阪
- ・石田智恵美 看護学生を対象とした看護の優先度決定のための思考訓練 第36回日本看護科学学会学術集会 2016年12月 東京
- ・石田智恵美 中本亮 看護学生の体温・血圧測定方法の判断基準とその理由 日本教育工学会 第33回全国大会 2017年9月 島根
- ・石田智恵美 既存の知識を実習で活用するための演習の開発 第37回日本看護科学学会学術集会 2017年12月 仙台

③過去の主要業績

- ・石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第10号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第6号 pp.23-48. 2006.
- ・石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究—会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第3巻 第2号 pp.37-53. 2007.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究C) 課題番号:16K119858 看護学生の知識の構造化を目指した演習・実習連携授業の開発

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教授学習心理学会, 日本赤十字看護学会 日本教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・2単位・1年・前期, ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部3年&看護学部4年・後期, 看護研究・2単位・3年・前期, 看護教育学・1単位・3年・前期, 看護実践論・1単位・3年・前期, 教師論・2単位・3年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年, 国際看護論・2単位・4年・後期, 看護管理論・1単位・4年・後期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

看護教育学特論・2単位・1年・前期, 看護教育学演習・2単位・1年・後期, 看護教育学・2単位・1年・後期, 看護管理学・2単位・1年・後期, 基盤看護学特別研究・8単位・1~2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡赤十字病院 事例研究・看護研究(論理的思考) ラダーレベルⅡの看護師対象: 10月
- ・嘉麻赤十字病院 卒後教育(卒後1年目, 2年目, 3年目の看護職者を対象とした, タスクマネージメント, 実習指導のための研修): 6月・8月・12月
- ・嘉麻赤十字病院 研究指導 5月~3月まで1回/月

8. 学外講義・講演

- ・純真学園大学 非常勤講師 「看護教育論」, 「看護教育方法論」, 「国際看護論」
- ・ウエストジャパン看護専門学校 非常勤講師 「国際看護論」
- ・糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師 「文献検索・文献購読」 「指導」
- ・認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」
- ・福岡県看護実習指導者講習会 「実習指導の評価」, 「実習指導の評価(リフレクション)」
- ・JCOH 病院看護師研修 「動機付けの方法と臨床現場での実際の支援のしかた」

所属	看護学部/基盤看護学系	職名	教授	氏名	江上 千代美
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上: トリプルP (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス (生体指標と質問紙)、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプルPを学んだ親は「子育てが楽しくなった。」「子育てに自信がついた。」「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプルPの名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

視察力に反映する看護アセスメントのシミュレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi(2015). Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children. *Brain Dev*, 37(9), 840-8.
- ・ 江上千代美, 長坂猛, 近藤美幸, 井垣通人, 田中美智子(2014). 下腹部と腰部の温巻法が生体に及ぼす効果の検討. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 11(2), 45-51.
- ・ 江上千代美, 長坂猛, 近藤美幸, 井垣通人, 田中美智子(2014). 温巻法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果. *日本看護技術学会*, 12(3), 34-9, 2014.
- ・ Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. *Brain Dev*. 36(3), 241-7, 2014.
- ・ 江上千代美, 近藤美幸, 福田恭介, 田中美智子(2012). 看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 10:13-20.
- ・ 江上千代美, 近藤美幸, 福田恭介, 田中美智子, 他(2012). 看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係. *看護人間工学研究誌*, 12:15-20.

②その他最近の業績

- ・ 江上千代美, 山下裕史朗(2015). 発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援-母親の変化と子どもの行動-. 第24回日本LD学会, 佐賀, 349-350.
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 他, 医療安全教育の有用性-眼球運動から解析した危険認知の変化-. 第12回日本看護技術学会 (浜松)
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 他, 看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較. 第39回日本看護研究学会(秋田)

- ・江上千代美,長坂猛,田中美智子他,温電法除去後の生体反応,第20回看護人間工学部会,横浜,2012.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介. 看護場面における看護学生の眼球運動と危険認知の特徴.日本看護研究学会,沖縄,2012.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介. 危険認知評価に用いる眼球運動指標の有効性—看護師の危険認知—,福岡,2012.
- ・Yamashita Y, Egami C, et.al. Effects of a Summer treatment program in Japan: used for ADHD battery assessment, The 1st Asian Congress on ADHD, Seoul, 2012

③過去の主要業績

- ・Yushiro Yamashita, Akiko Mukasa, Chizuru Anai, Yuko Honda, Chie Kunisaki, Junichi Koutaki, Yahuhiro Tada, Chiyomi Egami, Naoko Kodama, Masayuki Nakashima, Shin-ichiro Nagamitsu, Tyojiro Matsuishi: Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・江上千代美, 森田喜一郎, 石井洋平, 大矢崇志, 山下裕史朗, 松石豊次郎. アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討, 臨床神経生理学, 38:63-70, 2010.
- ・Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))27年度~29年度 交付金額4,810千円
研究課題、トリプルP介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか

4.

5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本LD学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態・病態看護学実験 2単位・2年次, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 総合実習・2単位・4年次・前期, 卒業研究・2単位・4年次・通年, 不登校引きこもり応用演習・2単位・4年次

<大学院>

Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年次

7. 社会貢献活動

トリプルP実践活動: 久留米市・飯塚病院小児科・田川(福岡県立大学)

8. 学外講義・講演

- ・「トリプルP実践してみよう」2017年
- ・トリプルP講演会 主催: 幼児研究所 2017年
- ・眼球運動から見える看護 主催: 人間工学部会 宮崎 2015年

9. 研究所の活動等

- ・久留米大学小児科学

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	小池 祐子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

米国カンザス大学にて教育学 (TESL 専攻) 修士号、言語学博士号取得。主に語彙意味論、音韻学、第一言語獲得の研究を行ってきた。現在は、1) 日本人英語学習者に対する発音 (特に超文節音素) の指導、2) 第二言語／外国語学習者に対する明示的文法指導に焦点を置いた研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

Hayakawa, S., Koike, Y., & Otsu, R. (2016). *Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing*. Tokyo: Nan'un-Do.

<論文>

- Koike, Y. (2017). Grammar Instruction: Teaching English Aspect to Japanese learners of English. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Transformation in language education, 251-259*. Tokyo: JALT.
- Koike, Y. (2016). Survey of English Pronunciation Teaching: College teachers' practices and attitudes. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Focus on the Learner, 253-261*. Tokyo: JALT.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Koike, Y. L1 Influence on the Acquisition of English Aspect. 16th Hawaii International Conference on Education. Honolulu. Jan. 6, 2018
- Koike, Y. Teaching English aspect to Japanese students. 42nd Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Nagoya. Nov. 27, 2016
- Koike, Y. & Chamberlain, A. Pronunciation: Teachers' practices and attitudes. 41st Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Shizuoka. Nov. 22, 2015

<講演>

Koike, Y. English Pronunciation instruction: Considering phonological differences between English and Japanese. JALT Ibaraki Chapter December Meeting. Dec. 12, 2015

③過去の主要業績

- Koike, Y. (2014). Explicit pronunciation instruction: Teaching suprasegmentals to Japanese learners of English. In N. Sonda & A. Krause (Eds.), *JALT 2013 Conference Proceedings, 361-374*. Tokyo: JALT.
- Koike, Y. (2009). Telicity, agentivity and lexical information: motion events and the *te iru* construction in Japanese. *Studies in Language Sciences 8, 197-211*. Tokyo: Kuroshio Publishers.
- Koike, Y. (2002). The acquisition of Japanese motion verbs: lexicalization types and the interaction between verbs and particles. Ph. D dissertation. University of Kansas

5. 所属学会

言語科学会、全国語学教育学会、大学英語教育学会

6. 担当授業科目

<学部>

リーディングⅠ・1単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、リーディングⅡ・1単位・2年・前期、リーディングⅢ・1単位・4年・前期、ライティング・1単位・1年・後期、オーラルコミュニケーションⅢ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、グローバル社会論・2単位・1年・後期、Japanese Language・1単位・留学生・後期

<大学院>

英語文献講読特論・2単位・1年・前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成18年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学。

主な研究として、看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる。この研究は、平成16年度～平成17年度の科研(基盤研究(C))に採択され、引き続き平成18年度～平成20年度科研(基盤研究(C))に採択され、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成23年度～平成25年度科研(基盤研究(C))が採択され、平成24年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。平成25年度は本実験を実施し、一部興味深い結果をえることができた。平成26年度は新たに科研(平成26年度～平成29年度挑戦的萌芽研究)が採択され、今後も引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んだ。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

永嶋由理子. 特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント, 患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント. 看護人材育成, 8・9月号, p50-55, 2015.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・加藤法子, 淵野由夏, 永嶋由理子. 看護学生の吸引動作の時間的特徴, 日本看護研究学会第22回九州・沖縄地方会学術集会, 佐賀, 2017.
- ・松枝美智子, 江上史子, 渡邊智子, 松井聡子, 村田節子, 永嶋由理子. 医療機関等の看護管理者のCNSコースの学生の能力強化に関する要望. 日本看護研究学会第43回学術集会, 愛知, 2017.
- ・松枝美智子, 渡邊智子, 江上史子, 村田節子, 永嶋由理子. A県の医療機関等に所属する看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ: 雇用中もしくは雇用したい理由. 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会, 福岡, 2015.
- ・江上史子, 松枝美智子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. APNの雇用ニーズ調査: 看護管理者が雇用しない理由. 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会, 福岡, 2015.
- ・松枝美智子, 村田節子, 江上史子, 松井聡子, 永嶋由理子. A県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師(Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援. 日本看護研究学会第41回学術集会抄録集, 広島, 2015.
- ・森田愛璃香, 於久比呂美, 永嶋由理子. 頸部温巻法と腰部温巻法がもたらす生理的反応の比較. 第28回日本看護研究学会 中国・四国地方会学術集会, 島根, 2015.
- ・山名栄子, 田中美智子, 永嶋由理子, 照屋典子, 當山裕子, 清水かおり, 中嶋恵美子, 斉藤ひさ子, 末永陽子, 日高艶子, 石橋通江. 九州沖縄看護系大学8大学の共同連携による科目の統一コード化. 第40回日本看護研究学会学術集会, 奈良, 2015.
- ・山名栄子, 江上千代美, 田中美智子, 松浦賢長, 永嶋由理子, 矢野雅子, 松尾ミヨ子, 清水かおり, 斉藤ひさ子, 中嶋恵美子, 正野逸子, 石橋通江, 宮林郁子, 北川明, 安酸史子. 第34回日本看護科学学会学術集会, 愛知, 2014.

③過去の主要業績

- ・永嶋由理子, 山川裕子. 血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2), p1-8, 2005.
- ・永嶋由理子. 看護過程の考え方と進め方(基礎編). 月刊看護さろく, 17(1), p75-84, 2007.
- ・永嶋由理子. フィジカル・アセスメントの基礎知識. 臨床看護臨時増刊号, 34(4), p433-454, 2008.

3. 外部資金獲得

研究代表者, 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (挑戦的萌芽研究), 「看護技術の熟達化過程に伴う「感情変化」と「習熟度」に関する実証研究」, 3,510,000 円, 平成 26 年度～29 年度

4. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

5. 担当授業科目

〈学部〉

基礎看護学概論・2 単位・1 年・前期, ケアリング論・1 単位・1 年・前期, 基礎看護学実習I・1 単位・1 年・前期, 基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期, フィジカルアセスメント論・1 単位・2 年・前期, 看護過程・1 単位・2 年・前期, 基礎看護学実習II・2 単位・2 年・前期, シンブトンマネジメント論・1 単位・後期, 看護研究・1 単位・3 年・後期, 統合実習・2 単位・4 年・前期

〈大学院〉

看護理論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学特論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学演習・2 単位・1 年, 基礎看護学特別研究・1～2 年・通年

6. 社会貢献活動

日本看護研究学会評議員

- ・田川市住宅政策審議会委員
- ・福岡ゆたか中央病院地域協議会委員

7. 学外講義・講演・その他

- ・永嶋由理子, 「看護過程」福岡県看護協会 看護師研修会, 2017 年 8 月
- ・永嶋由理子, 「フィジカルアセスメントの実際」, 北九州総合病院 卒後研修会, 2017 年 8 月

9. 附属研究所の活動等

附属研究所長

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	芋川 浩
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1987年に大阪大学 大学院医学研究科を修了後、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)を経て、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリやプラナリアなどを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器・器官を失うと、元通りに再生させることはできないが、アカハライモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを一度失っても、その後完全に再生できる(イモリ(井守)はヤモリ(家守)とは違いますよ!)。また、近年のめざましい生命科学の進歩により、手足をつくる主な遺伝子群もわかってきた。実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を用いて手足を形成している。では、同じ遺伝子を持っているのに、なぜヒトは再生できず、イモリは再生できるのか?その難問を解明しようと研究を進めている。

近年注目されているiPS細胞を使っても、3次元の臓器・器官の作成は世界でまだ誰も成功していない。このような夢の再生医療の実現をイモリやプラナリアから教えてもらいたいと考え、2017年、世界で2例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。日本初の樹立である。このイモリの細胞株を使って、試験管内での3次元組織構築に挑んでいる。

さらに、このような再生医学的アプローチばかりではなく、独自で「スキนครリーム」を開発し、2016年、福岡県立大学初の特許取得にも成功した。さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、興味深い結果も得ている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』(改訂追加した)木星舎, p1-144, 2017年
- ・芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』木星舎, p1-136, 2016年

<論文>

- ・芋川 浩, 二松沙耶菜, 伊藤みゆき. 『純粋ハチミツが必ずしも抗菌効果をもつとは限らない』福岡県立大学看護学研究紀要, 15 (2018)
- ・加藤法子, 鳥越郁代, 吉村美奈子, Ian Stuart Gale, 芋川 浩, 許棟翰, 岡本雅享, 松浦賢長. 『本学学生の国際交流に関する意識調査』福岡県立大学看護学研究紀要, 15 (2018)
- ・芋川 浩, 村瀬美晴, 平神摩紀, 松崎里咲. 『シナモンリーフ精油の殺菌抗菌効果の解析』福岡県立大学看護学研究紀要, 14: 21-29, (2017)
- ・Imokawa Y., Seikoba M., & Akiyoshi Y. 『Sterilization effect of the alcoholic beverages which aimed at the disaster medical care.』 JISRI 2016, OB6, p1-4, (2016)
- ・芋川 浩. 『皮膚創傷部治癒用組成物及び同皮膚創傷部治癒用組成物の製造方法』日本国特許庁・特許公報(B2) p1-20, 2016年
- ・芋川 浩, 平神摩紀, 松崎里咲, 村瀬美晴. 『実用化に向けた精油の殺菌抗菌効果の解析 その1. タイムレッド』福岡県立大学看護学研究紀要, 13: 75-80, (2016)
- ・Imokawa Y., Baba H., Fukada R., Baba Y., & Koyamatsu N. 『Medical applications of green tea using antibacterial effect.』 JISRI 2015, p1-4, November (2015)

②その他最近の業績

<国際シンポジウム>

- Imokawa Y., Seikoba M., & Akiyoshi Y. 『Sterilization effect of the alcoholic beverages which aimed at the disaster medical care.』 Joint International Symposium on 「Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution」 and 「e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2016」, 7 December, (2016, Fukuoka)
- Imokawa Y., Baba H., Fukada R., Baba Y., & Koyamatsu N. 『Medical applications of green tea using antibacterial effect.』 Joint International Symposium on 「Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution」 and 「e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015」, 30 October -1 November, (2015, Fukuoka)

<国内学会>

- 芋川 浩. 『大震災時に、簡易消毒薬として何が使えるのだろうか?』日本看護研究学会 第43回学術集会 (2017年 東海市)
- 芋川 浩. 『純粋ハチミツの抗菌効果の解析』日本看護研究学会 第42回学術集会 (2016年 つくば)
- 芋川 浩. 『本当に緑茶に抗菌効果はあるのだろうか? 緑茶は看護技術に応用できるのだろうか?』日本看護研究学会 第41回学術集会 (2015年 広島)
- 芋川 浩. 講演会『生と性』 福岡県立宗像中学校 (2016年 2月 22日)

③過去の主要業績

<論文>

- Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brookes. A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration. *Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci.*, **359**, 765-776 (2004).
- Y. Imokawa, P. B. Gates, Y.T. Chang, H-G. Simon & J. P. Brookes. Distinctive Expression of Myf-5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells. *Int. J. Dev. Biol.*, **48**, 285-291 (2004).
- Y. Imokawa & J. P. Brookes. Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration. *Curr. Biol.* **13**, 877-881 (2003).
- Y. Imokawa & K. Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* **94**, 9159-9164 (1997).

<著書>

芋川 浩 (分担)再生一甦るしくみ— 吉里勝利編(第4-5章 担当) 羊土社 第4-5章(p82-136), 1997年

5. 所属学会

日本発生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験A・2単位・2年生・前期、生態病態看護学実験B・2単位・2年生・前期、グローバル社会論・2単位・2年生、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情(科学事情 I&II)・2単位・交換留学生・後期、がん病態学・2単位・大学院修士1年・前期、老年病診断治療学・2単位・大学院修士1年・前期、老年看護学特論・2単位・大学院修士1年・前期

7. 社会貢献活動

- 宗像市(教育委員会)・福津市(教育委員会)による青少年育成事業の委員として、海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導している

- ・宗像市(環境課)の嘱託事業としての「人づくりでまちづくり事業」として、宗像市の市花「かのこゆり」保護活動を行っている「かのこゆり研究会」の役員委員として活動している

8. 学外講義・講演

〈テレビ番組出演〉

- ・平成30年02月10日 KBCテレビ 『土曜もアサデス』(電話インタビュー、写真付き)

学外講義

- ・平成29年04月27日 福岡天神エルガーラホール (入試説明会)
- ・平成29年06月13日 ヒルトン福岡シーホーク (入試説明会)
- ・平成29年06月15日 福岡県立小倉東高等学校 (高校訪問)
- ・平成29年06月22日 福岡県立久留米高等学校 (高校訪問)
- ・平成29年07月13日 福岡舞鶴高等学校 (本学にて)
- ・平成29年07月25日 福岡県立香住丘高等学校 (高校訪問)
- ・平成29年07月31日 福岡県立八幡高等学校 (高校訪問)
- ・平成29年09月14日 ホテル日航熊本 (入試説明会)
- ・平成29年10月14日 福岡県立八幡南高等学校 (高校訪問)

9. 附属研究所の活動等

- ・特許の取得 (平成28年)
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題 などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

田中哲也編著、四戸智昭著。"第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー"。『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方2017年度版』。(2017)。福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会。

②その他の業績

<学会発表>

四戸智昭。「ひきこもりの子を抱える「支援困難な母」の内的な性格要因の分析についてー事例検討を中心にー」。日本嗜癲行動学会第28回学術集会。仙台。(2017,10)

四戸智昭。矢野彩佳「アダルト・チルドレンの心理測定尺度に関する一考察」。日本嗜癲行動学会第28回学術集会。仙台。(2017,10)

<シンポジウム>

北九州圏西友の会創立50周年記念市民公開セミナー、「アルコール健康障害対策基本法と自助グループの役割」パネリスト、2016年11月13日

<エッセイ>

- ・福岡市楠の会会報37、「人生の選択史を増やす」(2015,1)
- ・福岡市楠の会会報38、「子どもに話しかけるといこと」(2015,2)
- ・福岡市楠の会会報39、「まずは私から心のルールを書き換えよう」(2015,4)
- ・福岡市楠の会会報40、「そのいたずらが意味するもの」(2015,6)
- ・福岡県楠の会会報41、「嘘に隠されたルール」(2015,10)
- ・福岡県楠の会会報42、「母という役割の衣を脱ぐとき」(2015,12)
- ・福岡県楠の会会報43、「ありのままを受け入れるということ」(2016,3)

③過去の主要業績

- ・四戸智昭著。(単著)。『浪費を止める小さな習慣』。(2001)。光文社。
- ・丸山久美子編著。柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり。"第14章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー"。『21世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』。(2008)。東京、アートアンドブレイン出版。
- ・西日本新聞朝刊連載、家族百景II、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」2013年8月13日～12月24日(全19回)

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究C) H28~30「不登校・ひきこもりの子を抱える「支援困難な親」のためのセルフチェックリストの研究」(研究代表者 四戸智昭)

4. 所属学会

日本嗜癲行動学会(学会誌編集委員)、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本心理臨床学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

5. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癲・2単位・1年・後期、看護学研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・留学生・前期、日本事情A・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院家族社会学特論・2単位・1年・後期

6. 社会貢献活動

- ・福岡県北九州市地域薬物関連問題連絡会議・委員
- ・嘉穂鞍手保健福祉環境事務所「ひきこもり個別相談会」・相談員
- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・田川市教育委員会審議会・委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・日本テレビ「世界一受けたい授業「依存症について」」2018年2月17日放送分・監修
- ・グリーンコープ福岡生活困窮者自立支援事業相談対応・アドバイザー
- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策再乱用防止施策・アドバイザー

7. 学外講義・講演

- ・楠の会研修会講師、2017年6月10日
- ・筑後市社会福祉協議会講演講師、2017年7月21日
- ・筑後市社会福祉協議会講演講師、2017年7月28日
- ・福岡県市町村研修所ディベート研修会講師、2017年9月7~8日
- ・筑後市社会福祉協議会講演講師、2017年9月15日
- ・筑後市社会福祉協議会講演講師、2017年9月22日
- ・北九州市精神保健福祉センターひきこもりの家族支援講師、2017年10月27日
- ・飯塚市医師会講演講師、2017年11月7日
- ・福岡市早良区児童虐待防止研修会講師、2017年11月17日
- ・筑豊アディクションフォーラム講師、2017年11月26日
- ・名古屋市ひきこもり支援センター講演講師、2017年12月1日
- ・楠の会研修会講師、2018年1月19日
- ・グリーンコープ研修会講師、2018年2月17日
- ・水巻看護助産学校特別講義講師、2018年2月20日
- ・福岡県薬物乱用防止研修会講師、2018年3月1日

8. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/基盤看護学系	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士(工学)。細菌学演習を中心とした授業改善・教材開発、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援(Microsoft Office Specialist 取得)など、ICTテクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・杉野浩幸、イベント・研修のプランニングに欠かせない！ 医療安全情報を検索するコツ&お役立ちサイト情報、2015年2月、病院安全教育、vol.2 no.4、pp21-28
- ・松井聡子、政時和美、杉野浩幸、村田節子、中井裕子、視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～、福岡県立大学看護学研究紀要、2015年

②その他最近の業績

<学会発表>

松井聡子、政時和美、杉野浩幸、村田節子、中井裕子:視聴覚教材が成人看護技術演習の事前学習に及ぼす影響～eラーニングシステムを使用して～、日本看護研究学会・学術集会、茨城、2016年

③過去の主要業績

- ・H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* **174**:2485-2492
- ・H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* **269**: 1957-1967
- ・H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula* lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having β -1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **68**:757-760

3. 外部研究資金

科研費(基金分)、基盤研究C、研究課題:高齢者施設の終末期ケアマニュアルの開発-介護付有料老人ホームに焦点を当てて(研究分担者)

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

感染・免疫看護学演習・1単位・1年・後期、生態・病態看護学実験A, B・1単位・2年・前期、看護研究・2/15単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基礎看護学系	職名	准教授	氏名	渋野 由夏
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

・基礎看護学教育に関する研究

- ①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し、看護技術習得を促進するための効果的な看護技術教育方法の開発を行っている。
- ②基礎看護学実習の実習前後の思考動機、看護師イメージ、学習意欲などの変化の比較から基礎看護学実習の教育効果の検証および評価を行っている。

・看護職の職業性ストレスおよび職場環境に関する研究

- ①訪問看護師の職業性ストレス測定尺度を開発し、活用法等について検討を行っている。
- ②看護職の職業性ストレスおよび職場環境等について、法律学的アプローチを加えながら検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・渋野由夏：労働者のメンタルヘルスと労災補償—厚生労働省「労災認定基準」の検討を中心として—, 法学論集, 21(1・2・3), p.71-133, 2015.
- ・増満誠, 藤野靖博, 榎直美, 村田節子, 渋野由夏, 松枝美智子, 宮城由美子, 鳥越郁代, 吉田静, 坂田志保路, 山下清香, 阿部眞理子, 吉田恭子, 江上千代美, 石村美由紀, 吉川未桜, 柴北早苗, 原田直樹, 杉本みぎわ：新旧カリキュラムにおける臨地実習での看護技術習得状況, 福岡県立大学看護学研究紀要, 14, p.65-73, 2017.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・渋野由夏, 加藤法子, 永嶋由理子：労災認定基準に依拠した看護職業務におけるストレスの実態, 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015.
- ・加藤法子, 渋野由夏, 永嶋由理子：看護学生の吸引動作の時間的特長, 第22回日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会, 2017.

<報告書>

永嶋由理子, 津田智子, 渋野由夏, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美：看護技術の安楽に関する科学的検証. 平成25・26年度研究奨励交付金研究成果報告書, p.45-46, 2016.

③過去の主要業績

- ・渋野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子：在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 3(1), p.33-37, 2005.
- ・渋野由夏：リフレイミング. 安酸史子編著, 目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術, メディカ出版, 2007.
- ・渋野由夏：健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者. 安酸史子, 奥祥子編, 患者がみえる成人看護の実践, メディカ出版, 2007.
- ・渋野由夏, 永嶋由理子, 中野榮子, 山名栄子, 加藤法子, 津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要, 4(2), p.82-87, 2007.
- ・渋野由夏, 加藤法子, 中野榮子, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子：基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), p.89-96, 2008.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生学会, 日本産業衛生学会

6. 担当授業科目

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期, シンptomマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年, 看護理論・2単位・1年・前期, 基礎看護学特論・2単位・1年・前期, Advanced フィジカルアセスメント・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護学会研究発表支援員 (平成 28 年 4～平成 31 年 3 月)
- ・ 平成 29 年度福岡県看護実習指導者講習会講師 (平成 29 年 8 月 23 日)
- ・ 第 51 回 田川市立病院看護研究発表会講評 (平成 29 年 10 月 28 日)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	加藤 法子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や吸引技術教育に関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

加藤法子, 鳥越郁代, 吉村美奈子, Ian Stuart Gale, 芋川浩, 許棟翰, 岡本雅享, 松浦賢長: 本学学生の国際交流に関する意識調査、福岡県立大学看護学部研究紀要、15 (掲載予定)

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・加藤法子, 瀧野由夏, 永嶋由理子: 看護学生の吸引動作の時間的特徴、第 22 回日本看護研究学会九州・沖縄学術集会地方会、2017.
- ・瀧野由夏, 加藤法子, 永嶋由理子: 労災認定基準に依拠した看護職業務におけるストレスの実態、第 35 回看護科学学会学術集会、2015.

<調査研究報告書>

- ・加藤法子: 気管内吸引の吸引圧・吸引時間調整指標の開発 (平成 25~27 年科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究研究成果報告書)(研究代表者))
- ・加藤法子, 鳥越郁代, 吉村美奈子, Ian Stuart Gale, 芋川浩, 許棟翰, 岡本雅享, 松浦賢: 国際交流プログラムの教育効果と学びの構造に関する検討 (平成 28 年度研究奨励交付金 全学横断型プログラム報告書) (研究代表者)
- ・加藤法子, 松浦賢長, 平部康子, 芋川浩, 鳥越郁代, 岡本雅享, Ian Stuart Gale: 国際交流プログラムの構造化に向けた調査研究 (平成 27 年度研究奨励交付金全学横断型プログラム報告書) (研究代表者)

③過去の主要業績

- ・加藤法子, 呼吸困難感により自宅にこもりかちな在宅酸素療養患者. 安酸史子, 奥祥子編, 患者がみえる成人看護の実践, メディカ出版, 2007.
- ・加藤法子. 呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント. 臨床看護, 34 (4), 457-490. 2008.
- ・加藤法子, 瀧野由夏, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子, 中野榮子: 基礎看護実習 I における教育効果の検討: 実習前後の学習意欲の変化から. 福岡県立大学看護学研究要, 5(2), 52-60. 2008.
- ・加藤法子: 高齢者の栄養管理. 三原博光, 松本百合美編著, 豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援, 関西学院大学出版会, 2013.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基金分) (基盤研究(C))29 年度~31 年度 交付金額 2,470 千円
研究課題、経験知に基づいた吸引技術教育の検討 (研究代表者)

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 統合実習・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護理論・2単位・1年・前期,

7. 社会貢献活動

- ・田川市男女共同参画委員会委員
- ・ゆめっせフェスタ実行委員会
- ・福岡県看護協会研究発表支援員
- ・福岡県看護協会学会委員会委員

9. 附属研究所の活動等

- ・看護実践教育センター
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標としています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的な不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

②その他の業績

- ・岩崎玲奈・村田節子・櫛直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」、第29回日本がん看護学会、2015年。
- ・岩崎玲奈・村田節子・櫛直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」、第29回日本がん看護学会、2015年。
- ・中川清子・山下清香・尾形由起子・小出昭太郎・小野順子、「インスリン療法を勧められ在宅で注射を開始した時期の相違による2型糖尿病患者の特徴」、第76回日本公衆衛生学会総会、2017年。

③過去の主要業績

- ・小出昭太郎・田村誠、「1991年英国NHS改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・小出昭太郎・田村誠、「イギリスNHS成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、東北哲学学会

6. 担当授業科目

<学部>

保健社会学・1単位・1年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、看護研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・2単位・留学生・前期

<大学院>

データ解析特論・2単位・修士1年・前期、高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論・2単位・修士1年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	塩田 昇
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業後、産業医科大学病院（集中治療室）で看護師として6年、その後、専門学校、大学で18年勤務、平成29年4月に着任しました。

九州工業大学大学院生命体工学研究科で脳情報を専攻し平成28年に博士後期課程を修了しました。専門は脳科学で、看護と関連した研究を進めています。具体的には、子育てでの親のセルフケア援助能力を高める関り(トリプルP)による子どもと親自身の影響について生理学的指標を用いて研究しています。教育に関しては薬害についての講演を聴いた学生の反応について質的方法を用いて研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. *J Physiol Sci*.vol66 no3,p265-73. 2016.
- ・ 塩田昇.セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究.九州工業大学大学院博士論文.2016.年
- ・ 小田日出子,清村紀子,高橋甲枝,水原美地,塩田昇.安全・安楽な下肢温熱刺激法に関する検討.クロスオーバースタディによる準実験研究.西南女学院大学紀要 Vol.21 ,p9-18, 2017年
- ・ 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子. デイバートを活用した初年次教育の試み—看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—.日本看護学会論文集.看護教育 Vol46,p71-74, 2016年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 塩田昇, 粟生修司, セルフケア行動の情動特性：うつ抵抗性との関連、第55回 日本心身医学会九州地方会、福岡、2016年
- ・ 粟生修司, 塩田昇, セルフケア行動における前頭前野モノアミン動態、第55回 日本心身医学会九州地方会、福岡、2016年
- ・ 塩田昇, 布花原明子, 村山由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子, アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—、第46回 日本看護学会、奈良、2015年
- ・ 布花原明子, 塩田昇, 村山由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子, アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果—、第46回 日本看護学会、奈良、2015年
- ・ 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子, デイバートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—、第46回 日本看護学会、奈良、2015年

③過去の主要業績

- ・ 塩田昇, 成清公弥, 増田明, 鶴岡朋子, 粟生修司.セルフケアの神経機構 グルーミングにおけるラット前頭前野のセロトニン・ドーパミン動態、2008年12月、年福岡県立大学看護学紀要、Vol.6no.1、p1-8.
- ・ Tsuruoka T, Monda M, Fujimoto T, Shiota N, Fueta Y, Ishidao T, Hori H, Aou S. Positive and negative effects of environmental chemicals on brain function in rodents.

Springer,2010 .Brain Inspired Information.p77-89.

- Masuda A, Narikiyo K, Shiota N, Aou S. Acquisition and extinction of Avoidance response by social interaction in rats. Springer, 2010.Brain Inspired Information.73-78.

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員、日本看護技術学会会員、日本生理学会会員、日本看護科学学会会員、日本心身医学会会員

6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・後期、生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、生態・病態看護学実験・1単位・2年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年

<大学院>

Advanced 生理学・2単位・1年・前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	藤野 靖博
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護技術がひとの体に及ぼす影響について、生理学的指標などを用い明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

増満誠、藤野靖博、棟直美、村田節子、淵野由夏、松枝美智子、宮城由美子、鳥越郁代、吉田静、坂田志保路、山下清香、阿部真理子、吉田恭子、江上千代美、石村美由紀、吉川未桜、柴北早苗、原田直樹、杉本みぎわ：新旧カリキュラムにおける臨地実習での看護技術習得状況。福岡県立大学看護学研究紀要。2017。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・増満誠、日高艶子、金城祥教、小野逸子、山名栄子、秦野環、谷多江子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、牧内忍、清水かおり、斉藤ひさ子、下條三和、佐藤亜紀、岡村純、木村弘江、藤野靖博、永嶋由理子、松浦賢長：「しなやか使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の2つの取組紹介～。日本看護科学学会第35回学術集会。2015。
- ・佐藤亜紀、児玉裕美、日高艶子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、金城忍、伊礼優、下條三和、山口みどり、谷多江子、石本祥子、小浜さつき、小手川良江、藤野靖博、吉田恭子、松浦賢長：大学間連携事業による看護学生のキャリア像形成への支援の評価－NCC参加者の主観的評価にみる学年別特徴－。日本看護科学学会第36回学術集会。2016。

<その他>

増満誠、日高艶子、金城祥教、小野逸子、山名栄子、秦野環、谷多江子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、牧内忍、清水かおり、斉藤ひさ子、下條三和、佐藤亜紀、岡村純、木村弘江、藤野靖博、永嶋由理子、松浦賢長：「しなやか使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の2つの取組紹介～（交流集会）。日本看護科学学会第35回学術集会。2015。

③過去の主要業績

- ・藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響。日本人間工学会看護人間工学部会誌(8)，15-20。2007。
- ・矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩。日本臨床社。2007。

3. 外部研究資金

研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「段ボール離被架とカプサイシンジェルを用いた睡眠導入効果の検証」、平成28～29年度

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本人間工学会看護人間工学部会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジ

メント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・
2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	増満 誠
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科卒業後、名古屋大学医学部附属病院（集中治療部・救急部）、医療法人同心会杉田病院（精神科）で看護師として6年、鹿児島大学医学部保健学科、国際医療福祉大学福岡看護学部で教員としての9年を経て、平成25年4月より本学に着任しました。また平成22年に本学看護学研究科を修了しました。

主な研究は、看護における「間」（時間や空間）をどのように解釈するのか、演出するのか、とくに沈黙を中心に探究しています。また、教材としてのコミュニケーション感性トレーニングを開発中です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書(分担執筆)>

渡辺多恵子，渡辺裕一，安梅勅江編著；日本保健福祉学会編集：保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践（第4章6節 いじめ防止に向けた取り組み担当），北大路書房，2015

<論文>

- ・増満 誠，藤野靖博，櫛 直美，村田節子，淵野由夏，松枝美智子，宮城由美子，鳥越郁代，吉田 静，坂田志保路，山下清香，阿部真理子，吉田恭子，江上千代美，石村美由紀，吉川未桜，柴北早苗，原田直樹，杉本みぎわ，浦悠子：新旧カリキュラムにおける臨地実習での看護技術習得状況，福岡県立大学看護学研究紀要，14，65-73，2017.
- ・増満 誠，松村智大，中本 亮，馬場保子，谷多江子，小浜さつき，石本祥子，姫野深雪，佐藤亜紀：看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討，福岡県立大学看護学研究紀要，13，51-56，2016.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・増満 誠，吉田恭子，嘉手苺英子，日高艶子，正野逸子，照屋典子，金城祥教：看護大学生の「しなやかな使命感」尺度開発～大学間連携共同教育推進事業の評価指標として～，日本看護学教育学会第27回学術集会，沖縄，2017.
- ・上田智之，増満 誠，木村涼平，田出美紀：新卒看護師に対する大学教員によるメンター制の評価，日本看護学教育学会第27回学術集会，沖縄，2017.
- ・増満 誠：うつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味，第37回日本看護科学学会学術集会，宮城，2017.
- ・中本 亮，増満 誠，生駒千恵，別城佐和子，佐多愛子，松浦賢長：2型糖尿病患者を対象としたうつ状態の程度とQOLとの関連，第37回日本看護科学学会学術集会，宮城，2017.
- ・松枝美智子，池田 智，増満 誠，中本 亮，畑辺由起子，山下真範，入江正光，宮崎 初，中島充代：各都道府県の精神科平均在院日数と各都道府県のリソースナース数や養成課程数との関連，第37回日本看護科学学会学術集会，宮城，2017.
- ・池田 智，松枝美智子，増満 誠，中本 亮，畑辺由起子，山下真範，入江正光，宮崎 初，中島充代：病院に勤務する精神看護専門看護師の配置と活用に関する要因，第37回日本看護科学学会学術集会，宮城，2017.
- ・増満 誠，上田智之：コミュニケーション教育における4つの指示での描画課題で描かれた各指示での描画パターンの分析による教材化研究，第63回九州精神医療学会，宮崎，2018.
- ・柴田健司，増満 誠，石井克人，世羅珠美，上田善徳，宮本亮子，荒牧美央子，梅尾麻未，宮田真吾：地域移行機能強化病棟からグループホーム退院を意識した長期入院患者への関わり～多職種による地域定着を目指して～，第63回九州精神医療学会，宮崎，2018.
- ・古田慶未，中村公美，松尾麻未，増満 誠：排便コントロール不良患者へのグアールガム分解物導入を試みて，第63回九州精神医療学会，宮崎，2018.

- ・河端真介, 福田勝也, 木寺知子, 大神栄二, 野々村恵子, 増満 誠: ヨガが精神疾患を持つ患者の心身に及ぼす影響, 第 63 回九州精神医療学会, 宮崎, 2018.
- ・Makoto Masumitsu, Aki Sato, Hiromi Kodama, Seita Kuzuhara, Naoki Ariyasu, Tomohiro Matsumura, Tomoyuki Ueda, Kazumi Nishimura, Satoshi Ikeda, Tamami Ueno : Learning, Bonds, and Prospects Which Are Seen from Activities for the Improvement of Young Nursing Teachers' Skills, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, 2017.
- ・増満 誠: 精神科看護師の看護を行う上での「こだわり」に関する質的記述的研究, 第 62 回九州精神医療学会, 沖縄, 2016.
- ・Makoto Masumitsu : Strengths Obtained by Nursing College Students Through the Planning and Staging of Intercollegiate Exchange, The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, 2015.
- ・Aki Sato, Hiromi Kodama, Makoto Masumitsu, Seita Kuzuhara, Nagisa Okada, Tomoyuki Ueda, Naoki Ariyasu, Tomohiro Matsumura : Construction of nursing faculty network for the purpose of teaching force and research force improvement, The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, 2015.
- ・田出美紀, 山崎不二子, 増満 誠, 二重作清子, 一原由美子, 金城祥教, 上田智之, 岡村 純, 木村涼平, 北川 明, 安酸史子, 松浦賢長: 大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討—教員と卒業生の比較による支援体制の考察—, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.
- ・木村涼平, 一原由美子, 山崎不二子, 増満 誠, 二重作清子, 田出美紀, 金城祥教, 上田智之, 岡村 純, 北川 明, 安酸史子, 松浦賢長: 大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討—卒業生との交流からみるメンターの介入時期の検討—, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.
- ・増満 誠: 看護大学生の PBL を用いた演習科目における医療・看護の改革に対する提言テーマの傾向分析, 日本看護学教育学会第 25 回学術集会, 徳島, 2015.

<交流集会>

- ・増満 誠, 上田智之, 中本 亮, 池田 智, 葛原誠太, 松村智大, 森 雄太, 有安直貴, 木村涼平: 若手看護教師力向上のプロジェクト (第 4 弾) ~ちよつと気になる学生の支援のイロハを考えよう~, 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 宮城, 2017.
- ・増満 誠, 上田智之, 森 雄太, 有安直貴, 松村智大: 若手看護教師力向上のプロジェクト (第 3 弾) ~感じる, 届く, 響き合う: 教師と学生の感性が共鳴するために~, 日本看護学教育学会第 27 回学術集会, 沖縄, 2017.
- ・佐藤亜紀, 増満 誠, 児玉裕美, 葛原誠太, 上田智之, 有安直貴, 松村智大, 西村和美, 森 雄太: 大学を超えた繋がりから発展する若手教員の協働学習 - 繋がることで広がる可能性を考える -, 日本看護学教育学会第 27 回学術集会, 沖縄, 2017.
- ・増満 誠, 上田智之, 森 雄太, 有安直貴, 松村智大: 若手看護教師力向上のプロジェクト (第 2 弾) ~学生目線から言葉の力を考え, 換言力を磨く~, 日本看護学教育学会第 26 回学術集会, 東京, 2016.
- ・増満 誠, 日高艶子, 金城祥教, 正野逸子, 山名栄子, 秦野 環, 谷多江子, 砂川洋子, 金城芳秀, 斉藤ひさ子, 下條三和, 佐藤亜紀, 岡村 純, 木村弘江, 藤野靖博, 永嶋由理子, 松浦賢長: 「しなやかな使命感」育成の取組~ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の 2 つの取組の紹介~, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.
- ・Makoto Masumitsu, Itsuko Shono, Eiko Yamana, Kaori Shimizu, et all : Initiatives for cultivating a “shinayakana sense of mission” The transmission and development of the concept of Kyushu and Okinawa as “caring islands” , The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, 2015.

- ・増満 誠, 松村智大, 有安直貴, 上田智之: 若手看護教師はみんな悩んで成長している～実習場面における“ほぐす・つなぐ・つむぐ”ためのコメント力～, 日本看護学教育学会第 25 回学術集会, 徳島, 2015

③過去の主要業績

<論文>

- ・増満 誠: 看護場面における沈黙に関する看護研究の動向と課題, 国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要, 6, 21-29, 2010.
- ・増満 誠, 堀尾良弘: 児童期の学校ストレスの実態と学校心理的ストレス尺度の作成. 鹿児島大学医学部保健学科紀要 (17), 55-63, 2007.

<翻訳>

増満 誠: 小林奈美監訳 はじめて学ぶ質的研究 第 10 章翻訳. 医歯薬出版株式会社, 55-63, 2007.

<学会報告>

- ・増満 誠: 統合失調症患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.
- ・増満 誠: 精神看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味 (第一報) 沈黙の意味の解釈と対応, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 札幌, 2010.
- ・増満 誠: 精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味 (第二報) 沈黙の解釈と対応の変化要因, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 札幌, 2010.
- ・増満 誠: 精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味 (第三報) ～場に規定される沈黙の意味と対応の相違～, 第 15 回日本看護研究学会九州沖縄地方会学術大会, 福岡, 2010.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金, 基盤研究(B), 発達障害傾向のある看護学生への現任教員まで含めた適応支援ガイドラインの作成, 平成 28～31 年度, 研究分担者 (研究代表者: 安酸史子).

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本精神保健看護学会, 日本心理学会

6. 担当授業科目

<学部>

不登校ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期, 基礎看護学実習 I・1 単位・1 年・前期, 基礎看護学実習 II・2 単位・2 年・前期, 看護情報学・1 単位・2 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・通年, 疫学・2 単位・2 年・後期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期

<大学院>

データ解析演習・2 単位・1 年・後期, 精神看護関連法規・制度・政策論・2 単位・1 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県看護協会看護の進路・進学支援委員会委員長
- ・ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム・戦略連携室教員
- ・日本精神科看護協会教育認定委員会査読委員
- ・日本保健福祉学会査読委員
- ・日本精神科看護協会福岡県支部広報委員長・こころの日実行委員長・査読委員
- ・九州思春期研究会 代表理事

- ・介護労働安定センター福岡支部嘱託ヘルスカウンセラー
- ・鹿児島市立皇徳寺中学校同窓会長

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学オータムスクール「コミュニケーションに必要な〇〇を考える」(講義・演習), 平成29年9月23日.
- ・福岡県立大学出前講義(全8回)「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」, 北九州市立高等学校, 平成29年6月13日. 福岡県立嘉穂高等学校, 平成29年6月22日. 福岡県立青豊高等学校, 平成29年7月10日. 福岡県立筑紫高等学校, 平成29年8月1日. 福岡県立筑紫高等学校, 平成29年8月1日. 熊本県立熊本西高等学校, 平成29年10月30日. 福岡県立北筑高等学校, 平成29年11月30日. 福岡県立西田川高等学校, 平成30年1月29日.
- ・福岡県立大学模擬講義(福岡市立福岡西陵高等学校)「看護に生きる・活かす, 知覚・認知心理学からスポーツビジョンまで, 眼の働きを科学する」, 平成29年7月6日.
- ・福岡県立大学模擬講義(福岡県立舞鶴高等学校)「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」, 平成29年7月13日.
- ・福岡県看護協会出前授業「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える」, 福岡県立東鷹高等学校, 平成29年7月27日. 志免町立志免東中学校, 平成29年8月31日.
- ・田川慈恵病院研修会(2回ずつ全4回)「対象理解のコミュニケーション力・教育のためのコミュニケーション力」, 平成29年5月18日・25日及び9月14日・21日.
- ・日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本シリーズ(全3回)」講師, 平成29年5月20日及び7月8日及び8月26日.
- ・大法山病院研修会「ケア力&記録力UP研修(全3回)」講師, 平成29年5月26日及び8月23日及び12月19日.
- ・一本松すずかけ病院新人職員研修会「対象理解のコミュニケーション力」講師, 平成29年6月15日.
- ・福岡県精神病院協会筑後地区看護部長会管理者研修会「目標管理」講師, 平成29年6月16日.
- ・JCHO九州病院教育方法に関する研修会「臨床現場での教育困難事例に対する行動変容につながるアプローチの仕方」講師, 平成29年8月15日.
- ・日本精神科看護協会長崎県支部「看護研究発表会」講評, たらみ図書館, 平成29年9月9日.
- ・日本精神科看護協会福岡県支部トピックス研修「看護師の思いを形にしよう!～PBL(Project Based Learning)を活用して～」講師及び「看護研究発表会」講評, 平成29年10月21日.
- ・社会福祉法人恵徳会研修「メンタルヘルスケア」講師, 介護老人保健施設若杉の里・高齢者福祉施設なの国, 平成29年12月12日及び14日.
- ・大法山病院「看護研究」研修講師・グループ指導・発表会講評, 平成30年2月20日～平成30年3月20日(計3回).
- ・福岡県精神病院協会筑豊地区看護部長会研修会「今, 改めて『看護記録』について考える～看護記録はなぜあるのか, 何を書くのか, どう書くのが正しいか」講師, 平成30年1月12日.
- ・福岡県立大学看護学研究科ナーシングネットワーク設立記念交流集会地域包括ケア時代を先導する看護教育実践報告, 「対象理解のコミュニケーション力教育～精神科病院ケア力向上プロジェクトを含めて～」, 平成30年3月18日.
- ・平成29年度介護労働安定センターケアサポート講習田川地区介護サービス事業所協議会研修会「介護職員の心の健康対策」講師, 大任町役場, 平成30年3月22日.

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ(家族交流会・訪問支援担当)
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基礎看護学系	職名	助教	氏名	於久 比呂美
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2. 研究業績

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ 森田愛璃香, 於久比呂美, 永嶋由理子: 頸部温巻法と腰部温巻法がもたらす生理的反応の比較. 日本看護研究学会 第28回中国・四国地方会学術集会, 2015年3月.
- ・ 江口菜々, 於久比呂美: 患者とよい関係を築いている看護師の特徴に関する文献検討, 第47回日本看護学会(看護管理)学術集会, 2016年9月.

③過去の主要業績

〈論文〉

於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 瀧野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), 39-46, 2012.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	清水 夏子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。現在は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を継続的に実施し、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<大学紀要>

清水夏子, 石田智恵美: 看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと「東洋医学概論」の受講意欲に関する調査研究. 福岡県立大学看護学研究紀要. 14 (1). 2017.

<その他の執筆>

安酸史子編集. 清水夏子, 他. 経験型実習教育. pp240-252. 東京. 医学書院. 2015.

②その他最近の業績

<国内：学会発表>

- ・ 清水夏子. (2016). 看護学生の漢方医学に対するイメージと漢方治療経験に関する調査. 第36回日本看護科学学会学術集会. 東京.
- ・ 中嶋恵美子, 塚原ひとみ, 清水夏子, 北川明, 日高艶子, 石本祥子, 小浜さつき, 増満誠, 安酸史子, 松浦賢長. (2016). 臨床における新人看護師指導の現状～先輩看護師への質問紙調査から～. 第36回日本看護科学学会学術集会. 東京.
- ・ 塚原ひとみ, 中嶋恵美子, 北川明, 山崎不二子, 前田三枝子, 門司真由美, 清水夏子, 増満誠, 松浦賢長, 安酸史子. (2016). 新卒1年目看護師の離職願望の推移と離職せずにとどまった理由. 第36回日本看護科学学会学術集会. 東京.
- ・ 清水夏子, 松井聡子. (2017). 看護大学生に対する「東洋医学概論」の授業効果-受講前後の比較調査から-. 第27回日本看護学教育学会学術集会. 沖縄.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）[研究種別・研究期間・交付金額] 若手研究（B）, 平成29年～平成32年度, 2,730千円 [研究課題] 看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性の検討

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本東洋医学会, 日本教師学学会

6. 担当授業科目

<学部>

専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年, 教養演習・1単位・1年・前期, 東洋医学概論・1単位・2年・前期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護実践論・1単位・3年・前期, 看護教育学・1単位・3年・前期, 教師論・2単位・3年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, 国際・災害看護論・1単位・2年・後期, 看護管理論・1単位・4年・後期, ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部2年、看護学部4年・後期,

<臨地実習>

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・後期, 統合実習・3単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

看護協会健康づくり推進役員（市民向けの健康診断・健康相談活動）

- ・まちの保健室（於：直方イオン）
- ・幸せを開く健康展（於：田川青少年文化ホール）
- ・筑豊糖尿病の集い（於：田川医師会館）

8. 学外講義・講演

2017年度福岡県立大学 オータムスクール 担当

9. 付属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	松山 美幸
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

現在、清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や巻法による援助技術の解明を主な研究分野としている。その中でも清潔援助については、対象が清潔援助を受けた前後での皮膚組織への影響を、顕微鏡を用いて観察し、清潔援助を行っている施行者の動きをさまざまな実験器具を用いて数値化・画像化している。巻法については、温巻法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経活性の変化等を測定し、明らかにする試みを行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・近藤美幸, 江上千代美, 田中美智子. (2016.3)「人体の構造と機能」の理解を深めるための実験実習の取り組み. 福岡県立大学看護学研究紀要,13,119-128.
- ・田中美智子, 江上千代美, 近藤美幸, 長坂猛, 榊原吉一. (2016.3) 高齢者1事例におけるライフイベントが睡眠状態に与える影響. 看護人間工学研究誌, 16,37-42.
- ・江上千代美, 長坂猛, 近藤美幸, 井垣通人, 田中美智子. (2014.1)温巻法が末梢と心臓の自律神経に及ぼす影響. 日本看護技術学会誌,12(3),34-39.
- ・田中美智子, 長坂猛, 江上千代美, 近藤美幸, 榊原吉一. (2013.3)日常生活環境下における第1夜効果の有無の評価. 看護人間工学研究誌,13,25-27.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・近藤美幸, 江上千代美, 田中美智子. (2015.10)月経時随伴症状に対する温巻法の効果 月経開始から3日間の唾液コルチゾールとPGE2の変化. 日本看護技術学会.愛媛.
- ・近藤美幸, 江上千代美, 田中美智子. (2014.8)月経時随伴症状に対する温巻法の効果一月経開始から3日間の唾液アミラーゼの変化一. 看護研究学会,奈良.

5. 所属学会

日本看護技術学会、日本看護研究学会、看護人間工学部会

6. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・後期、フィジカルアセスメント論・1単位・1年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、生態・病態看護学実験・1単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年、統合実習・2単位・4年生

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助手	氏名	清原 智佳子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

ゆりかごから墓場までオールマイティにジェネラリストとして働いて参りました。多くの患者さんと出会い、“本来、人は強いんだな”と感じる場面に出会わせて頂きました。最後の呼吸、そのときまで全力で生きようとする”厳かさ”と尊敬の念に包まれる瞬間です。我々は生死を見届けるお役目の仕事です。自分の持っているレッテルを取り外して素直な目で見つめて下さい。人の偉大さが解りますよ。一緒に頑張りましょう。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

清原智佳子、梶原由紀子、尾形由起子、小野順子、田中美樹、石村美由紀、江上千代美、実践報告 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステッピングストーンズトリプルP受講前後のパイロット・スタディ、2017年、福岡県立大学紀要

②その他最近の業績

〈学会口演〉

清原智佳子、江上千代美、トリプルPの受講前後の親のストレス変化と子育て技術に関する研究日本看護研究学会第22回九州・沖縄地方学会口演3群一1、p41

③過去の主要業績

清原智佳子、古賀明美、藤田君支、研究報告、C型慢性肝炎患者の疲労感、QOLと身体活動量に関する研究日本看護研究学会雑誌、Vol37, No2, 2014, p63~70

〈学会口演〉

清原智佳子、古賀明美、藤田君支、慢性C型肝炎患者の疲労感・QOLと身体かつ同僚の実態調査と影響要因、日本看護研究学会雑誌、Vol34, No3, 2011, p191

5. 所属学会

日本看護学研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護技術フィジカルアセスメントI前期(補助)、看護管理1単位(補助)、看護教育1単位(補助)、ケアリング・サイエンス1単位(補助)、国際、災害看護1単位(補助)、統合実習1単位(補助)

7. 社会貢献活動

前向き子育てふくおか、健康な子どもを持つ親に対するセッション(グループトリプルPファシリテーター—部介入)、久留米市役所

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基礎看護学系	職名	助手	氏名	宮崎 千尋
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程終了、修士（看護学）。看護師として循環器内科・心臓血管外科病棟で勤務した後、2016年度より本学へ着任する。

主な研究として、看護職を目指す学生の主体的学習活動に関する内的要因について検討を行っている。特に主体的学習活動に関する内的要因と考えられている学習意欲と自己効力感に着目し、これら三者の関連性や影響を検討することで、学生の主体的学習活動につながる学習支援に役立てたいと考えている。

2. 研究業績

③過去の主要業績

〈論文〉

於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 淵野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (1), 39-46, 2012.

5. 所属学会

日本看護研究学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

基礎看護学概論・2単位・1年・前期、ケアリング論・1単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年・前期、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	教授	氏名	鳥越 郁代
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学病院で看護師、助産師としての勤務経験を経たあと、助産師教育に携わる。1992年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999年に英国のテームズバリー大学大学院に留学、助産実践修士課程修了(2002年)。2003年本学看護学部に着任。2010年兵庫県立大学大学院看護学研究科博士課程修了(博士:看護学)。

現在、帝王切開分娩後の女性が、次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。患者との意思決定の共有(shared decision-making)モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し、そのプログラムを用いた介入研究の実施・分析を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

鳥越郁代, (2018). 「第2章 助産師が行うケアの概念, 3. 女性の意思決定を支えるしくみ」. 工藤美子編『助産師基礎教育テキスト第1巻, 助産概論』(第1版第1刷2018年版), 56-70. 日本看護協会出版.

<論文>

- kuyo Torigoe, Allison Shorten. (2018). Using a pregnancy decision support program for women choosing birth after a previous caesarean in Japan: A mixed methods study. *Women and Birth*. 31(1), e9-e19.
- 加藤法子, 鳥越郁代, 吉村美奈子, Ian Stuart Gale, 芋川浩, 許棟翰, 岡本雅享, 松浦賢長. (2018). 本学学生の国際交流に関する意識調査. 福岡県立大学看護学研究紀要. 15, 73-82.
- 箱崎友美, 鳥越郁代, 佐藤香代. (2017). 帝王切開で出産した女性の出産満足度と産後早期のうつ傾向との関連についての検討—日本語版 SMMS の信頼性・妥当性の検証を通して—. 日本助産学会誌.
- Ikuyo Torigoe, Brett Shorten, Shizuka Yoshida, Allison Shorten. (2016). Trends in birth choices after caesarean section in Japan: A national survey examining information and access to vaginal birth after caesarean. *Midwifery*. 37, 49-56.
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代. (2016). 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題. 13, 1-10.
- 吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要. 12, 25-35.
- 吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要. 12, 73-84.
- Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. (2014). Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. *Journal of Midwifery & Women's Health*. 59 (5), 551.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 横手直美, 山下恵, 岡倉美咲, 橋本妙子, 鳥越郁代, 竹内佳寿子. 妊婦の帝王切開分娩に関する情報収集の実態とニーズ. 第8回(32回)日本助産学会学術集会, 横浜, 2017.3.18-19.

- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 吉田静, 小林絵里子, 石村美由紀, 鳥越郁代. 妊婦と育児中の母親が共に学び合う「身体感覚活性化マザークラス」を試みて, 第7回(31回)日本助産学会学術集会, 徳島, 2017.3.18-19.
- ・Ikuyo Torioe, Allison Shorten. Trends in birth choices after caesarean section in Japan: A national survey examining information and access to vaginal birth after caesarean, 31st ICM Triennial Congress, Toronto, Canada. 2017.6.20.
- ・箱崎友美, 鳥越郁代, 佐藤香代. 帝王切開分娩による出産満足度と産褥早期のうつ傾向の関連, 第6回(30回)日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・横手直美, 鳥越郁代, 山下恵. VBAC(帝王切開後経膈分娩)に挑戦した女性の出産体験—統合分析の結果—, 第6回(30回)日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・鳥越郁代, 横手直美, 山下恵. VBAC(帝王切開後経膈分娩)に挑戦した女性の出産体験—個別分析の結果—, 第6回(30回)日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. 中国天津地域における大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—, 第6回(30回)日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子, 吉田静, 鳥越郁代. 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のパーズプランおよび出産体験, 第6回(30回)日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten, Evaluation of a decision aid program for women choosing method of birth previous caesarean in Japan. ICM 11th Asia Pacific Regional Conference, 2015. 7.20-22
- ・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten. Birth choice after cesarean section in Japan: focusing on giving information about VBAC and repeat cesarean. ICM 30th Triennial Congress, Prague, Czech Republic, 2014.6.2
- ・山名栄子, 江上千代美, 田中美智子, 鳥越郁代, 松浦賢長, 松尾ミヨ子, 照屋典子, 清水かおり, 中嶋恵美子, 小池秀子, 石橋通江, 正野逸子. 九州沖縄看護系大学 8 大学の統一コード化からみた慢性看護の現状, 第8回日本慢性看護学会学術集会, 2014.7.5-6
- ・Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. The American College of Nurse-Midwives' 59th Annual Meeting. USA., 2014.5

③過去の主要業績

- ・鳥越郁代. (2000). 「第10章子どもを産む」, 成山文夫, 石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』, 163-178, 北樹出版.
- ・鳥越郁代. (2002). 「第6章一対一の助産実践を提供して満足感を得る (Providing one-to-one practice and enjoying it)」 翻訳, Lesley Ann Page 原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』, 鈴木江三子監修『新助産学』, 129-149, メディカ出版.
- ・鳥越郁代. (2009). シンポジウム『帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援』を開催して, 『助産雑誌』, 63(1), 54-58.
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. (2012). 助産師学生の分娩期助産課程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 9(2), 53-61.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費(基盤研究C)(研究分担者)、横手直美: 緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムを用いた介入研究, 平成24年度~28年度
- ・科学研究費(基盤研究B)(研究分担者), 横手直美(研究代表者): 緊急帝王切開における妊婦の適応力を高める教育プログラム PEACE のアプリへの応用, 平成29年度~31年度

4. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会

5. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期, 女性看護実習・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期, 国際看護論・2単位・4年・後期, 国際・災害看護論・1単位・2年・後期

〈大学院〉

看護研究・2単位・1年・前期, ホリスティック助産学特論・2単位・1年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅱ・4単位・通年・1年, コミュニティ助産学特論・1単位・後期・1年, 助産学実習Ⅲ・2単位・前期・2年, 助産学実習Ⅴ・2単位・後期・2年, 助産実践アドバンス特論・1単位・後期・1年, 助産学課題研究・4単位・通年・1～2年

6. 社会貢献活動

日本看護科学学会和文誌専任査読委員

7. 学外講義・講演

- ・助産診断過程の展開, 福岡県看護協会助産師職能研修会, 福岡県看護協会(2015.3.6)
- ・帝王切開を経験した女性の次子の出産選択における情報提供: 共有意思決定の支援の視点から, シンポジストとして, 帝王切開分娩の情報提供のあり方(セミナー): 女性はいつ, どのような情報を必要としているか, 中部大学名古屋キャンパス, 名古屋(2015.3.8)
- ・TOLAC(既往帝王切開経陰分娩)経験者の語りから分かること, シンポジストとして, 出産準備教育における帝王切開分娩の情報提供を考えるセミナー, 中部大学名古屋キャンパス, 名古屋(2016.3.13)
- ・Midwifery in Japan: Special Lecture for Midwives in King Edward Memorial Hospital, Perth, Australia(2015.8.24)
- ・Midwifery in Japan: Historical viewpoints and current issues. Special Lecture for graduate students, and in Regular Meeting of Clinical Nurse Midwives in New Haven, Yale School of Nursing, Yale University West Campus, USA(2014.9.8)

8. 附属研究所の活動等

看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	准教授	氏名	石村 美由紀
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

不妊支援、妊婦教育、助産師教育に関する研究に取り組んでいる。特に不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊当事者のおしゃべり会を定期的に開催したり、行政の不妊相談員として活動している。妊婦教育においては、身体感覚活性化マザークラスの企画・運営に携わり、その効果を広く報告している。助産師教育においては、助産学実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行っている。また小中高生対象の性教育も積極的に行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2015). 助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究—その要因と回復の促進—. 福岡県立大学看護学部紀要 12(1), 13-23.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 林千絵, 清田哲子(2016). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第1報)—次子妊娠の体験の語りから—. 母性衛生 56(4), 692-700.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代(2016). 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13(1), 1-10.
- ・石村美由紀. (2016). 「自治体ウェブサイトから得られる不妊専門相談センター事業の情報と課題」. 日本生殖看護学会誌 13(1), 21-27.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 道園亜希, 林千絵, 清田哲子(2017). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第2報)—次子の出産・育児体験の語りから—. 母性衛生 58(2), 346-354.
- ・道園亜希, 佐藤香代, 石村美由紀 (2017). 小学校教諭が行う性教育の体験—助産師との連携を目指して—. 母性衛生 58(2), 412-419.

②その他最近の業績

- ・石村美由紀, 佐藤香代, 佐藤繭子, 道園亜希(2015). 身体感覚活性化マザークラス(世にも珍しいマザークラス)に参加した妊婦の変化—バースプランの分析から—. 第24回福岡母性衛生学会学術集会, 福岡, 2015.7.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2015). 学士課程における分娩介助技術習得の分析—9年間の分娩介助技術到達度調査から—. 第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会, 横浜, 2015.7.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子(2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第56回日本母性衛生学会学術集会, 岩手, 2015.10.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子, 吉田静, 鳥越郁代(2016). 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験. 第30回日本助産学会学実集会, 京都, 2016.3.
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 石村美由紀(2016). 中国における大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—. 第30回日本助産学会学実集会, 京都, 2016.3.
- ・石村美由紀(2017). 不妊専門相談センターの認知と利用の実態. 第58回日本母性衛生学会学実集会, 神戸, 2017.10.
- ・石村美由紀, 古田祐子(2017). A大学における「不妊のおしゃべり会」開催に関する実践報告. 第58回日本母性衛生学会学実集会, 神戸, 2017.10.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤繭子, 道園亜希(2017). 小・中学生をもつ保護者の学校性教育と家庭性教育に対する認識. 第32回日本助産学会学実集会, 横浜, 2018.3.
- ・道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀(2017). 小学生をもつ保護者の家庭での性教育の実態. 第32回日本助産学会学実集会, 横浜, 2018.3.

- ・古田祐子, 道園亜希, 佐藤満子, 石村美由紀 (2017). 就学前の子どもに対する保護者の家庭における性教育の実態—小学生を持つ保護者を対象とした後方視的調査より—. 第32回日本助産学会学実集会, 横浜, 2018.3.

③過去の主要業績

- ・石村美由紀(2011). 不妊専門相談センターの役割の実態—不妊当事者の認知と利用—. 母性衛生 52(2), 319-326.
- ・石村美由紀, 浅野美智留, 佐藤香代(2009). 不妊女性における苦悩とその克服—女性の語りから考察する—. 母性衛生 49(4), 592 - 601.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子他(2009). 第3回「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要.
- ・石村美由紀(2009). 不妊支援を目的とした「子どもの有無を越えた共感型フォーラム」の試みと意義. こころの健康, 24(2), 68-74.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2009). 分娩介助技術の習得過程—本学での分娩介助技術評価調査より—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 7(1), 18 - 28.
- ・石村美由紀(2014). 不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待—看護職の立場から—. 日本生殖看護学会誌 11(1), 73-77.

5. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本不妊カウンセリング学会, 日本生殖看護学会, 日本思春期学会, 日本看護科学学会ほか

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学(2)・2年後期, 女性看護学演習Ⅰ(1)・3年前期, 女性看護学演習Ⅱ(1)・3年前期～4年後期, 女性看護学実習(2)・3年後期～4年前期, 専門看護ゼミ(2)・3年通年, 卒業研究(2)・4年通年, 統合実習(2)・4年前期,

<大学院>

助産学特論(2)・1年前, 助産学演習(2)・1年後, ウイメンズヘルズ特論(1)・1年前, ウイメンズヘルズ演習(1)・1年後, 基礎助産学特論(2)・1年前, 基礎助産学演習(2)・1年通年, 助産実践学Ⅰ(2)・1年前, 助産実践学Ⅱ(4)・1年通年, 助産学実習Ⅰ(1)・1年前, 助産学実習Ⅱ(8)・1年生後, 助産学実習Ⅲ(2)・2年生前, 助産学実習Ⅳ(1)・2年生前, 助産学実習Ⅴ(2)・2年生後, 助産実践アドバンス特論(1)・1年生後, 助産実践アドバンス実習(4)・2年生前

7. 社会貢献活動

- ・北九州市不妊専門相談センター 不育症相談担当
- ・福岡県助産師会 子育て女性健康支援センター 相談業務
- ・不妊カウンセラー (日本不妊カウンセリング学会認定)

8. 学外講義・講演

- ・性教育「大切なあなたの性 - “こころ”と“からだ”を正しく知ろうー」. 香春町立香春中学校1年生. (2017.7)
- ・性教育「大切なあなたの性 - “こころ”と“からだ”を正しく知ろうー」. 福岡市立多々良中学校2年生. (2017.12)

9. 附属研究所の活動等

- ・健康大使への継続教育: 「健康大使セミナー」開催, 福岡(2017.10月)
- ・身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス (田川) レッスン1～5 (2017.6～7月)
- ・身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス (福岡) (2017.9～10月) 6回
- ・身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス (北九州) 同窓会 2017.10月
- ・性の健康に関する事業: 不妊のおしゃべり会(2017.2月)
- ・身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー(2017.11月)

研究内容 (1)不妊女性の社会的サポート (2)不妊患者の心理

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	准教授	氏名	椋 直美
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

北九州市立大学社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程修了、博士(学術)。研究分野は「地域・在宅で生活する療養高齢者とその家族の支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の“持てる介護力”に着目して、その潜在的介護力を引き出し向上させていくための多職種協働による効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護する側とされる側の方々に寄り添った医療・福祉連携の多職種研修会や介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的にを行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・博士論文；家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究—家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討—。北九州市立大学大学院社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程，全115頁。2015。
- ・尾形由起子・岡田麻里・椋直美・野口忍・山下清香・松尾和枝・眞崎直子・三徳和子，終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験。日本地域看護学会誌。Vol20, No.2.2017. P64-72, 2017。
- ・丸山泰子・椋直美・横尾美智代。介護老人保健施設の看護職の役割・認識とやりがい感との関連。日本看護研究学会雑誌，Vol38, No5, P23-32, 2016。
- ・尾形由起子，椋直美，小野順子，吉田恭子，杉本みぎわ，阿部久美子，岡田麻里，終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—。福岡県立大学看護学研究紀要，第14巻，2017。P41-47。
- ・増満誠，藤野靖博，椋直美，村田節子，淵野由夏，松枝美智子，宮城由美子，鳥越郁代，吉田静，坂田志保路，山下清香，阿部眞理子，吉田恭子，江上千代美，石村美由紀，吉川未桜，柴北早苗，原田直樹，杉本みぎわ。新旧カリキュラムにおける臨地自習での看護技術習得状況。福岡県立大学看護学研究紀要，第14巻，P65-73, 2017。
- ・猪狩崇，石崎龍二，椋直美，柴田雅博，小野順子，檜橋明子，杉本みぎわ，尾形由紀子。地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察。福岡県立大学看護学研究紀要，第15巻。

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・椋直美，尾形由起子，小野順子，檜橋明子，杉本みぎわ，中村美穂子・猪毛尾和美，馬場順子，吉田恭子，訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討(第二報)。第76回日本公衆衛生学会総会。鹿児島。2017。11月。
- ・中村美穂子・尾形由起子・椋直美・小野順子・檜橋明子・吉田恭子・杉本みぎわ・猪毛尾和美・馬場順子。在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査(第一報)。第76回日本公衆衛生学会総会。鹿児島。2017。11月。
- ・尾形由起子・椋直美・三徳和子・眞崎直子・岡田麻里・山下清香・馬場順子・猪毛尾和美。在宅看取りの意思決定支援に対する訪問看護師の意識調査—第3報—。第76回日本公衆衛生

学会総会。鹿児島。2017. 11月。

- ・ 檜直美・丸山泰子・江上文子・尾形由起子。高齢者サロンでの認知症支援の取組の実態。第22回日本看護研究学会九州・沖縄地方会。佐賀。2017年11月。
 - ・ 丸山泰子・檜直美・江上史子。家族介護者が介護困難に感じる要因と看護師への役割期待に関する研究—家族介護者への質問紙調査を通して—。第22回日本看護研究学会九州・沖縄地方会。佐賀。2017年11月。
 - ・ 村田節子・宮園真美・今丸満美・政時和美・吉田恭子・檜直美・杉本みぎわ・柴北早苗・吉村美奈子。患者・家族がより良いがん医療を選択できるための課題と取り組み～地域で語り合うがんとの向き合い方(第3報)～。第19回日本看護医療学会。名古屋。2017年9月。
 - ・ 檜直美, 久保哲郎, 杉本みぎわ, 原田和昭, 小林繁, 長江紀子。医療・介護・福祉の多職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その2)—北九州在宅医療・介護塾研修会でのグループワークより—。第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会。久留米, 2017. 2月。
 - ・ 久保哲郎, 檜直美, 八田妙子, 讃井一美, 高田芳信, 田代久美枝。医療・介護・福祉の多職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その1)—北九州在宅医療・介護塾の設立とその歩み—。第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会。久留米, 2017. 2月。
 - ・ 杉本みぎわ, 久保哲郎, 檜直美, 林田優子, 和田和人, 山本節子。医療・介護・福祉の多職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その3)—北九州在宅医療・介護塾研修会でのグループワークより—。第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会。久留米, 2017. 2月。
 - ・ 政時和美, 村田節子, 宮園真美, 今丸満美, 吉田恭子, 檜直美, 杉本みぎわ, 柴北早苗, 吉村美奈子。訪問看護ステーションのがん支援に関する意識調査～「キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み～。第18回日本看護医療学会, 名古屋。2016. 9月。
 - ・ 村田節子, 宮園真美, 政時和美, 今丸満美, 吉田恭子, 檜直美, 杉本みぎわ, 柴北早苗, 吉村美奈子。がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方(第2報)～。第18回日本看護医療学会, 名古屋, 2016. 9月。
 - ・ 御手洗裕子, 田中洋子, 渡邊智子, 檜直美。精神科病院の看護管理者による認知症高齢者の早期退院に向けた取り組みと今後の課題—認知症治療病棟における人材育成—。第21回日本老年看護学学会, 2016年。
 - ・ 野口忍, 尾形由起子, 檜直美, 岡田麻里。地域包括ケアシステムの基盤となる人生最期の過ごし方を自ら選択できる住民への教育について。第35回日本看護科学学会交流集会, 広島, 2015. 12月。
 - ・ 檜直美, 尾形由起子, 横尾美智代, 田淵康子。家族介護者の介護力獲得のための看護支援方法の検討“看護師に対するニーズと介護力の関連性から”第35回日本看護科学学会, 広島, 2015. 12月。
 - ・ 岩崎玲奈, 村田節子, 檜直美, 小出昭太郎。治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討。第29回日本がん看護学会, 横浜, 2015年2月。
 - ・ 岩崎玲奈, 村田節子, 檜直美, 小出昭太郎。治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討。第29回日本がん看護学会, 横浜, 2015年2月。
- <報告書>
- ・ 「平成28年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2017年3月。
 - ・ 「平成28年度付属研究所重点領域研究: 在宅医療推進における医療福祉情報に関する研究」報告書, 2017年3月。
 - ・ 文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C), 「通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究」報告書, 2015, 3月。研究代表者。

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤C(平成26～29年)「認知症高齢者を抱える家族介護者の介護力獲得支援プログラムの有効性に関する研究」研究代表者(2,549千円)

- ・文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 29～32 年)「簡易型認知行動療法プログラムの生活習慣改善への効果検証」研究分担者 (代表; 田中美加)
- ・文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 29～31 年)「地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデル」研究分担者 (代表; 尾形由紀子)

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護医療学会、日本在宅ホスピスケア研究会

6. 担当授業科目

老年看護学・2 単位・2 年・後期, 老年看護学演習Ⅰ・2 単位・3 年・前期, 老年看護学演習Ⅱ, 1 単位・3～4 年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年, 老年看護実習Ⅱ・2 単位・3～4 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期, 老年看護学特論・2 単位・修士 1 年, 老年看護学演習・2 単位・修士 1 年, 高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論 2 単位・修士 1 年,

7. 社会貢献活動

- ・NPO 法人「ヘルスイランドライツサポートウリズン」第三者評価委員会理事長
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会委員
- ・NPO 法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・平成 28 年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事
- ・北九州在宅医療・介護塾世話人として年間を通して多職種連携研修会やフォーラム等開催による実践活動。
- ・北九州在宅医療・介護塾「排泄ケアを考える 2017 フォーラム」2017. 3 月. コーディネーター。
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動。

8. 学外講義・講演

- ・国際学術シンポジウム「認知症の方とその家族への地域支援における看護と福祉の連携—看護の立場から—」福岡県立大学, 2017 年 4 月。
- ・北九州市介護従事者研修会講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウェル戸畑, 2017 年 9 月、10 月。
- ・職業訓練法人福岡地区職業訓練協会主催, 福祉用具専門相談員指定講習会講師「介護の知識、介護概論」職業訓練法人福岡地区職業訓練協会, 2017 年 9 月。
- ・NPO 法人生涯現役支援センター講師「健やかに老いる」行橋, 2017 年 8 月。
- ・日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会座長
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」講師「食と健康」. 2017 年 6 月
- ・田川市民生委員児童委員全体研究会講師「認知症の方やその介護をする家族を支えるための地域支援のあり方」。2018 年 3 月。

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員。
- ・筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミアドバイザー。

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	准教授	氏名	田中 美樹
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として小児病棟、NICU 勤務を経てのち看護教育に携わり、2011 年より本学に着任する。名古屋大学大学院医学系研究科博士課程前期修了・修士号（看護学）取得後、2012 年西南学院大学大学院人間科学研究科博士課程後期満期退学する。慢性疾患をもつ子どもと保護者に対する継続的支援や、地域で子どもたちの健康を支える看護職や保育士に対するケア能力向上のための教育的支援に関する研究に取り組んでいる。さらに、小児科外来での家族向けプレパレーションツールの作成や、幼稚園・保育所など地域で生活する子どもや家族に対する健康教育の実施に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・清原智佳子、尾形由起子、梶原由紀子、田中美樹、江上千代美「発達障害をもつ子どもの親を対象に行ったステッピング・ストーントリプルP受講前後のパイロット・スタディ」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.15.no.1、2018 年
- ・江上千代美、田中美智子、柏原やすみ、田中美樹、吉川美桜、青野広子、宮城由美子「服薬運動指標による新人看護師への看護技術支援の評価」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子「赤ちゃん先生を活用した小児看護技術演習の効果」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13.no.1、2016 年
- ・青野広子、吉川未桜、田中美樹、江上千代美、宮城由美子「小児看護技術支援における看護学部4年生の医療的看護技術の傾向と感想の検討」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13.no.1、2016 年
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」、福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.12 no.1、2015 年

②その他最近の業績

- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、松岡、吉田麻美、仲村彩「外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール第3弾“綿棒検査について”」、第27回日本外来小児科学会、2017年9月、三重
- ・宮城由美子、田中美樹、横尾美智代、青野広子「“気になる子ども”を含む発達障がい児の外来受診時におけるスタッフの対応実態」第27回日本外来小児科学会、2016年9月、三重
- ・田中美樹、吉川未桜、柿木里香、宮城由美子、北野昭人「外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの作成」、第34回 熊本県小児科医会学術集会、2017年7月、熊本
- ・田中美樹、横尾美智代、青野広子、宮城由美子「“気になる子ども”を含む発達障がい児の母親が外来受診時に感じる困難感～母親の受診時の思いに対するインタビューの検討から～」、第64回日本小児保健協会学術集会、2017年6月、大阪
- ・宮城由美子、田中美樹、横尾美智代、青野広子「“気になる子ども”を含む発達障がい児の外来受診時にスタッフが感じる困難感～外来スタッフのアンケート調査より～」、第64回日本小児保健協会学術集会、2017年6月、大阪
- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、青野広子、吉田麻美、仲村彩「外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーション」、第25回日本外来小児科学会、2016年8月、高松
- ・吉川未桜、青野広子、仲村彩、吉田麻美、田中美樹、宮城由美子「赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～」第15回九州・沖縄小児看護教育研究会、2016年8月、沖縄

- ・宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、青野広子、「食物アレルギー児の緊急対応に関する保育士の認知について」、第21回日本保育保健学会、2015年10月、鹿児島
- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、「外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すアプリパレセッションツールの開発」、第25回日本外来小児科学会、2015年8月、仙台/第19回九州外来小児科学研究会、2015年、福岡

③過去の主要業績

- ・田中美樹、「保育所における食物アレルギーをもつ子どもと保護者に対する看護職の取り組み」、保育と保健、vol.19 no.1.pp45-48、2013年
- ・田中美樹、「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」保育と保健、vol.19 no.2.pp68-72、2013年
- ・山本浩世、田中美樹、高野政子、「母乳が不足している」という母親の母乳育児に関する認識、母性衛生、vol.50 no.1.pp110-117、2009年
- ・田中美樹、布施芳文、高野政子、「父親になった」という父性の自覚に関する研究、母性衛生、vol.52 no.1.pp71-77、2011年

3. 外部研究資金

- ・文部科学省研究費助成事業基盤研究(C)・研究分担者「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」2014～2017(延長)
- ・文部科学省研究費助成事業基盤研究(C)・研究分担者「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」2017～2019

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会

6. 担当授業科目

「小児看護学概論」・1単位・2年前期、「小児看護学」・2単位・2年・後期、「小児看護学演習Ⅰ」・1単位・3年、「小児看護学演習Ⅱ」・1単位・3年、「小児看護学実習」・2単位・3年、「専門看護学ゼミ」・2単位・3年、4年前期、「統合実習」・2単位・4年、「卒業研究」・2単位・4年、「小児看護特論」・2単位・大学院1年・前期、「小児看護学演習」・2単位・大学院1年・後期、「子どもの保健Ⅱ」・1単位・2年前期(人間社会学部)

7. 社会貢献活動

- ・子どもの検査・処置に対する家族の理解向上のための活動：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター・下敷き(吸入編・採血編・綿棒検査編)を作成し全国の病院・クリニックに配布
- ・前向き子育てセミナー久留米「子どもの事故と子育てのヒント」2017年8月
- ・子どもと保護者への健康教育「いのちってすごい!」2018年2月

8. 学外講義・講演

- ・田川地区保育協会田川郡支部保育士会研修会「事故・病気のときの対応」2017年7月
- ・田川市主催 子育てボランティア養成講座「身近にかくれるとっさの事故から子どもを守る」・ファミリーサポートセンターまかせて会員養成講座講習会「こんなときどうするの①小児看護の基礎知識」2017年10月、11月

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	古庄 夏香
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

佐賀医科大学医学部看護学科卒業、大学院・総合病院で臨床経験を積んだ後、佐賀大学(佐賀医科大学より名称変更)大学院医学系研究科看護学専攻修了、修士(看護学)。血液透析を受ける患者の看護に関する研究、慢性疾患患者の看護を行う看護師の実践知に関する研究、看護学生のリフレクションに関する研究、看護過程に関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・監修：小田正枝、共著者：下舞紀美代、安藤敬子、中西順子、古川秀敏、古庄夏香、宮川操、尹玉鐘、姫野深雪、穴井めぐみ、松下智美、坂田扶実子(執筆順)、『プチナース BOOKS 看護診断・計画ガイド』、照林社、2017
- ・前田ひとみ、南家貴美代、古庄夏香、波止千恵、松永麻起子、荒尾博美、鶴田明美、山田美幸、宇宿文子、武藤雅子、境真由美、池田真美、看護学生が臨地実習で振り返りたい場面の構造、熊本大学医学部保健学科紀要、第9巻、p.53～62、2013
- ・二重作清子、久木原博子、内山久美、小森直美、木部泉、小枝英輝、永田華千代、古庄夏香、緒方文子、看護学生の積極的傾聴における面接技法の学習会に対する認識、看護・保健科学研究 13/1、p.88～95、2013
- ・小野淳二、二重作清子、古庄夏香、能登裕子、永田華千代、入学直後の看護大学生における看護に対するとらえ方、純真学園大学雑誌、第2号、p.89～92、2013

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・古庄夏香、血液透析患者に関わる看護師の実践知に関する研究、第19回日本腎不全看護学会学術集会、大阪、2016年11月
- ・土森政雄、古庄夏香、村井孝子、木部泉、山田美幸、学生の基礎看護学実習の援助場面の振り返りから明らかになった技術経験の傾向、第21回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会宮崎、2016年11月
- ・村井孝子、古庄夏香、二重作清子、木部泉、看護系大学1年次生の看護専門職としての目的とゴール、第19回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会、熊本、2015年11月

③過去の主要業績

- ・Kumi Uchiyama、Hiroko Kukihara、Natsuka Furusho、Meaning of an Amyotrophic Lateral Sclerosis Patient's and his Main Caretaker's Worldview in Home Care、International Nursing Care Research、11(2)、p.69～81、2012
- ・古庄夏香、二重作清子、大学入学時における看護学生の看護専門職としての目標に対する取り組み、キャリアと看護研究 2 巻 1 号、p.55～62、2012
- ・編集者：小田正枝共著者：小田正枝、井出裕子、山勢博彰、藤野成美、伊東美佐江、小田日出子、焼山和憲、下舞紀美代、古川秀敏、宇佐美しおり、窪田恵子、穴井めぐみ、古庄夏香(執筆順)、事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本、照林社、2008
- ・古庄夏香、黒田裕子、安藤敬子、小田正枝、林みよこ、中木高夫、山勢博彰、柏木公一、伊藤美佐江、電子カルテ稼働中の施設における看護師の思考過程の分析、看護診断 13 巻 2 号、p.5～12、2008

3. 外部研究資金

科学研究費補助金基盤研究 B (一般) 平成 16 年度～18 年度、研究課題 電子カルテシステムにおける看護実践用語分類の実態調査およびモデル構築に関する研究 (研究分担)

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本腎不全看護学会、質的統合法研究会

6. 担当授業科目

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年

7. 社会貢献活動

美萩野保健衛生学院 非常勤講師（全14回）2012年～

8. 学外講義・講演

- ・第33回日本看護科学学会学術集会 交流集会 「質的統合法(KJ法)の看護研究における魅力と課題」にて研究手法の解説
- ・第3回日本クリティカルケア看護学会学術集会プラクティスセミナー(看護過程)：インストラクター
- ・第15回日本看護診断学会学術集会事例セッション(看護過程)：ファシリテーター
- ・文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」臨床看護師・潜在看護師のフィジカルアセスメント能力向上を目指す教育推進プログラム：演習担当
- ・平成21年度福岡県看護教員養成講習会 講師 (看護理論)
- ・平成21年度長崎県看護教員養成講習会 講師 ((看護理論)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	准教授	氏名	古田 祐子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

肌トラブルを有する新生児・乳児の皮膚生理機能及び皮膚洗浄法に関する研究や助産師教育、特に、学生の助産技術・健康教育到達度に関する研究を主な研究分野としている。また、月経に関心を持ち、ヘルスプロモーション実践研究センターでは“性の健康に関する事業”の責任者として、女性の健康に関するなんでも相談、月経に関連した講座（布ナプキン作成講座・マンスリービクス講座等）を開催している。その他、地域貢献活動として、中学生・保護者・教育者を対象とした性教育や子育て講演活動を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 古田祐子.『第106回看護師国家試験対策テスト第1回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2016.4
- 古田祐子.『第106回看護師国家試験対策テスト第2回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2016.7
- 古田祐子. 乳児の皮膚洗浄法が乳児と実施者である養育者に及ぼす影響-異なる3つの洗浄法の分析より-, 福岡県立大学看護学部紀要 15(1), 福岡県立大学, 25-33.2016.3
- 古田祐子, 安河内静子. 簡易型S皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 15(1), 福岡県立大学, 11-20.2016.3
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 学士課程における助産実践能力（分娩介助技術および健康教育）の到達状況と課題-9年間の調査より-, 福岡県立大学看護学部紀要 15(1), 福岡県立大学, 1-10.2016.3
- 古田祐子.『第105回看護師国家試験対策テスト第3回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2015.11
- 古田祐子. 乳児の肌トラブル発症に影響を及ぼす沐浴教育要因, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, 1-11.2015.3
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究-その要因と回復の促進-, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, 13-23.2015.3
- 安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, 53-62.2015.3

②その他最近の業績

<報告書>

- 古田祐子, 道園亜希, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小・中学生をもつ保護者の学校性教育に関する調査報告書. 奨励研究報告書. 2018.3.30.
- 古田祐子. 肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究-S 洗浄法の母子に及ぼす影響-基盤研究(c)研究成果報告書, 2016.6.

<学会発表>

- 古田祐子, 道園亜希, 佐藤繭子, 石村美由紀. 就学前の子どもに対する保護者の家庭における性教育の実態-小学生を持つ保護者を対象とした後方視的調査より-. 日本助産学会, 横浜, 2018.3.4.
- 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小学生の子を持つ保護者が家庭で行っている性教育に関する実態調査. 日本助産学会, 横浜, 2018.3.4.
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤繭子, 道園亜希. 小・中学生をもつ保護者の学校性教育と家庭性教育に対する認識. 日本助産学会, 横浜, 2018.3.4.
- 佐藤繭子, 古田祐子, 石村美由紀. 出産した女性の『産後クライシス』誘発要因-母親の語りの分析から-性生活に視点を当てて-. 日本助産学会, 横浜, 2018.3.4.

- ・石村美由紀, 古田祐子. A 大学における「不妊のおしゃべり会」開催に関する実践報告. 日本母性衛生学会, 神戸, 2017.10.5.
- ・淵上結香理, 古田祐子. Psychological effects of hand massage on lactating Japanese women. ICM, トロント, 2017. 6. 21.
- ・淵上結香理, 古田祐子. 授乳期の女性に対するハンドマッサージの生理的効果. 日本母性衛生学会, 東京, 2016. 10. 15.
- ・佐藤繭子, 古田祐子. 看護系女子学生の布製ナプキン使用感. 日本助産学会, 京都市, 2016.3.20.
- ・古田祐子, 安河内静子. S 洗浄法が実施者と肌トラブルを有する乳児 (60 日未満) に及ぼす影響. 日本科学学会, 広島市, 2015.12.5.
- ・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. 3つの異なる沐浴法が乳児の表皮 pH・角層水分・皮脂量に及ぼす影響. ICM アジア, 横浜市, 2015.7.21.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 学士課程における分娩介助技術習得の分析-9 年間の分娩介助技術到達度調査から-. ICM アジア, 横浜市, 2015.7.20.

〈印刷物〉

- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.66 「平成 29 年度下半期表彰者紹介」 2018.2
- ・『助産師』. 助産師教育機関紹介シリーズ 福岡県立大学院看護学研究科看護学専攻 助産学領域」日本助産師会出版. p2-3. 2018. 2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.65 「母子保健活動に関する情報交換会報告」 2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.64 「日本助産師会創立 90 周年記念式典・平成 29 年度総会に参加して」 2017.6
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.62 「子育て・女性健康支援センターにおける活動の今」 2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.62 「平成 28 年度表彰者紹介」 2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.62 「母子保健活動に関する情報交換会報告」 2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.61 「副会長挨拶～人を大切に作る組織に～」 2016.7

〈小冊子作成〉

- ・古田祐子. 『マンスリービクス』. 2017.4
- ・古田祐子. 『布ナプキンワークショップ』. 2015.9

③過去の主要業績

- ・古田祐子. 第 1 部第 3 節「乳児の表皮 PH・水分量・皮膚温の測定」, 技術情報協会監修『皮膚の測定・評価法バイブル』初版, 技術情報協会, 東京, 417-427, 2013.
- ・古田祐子, 安河内静子. 皮膚トラブルを有する生後 3 ヶ月未満児の表皮 pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前後の変化. 母性衛生 51 (2), 320-328, 2010.
- ・村田千代子, 古田祐子. 『Baby エステ』, 樞歌書房. 全 124 頁. 2008.

3. 外部研究資金

平成 27 年度文部科学省科学研究費助成事業, 科学研究費補助金 (基盤 (C)), 肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究-S 洗浄法の母子に及ぼす影響-, 5,200,000 円(平成 27 年度交付金 700,000 円), 平成 24 年度~平成 27 年度, 研究代表者.

4. 表彰

優良助産師 厚生労働大臣表彰, 2017.6

5. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本思春期学会, 福岡県母性衛生学会 (評議員), 日本看護科学学会, 日本看護技術学会, 日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学概論・1単位・2年・前期, 統合実習・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・後期

<大学院>

基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・後期, ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期, 助産実践学Ⅲ・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅳ・2単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期, 助産実践アドバンス特論・1単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ・1単位・1年・前期, マネジメント助産学・2単位・2年・前期, 助産実践アドバンス特論・1単位・2年・前期, 助産学課題研究・4単位・1～2年・通年, 助産学特別研究・8単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県母性衛生学会評議員
- ・0歳期からの親子教室企画運営委員, 田川市教育委員会, 2015.5～2018.3
- ・一般社団法人福岡県助産師会副会長, 2016.5～現在
- ・福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター実務責任者, 2016.5～現在

8. 学外講義・講演

- ・福岡助産師会教育講演「赤ちゃんの美肌をつくるスキンケア」講師, 福岡県助産師会, 2017.11.19. 福岡市.
- ・子育て講座「家庭でできる性教育～0歳から中学生まで～」, 2017.10.28. 田川市
- ・性の健康に関する事業「マンスリーピクス 月経のブルーな気分にならなうなら」講師, 2017.4.18. 田川市.

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・月経の健康に関する事業（責任者）

<事業内容>

- ・マンスリーピクス
- ・月経なんでも相談
- ・布ナプキンワークショップ
- ・不妊に悩む女性のホットスポット
- ・出前講座・講演

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	松枝 美智子
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 学歴

久留米大学医学部看護専門学校で看護の基礎教育を受け、佛教大学通信教育部社会福祉学科にて学士(社会福祉学)を取得。兵庫県立大学大学院看護学研究科で修士(看護学)を取得。神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程を満期修了退学。

2) 職歴と教育業績

基礎教育後、久留米大学病院の精神神経科病棟、脳神経外科病棟、放射線科・第4内科病棟にて看護師として勤務。平成7年から5年間、久留米大学医学部看護学科成人・老年看護学講座にて助手として勤務し、主に精神看護学実習を担当。平成16年に福岡県立大学看護学部助教として着任。看護学部、平成19年度からは大学院看護学研究科看護学専攻で研究コース(臨床看護学領域精神看護学)を担当。平成22年度からはそれらに加えて専門看護師コース(精神看護学,26単位)で精神看護学を担当。平成27年度に日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会の認可を受け、平成28年4月より専門看護師コース(精神看護学,38単位)を開講。地域精神看護又はリエゾン精神看護のサブスペシャリティを持つ精神看護専門看護師の育成と、在学中・修了後の継続的なキャリア形成支援に力を注いでいる。38単位精神看護専門看護師コースでは、これまで学部での実習教育で経験型実習教育を展開してきた経験をもとに、精神看護専門看護師コースの教育を「経験型実習教育」(安酸,2015)で展開している。

3) 研究活動

興味を持っている主な研究の焦点は次のとおりである。

- (1)安酸(2015)が提唱する経験型実習教育の学士過程と修士課程の実習における展開
- (2)臨床と専門看護師教育課程の連携による高度実践看護師のキャリア形成支援システムの構築に関する研究
- (3)精神保健医療の質評価データと精神保健医療人材との関連に関する研究
- (4)精神科超長期入院患者の地域移行促進に関する研究

研究方法は研究テーマにより異なるが、特定の理論に基づかない質的・記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、文献研究、量的研究方法、混合研究法などの指導が可能である。近年は研究疑問に関連する現象を多角的な観点から描き出せる混合研究法に魅力を感じている。

4) 社会的活動

福岡県下の精神看護専門看護師の実践能力の向上、精神看護専門看護師の活動への理解の普及、精神看護専門看護師を活用する側とされる側の相互理解の促進を目的に、「福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会」を平成29年3月に設立し、事例検討会や精神保健医療政策につながる研究を実施している。現在、正会員、賛助会員、施設会員を募集中。詳細は福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会のホームページをご参照ください。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・川野雅資編(2017).精神看護キーワード:多職種間で理解を共有するために知っておきたい119 擁護.東京;日本看護協会出版会.〔抗精神病薬〕,〔幻覚〕,〔統合失調症〕,〔非言語的コミュニケーション〕を共同執筆
- ・川野雅資編(2016).精神看護学.東京;ピラールプレス.(Chapter2 精神看護学の理論と技術、

Chapter4 状態像と看護の一部を分担・共同執筆

- ・安酸史子.(2015).*経験型実習教育*東京:医学書院 (精神看護学実習に関する部分を分担・共同執筆)
- ・川野雅資編.(2015).*精神看護学II:臨床精神看護学*第6版,東京;ヌーヴェルヒロカワ.(第1章の2のセルフケア理論を分担・共同執筆)

<論文>

- ・松枝美智子,安藤愛,宮崎初,坂田志保路,安永薫梨,宮野香里.(2017).精神看護学の経験型実習教育における「学生の精神看護への内発的動機付け」と「学生から見た教授-学習活動」との関連を測定する質問紙の信頼性の検証.第2回臨床精神看護学研究会誌,102-116.
- ・松枝美智子,坂田志保路,宮崎初,安藤愛,安永薫梨,宮野香里.(2018).精神看護学の「経験型実習教育」における「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の視点から見た教授-学習活動」との相関.福岡県,看護学研究紀要,15.(掲載予定)
- ・松枝美智子,宮崎初,坂田志保路,安藤愛,安永薫梨,宮野香里.(2018).精神看護学の「経験型実習教育」における「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の視点から見た教授-学習活動」の自己評価の理由.福岡県,看護学研究紀要,15.(掲載予定)
- ・江上史子,松枝美智子,村田節子,松井聡子,永嶋由理子.(2016).A県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査-看護管理者が雇用しない理由とその障壁-.福岡県立大学看護学研究紀要,pp.109-117.

<学会発表>

- ・松枝美智子.(2017).精神保健医療福祉の中核的人材である精神看護専門看護師の養成と活用促進の必要性.第37回日本看護科学学会学術集会,仙台市.
- ・松枝美智子,池田智,増満誠,中本亮,畑辺由起子,入江正光,山下真範,宮崎初,中島充代.(2017).各都道府県の精神科平均在院日数と各都道府県のリソースナース数や養成課程数との関連.第37回日本看護科学学会学術集会,仙台市.
- ・池田智,松枝美智子,増満誠,中本亮,畑辺由起子,入江正光,山下真範,宮崎初,中島充代.(2017).病院に勤務する精神看護専門看護師の配置と活用に関する要因.第37回日本看護科学学会学術集会,仙台市.
- ・松枝美智子,渡邊智子,江上史子,村田節子,永嶋由理子.(2017)医療機関等の看護管理者の、CNSコースの学生の能力強化に関する要望.日本看護研究学会雑誌,40(3),158.
- ・渡邊智子,御手洗裕子,生駒千恵,石本佐和子,廣瀬理絵,江上史子,出口敏江,藤澤美奈,松枝美智子.(2016).M-Testを活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動の可能性.日本看護科学学会学術集会講演集 36回,438.
- ・安藤愛,松枝美智子.(2016).看護系大学生が就職先を精神科に決定する要因.日本教師学学会第17回大会,奈良県生駒郡.
- ・松枝美智子,村田節子,江上史子,松井聡子,永嶋由理子.(2015).A県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師(Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援.第41回日本看護研究学会学術集会,広島市.
- ・松枝美智子,渡邊智子,江上史子,村田節子,永嶋由理子.(2015).A県の医療機関等の看護管理者がAPNを雇用したい理由.第46回(平成27年度)第35回日本看護学会学術集会:看護管理,福岡市.
- ・松枝美智子,松井聡子,江上史子,渡邊智子,村田節子,永嶋由理子.A県内医療機関等の看護管理者によるAPN教育のあり方に関する要望.日本看護科学学会学術集会,広島市.
- ・江上史子,松枝美智子,村田節子,松井聡子,永嶋由理子.(2015).A県の医療機関等に所属する看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ:雇用しない理由.第46回(平成27年度)第35回日本看護学会学術集会:看護管理,福岡市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から看

護したいと思うことに関連する要素.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.

- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・池田智,松枝美智子.(2014).大学病院に勤務する新卒看護師の Sense of Coherence と職業性ストレス・精神健康度の関連.産業精神保健,22,72.
- ・江上史子,安酸史子,渡邊智子,棟直美,吉田恭子,浅井初,坂田志保路,松枝美智子,清水夏子,小森直美,小野美穂,中野榮子.経験型実習教育における学生の学びの内容(第2報)ー3年生を対象としたフォーカスグループインタビューからー.日本教師学学会第15回大会,2014年3月.

②その他の最近の業績

- ・安酸史子,中野榮子,棟直美,小森直美,松枝美智子,渡邊智子,小野美穂,安永薫梨,浅井初,江上史子,清水夏子,吉田恭子,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究.平成21年~平成24年度科学研究費補助金,基盤研究(B)研究成果報告書(研究代表者:安酸史子,課題番号21390571)
- ・安酸史子企画・著作,安酸史子,松枝美智子監,安酸史子,松枝美智子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(精神看護学編).平成21年~平成24年度科学研究費補助金,基盤研究(B)(研究代表者:安酸史子,課題番号21390571)
- ・安酸史子企画・著作,安酸史子,中野榮子監,安酸史子,中野榮子,小野美穂,清水夏子,松枝美智子.経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(成人看護学編).平成21年~平成24年度科学研究費補助金,基盤研究(B)(研究代表者:安酸史子,課題番号21390571)

③過去の主要業績

- ・松枝美智子,坂田志保路,安永薫梨,浅井初,梶原由紀子,北川明,中野榮子,安酸史子,安田妙子,政時和美,松井聡子.(2011).精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討:因子分析と信頼性の検証.福岡県立大学看護学研究紀要,9(1),1-10.
- ・松枝美智子,安永薫梨,安田妙子,大見由紀子.(2008).精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因.福岡県立大学看護学研究紀要,5(2),66-79.
- ・松枝美智子.(2005).精神科超長期入院患者の社会復帰援助が成功するシステム上の要因:日本版治療共同体の実践の分析から.福岡県立大学看護学部紀要,2(2),80-91.

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本家族看護学会、日本 CNS 看護学会、日本集団精神療法学会、日本老年看護学会、日本看護学会、日本精神科看護学会、日本認知療法学会、日本教師学学会、日本 CNS 看護学会

6. 担当授業科目

1)看護学部

精神看護学概論・2単位・2年・前期、精神看護学実習・2単位・3年後期-4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・通年、卒業研究・2単位・4年・後期

2)大学院

(1)研究コース(臨床看護学領域精神看護学)

精神看護学特論・2単位・1年次・前期、精神看護学演習・2単位・1年次・後期、臨床看護学特別研究8単位・1-2年・通年

(2)精神看護専門看護師コース

精神看護関連法規・制度・政策論・2単位・通年、精神看護論・2単位・前期、精神看護アセスメント論・2単位・通年、精神看護セラピーⅠ・2単位・通年、精神看護セラピーⅡ・2単位・通年、リエゾン精神看護論・2単位・通年、精神障がい者地域移行・地域定着看護

論、精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、精神看護専門看護師役割実習2単位・通年(以上、1年次)、精神科診断治療実習・2単位・通年、Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、Advanced精神看護専門看護師役割実習・2単位・通年(以上、2年次)、課題研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・平成24年度～平成29年度の日本看護学会誌(精神看護)の論文選考委員
- ・第5回精神看護ディスコース研究会誌の査読委員
- ・第2回臨床精神看護学研究誌2017年の査読委員
- ・日本精神保健看護学会代議員(2017年6月～2021年6月)
- ・福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会代表

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員。
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮.福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻精神看護セミナーI,2017.7.15.
第一部:グループスーパービジョン
スーパーバイザー:神戸女子大学 講師 福山敦子 先生
スーパーバイジー:ちはやACT訪問看護ST管理者兼精神看護専門看護師 山本智之様
第二部 講演
テーマ:「精神障がい者の地域定着を促進する精神看護専門看護師の活動の実際」
講師:神戸女子大学 講師 福山敦子 先生
第三部 事例検討会
ちはやACT訪問看護ST管理者兼精神看護専門看護師 山本智之様
・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初.福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻精神看護セミナーII,2017.9.16.
第一部 グループ・スーパービジョン
スーパーバイザー:滋賀医科大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 安藤光子先生
スーパーバイジー:(株)麻生 飯塚病院 リエゾンチーム 看護師 堤一樹様
第二部 講演
テーマ:「せん妄のある患者に対する予防的な看護を考える」
講師:滋賀医科大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 安藤光子先生
第三部 事例検討会
事例提供:(株)麻生 飯塚病院 リエゾンチーム 看護師 堤一樹様
- ・松枝美智子,安永薫梨,中本亮.精神看護トピックセミナー,2017.12.2
講演+ディスカッション
テーマ:複数の役割を兼務する精神看護専門看護師の役割開発
講師:和洋女子大学 准教授 寺岡征太郎 先生
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮.福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻精神看護セミナーIII,2018.3.17(実施予定)
第一部 グループ・スーパービジョン
スーパーバイザー:
スーパーバイジー:福岡県立大学 助教、一本松すずかけ病院精神看護専門看護師 宮崎初先生
第二部 講演
講演テーマ「オレム・アンダーウッドモデルとストレングスモデルの融合」
講師 聖路加国際大学大学院看護学研究科長 萱間真美 教授
講演テーマ:「オレム・アンダーウッドモデルとストレングスモデルを融合した看護の実際」
講師:長谷川病院 精神看護専門看護師 後藤優子様

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	准教授	氏名	渡邊 智子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

筑豊地域に住んで、Respect という Key 概念に出逢い、身体の動きが、暮らしぶりや価値観に影響していることを実感しました。行き着いた関心は、認知症があっても高齢者が健康な暮らしを送る上での支障となる不定愁訴を自ら管理する方法についてです。まず、高齢者が身体の動きをよくするための評価・介入する方法として、M-Test (身体の動きに伴って引き起こされる様々な症状を指標にして診断および治療を行うメソッド) の有用性を検討しています。M-Test を用いて、身体感覚に焦点をあて、ストレッチを行っていますが、健康サロンを継続して、3 年になりますが、高齢者の方々自ら、健康サロンを継続して行く動きが出てきました。そして、ツボ刺激について、わいわいがやがや意見を出し合って、学びを深めているところです。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

安酸史子, 北川明, 江上千代美, 江上史子, 奥祥子, 小野美穂, 金城やす子, 小森直美, 清水 夏子, 田中美延里, 塚原ひとみ, 坪井桂子, 中嶋恵美子, 中富利香, 二井矢清香, 原田奈穂子, 伴佳子, 松枝美智子, 宮野香里, 安永薫梨, 山住康恵, 吉田恭子, 渡邊智子. 経験型実習教育-看護師をはぐくむ理論と実践. 東京: 医学書院, 2015 年.

<論文>

吉田恭子, 渡邊智子. 10 年後もその先も、住みたいところに住み続ける互助・共助: 地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題. 認知症ケア事例ジャーナル 6(4), 2014 年.

<報告書>

渡邊智子, 吉田恭子. 老年看護学教育における経験型実習教育ツールの検討 臨床実習指導者のイメージ・マップを用いた臨床実習指導経験, 日本看護学教育雑誌 24 巻学術集会講演集, 2014 年.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 渡邊智子, 吉田恭子. (2014). 老年看護学教育における経験型実習教育ツールの検討 臨床実習指導者のイメージ・マップを用いた臨床実習指導経験, 第 24 回日本看護学教育学会学術集会, 千葉.
- 組坂由加里, 押尾雅代, 和田真由美, 渡邊智子. (2014). 高齢者患者の「食べたいという意思」を尊重した看護ケアに向かう看護師の思い. 第 14 回福岡県看護学会, 福岡.
- 富田郁代, 佐藤恭子, 石井和久, 高島真琴, 組坂由加里, 渡邊智子. (2015). 胃瘻造設患者が経口摂取出来るようになり、食事への喜びが取り戻せたプロセス. 第 15 回福岡県看護学会, 福岡.
- 津野静子, 中野徹, 麦原美喜子, 西田毅, 渡邊智子. (2015). 在宅生活を送る排便障害のある認知症高齢者の排便コントロール. 筑豊看護学会, 飯塚.
- 松枝美智子, 松井聡子, 江上史子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. (2015). A 県内医療機関等の看護管理者による APN 教育のあり方に関する要望, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島.
- 江上史子, 松枝美智子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. (2015). APN の雇用ニーズ調査: 看護管理者が雇用しない理由, 第 46 回日本看護学会-看護管理-学術集会, 福岡.
- Watanabe Tomoko, Egami Fumiko. (2015). The factors of continuing the volunteer activity that nursing undergraduates valued dialogue between elderly people, ICCHNR 国際地域看護学会, ソウル.
- 岡野ひとみ, 白川あすか, 松岡晶子, 宝来和恵, 北澤明美, 今仁世都代, 舟越千絵, 渡邊智子. (2016). 上部消化管内視鏡検査を受ける高齢者への視覚媒体使用の有用性. 第 47 回日本看護学会-慢性期看護, 鳥取.

- ・梅木美恵, 迎田直美, 樋口絹代, 渡邊智子. (2016). 徘徊高齢者が住みなれた地域で暮らすための介護支援専門員の役割—徘徊高齢者支援の実態調査より—. 筑豊看護学会, 飯塚.
- ・渡邊智子, 御手洗裕子, 生駒 千恵, 石本 佐和子, 廣瀬 理絵, 江上 史子, 出口 敏江, 藤澤 美奈, 松枝美智子. (2016). M-Test を活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・御手洗裕子, 渡邊智子. (2016). 精神科病院の看護管理者による認知症高齢者の早期退院に向けた取り組みと今後の課題—看護倫理実践に向けた環境づくり—. 第26回日本精神保健看護学会. 滋賀.

〈資格〉

End-of-Life Nursing Education Consortium Trainer 【ELNEC - G179】 2013年8月.

③過去の主要業績

- ・渡邊智子. (2001). 痴呆症高齢者ケアの場における判断の構造. 兵庫県立看護大学大学院修士論文.
- ・渡邊智子. (2001). 中西睦子監修, 水谷信子編著「老人看護学」(担当箇所「閉じ困りがちな高齢者」, 62-71. 建帛社
- ・渡邊智子, 八島妙子, 茂野香おる, 井上映子, 杉田由加里, 酒井郁子, 吉本照子. (2006). 介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマ—高齢者の生活リズムに調整に関して—, 第36回日本看護学会論文集—看護管理—, p392-p394.
- ・渡邊智子. (2010). 中西睦子監修, 安酸史子編著「実践成人看護学—慢性期」(担当箇所「第3部V肝硬変—希望を持って生きるための支援」, 143-154. 建帛社.

3. 外部研究資金

文部省科学研究費 挑戦的萌芽研究 高齢者の身体活動量維持のための M-Test を用いたセルフマネジメントに関する研究 3,640,000円 H27.4-H29.3.

5. 所属学会

日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教師学学会, 日本地域看護学会 日本プライマリ・ケア連合学会 各会員

6. 担当授業科目

〈学部〉

ホリスティック人間論 1単位・1年・後期, 老年看護学実習Ⅰ 1単位・2年・通年, 老年看護学概論 1単位・2年・前期, 老年看護学 2単位・2年・後期, 老年看護学演習Ⅱ 1単位・3年・通年, 老年看護学実習Ⅱ 3単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ 2単位・3年・通年, 老年看護学演習Ⅰ 1単位・3年・前期, 看護研究 2単位・3年・後期, 統合実習 2単位・4年・前期, 卒業研究 2単位・4年・後期

〈大学院〉

課題研究 4単位・修士1年・通年, 老年看護学特論 2単位・修士1年・前期, 老年看護学演習 2単位・修士1年・前期, 高齢者健康生活アセスメント論 2単位・修士1年・前期, 老年病診断治療学 1単位・修士1年・前期, 老年病診断治療学演習 1単位・修士1年・前期, 高齢者看護方法論 2単位・修士1年・前期, 高齢者地域・家族看護方法論 1単位・修士1年・後期, 高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論 2単位・修士1年・後期, 終末期高齢者看護論 2単位・修士1年・後期, 終末期老年看護実習Ⅰ 2単位・修士1年・後期, 終末期老年看護実習Ⅱ 3単位・修士1年・後期, 臨床看護学特別研究 8単位・修士2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」アドバイザー
- ・ 田川市男女共同参画審議会委員
- ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会（認知症支援部会）委員
- ・ 田川市高齢者保健福祉計画（第8次）有識者会議 委員

8. 学外講義・講演

- ・ 日本老年看護学会 認知症看護対応力向上研修 「高齢者の意思決定支援」10月
- ・ 福岡県看護連盟筑豊1支部研修会 講演 「入院中の高齢患者への日常生活支援の再考」11月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践教育センター研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	講師	氏名	中井 裕子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院内科系病棟での臨床勤務の後、2001年に千葉県立衛生短期大学助手として着任。2010年4月に本学講師として着任し、成人看護学（急性期）の教育に携わっています。主な研究分野は周手術期看護、高齢者看護、看護教育です。主な研究テーマは周手術期患者のニーズ、高齢者に対する急性期看護、臨床での看護学生のリアリティショックを緩和するための演習方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: 総合防災訓練に参加した学生の学習意欲と学び, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第14巻, 2017.
- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: A地区におけるAEDの配置に関する調査研究, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第12巻, 2015.
- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子: 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2015.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・岩崎未典, 中井裕子: 救急看護師が受けるストレス要因に関する文献検討, 日本看護研究学会第43回学術集会, 愛知, 2017.
- ・森遥香, 中井裕子: 待ち時間に対する外来患者の思いと看護, 日本看護研究学会第43回学術集会, 愛知, 2017.
- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子: 視聴覚教材が成人看護技術演習の事前学習に及ぼす影響～eラーニングを使用して～, 日本看護研究学会第42回学術集会, 茨城, 2016.
- ・野口未生, 廣兼利来, 村田節子, 中井裕子: 化学療法を受ける高齢者の苦痛に関する文献検討, 日本看護研究学会第41回学術集会, 広島, 2015.
- ・廣兼利来, 野口未生, 村田節子, 中井裕子: 日本人看護師と外国人患者の間に生じる課題に関する文献検討, 日本看護研究学会第41回学術集会, 広島, 2015.

③過去の主要業績

- ・中井裕子, 比田井理恵, 小林繁樹: 1 看護アセスメント 患者の安全の確保と精神的援助, 小林繁樹編集, 新看護観察のキーポイントシリーズ 脳神経外科, 中央法規出版, 2011.
- ・中井裕子, 榎本麻里, 三枝香代子, 堀之内若名: 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討(第二報), 千葉県立衛生短期大学紀要, 27(1・2), 143-151, 2009.
- ・三枝香代子, 榎本麻里, 中井裕子, 堀之内若名: クリティカルケアの演習における教育方法の検討—患者急変時デモンストレーションの有効性についての分析—, 千葉県立衛生短期大学紀要, 27(1・2), 109-115, 2009.
- ・中井裕子, 堀之内若名, 三枝香代子, 榎本麻里: 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討, 千葉県立衛生短期大学紀要, 26(2), 105-112, 2008.
- ・大谷則子, 堀之内若名, 中井裕子, 榎本麻里: 手術室見学実習における学び—二つの実習形態の比較検討による考察—, OPE NURSING, 21(6), 98-108, 2006.

5. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本看護技術学会, 日本老年社会科学学会

6. 担当授業科目

成人急性看護学・2単位・2年・後期，成人看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期，成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期，成人急性看護学実習・3単位・3年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・後期，成人看護学特論・2単位・修士1年・2単位・前期，成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	講師	氏名	安河内 静子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1990年から5年間、九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務(助産師)、1996年より8年間、福岡市保健福祉センター(保健師)で勤務。2004年3月国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻修了後、4月より本学に着任、現在に至る。

女性がエンパワーメントしていく過程を支援する身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの開催やリカレント教育、乳児の皮膚と洗浄法に関する研究、妊産婦の禁煙プログラムに関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・鳥越郁代, 古田祐子, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 小林絵里子, 道園亜季. 日本助産師会機関誌, 助産師教育機関シリーズ-福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻助産学領域一, 日本助産師会, Vol.72, No.1,56-58. 2017.
- ・古田祐子, 安河内静子. 簡易型 S 皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 15, 福岡県立大学, 11-20. 2016.
- ・安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14, 福岡県立大学, 53-62. 2015.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 25-35. 2015.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 73-84. 2015.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 小林絵里子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子. (2017). 「身体活性化(世にも珍しい)マザークラス」に参加した女性の子どもの「性」に関する悩みと変化. 第58回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・古田祐子, 安河内静子. (2015). S 洗浄法が実施者と肌トラブルを有する乳児(60日未満)に及ぼす影響. 日本科学学会, 広島.
- ・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. ICM, Prague Congress center. 2014.6.2
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 中国における中国伝統医療の現状-北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して-. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.

③過去の主要業績

<教材開発>

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. 2012年.

<論文>

- ・古田祐子, 安河内静子. (2012). 乳児の皮膚トラブルに対する皮膚洗浄法の有用性. 日本看護技術学会誌, 11(3), 35-45.

- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果-体験録の分析から-. 福岡県立大学看護学部紀要7(2), 63-71.
- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2010). 皮膚トラブルを有する生後3か月未満児の表皮pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前・後の変化. 母性衛生, 51(2), 320-328.

5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本禁煙科学会、日本思春期学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護演習Ⅰ・1単位・3年・通年, 女性看護学演習Ⅱ・3~4年・通年, 女性看護学実習・2単位・3~4年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期, 演習・1単位・1年・後期, 助産学特論・2単位・1年・前年, 基礎助産学演習・1単位・1年・前期, 助産実践学Ⅱ・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅲ・2単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ・2単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ・2年・前期, 助産学実習Ⅳ・2年・前期, 助産学実習Ⅴ・2年・2単位・後期

7. 社会貢献活動

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 小林絵里子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 田川, 田川市.
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 小林絵里子, 佐藤香代. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 福岡, 福岡市.
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 石村美由紀, 吉田静, 佐藤繭子, 小林絵里子, 安河内静子, 佐藤香代. 身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー, 福岡市.

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	講師	氏名	安永 薫梨
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004年4月より本学に着任。

現在、研究に関しては、「精神科看護師が患者に怒りを向けられた際の心的安全空間維持に関する質問紙の開発」を目指して、精神科看護師を対象に質問紙調査などを行っている。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、精神疾患を持つ患者に対し、その人らしい生活が送れるように最も効果的な看護を実践できるよう、探究し続けることができるように講義、演習、実習を行っている。今後は、患者の力動的な理解に基づくオレム－アンダーウッドのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者が望む地域での生活の実現に向け、学生が患者に実践できるよう講義、演習、実習を行っていききたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・川野雅資編, 松枝美智子, 安永薫梨(2016). 精神看護学. 東京; ピラールプレス.
- ・安酸史子編, 松枝美智子, 安永薫梨(2015). 経験型実習教育. 東京; 医学書院(Chapter2 精神看護学の理論と技術, Chapter4 状態像と看護の一部を分担・共同執筆メディカコンクール委員会編,

<論文>

- ・松枝美智子, 宮崎初, 安藤愛, 坂田志保路, 安永薫梨, 宮野香里.(2018). 精神看護学の「経験型実習教育」における「患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授－学習活動」の自己評価の理由. 福岡県立大学看護学部研究紀要. 印刷中.
- ・松枝美智子, 坂田志保路, 宮崎初, 安藤愛, 安永薫梨, 宮野香里.(2018). 精神看護学の「経験型実習教育」における「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授－学習活動」との相関. 福岡県立大学看護学部研究紀要. 印刷中.
- ・安永薫梨, 宇佐美しおり(2017). 「境界性パーソナリティ障害を持つ患者の怒りに対する看護介入～精神看護専門看護師(CNS)への面接調査の分析から～」. 福岡県立大学看護学部研究紀要. 第14巻, 1-9.
- ・松枝美智子, 安藤愛, 宮崎初, 坂田志保路, 安永薫梨, 宮野香里(2017). 精神看護学の経験型実習教育における「学生の精神看護への内発的動機付け」と「学生から見た教授－学習活動」との関連を測定する質問紙の信頼性の検証. 第2回臨床精神看護学研究会誌. p102-116.
- ・安永薫梨(2015). 「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1), 1-11.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・安永薫梨, 宇佐美しおり.(2017). 精神科看護師が患者から向けられた怒りとその対処. 国際力動的心理療法学会第23年次大会抄録, p43.
- ・安永薫梨.(2016). 統合失調症患者の精神科看護師への怒りと看護介入のあり方. 国際力動的心理療法学会第22年次大会抄録, p25.
- ・安永薫梨.(2015). 精神看護専門看護師(CNS)による怒りへの介入技法とその評価. 国際力動的心理療法学会第21年次大会抄録, p46.

<国家試験問題の解説>

- ・松枝美智子, 安永薫梨, 他.(2018). 第107回看護師国家試験問題解説. メディカ出版.
- ・松枝美智子, 安永薫梨, 他.(2017). 第106回看護師国家試験問題解説. メディカ出版.
- ・松枝美智子, 安永薫梨, 他.(2016). 第105回看護師国家試験問題解説. メディカ出版.

③過去の主要業績

- ・安永薫梨 (2011). 精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み. 日本精神保健看護学会誌. 20(2), 21-27.
- ・安永薫梨 (2010). 精神科病院における患者から看護師への暴力の実態と看護の在り方～看護師に暴力を振るった患者を対象とした質問紙調査より～, 福岡県立大学看護学研究紀要, 7(2), 72-81.
- ・安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子(2007)経験型精神看護実習教育ワークショップによる実習指導への効果と今後の課題 実習施設と大学協働の取り組み. 福岡県立大学看護学研究紀要. 5(1), p19-27.
- ・安永薫梨 (2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.
- ・安永薫梨 (2005). 精神科閉鎖病棟において患者から看護師への暴力が起こった状況と臨床判断. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(1), 11-20.

3. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会、日本専門看護師協議会、日本看護研究学会

4. 担当授業科目

〈学部〉

精神看護学概論・2単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・通年、卒業研究・2単位・4年

5. 学外講義・講演

福岡県立小倉南高等学校の学生を対象とした出前講義「生涯人間発達論」(2017.8.23)

6. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮. 平成29年度精神看護セミナーⅠ (2018. 7. 15)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮. 平成29年度精神看護セミナーⅡ (2017. 9. 16)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮. 平成29年度精神看護セミナーⅢ (2018. 3. 17)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮. 平成29年度トピックセミナー (2017. 12. 2)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	吉川 未桜
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主に看護学教育方法（小児）に関する研究と、看護職による子育て支援に関する研究を行っている。看護学教育方法（小児）に関する研究としては、子どもと関わる機会の少ない近年の学生が、子どもを具体的にイメージし、子どもと家族へ根拠をもって適切な看護を実践する能力を身につけられるよう様々な演習・実習の工夫を行い、よりよい教育方法の探求を行っている。また、子育て支援に関する研究としては、病棟・外来クリニック・子育て支援センター・保育所等地域の子育て支援の現場における子育て相談・プリパレーションなど、身近な看護職による支援を探求することで、あらゆる健康段階の子どもと家族がより健康で健やかに成長発達できる子育て支援の充実を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・増満誠・藤野靖博・樺直美・村田節子・泷野由夏・松枝美智子・宮城由美子・鳥越郁代、吉田 静・坂田志保路・山下清香・阿部真理子・吉田恭子・江上千代美・石村美由紀、吉川未桜、柴北早苗・原田直樹・杉本みぎわ・浦悠子、新旧カリキュラムにおける臨床実習での看護技術習得状況、福岡県立大学看護学研究紀要 14 巻、2017 年 3 月。
- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子、赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果、福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号、2016 年 3 月。
- ・江上千代美・田中美智子・柏原やすみ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・宮城由美子、新卒看護師に対する輸血の準備に関する看護技術教育前後の変化－眼球運動指標による評価－、福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号、2016 年 3 月。
- ・青野広子・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・宮城由美子、小児看護技術支援における看護学部 4 年生の看護技術動作の傾向と感想の検討、福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号、2016 年 3 月。
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子、小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み、福岡県立大学看護学部紀要 12 巻 1 号、2015 年 3 月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子、赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～、第 17 回九州・沖縄小児看護教育研究会、沖縄、2016 年。
- ・宮城由美子・吉川未桜・田中美樹・青野広子、食物アレルギー児の緊急対応に関する保育士の認知について、第 21 回日本保育保健学会、鹿児島、2015 年。
- ・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・柿木里香、外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの開発、第 25 回日本外来小児科学会、仙台市、2015 年。
- ・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・柿木里香、外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの開発、第 19 回九州外来小児科学研究会、福岡市、2015 年。

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究代表者、「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」、260 万円、平成 29 年度～平成 31 年度。

5. 所属学会

日本看護科学学会・日本小児看護学会・日本看護研究学会・日本小児保健協議会・日本保育園保健学会・九州小児看護教育研究会・子ども健康科学学会

6. 担当授業科目

(看護学部) 小児看護学・2単位・2年後期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期、小児看護学実習・2単位・3年前期～4年後期、統合実習(小児)・2単位・4年通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年通年、卒業研究・2単位・4年後期、
(人間社会学部) 子どもの保健Ⅱ・1単位・2年前期

8. 学外講義・講演

- ・吉川未桜・田中美樹・仲村彩・吉田麻美、子どもの健康見守り隊、健康保育(年中・年長)、田川市中央幼稚園。2017年6月21日。田川市。
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美、保育看護 in 田川。田川郡保育士会学習会。「子どもの事故・けいれんへの対応」2017年7月29日。田川市。
- ・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・梶原由紀子、前向き子育てふくおか「いのちのはなし」。2017年8月26日。久留米市。
- ・吉川未桜、平成29年度伊加利子鳩保育園子育て講演会「小児看護の立場から伝えたい事-パパママは名医だよ-」講師、2018年1月13日。田川市。
- ・道園亜希・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美、子どもの健康見守り隊、健康保育(年長)、田川市中央幼稚園。2018年3月19日。田川市。

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	江上 史子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科看護の場における認知症高齢者の看護や、家族支援、リハビリテーション看護に関心があります。精神科における認知症ケアについては、これからも取り組んでいきたい課題の一つです。認知症高齢者と家族の支援に関する研究では、相談活動を通して、対象が築いてきた人生や価値観に寄り添う関わりの重要性を実感しています。

老いや病に向き合うことは、本人にも援助者にも哀しみや苦しみを伴うことがあります。しかし同時に、人生の先輩としての豊かな人間性に触れ、教えられることや励まされることも多く、多様なライフスタイルのある現代の高齢社会において、人生の最後の時期である老年期を、その人らしい生活、尊厳ある人生を送るための支援に携わりたいと思っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・安酸史子、北川明、江上千代美、江上史子、奥祥子、小野美穂、金城やす子、小森直美、清水夏子、田中美延里、塚原ひとみ、坪井桂子、中嶋恵美子、中富利香、二井矢清香、原田奈穂子、伴佳子、松枝美智子、宮野香里、安永薫梨、山住康恵、吉田恭子、渡邊智子、経験型実習教育-看護師をはぐくむ理論と実践、東京：医学書院、2015年12月
- ・江上史子、松枝美智子、村田節子、松井聡子、永嶋由理子、A県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査-看護管理者が雇用しない理由とその障壁-、福岡県立大学看護学研究紀要、2016年3月。

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・江上史子、松枝美智子、渡邊智子、村田節子、永嶋由理子、APNの雇用ニーズ調査：看護管理者が雇用しない理由、第46回日本看護学会-看護管理-学術集会（福岡）、2015年9月
- ・松枝美智子、村田節子、江上史子、松井聡子、永嶋由理子、A県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師(Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援、一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会（広島）、2015年8月
- ・松枝美智子、松井聡子、江上史子、渡邊智子、村田節子、永嶋由理子、A県内医療機関等の看護管理者によるAPN教育のあり方に関する要望、第35回日本看護科学学会学術集会（広島）、2015年12月
- ・丸山泰子、椋直美、江上史子、家族介護者が介護困難に感じる要因と看護師への役割期待に関する研究-家族介護者への質問し調査を通して-、一般社団法人日本看護研究学会第22回九州・沖縄地方学会学術集会（佐賀）、2017年11月
- ・椋直美、丸山泰子、江上史子、尾形由起子、高齢者サロンでの認知症支援の取組の実態、一般社団法人日本看護研究学会第22回九州・沖縄地方学会学術集会（佐賀）、2017年11月

③過去の主要業績

- ・平林美保、江上史子、梅垣順子、松岡千代、水谷信子、高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性-「高齢者もの忘れ看護相談」を通して-、兵庫県立看護大学 附置研究所推進センター研究報告集 Vol.1、p39-45、2003年3月
- ・南裕子（主任研究者）、水谷信子（分担研究者）、松岡千代、平林美保、江上史子、梅垣順子（研究協力者）、「高齢者もの忘れ看護相談」の効果-継続的利用により介護家族に生じた変化について-平成17年3月厚生労働科学研究研究費補助金 医療技術評価総合研究事業、平成16年度総括・分担研究報告書 p31-51、2005年3月
- ・江上史子、精神病院に勤務する看護師の認知症高齢者の持つ力へのアプローチ-認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて-、兵庫県立大学大学院 修士論文、2007年3月

5. 所属学会

日本老年看護学会、日本災害看護学会、日本認知症ケア学会、日本教師学学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

老年看護学概論・1単位・2年・前期、老年看護学・2単位・2年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3~4年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3~4年・後期~前期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学看護実践教育センターの糖尿病看護認定看護師教育過程での講義（相談・1単位・前期）
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参加（通年・11回）

8. 学外講義・講演

職業訓練法人福岡地区職業訓練協会主催、福祉用具専門相談員指定講習会講師「介護サービスにおける視点」、職業訓練法人福岡地区職業訓練協会、2017年9月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	小林 絵里子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年 市立名寄短期大学(現 名寄市立大学)看護学科卒業。

1999年 神戸大学医学部保健学科看護学専攻卒業。

2008年 北海道札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻博士前期課程修了。

現在 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻看護学領域母性看護学分野博士課程後期課程在籍中。

大学病院で11年間看護師、助産師として臨床(外科領域(皮膚科・形成外科)、小児科、産科周産期科)を経験後、2010年4月より本大学に着任。

臨床では医療的ケアを必要としながら在宅療養へ移行する児とその家族に関するケアや、先天性の疾患を持ち、出生直後から手術までのコントロール目的に入院する児とその家族に対するケア、口唇裂・口蓋裂などの児の術前術後のケアを通じた母乳育児支援、小児科病棟や、外来での母乳育児支援を重点的に取り組んできた。NICU(新生児集中治療室)やGCUで母乳育児支援の啓蒙に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究に取り組んでおり、医療スタッフが正しい知識を持って、安心して楽しく母乳育児支援ができるよう、実践に生かせる研究をしたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・小林絵里子, 齋藤いずみ, 新野由子. (2016) .A地区における周産期看護の現状～管理者への質問紙調査から～. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・佐藤繭子, 小林絵里子. (2016) .看護系大学の母性看護学における母乳育児支援教育の現状と課題. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・佐藤繭子, 小林絵里子. (2015) .タイ・ムアンコンケン郡における母乳育児支援の現状—コンケン大学の現地訪問を通して—. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014) .中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014) .中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・小林絵里子, 佐藤香代. (2014) .本学助産学課程におけるホリスティックケア履修者の学びと実践. 福岡県立大学看護学部紀要

②その他最近の業績

<教材開発>

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践, 2012.

<学会発表>

- ・小林絵里子, 齋藤いずみ, 新野由子. (2016) .A地区における周産期看護の実情～母乳育児支援に焦点を当てて～, 第31回日本助産学会学術集会, 徳島
- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 吉田静, 小林絵里子, 石村美由紀, 鳥越郁代. (2016) 妊婦と育児中の母親が共に集い学び合う「身体感覚活性化マザークラス」を試みて, 第31回日本助産学会学術集会, 徳島
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 鳥越郁代. (2015) .中国天津地域における大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—, 第30回日本助産学会学術集会, 京都
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015) .中国における中国伝統医療の現状—北京中医药大学を中心とした医療施設の視察を通して—, 第56回日本母性衛生学会総会・学術集会, 岩手

- ・石村美由紀,佐藤香代,小林絵里子,吉田静,鳥越郁代.(2015).身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験, 第30回日本助産学会学術集会, 京都
- ・小林絵里子,佐藤香代,吉田静,安河内静子,鳥越郁代.(2014). 中国における女子大学生の食文化ー中国の文化・教育と食の実態との関連ー, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会, 千葉
- ・石村美由紀,佐藤香代,小林絵里子.(2014). 看護学生のマザークラス企画による学び・身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して-, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会, 千葉
- ・佐藤麻子, 小林絵里子, 佐藤香代.(2014). 看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会, 千葉

③過去の主要業績

- ・小林絵里子. (2009). コメディカルセッションシンポジスト 循環器領域におけるアロマセラピー. 第57回日本心臓病学会. 北海道
- ・瀬尾智子, 小林絵里子, 山岸映子, 多田香苗 (2007) 「新イノチェンティ宣言」翻訳
- ・小林絵里子. (2005). 「アロマセラピーの及ぼすリラクゼーション効果(担当部分単独執筆)」。『Aromatopia Vol.14 No.2』, フレグランス・ジャーナル社

5. 所属学会

日本助産学会/日本新生児看護学会/日本母性衛生学会/日本母性看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ
 ・1単位・3年後期~4年前期, 女性看護学実習・2単位・3年後期~4年前期, 専門看護学ゼミ
 ・2単位・4年・前期, 卒業研究2単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

〈大学院〉

基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位
 ・1年・通年, ホリスティック助産学特論・2単位・1年・前期, ホリスティック助産学演習
 ・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産実践学Ⅲ(産褥・
 新生児期)・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅳ(ハイリスクケア)・2単位・1年・後期, 助
 産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・
 1年・後期, 助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ
 (ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・
 2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会理事・広報事業部員
- ・母乳育児支援を学ぶ北海道教室事務局
- ・母乳育児支援を学ぶ九州教室事務局
- ・九州母乳育児支援セミナー 代表

〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉

- ・平成29年度第1期20時間基礎セミナー(2017.5月~7月)
- ・平成29年度第2期20時間基礎セミナー(2017.8月)
- ・第42回母乳育児学習会 in 神戸(2017.6)
- ・第13回医師のための母乳育児支援セミナー in 東京(2017.10)
- ・第16回母乳育児支援を学ぶ九州教室(2017.8)
- ・第43回母乳育児学習会 in 東京(2018.1.28)
- ・第7回母乳育児支援20時間基礎セミナー in 長崎市医師会看護専門学校助産学科(2017.7)

- ・ 第17回母乳育児支援を学ぶ九州教室 (2018.2.4)
- ・ 第15回IBCLCのための母乳育児カンファレンス in 名古屋 (2018.2.24-25)

8. 学外講義・講演

- ・ 小林絵里子他. (2017). 第7回母乳育児支援 20時間基礎セミナー in 長崎市医師会看護専門学校助産学科 ファシリテーター
- ・ 小林絵里子他. (2017). 第3回母乳育児支援 20時間基礎セミナー in 大阪府立母子医療センター ファシリテーター
- ・ 小林絵里子. (2017). 第3回母乳育児支援 20時間基礎セミナー in 鹿児島 ファシリテーター
- ・ 小林絵里子. (2017). 第1回母乳育児支援 20時間基礎セミナー in 熊本 ファシリテーター
- ・ 小林絵里子. (2017). 第16回~第22回福岡県立大学新生児蘇生法講習会「専門」コース インストラクター
- ・ 小林絵里子. (2017). 第3回~第6回福岡県立大学新生児蘇生法講習会「スキルアップ」コース インストラクター
- ・ 小林絵里子. (2017). 福岡県看護協会助産師職能委員会 院内助産スキルアップ研修(母乳育児支援)講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 第8回健康大使セミナー (2017.9)
- ・ 第13回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 田川 (2017.5~6)
- ・ 第12回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー (2017.11.23)
- ・ 第22回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2017.10)
- ・ 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」主催 新生児蘇生法講習会・母乳育児相談

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	佐藤 繭子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟で勤務、助産師として8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011年3月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了、修士(看護学)。現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究だけでなく、性教育(幼児・児童、子を持つ親、成人)にも積極的に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

- ・佐藤繭子, 小林絵里子. (2017)看護系大学の母性看護学における母乳育児支援教育の現状と課題. 福岡県立大学看護学部紀要, 14,
- ・佐藤繭子, 小林絵里子. (2015). タイ・ムアンコンケン郡における母乳育児支援の現状. 福岡県立大学看護学部紀要, 13, 129-135.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・佐藤繭子, 古田祐子, 石村美由紀. (2018). 出産した女性の「産後クライシス」誘発要因～母親の語りの分析から～性生活に焦点を当てて～. 第32回日本助産学会学術集会, 神奈川.
- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 吉田静, 小林絵里子, 石村美由紀, 鳥越郁代. (2017). 妊婦と育児中の母親が共に集い学び合う「身体感覚活性化マザークラス」を試みて. 第31回日本助産学会学術集会, 徳島.
- ・佐藤繭子, 古田祐子. (2016). 看護系女子学生の布製ナプキン使用感, 第30回日本助産学会学術集会, 京都.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第56回日本母性衛生学会学術集会, 岩手.

③過去の主要業績

<学術論文>

- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2015). 中国北京における妊婦の食生活と文化, 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 25-35.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2015).
- ・中国における中国伝統医療の現状 —北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 12, 73-84.
- ・佐藤繭子, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス」を体験した看護学生の内面的変容. 福岡県立大学看護学研究紀要 9(2), 63-70.
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. (2011). 助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察, 福岡県立大学看護学研究紀要, 9(2), 53-61.
- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. (2012). 「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」に参加した医療者のドゥーラ体験. 福岡県立大学看護学研究紀要, 9(2), 43-52.
- ・佐藤繭子. 助産師の母乳育児支援の実践に影響する要因の検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文. 2011年3月.

<教材開発>

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. 2012年

5. 所属学会

日本助産学会、日本母乳哺育学会、日本助産師会、思春期学会、日本母性衛生学会、日本性科学会、日本ラクテーション・コンサルタント協会 IBCLC 会員 出版・販売事業部員

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学・2単位・2年・後期、女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期、女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

ウイメンズヘルズ特論・1単位・1年・前期、ウイメンズヘルズ演習・1単位・1年・後期、基礎助産学演習・2単位・1年・通年、助産学特論・2単位・1年・前期、助産学演習・2単位・1年・後期、助産実践学Ⅰ（妊娠期）・2単位・1年・前期、助産学実践Ⅱ（分娩期）・4単位・1年・通年、助産学実践Ⅲ（産褥・新生児期）・2単位・1年・後期、助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・1単位・1年・前期、助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・8単位・1年・後期、助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・2単位・2年・前期、助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・1単位・2年・前期、助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本ラクテーション・コンサルタント協会 出版・販売事業部員
 - ・母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営
 - ・子育てサークル主宰
 - ・福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター相談員
 - ・妊娠していること・子育てが楽になる！楽しくなる！妊婦とママのためのセミナー（2017.6-7）企画・運営
 - ・第13回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2017.11.23）
 - ・第22回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2017.9-10）
- <母乳育児支援に関するセミナー企画・運営>
- ・平成29年度第1期20時間基礎セミナー（2017.5月～7月）
 - ・第16回母乳育児支援を学ぶ九州教室，2017.8.6,田川市
 - ・平成29年度第2期20時間基礎セミナー（2017.9月～11月）
 - ・平成29年度島根基礎セミナー（2017.9月～11月）
 - ・第17回母乳育児支援を学ぶ九州教室，2018.2.4,福岡市

8. 学外講義・講演

- ・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸（2017.4）
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師.福岡市（2017.4）
- ・平成29年度第1期20時間基礎セミナー ファシリテーター,福岡市（2017.5～7）
- ・産前産後家事サポーター養成講座講師（母乳育児支援）.福岡市（2017.5）
- ・「補完食（離乳食）の進め方・らくちん離乳食」講師.博多大丸（2017.6）
- ・子育て講演会「こどもに伝えるせいのお話」講師.篠栗町立勢門幼稚園（2017.6）
- ・リーダー研修会講演「産み出すいのちのすばらしさ、尊さについて」講師.粕屋町社会福祉協議会（2017.6）
- ・母乳育児支援20時間基礎セミナーin 鹿児島 ファシリテーター,鹿児島市（2017.9～10）
- ・「男の子の健康を見守るための おちんちんケア」講師.博多大丸（2017.7）
- ・性教育「相手を尊重するコミュニケーションって？」講師.香春中学校（2017.7）
- ・長崎20時間基礎セミナー ファシリテーター.長崎市医師会看護専門学校（2017.7）

- ・福岡県看護協会助産師職能委員会 新人助産師合同研修(母乳育児支援)講師. 福岡県看護協会 (2017.7)
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. 福岡市 (2017.8)
- ・子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. 福岡市男女共同参画推進センター・アミカス (2017.8)
- ・子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. ももちパレス (2017.8)
- ・「断乳と卒乳：どうしたらいい？」講師. 博多大丸 (2017.8)
- ・平成 29 年度第 2 期 20 時間基礎セミナー ファシリテーター. 福岡市 (2017.8~9)
- ・「保育士さんにも知って欲しい！母乳育児支援セミナー」講師. さざんびあ博多 (2017.9)
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. ももちパレス (2017.9)
- ・鹿児島基礎セミナー ファシリテーター. 伊集院病院 (2017.9~11 月)
- ・産前産後家事サポーター養成講座講師 (母乳育児支援). 春日市 (2017.9)
- ・福岡女学院幼稚園父母の会主催講演会 講師. 福岡女学院幼稚園 (2017.9)
- ・「男の子の健康を見守るための おちんちんケア」講師. 福岡市 (2017.9)
- ・島根基礎セミナー ファシリテーター. 島根大学 (2017.9~11 月)
- ・「職場復帰が近いけど・・・おっぱいはどうする？」講師. 博多大丸 (2017.10)
- ・有田小学校父母教師会主催人権講習会「こどもに伝えるせいのお話」講師. 福岡市立有田小学校 (2017.11)
- ・「女性に対する暴力をなくす運動」講演会「子供への性の伝え方」講師. 春日市男女共同参画センターじよなさん (2017.11)
- ・春日市養護教諭研究会研修「小中学生の性の健康を守るために」講師. 田川市 (2017.12)
- ・福岡県看護協会助産師職能委員会 院内助産スキルアップ研修(母乳育児支援)講師. 福岡県看護協会 (2017.12)
- ・福岡市立三筑中学校 社会人講話「看護師・助産師になる」講師. 福岡市立三筑中学校 (2017.12)
- ・親子向け性教育「親子で話そうせいのお話」講師. 福岡市 (2017.12)
- ・子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. 福岡市(2017.12)
- ・「男の子の健康を見守るための おちんちんケア」講師.博多大丸(2017.12)
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師.ももちパレス. 福岡市(2017.12)
- ・福岡市室見小学校4年生有志子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師.福岡市(2017.12)
- ・「おやこで語ろう月経教室」講師. ももちパレス. 福岡市(2018.1)
- ・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師. 博多大丸(2018.1)
- ・性の健康に関する事業「布ナプキン講座」講師.福岡県助産会館(2018.2)
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. 自由ヶ丘コミュニティセンター. 宗像市 (2018.2)
- ・親向け性教育「男の子の親向け：こどもに伝えるせいのお話」講師. 福岡市 (2018.2)
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. I-Link. 市川市(2018.3)
- ・「女性のカラダを知る講座」講師. 東京都渋谷区(2018.3)
- ・福岡市立柏原小学校第 4 学年保健指導講師. 福岡市(2018.3)
- ・性の健康に関する事業「布ナプキンワークショップ」講師.田川市(2018.3)
- ・「職場復帰が近いけど・・・おっぱいはどうする？」講師. 博多大丸. 福岡市(2018.3)
- ・「こどもでもわかるジェンダーのはなし」講師. 福岡市(2018.3)

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・妊娠していること・子育てが楽になる！楽しくなる！妊婦とママのためのセミナー (2017.6-7)
- ・第 22 回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2017.9-10)

- ・ 第13回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー (2017.11.23)
- ・ 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」母乳育児支援
- ・ 性の健康に関する事業

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	道園 亜希
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科にて修士を取得。

主な研究分野は、幼少期・思春期における性の健康に関する研究（助産学分野）。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・道園亜希、佐藤香代、石村美由紀、小学校教諭が行った性教育の体験、2017年7月、母性衛生、vol.58 no.2、pp412-419
- ・石村美由紀、佐藤香代、吉田静、道園亜希、林千絵、清田哲子、死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第2報)一次子の出産・育児体験の語りから一、2017年7月、母性衛生、vol.58no.2、pp346-354

②その他最近の業績

〈学会発表〉

道園亜希、古田祐子、石村美由紀、佐藤繭子、小学生の子どもをもつ親の家庭での性教育の実態、第32回日本助産学会学術集会、横浜、2018年

③過去の主要業績

道園亜希、佐藤香代、石村美由紀、小学校教諭が行った性教育の体験、2017年7月、母性衛生学会誌、vol.58 no.2、pp412-419

5. 所属学会

日本助産学会、母性衛生学会

6. 担当授業科目（補助）

女性看護学・2単位・2年・後期、女性看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期、女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期、女性看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

幼稚園・小学校・中学校・保護者を対象とした性教育講演会（計8回）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	中本 亮
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科病院で看護師として、その後2年課程看護専門学校、3年課程専門学校で看護学生の教育に従事した。2015年福岡県立大学大学院看護学研究科看護教育学を修了し、2016年に精神看護学領域に着任。

専門分野は看護教育学、精神看護学で現在は主に精神看護学実習教育に携わっている。学習上の課題に対して学生との対話を通して、学生が「わかる」経験を積み重ねていき、「もっと知りたい」という意欲を高められるよう支援していきたいと考えている。

研究の分野は学習者の主体的学習行動を促進するための方略に関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・中本亮. 学生の主体的な学習を目指した精神看護学の授業研究-自己調整学習の活用を試みて- 福岡県立大学看護学研究科修士論文. 2015年3月
- ・中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 -自由記述をコーレスポンドンス分析して-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 67-74. 2016年3月
- ・増満 誠, 松村智大, 中本亮, 馬場保子, 谷多江子, 小浜さつき, 石本祥子, 姫野深雪, 佐藤亜紀. 看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 51-56, 2016年3月

〈その他執筆〉

- ・第105回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2016年3月
- ・第106回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2017年3月
- ・第107回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2017年3月予定

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果. 日本教育工学会 第31回全国大会, 東京, 2015年9月
- ・石田智恵美, 中本亮. 看護学生の知識の構造化を目指した講義・演習・実習連携授業に関する研究. 日本教育工学会 第31回全国大会 東京, 2015年9月
- ・Michiko Matsueda, Tomoko Watanabe, Kaori Yasunaga, Hajime Miyazaki, Ryo Nakamoto, Makoto Masumitsu, Fumiko Egami, Rie Hirose, Ai Ando : A literature review on caring in clinical nursing practice of nursing students, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, March, 2017.
- ・石田智恵美, 中本亮. 看護学生の体温・血圧測定方法の判断基準とその理由. 日本教育工学会 第33回全国大会 島根, 2017年9月
- ・井上真実, 中山初美, 津田徹, 中本亮, 石田智恵美. 看護師を対象とした研修プログラムの開発 第1報~セルフマネジメント教育の向上を目指して~. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会第27回学術集会 宮城, 2017年11月
- ・中本亮, 増満誠, 生駒千恵, 別城佐和子, 佐多愛子, 松浦賢長. 2型糖尿病患者を対象としたうつ状態の程度とQOLとの関連. 日本看護科学学会第37回学術集会 宮城, 2017年12月.
- ・松枝美智子, 池田智, 増満誠, 中本亮, 畑辺由起子, 入江正光, 山下真範, 宮崎初, 中島充代. 各都道府県精神科平均在院日数と各都道府県のリソースナース数や養成課程数との関連. 日本看護科学学会第37回学術集会 宮城, 2017年12月.

- ・池田智, 松枝美智子, 増満誠, 中本亮, 畑辺由起子, 入江正光, 山下真範, 宮崎初, 中島充代. 病院に勤務する精神看護専門看護師の配置と活用に関する要因. 日本看護科学学会第 37 回学術集会 宮城, 2017 年 12 月.
- ・増満誠, 上田智之, 中本亮, 池田智, 葛原誠太, 松村智大, 森雄太, 有安直貴, 木村涼平. 若手看護教師能力向上プロジェクト(第 4 弾)~ちょっと気になる学生の支援のイロハを考えよう~. 日本看護科学学会第 37 回学術集会 宮城, 2017 年 12 月.

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会

6. 担当授業科目

<学部>

精神看護学概論・1 単位・2 年・前期、精神看護学・2 単位・2 年・後期、精神看護学演習 I・1 単位・3 年・前期、精神看護学演習 II・1 単位・3 年・通年、精神看護学実習・2 単位・3~4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

- ・看護実践教育センター兼任講師(糖尿病認定看護師課程「対人関係」「疾病受容やセルフケア行動への支援—認知行動療法—」担当)
- ・福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会ホームページ開設・管理者

8. 学外講義・講演

- ・「専門職者の主体的な学習について」福岡県看護連盟筑豊支部研修会, 2017 年 3 月
- ・「現代の学生と新人の特徴・関わり方, 指導方法」独立行政法人労働者健康安全機構九州労災病院門司メディカルセンター, 2017 年 6 月
- ・「認知症を持つ方との関わり方」福岡県看護協会北九州 1 地区支部研修会, 2017 年 7 月
- ・「実習指導における学生に合わせた関わり方と指導の振り返り」独立行政法人労働者健康安全機構九州労災病院門司メディカルセンター, 2017 年 10 月
- ・「アンガーマネジメント」福岡県看護協会北九州 1 地区支部研修会, 2018 年 2 月

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・大学院看護学研究科精神看護セミナー I・II・III

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了し、12月にがん看護専門看護師を取得しました。その後、超高齢社会である筑豊地域にある医療機関で5年間、がん看護専門看護師として活動してきましたが、「がん」と共に生きる方だけでなく、「若い」を生きる人、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの必要性と困難さを痛感するとともに、ケアの喜びを実感してきました。高齢者が尊厳をもって生を全うするためには、家族や医療者の代理意思決定だけでなく、たとえ認知機能が低下していても、高齢者自身を尊重し、安心して意志を表現できるように過程を支えることが必要です。

今後も老いや病をもちながらも高齢者がその人らしく生活できるようにどのような支援が必要であるか、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフに関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書

〈著書〉

廣瀬理絵. (2015). 「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」, *Oncology NURSE*, 8 (6) p98-10.

②その他最近の業績

- ・ 渡邊智子, 御手洗裕子, 生駒千恵, 石本佐和子, 廣瀬理絵, 江上史子, 出口敏江, 藤澤美奈, 松枝美智子. (2016). *M-Test* を活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動の可能性, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・ 森崎直子, 工藤昌子, 廣瀬理絵. (2016). 在宅要介護高齢者の口腔関連QOLと栄養状態, 日本老年看護学会第21回学術集会, 埼玉.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子. (2017). がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援, 日本看護科学学会第37回学術集会, 仙台.
- ・ 廣瀬理絵, 仲村亜依子, 井原資子, 渡邊智子 (2018). 急性期病院における看護師を対象とした倫理教育方法の検討, 日本臨床倫理学会 第6回年次大会, 東京.

③過去の主要業績

- ・ 廣瀬理絵. (2009). 乳がん術前後化学療法中の患者に対する心理・社会的グループ療法の有効性-前向きな療養態度を獲得していく契機とその要因, 福岡県立大学看護学研究科修士論文.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子, 小島リヨ子, 浦田真澄美, 藤本弘美. (2010). 一般病棟における緩和ケアに携わるリンクナースのサポートシステムづくり リンクナースへの教育と啓発にむけての現状分析, 第40回日本看護学会論文集:看護管理, p51-53.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子, 藤本弘美, 安永一美, 伊福セツ子, 小島リヨ子. (2010). リンクナースの教育と啓蒙に向けたサポートシステムの構築, *看護展望*, Vol35 (9), p0842-0847.
- ・ 廣瀬理絵. (2010). がん看護専門看護師としての活動, 福岡県病院協会, ほすびたる (No. 630), p4-6.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子. (2012). 終末期がん患者の意思決定への支援 意思決定内容とプロセスからの考察, 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根.
- ・ 廣瀬理絵, 伊福セツ子, 藤本弘美, 渡邊智子. (2012). 医療チームとしての課題～がん相談内容からの分析～, 日本看護倫理学会 第5回年次大会, 東京.

3. 外部研究資金

研究奨励交付金：研究課題「高齢者の生活行動維持に向けた M-Test の活用によるセルフ・マネジメントに関する研究」， 交付金額：30,000 円， 研究期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月。

5. 所属学会

公益社団法人福岡県看護協会， 公益社団法人日本看護協会， 一般社団法人日本がん看護学会， 特定非営利活動法人日本緩和医療学会， 日本 CNS 看護学会， 日本看護倫理学会， 日本老年看護学会， 日本看護科学学会， 日本臨床倫理学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学・2 単位・2 年・後期、老年看護学実習 I・1 単位・2 年・通年、老年看護学演習 I・1 単位・2 年・前期、老年看護学演習 II・1 単位・3~4 年・後期~前期、老年看護学実習 II・3 単位・3~4 年・後期~前期

〈大学院〉

コンサルテーション論・2 単位・修士 1 年・前期， 終末期高齢者看護論・2 単位・修士 1 年・後期， 終末期老年看護実習 I・2 単位・修士 1 年・後期， 終末期老年看護実習 II・3 単位・修士 1 年・後期， がん看護実習 I 1 単位・修士 2 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・筑豊市民大学「ヘルシー・エイジングゼミ」参加
- ・一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 がん看護専門看護師活動 2 日/月
- ・臨床倫理認定士（臨床倫理アドバイザー）
- ・介護認定審査委員（1 回/月）

8. 学外講義・講演

- ・LNEC-J コアカリキュラム看護師プログラム研修会， 国家公務員共済組合連合会 浜ノ町病院 講師・ファシリテーター， 2017 年 11 月
- ・「看護倫理研修会」， 一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 講義， 2017 年 5 月， 10 月
- ・「看護研究発表会」， 一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 講評， 2018 年 2 月。

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡ヘルシー・エイジングケア研究会
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	政時 和美
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学領域の教育に携わっている。主な研究分野は急性期に関する研究で、特に災害や救急に関する研究を行っている。また、2012年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、リンパ浮腫に関する知識と技術を取得し、「リンパ浮腫」を通じて、弾性ストッキングや退院指導などの勉強会を開催している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ 政時和美,松井聡子,村田節子,中井裕子:総合防災訓練に参加した学生の学習意欲と学び,福岡県立大学看護学部紀要,2017
- ・ 政時和美,笹野莉奈,松井聡子,村田節子,中井裕子:A地区におけるAEDの配置に関する調査研究,福岡県立大学看護学部紀要,2015
- ・ 松井聡子,政時和美,杉野浩幸,村田節子,中井裕子:視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～,福岡県立大学看護学部紀要,2015

②その他最近の業績

〈示説〉

- ・ 政時和美,笹野莉奈,松井聡子,村田節子,中井裕子:A地区におけるAED設置調査,第40回日本看護研究学会,2014
- ・ 政時和美,笹野莉奈,村田節子,中井裕子:過疎地域におけるAED設置の問題点,第34回日本看護科学学会,奈良,2014
- ・ 宮園真美,村田節子,政時和美:地域でがんについて語り合う「キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み～医療者側スタッフの意識調査～,第17回日本看護医療学会,福井,2015
- ・ 村田節子,宮園真美,政時和美:地域で語り合うがんとの向き合い方～キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み～,第17回日本看護医療学会,福井,2015
- ・ 政時和美,松井聡子,村田節子,中井裕子:看護学生における災害訓練体験からの学び,第42回看護研究学会,茨城,2016
- ・ 政時和美,村田節子,宮園真美,今丸満美,吉田恭子,櫛直美,杉本みぎわ,柴北早苗,吉村美奈子:訪問看護ステーション支援に関する意識調査～キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み～,第18回日本看護医療学会,愛知,2016
- ・ 松井聡子,政時和美,杉野浩幸,村田節子,中井裕子:視聴覚教材が成人看護技術演習の事前学習に及ぼす影響～eラーニングシステムを使用して～,第42回看護研究学会,茨城,2016
- ・ 村田節子,宮園真美,政時和美,今丸満美,吉田恭子,櫛直美,杉本みぎわ,柴北早苗,吉村美奈子:がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方(第2報)～,第18回日本看護医療学会,愛知,2016
- ・ 堂脇遼,村田節子,政時和美:被災地域の支援活動に参加した看護師の精神的な変化とケアに関する文献検討,第18回日本看護医療学会,愛知,2016
- ・ 宮園真美,村田節子,政時和美,今丸満美,植木昭代:地域住民参加型プログラム「キャンサー・ナーシング・カフェ」実践への課題～主催者側スタッフの実施評価調査より～,第18回日本看護医療学会,愛知,2016
- ・ 山本利香,村田節子,山崎千尋,政時和美:手術室看護師の技～患者入室から退室の場面で行われる看護技術において～,第43回日本看護研究学会学術集会,愛知,2017
- ・ 大久保友樹,政時和美:看護学生の救急車利用に関する意識調査,第43回日本看護研究学会学術集会,愛知,2017

- ・村田節子、宮園真美、今丸満美、政時和美、吉田恭子、櫛直美、杉本みぎわ、柴北早苗、吉村美奈子：患者・家族がより良いがん医療を選択できるための課題と取り組み～地域で語り合うがんとの向き合い方（第3報）～，第19回日本看護医療学会学術集会，愛知，2017
- ・政時和美、村田節子、宮園真美、過能清美：健康フェアに参加した地域住民のがん支援に関する意識調査，第19回日本看護医療学会学術集会，愛知，2017
- ・宮園真美、村田節子、政時和美、今丸満美、植木昭代、過能清美：地域住民参加型イベント「キャンサー・ナーシング・カフェ」で得られたがんに関する地域看護支援の課題，第19回日本看護医療学会学術集会，愛知，2017

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会、日本看護医療学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護論・2単位・2年・後期、成人急性看護学実習・3単位・3年～4年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年～4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学がん看護勉強会（リンパ浮腫）
- ・西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム分科会（乳がん担当）
- ・第1回キャンサー・ナーシング・カフェ企画、開催（2015.1.31）
- ・第2回キャンサー・ナーシング・カフェ企画、開催（2016.3.5）
- ・第3回キャンサー・ナーシング・カフェ企画、開催（2016.6.25）
- ・リンパ浮腫勉強会・演習（全5回）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	松井 聡子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として外科・循環器内科での臨床経験を経て、2013年より本学に着任し、成人看護学領域における急性期看護教育に携わっている。

実践レベルでの看護技術習得を目指し、授業デザイン研究やeラーニングシステムなど学習環境に関する研究を行っている。また、臨地実習での質の高い教育を実現するために、臨地実習施設の看護師と実習教育に関する共同研究を進めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子. 総合防災訓練に参加した学生の学習意欲と学び. 福岡県立大学紀要, 14 (1), 2017.
- ・江上史子, 松枝美智子, 村田節子, 松井聡子, 永嶋由里子. A県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査 - 看護管理者が雇用しない理由とその障壁 -. 福岡県立大学紀要, 13, 2016.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・松枝美智子, 江上史子, 渡邊智子, 松井聡子, 村田節子, 永嶋由理子. (2017). 医療機関等の看護管理者の, CNS コースに学生の能力強化に関する要望. 日本看護研究学会第43回学術集会. 東海福祉大学 東海キャンパス. 愛知.
- ・清水夏子, 松井聡子. (2017). 看護大学生に対する「東洋医学概論」の授業効果. 第27回日本看護学教育学会. 沖縄コンベンションセンター. 沖縄.
- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子. (2016). 総合防災訓練に参加した学生の学習意欲と学び. 日本看護研究学会第42回学術集会. つくば国際会議場. 茨城.
- ・松枝美智子, 松井聡子, 江上史子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由里子. (2015). A県内医療機関等の看護管理者によるAPN教育のあり方に関する要望. 日本看護科学学会学術集会. 広島国際会議場. 広島.

③過去の主要業績

- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子. 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～. 福岡県立大学紀要, 12, 2015.
- ・政時和美, 松井聡子, 笹野莉奈, 村田節子, 中井裕子. A地区におけるAEDの配置に関する調査研究. 福岡県立大学紀要, 12, 2015.
- ・松枝美智子, 坂田志保路, 安永薫梨, 浅井初, 梶原由紀子, 北川明, 中野榮子, 安酸史子, 安田妙子, 政時和美, 松井聡子: 精神科超長期入院患者の復帰援助レディネス尺度の検討: 因子分析と信頼性の検証. 福岡県立大学紀要, 9 (1), 2011.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本看護医療学会

6. 担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年前期, 成人急性看護学・2単位・2年後期, 成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期, 成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年前期, 成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年通年, 卒業研究・2単位・4年後期

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助教	氏名	宮崎 初
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2007年高知女子大学大学院看護学研究科修士課程看護学専攻修了。その後4年間、佐賀県内の病院にて外来、精神科病棟に勤務し、同時にプレ精神看護専門看護師、副看護師長の役割を担ってきました。2010年12月日本看護協会認定の精神看護専門看護師を取得し、2011年より本学に着任しました。同時に非常勤精神看護専門看護師としても、病院に出向き、精神科看護師の健康を保ちつつ、楽しみながら看護ができるように支援しています。

関心のある分野としては、「当事者研究、当事者の体験」、「看護師のメンタルヘルス」、「精神科外来看護」です。

教育に関しては、将来看護職者として働く時に必要なコミュニケーション能力の向上と共に、問題指向にならず患者の体験していることを踏まえつつ、持っている力・ニーズをもとに患者や家族にアプローチできるように学生を育てていきたいと思っています。また、大学院の38単位精神看護専門看護師コースにおいては、精神看護専門看護師としての活動を通して蓄積した知識を、大学院での教育にも活かしていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<報告書>

宮崎初.精神科外来看護師の診療待ち患者に対する臨床判断のプロセス.2012~2015年科学研究費助成事業 研究成果報告書.2016年6月

<著書>

- ・松枝美智子,安藤愛,宮崎初,坂田志保路,安永薫梨,宮野香里.(2017).精神看護学の経験型実習教育における「学生の精神看護への内発的動機づけ」と「学生から見た教授—学習活動」との関連を測定する質問紙の信頼性の検証.第2回臨床精神看護学研究会誌.102-116
- ・川野雅資編,宮崎初,松枝美智子,宮野香里,安永薫梨,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(家族機能の評価),110-117,東京,ピラールプレス
- ・川野雅資編,松枝美智子,宮崎初,宮野香里,安永薫梨,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(対人関係論),36-44,東京,ピラールプレス
- ・川野雅資編,松枝美智子,宮野香里,宮崎初,安永薫梨,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(重篤で難治性の精神障害を持つ人の看護),200-204,東京,ピラールプレス
- ・川野雅資編,松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,宮野香里,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(不安障害と看護),190-193,東京,ピラールプレス

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・澤田和規,宮崎初.(2017).精神科身体合併症病棟の看護ケアに肯定的な価値観を見出すための取り組み—『エンド・オブ・ライフ』を見据えた“高齢者看護”の視点を通して.日本精神科看護専門学術集会 in 石川.2017年12月
- ・池田智,松枝美智子,増満誠,中本亮,畑辺由起子,山下真範,入江正光,宮崎初,中島充代.(2017).病院に勤務する精神看護専門看護師の配置と活用に関する要因.第37回日本看護科学学会学術集会.2017年12月
- ・松枝美智子,池田智,増満誠,中本亮,畑辺由起子,入江正光,山下真範,宮崎初,中島充代.(2017).各都道府県の精神科平均在院日数と各都道府県のリソースナース数や養成課程数との関連.第37回日本看護科学学会学術集会.2017年12月
- ・Michiko Matsueda, Tomoko Watanabe, Kaori Yasunaga, Hajime Miyazaki, Ryo Nakamoto, Makoto Masumitsu, Fumiko Egami, Rie Hirose, Ai Ando : A literature review on caring in

clinical nursing practice of nursing students, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, 2017.

③過去の主要業績

- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連.第34回日本看護科学学会学術集会.名古屋,2014年11月
- ・猪狩圭介,天野昌太郎,村田尚恵,浅井初,黒木俊秀.(2011).精神医療従事者における職業性ストレスの検討と対策.財団法人メンタルヘルス岡本記念財団 研究助成報告集,Vol.23,23-30.
- ・浅井初,野嶋佐由美,畦地博子.(2009).統合失調症と診断されている発病後間もない当事者の病気とのつきあい方.高知女子大学看護学会,34巻,1号,29-35.
- ・浅井初,村田尚恵.(2009).「ケースカンファレンスのロールプレイング」を用いた院内教育の学び,第40回日本看護学会-精神看護-学術集会,島根.

5. 所属学会

日本看護協会、日本精神科看護協会、高知女子大学看護学会、日本専門看護師協議会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

<学部>

精神看護概論・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年、精神看護学実習・2単位・3～4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

精神障がい者地域移行・地域定着看護論・2単位・修士1年・通年、精神看護専門看護師役割実習・2単位・修士1年・通年、Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・修士2年・通年、Advanced精神看護専門看護師役割実習・2単位・修士2年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会 会計兼事務局

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員（看護学部教員は全員研究員です）
- ・大学院看護学研究科,松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮.平成29年度精神看護セミナーⅠ(2017.7.15)
- ・大学院看護学研究科,松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮.平成29年度精神看護セミナーⅡ(2017.9.16)
- ・大学院看護学研究科,松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮.平成29年度精神看護セミナーⅢ(2018.3.17)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田 静
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了。

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と医療者の支援を主な研究分野としている。

特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子, 増田匡裕. (2016). 「子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りの会」の評価と今後の課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13, 91-98.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 林千絵, 清田哲子. (2016). 死産を体験した母親の次子の妊娠出産育児に関する研究(第1報)一次子妊娠の体験の語りから一. 母性衛生, 56(4), 692-700.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2015). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 25-35.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2015). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 73-84.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・吉田静, 佐藤香代, 石村美由紀, 小林絵里子, 佐藤繭子, 鳥越郁代. (2017). 「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」に参加した妊婦の出産に関するイメージの変化. 第56回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 小林絵里子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子. (2017). 「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」に参加した女性の子どもの「性」に関する悩みと変化. 第56回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・吉田静, 佐藤香代. (2017). 「子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りの会」に参加した看護者が語った苦悩と語り合いの効果. 第31回日本助産学会学術集会, 徳島.
- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子. (2015). 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に関する研究. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 中国における中国伝統医療の現状—北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して—. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.

③過去の主要業績

<教材開発>

- ・佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. 2012年.
- ・吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.

- ・吉田静, 佐藤香代. 子どもを喪失した夫婦に携わる看護者の学習ニーズ. (2011). 第52回母性衛生学術集会, 京都.
- ・吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4版 全68頁.

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本死の臨床研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学概論・1単位・2年・前期, 女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

ウイメンズヘルズ特論・1単位・1年・前期, ウイメンズヘルズ演習・1単位・1年・後期, 基礎助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅰ(妊娠期)・2単位・1年・前期, 助産学実践Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・第13回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 田川(2017.6-7)
- ・第9回ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム(2017.7.29-30)
- ・国際助産師の日2017「意外と知らない私のカラダ」(2017.8.6)
- ・第22回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 福岡(2017.9-10)
- ・第9回健康大使セミナー(2017.10.26)
- ・第11回東アジアグリーンケアセミナー(2017.11.18-19)
- ・第13回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー(2017.11.23)
- ・大切な人を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会 わたしの大切な想いを語る(2018.3.10)
- ・平成29年度福岡市委託事業「働くパパとママのマタニティスクール」
- ・平成29年度一般社団法人福岡県助産師会教育研修会

8. 学外講義・講演

- ・福岡県看護協会 平成29年度実践力育成研修 妊娠期からのメンタルサポート(2017.10.18)
- ・福岡県公立古賀竟成館高等学校出前講義(2017.12.2)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助手	氏名	笹山 万紗代
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICUでの臨床経験を経て、2017年より本学に着任、成人看護学領域の急性看護学に携わっている。技術演習では、学生が患者の状態をイメージ化し、臨床の看護技術を習得できるように関わっている。

研究では、手術室における新人看護師教育について方法や有効性などを明らかにしていきたいと考えている。

5. 所属学会

日本看護研究学会

6. 担当授業科目（補助）

成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期 など

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助手	氏名	仲村 彩
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

本学を卒業し、看護師、保健師として働いた後、2016年度より着任。看護職として小児またはその家族と関わる中で様々な諸問題を抱えて生活する方々に触れ、多くが育児に対して不安や困難を抱えていた。それによって虐待に発展するケースも見られ、育児支援において必要な社会資源が現状にマッチングしているか、疑問に感じるようになりそれを踏まえうえて、子ども虐待予防の視点から看護職による育児支援と育児を行っている母親や保護者のニーズバランスを把握し、地域の子どもとその家族が心身ともに健やかに生活ができるよう、看護職の役割や専門性の探求を行っていききたいと考える。

2. 研究業績

〈学会発表〉

- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～. 第17回九州・沖縄小児看護教育研究会. 沖縄. 2016年
- ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール. 第26回日本外来小児科学会年次集会. 高松. 2016年
- ・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香・松岡知美：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール. 第27回日本外来小児科学会年次集会. 津. 2017年

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本小児保健協会

6. 担当授業科目（補助）

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、子どもの保健Ⅱ・1単位・2年・前期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年、小児看護学実習・2単位・3年・後期、統合実習（小児）・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

- ・田川地区保育協会田川郡支部保育士会「もしものときの応急手当～けいれん等の対応について～」. 2016年7月30日. 田川市
- ・田川地区保育協会田川支部保育士会「もしものときの対応の仕方～アレルギー検査について～」. 2017年7月29日. 田川市
- ・田川市立幼稚園にて健康教育を実施。年少クラス：睡眠や運動、食事の大切さを知ろう～ピーマンマンと怪獣ダマカスのパペット劇を通して～. 年中クラス：からだが大きくなるヒミツ～すいみん電車の旅～. 年長クラス：大きくなる自分の「いのち」について. 2016年
- ・田川市立幼稚園にて健康教育を実施。年少クラス：「モリモリ食べる！強いぞ！緑のピーマンマン！」～パペット劇を通して～. 年中クラス：「ウンチはどうして出るの？～消化器探検隊～」. 年長クラス：「ねっちゅうしようにはならないぞ！」. 2017年

8. 学外講義・講演

仲村彩. 出前講義「子どもの看護について」講師. 八女学院中学・高等学校. 2016年8月22日

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部/臨床看護学系	職名	助手	氏名	吉田 麻美
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきた。これまでの経験の中で、医療的ケアを必要とする子どもその家族の想いや生活に触れ、地域で生活するための支援不足を日々感じてきた。そのため、子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援について探究したいと考えている。

2. 研究業績

〈学会発表〉

- ・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香・松岡知美：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール. 第27回日本外来小児科学会年次集会. 津. 2017年
- ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール. 第26回日本外来小児科学会年次集会. 高松. 2016年
- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～. 第17回九州・沖縄小児看護教育研究会. 沖縄. 2016年

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)研究分担者, 「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」, 260万円, 平成29年度～平成31年度.

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本小児保健協会、九州・沖縄小児看護教育研究会

6. 担当授業科目(補助)

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、子どもの保健Ⅱ・1単位・2年・前期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年、小児看護学実習・2単位・3年・後期、統合実習(小児)・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

8. 学外講義・講演

- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：保育看護 in 田川. 田川郡保育士会学習会. 「もしものときの対応の仕方～アレルギー検査について～」. 2017年7月29日. 田川市
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：子どもの健康見守り隊：健康教育(年少～年長). 田川市立幼稚園. 田川市. 2017年6月21日
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：保育看護 in 田川. 田川郡保育士会学習会. 「もしものときの対応の仕方～アレルギー検査について～」. 2016年7月30日. 田川市
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：子どもの健康見守り隊：健康教育(年少～年長). 田川市立幼稚園. 田川市. 2016年6月22日

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	尾形 由起子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1985年保健師として福岡県庁に勤務後、2004年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了と同時に、福岡県立大学看護学部地域看護学領域に着任。2009年看護学部ヘルスプロモーション看護学教授に就任。

現在、超高齢社会の到来において、高齢者が住み慣れた地域で療養生活を継続するための公衆衛生看護活動の検証を主な研究分野としている。具体的には、①人々の暮らしの中で地域住民自らが健康を大切であると実感することのできる場づくり②保健師による地域における多職種協働によるケアシステムづくり③医療依存度の高い人々が在宅で療養生活を継続のための地域づくりの検討を主な研究テーマとしている。

実践活動では、高齢社会において、住み慣れた地域で独居でねたきりになっても、安心して暮らし続けることができるための地域のシステムを看護職や多職種の方々と共に検討している。そして、研究は実践活動をふまえ、地域での健康課題の解決方法について明らかにしていきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・尾形由起子, 岡田麻里, 椋直美, 野口忍, 山下清香, 松尾和枝, 眞崎直子, 三徳和子, 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験, 地域看護学会誌, 20(2), 2017
- ・尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2017年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2017
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 研究室からのメッセージ, 保健師ジャーナル, 45(2), 2017
- ・尾形由起子, 椋直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—福岡県立大学看護学紀要, 14巻, 2017
- ・Kazuko Mitoku, Naoko Masaki, Yukiko Ogata, Kazushi Okamoto, Vision and Hearing Impairments, Cognitive Impairment, and Mortality among Long-Term Care, BMC Geriatrics, 16, 112–122, 2016
- ・山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 尾形由起子, 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割—高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から—福岡県立大学看護学部紀要, 第13号, 2016
- ・迫山博美, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 山下清香, 尾形由起子, 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題—A町のふれあい交流活動の分析を通して—, 福岡県立大学看護学部紀要, 第13号, 2016
- ・眞崎直子, 松原みゆき, 森本千代子, 林真二, 三徳和子, 尾形由起子, 看護大学生における教育の進行度による子育てと家庭づくりに対する意識の実態と子育て経験によるその変化, 日本赤十字広島看護大学紀要, 15, 2015
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 神経難病患者のために保健師が行った関係機関調整技術, 地域看護学会誌, 18(2), 2015

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・椋直美, 尾形由起子, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 猪尾和美, 馬場順子, 吉田恭子, 訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017

- ・尾形由起子, 岡田麻里, 眞崎直子, 榎直美, 小野順子, 山下清香, 三徳和子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 在宅看取りの意思決定支援に対する訪問看護師の意識調査—第3報—, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・中村美穂子, 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 吉田恭子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査—第1報—, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・山下清香, 中谷久恵, 尾形由起子, 住民参加を促進する保健師の技術に関する文献検討, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 中村美穂子, 看護系大学保健師選抜制学生の効果的な教育方法の検討, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・中川清子, 山下清香, 尾形由起子, インスリン療法を勧められ在宅で注射を開始した時期の相違による2型糖尿病患者の特徴, 第76日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017
- ・尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美, 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価, 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016
- ・山口のり子, 後藤美子, 尾形由起子, 高齢者施設における看取り状況調査結果について～県と市町村の連携を通して～, 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016
- ・荒木優子, 河村真紀代, 荒木小百合, 尾形由起子, 迫山博美, 山本美江子, 自治会単位で行う介護予防事業—地域のソーシャル・キャピタルの醸成に向けて—, 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016
- ・尾形由起子, 岡田麻里, 山下清香, 眞崎直子, 三徳和子, 榎直美, 在宅看取り実現のための配偶者のセルフマネジメントの検証, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子, 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ—世話役住民の役割機能—, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 迫山博美, 中村美穂子, 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ—支援スタッフの役割機能—, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子, 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ—世話役住民と支援スタッフの認識から—, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・岡本和土, 三徳和子, 成瀬優知, 新鞍眞理子, 寺西敬子, 尾形由起子, 眞崎直子, 林真二, 箕輪眞澄, 要介護高齢者の経活要因と生命予後との関連—郡上と富山の2地域の比較—, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・山口のり子, 平緒恵, 尾形由起子, 田川市地域包括ケアシステム構築の課題抽出についてその1, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・平緒恵, 山口のり子, 尾形由起子, 田川市地域包括ケアシステム構築の課題抽出についてその2, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・三徳和子, 岡本和土, 眞崎直子, 尾形由起子, 林真二, 石井英子, 山田裕子, 西岡洋子, 荒金英理子, 箕輪眞澄, 視力・聴力の低下と認知症予防の関連, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015 廣木里香, 杉本由利子, 津坂咲江, 尾形由起子, 行橋市における保健師の人材育成の試み～事業データ分析の作業を通じて～【第1報】, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015

<報告書>

- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 2016-2017

- ・尾形由起子, 石崎龍二, 柴田雅博, 榎直美, 檜橋明子, 猪狩崇, 杉本みぎわ, 在宅医療推進における医療福祉情報に関する研究, 平成 29 年度研究奨励交付金 (附属研究所重点領域研究) 報告書, 2016-2017
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書, 2015

③過去の主要業績

- ・尾形由起子, 岡田麻里, 榎直美, 野口忍, 山下清香, 松尾和枝, 眞崎直子, 三徳和子, 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験, 地域看護学会誌, 20(2), 2017
- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—福岡県立大学看護学紀要, 14 巻, 2017
- ・尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2017 年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2017

3. 外部研究資金

- ・尾形由起子 (研究代表者), 地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2017-2019
- ・尾形由起子 (研究代表者), 地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2014-2017
- ・尾形由起子 (研究分担者, 榎直美), 通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究, 文科省科学研究 (基盤 C) 2014-2017

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本学校保健学会, 日本看護技術学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

公衆衛生看護学 I (2 単位) 2 年後期, 家族看護論 (1 単位) 2 年前期, 公衆衛生看護アセスメント論 I (1 単位) 3 年後期, 公衆衛生看護学 II (2 単位) 4 年前期, 公衆衛生看護アセスメント論 II (2 単位) 4 年前期, 公衆衛生看護技術論 I (2 単位) 4 年前期, 公衆衛生看護技術論 II (2 単位) 4 年前期, 公衆衛生看護学 III (1 単位) 4 年後期, 公衆衛生管理論 (2 単位) 4 年生後期, 組織協働活動論 (2 単位) 4 年後期, 公衆衛生看護学実習 I (1 単位) 4 年前期, 公衆衛生看護学実習 II (4 単位) 4 年後期,

〈大学院〉

地域看護学特別研究 (2 単位) 修士 1 年前期, 地域看護学特別演習 (2 単位) 修士 1 年後期, 看護研究法 (2 単位) 修士 1 年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県地域在宅推進協議会委員 (H20 年度～現在に至る), 地域在宅医療推進協議会員 (: 京築保健福祉環境事務所, 嘉穂保健福祉環境事務所, 筑紫保健福祉環境事務所), 宗像医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会 (いづれも H20 年度～現在に至る)
- ・福岡県訪問看護連携強化事業 (委託事業) (平成 28 年度～現在に至る)
- ・宗像薬剤師会かかりつけ薬剤師研修会 (平成 28 年度～現在に至る)
- ・宗像薬剤師会介護予防事業委員会 (平成 28 年度～現在に至る)
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会 (平成 26 年度～現在に至る)

- ・香春町地域福祉計画策定委員（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- ・みやこ町健康づくり推進委員会（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- ・苅田町教育委員会（平成 25 年～現在に至る）
- ・北九州市人権施策審議会委員（平成 27 年～現在に至る）

8. 学外講義・講演

- ・北九州市八幡医師会在宅医療研修会（2017.10.18 北九州市八幡西区）
- ・施設看取り研修会（2018.2.8 行橋市）
- ・看看護連携研修会（2017.10.24 行橋市）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター長

研究内容

(1)地域高齢者の介護予防に対する自己効力理論に関する研究

(2)地域の薬物乱用防止教育に関する研究

(3)地域における神経難病患者の主観的 QOL に関する研究

(文部科研)

地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	松浦 賢長
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成25年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（平成22年）の委員長を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年），最終評価時（2014年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子21（第2次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の標準化にいてもグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県青少年問題協議会委員長，福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会副委員長，福岡市こども子育て審議会副委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の常務理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。さらに，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007年）、久留米市の思春期問題調査（2014年）を担当した。平成23年度（8月26日～28日）には，第30回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し，わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。現在は特別支援学校の性教育に取り組む。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子 (編著). (2017.3). 学校看護学. 東京: 講談社.
- ・松浦賢長, 小林康毅, 荻田香苗 (編著). (2018.3). コンパクト公衆衛生学. 東京: 朝倉書店.

3. 外部研究資金

厚労省厚生労働科学研究費補助金, 平成 29 年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業) 「健やか親子 21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」班: 80 万円, (主任研究者: 山梨大学教授 山縣然太郎). 分担研究者.

4. 受賞

日本家族計画協会会長賞 (母子保健・健やか親子 21 全国大会にて)

5. 所属学会

日本思春期学会 (常務理事), 日本保健福祉学会 (理事), 日本看護科学学会 (社員), 日本公衆衛生学会, 日本小児保健学会 (幼児健康度調査委員長), 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本学校保健学会, 日本民族衛生学会, 日本性感感染症学会, 日本性科学会

6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学, 保健統計学, 学校保健学, 性教育学, 教育方法論, 健康教育論, 養護実習 (教育実習), 養護実習事前事後指導, 教職実践演習, 不登校ひきこもり援助論, 子供学習支援論

<大学院>

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会・常務理事
- ・財団法人性の健康医学財団・幹事
- ・九州思春期研究会・会長
- ・福岡県青少年問題協議会・委員長
- ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会・副委員長
- ・北九州市思春期保健連絡会・会長
- ・福岡市子ども子育て審議会・副委員長
- ・ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム・取組担当者
- ・福岡県重点課題事業「土曜の風」・取組担当者
- ・福岡県重点課題事業「健康教育」・委員 (学識経験者)
- ・福岡県教育委員会がん教育推進委員会・委員長
- ・福岡県新規採用養護教諭研修実施協議会・委員
- ・田川市子ども子育て会議・会長
- ・篠栗町健康増進計画策定会議・会長
- ・田川広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・委員長

8. 学外講義・講演

松浦賢長. (2017.10). 性に関する指導の現状と課題. 平成 29 年度 福岡県教育委員会 教職経験 5 年経過 養護教諭研修 校外研究会, 福岡市.

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	原田 直樹
----	---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業，同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。社会福祉士，精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後，2008年より福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し，2010年8月に看護学部ヘルスプロモーション看護学系学校保健領域の教員として着任しました。

主な研究分野は，①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究，②不登校・ひきこもり支援における大学生ボランティアの有効性に関する研究，③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。

とりわけ不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究では，個人因と環境因との関係性に焦点を当て，様々な角度から不登校・ひきこもりへの支援実践理論の構築に向けた研究に取り組んでいます。学校保健福祉の視点から，学校内において養護教諭が果たす支援者としての役割とその具体的な実践内容についての研究を進めたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・原田直樹. (2016). 第9章. 学習指導要領, 第18章. 発達障害, 第22章. 不登校, 学校看護学, 松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子編著, 講談社サイエンティフィク. 65-74, 134-140, 164-170
- ・原田直樹. (2015). 第4章4節. 非行立ち直り支援の取り組み, 第4章5節. 思春期における不登校児童生徒の支援, 保健福祉学, 日本保健福祉学会編, 北大路書房. 65-73

<論文>

- ・三並めぐる, 福山聡美, 原田直樹, 梶原由紀子, 松浦賢長, 岡多枝子. (2014). 不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 第11巻第1号, 11-20
- ・原田直樹. (2013). 幼児健康度調査における発達に関する項目の通過率についての検討. 保健の科学, 第55巻第8号, 杏林出版. 535-542
- ・梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 増満誠, 松浦賢長. (2013). 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 第20巻第1号, 21-34

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・原田直樹, 梶原由紀子, 田原千晶, 増満誠, 松浦賢長. (2017). 学童保育における発達障害及びその傾向を有する児童と支援者の対応困難感に関する研. 第30回日本保健福祉学会学術集会, 和歌山.
- ・松下聖子, 西田涼子, 葛原誠太, 中山晃志, 足立久美子, 原田直樹, 松浦賢長. (2016). 看護学生を対象とした災害医療実施施設における災害看護短期研修実施後のフォローアップ調査. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・秦野環, 日高艶子, 原田直樹, 松浦賢長他. (2015). 大学間連携におけるVOD化による聴講システム構築の試み. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島.
- ・梶原由紀子, 中山晃志, 原田直樹, 松浦賢長他. (2015). 看護学生を対象とした国際活動実施施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島.

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・原田直樹, 野見山晴佳, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2012). 中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要, 第10巻第1号, 1-12
- ・原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. (2011). 不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究—家庭支援へ向けての考察—. 福岡県立大学看護学部紀要第8巻第1号, 11-18
- ・原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. (2011). 学校の児童生徒への大学生ボランティアによる支援のニーズに関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要第8巻第1号, 1-9
- ・原田直樹, 松浦賢長. (2010). 学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 第16巻第2号, 13-22

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究 C), 不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—, 208万円, 平成26年度～平成29年度

4. 受賞

- ・平成27年度福岡県立大学ベストティーチャー賞
- ・第30回日本保健福祉学会学術集会 優秀学会発表賞

5. 所属学会

日本保健福祉学会, 日本思春期学会, 日本学校ソーシャルワーク学会, 日本地域福祉学会, 日本学校保健学会, 日本看護科学学会, 日本小児保健協会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・1単位・1年・前期, 情報処理演習Ⅱ・1単位・1年・前期, 不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期, 社会貢献論・2単位・1年, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 保健統計学・2単位・2年・前期, 養護概説・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・2・3年・後期, 学校保健・1単位・4年・前期, 養護実習・1単位・4年・前期, 養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 公衆衛生学・1単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期, 不登校・ひきこもり援助応用演習・1単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 思春期ヘルスプロモーション特論・2単位・大学院1年・前期, 思春期ヘルスプロモーション演習・2単位・大学院1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本保健福祉学会幹事長
- ・九州思春期研究会理事
- ・赤村子ども・子育て会議会長
- ・特定非営利活動法人ひこうせん理事長
- ・田川市立鎮西小学校 学校評議員・学校関係者評価委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県手話通訳士協会 手話通訳士国家試験研修会「障害者福祉の基礎」講師, 2015年
- ・糸田町立糸田小学校「薬物乱用防止教室」講師, 2017年
- ・嘉麻市立嘉穂小学校「薬物乱用防止教室」講師, 2017年
- ・岡垣町立戸切小学校「薬物乱用防止教室」講師, 2017年 他

9. 附属研究所の活動等

- ・ 不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	山下 清香
----	---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

行政の保健師の活動を主な研究のテーマとし、住民参加やエンパワーメント、地域ケアシステム、保健師教育について研究している。障害児の療育、地域における生活習慣病予防対策等に関心をもっている。行政で働く保健師との関わりを大切にしながら、地域における住民の生活と、行政で働く保健師の視点や判断、援助内容などの実態を明らかにしたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子. (2015). 神経難病患者の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術. 日本地域看護学会誌, 第18巻第2-3号
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美. (2015). 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について—高齢者サロンの世話役および指導員の認識から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻第1号
- ・ 迫山博美・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・中村美穂子. (2015). 地域における高齢者に対する介護予備活動の現状と課題—A 町のふれあい交流活動の分析を通して—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻第1号
- ・ 増満誠・藤野靖博・櫛直美・村田節子・澁野由夏・松枝美智子・宮城由美子・鳥越郁代・吉田静・坂田志保路・山下清香・阿部真理子・吉田恭子・江上千代美・石村美由紀・吉川未桜・柴北早苗・原田直樹・杉本みぎわ・浦悠子 (2016). 新旧カリキュラムにおける臨地実習での看護技術習得状況. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第14巻第1号
- ・ 尾形由起子・岡田麻里・櫛直美・野口忍・山下清香・松尾和枝・眞崎直子・三徳和子 (2017). 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験. 日本地域看護学会誌 20巻2号

②その他最近の業績

<報告書>

尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究 平成26年度福岡県立大学研究奨励交付金 プロジェクト研究成果報告書

<学会発表>

- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ支援スタッフの役割機能—. 日本公衆衛生学会学術集会, 長崎市
- ・ 手島聖子・尾形由起子・山下清香・小野順子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ世話役住民の役割機能—. 日本公衆衛生学会学術集会, 長崎市
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ世話役住民と支援スタッフの認識から—. 日本公衆衛生学会学術集会, 長崎市
- ・ 金藤亜希子・中谷久恵・山下清香・小川智子 (2015). 行政機関で働く新任保健師の成長を支える職場環境. 日本公衆衛生学会総会, 長崎市
- ・ 矢田貝詩織・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・中村美穂子・迫山博美 (2016). 地域のソーシャル・キャピタルの醸成へ向けた保健師の支援 9年間の活動を通して. 日本公衆衛生学会総会, 大阪市
- ・ 尾形由起子・坂本知美, 河村真紀代・荒木小百合・荒木優子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・中村美穂子・迫山博美 (2016). 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価. 日本公衆衛生学会総会, 大阪市

- ・田中美智子・江上千代美・近藤美幸・山下清香・長坂猛 (2016) 性周期の違いによる睡眠時間と自律神経反応との関係. 日本看護研究学会雑誌. つくば市
- ・Kiyoka Yamashita, Hisae Nakatani (2017). Defining “Community Participation” relative to Public Health Nursing Activities. The 20th East Eorum of Nursing Scholars In Hong Kong. Hong Kong
- ・田中美智子・江上千代美・近藤美幸・山下清香・尾形由起子・長坂猛 (2017). 働く更年期女性の睡眠状態. 日本看護研究学会雑誌.
- ・山下清香・中谷久恵・尾形由起子 (2017). 住民参加を促進する保健師の技術に関する文献検討日本公衆衛生学会. 鹿児島
- ・尾形由起子・岡田麻里・眞崎直子・椋直美・小野順子・山下清香・三徳和子・猪毛尾和美・馬場順子在宅 (2017). 看取りの意思決定支援に対する訪問看護師の意識調査(第3報). 日本公衆衛生学会. 鹿児島
- ・楠橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・中村美穂子 (2017). 看護系大学保健師選択制学生の効果的な教育方法の検討. 日本公衆衛生学会. 鹿児島
- ・中川清子・山下清香・尾形由起子・小出昭太郎・小野順子 (2017). インスリン療法を勧められ在宅で注射を開始した時期の相違による2型糖尿病患者の特徴. 日本公衆衛生学会. 鹿児島
- ・小川智子・中谷久恵・金藤亜希子・山下清香 (2017). 行政保健師のバーンアウトに関連する要因. 日本公衆衛生学会. 鹿児島

③過去の主要業績

- ・山下清香 (2005). 経過観察児の母親のエンパワーメントに関する研究—乳幼児健診のフォロー事業の参加者を通して—. 修士論文
- ・有原一江, 安齋由貴子, 伊井久美子, 右京信治, 尾崎米厚, 山下清香他6名 (2005). 「平成17年度地域保健総合推進事業: 市町村保健活動体制強化に関する検討会」報告書.
- ・山下清香, 尾形由起子, 野見山美和, 野口藍子 (2008). (平成18~19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究報告書「生活習慣病対策における市町村支援活動モデルの開発—保健師エンパワーメントモデル—」)

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本糖尿病教育・看護科学学会, 日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

専門職連携入門 (1単位, 1年後期), 公衆衛生看護学Ⅰ (2単位, 2年後期), 専門看護学ゼミ (2単位, 3年通年), 家族看護学 (1単位, 3年前期), 公衆衛生看護学アセスメント論Ⅰ (1単位, 3年後期), 統合実習 (2単位, 4年通年), 卒業研究 (2単位, 4年通年), 公衆衛生看護学Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護学アセスメント論Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅰ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ (1単位, 4年前期), 組織協働活動論 (2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学Ⅲ (1単位, 4年後期), 公衆衛生看護管理論 (2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ (4単位, 4年後期), 地域看護学特論 (2単位, 大学院), 地域看護学演習 (2単位, 大学院), ヘルスプロモーション看護学特別研究 (2単位, 大学院)

7. 社会貢献活動

- ・福岡県「福岡県感染症の診査に関する協議会結核専門部会」委員
- ・福岡県「田川保健福祉事務所の感染症の診査に係る協議会」委員
- ・田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
- ・田川市「田川市防災会議」委員
- ・田川市「田川市地域包括ケアシステム推進協議会」委員

- ・「第2次福智町地域福祉活動計画評価委員会」委員

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任教員
- ・オレンジリボン運動

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	吉田 恭子
----	---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みと同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます。そのため、在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています。また、病歴が長い糖尿病を抱える高齢者への関わりを検討しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・吉田恭子. (2018). 小規模多機能型居宅介護職員の介護経験と職場満足と終末期ケアに与える影響, 九州社会福祉研究, 第 42 号, 1-12
- ・尾形由起子, 櫛直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里. (2017). 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 14 巻, 41-47
- ・吉田恭子, 渡邊智子. (2014). 10 年後もその先も, 住みたいところに住み続ける互助・共助—地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題—, 認知症ケア事例ジャーナル, 第 6 巻第 4 号, 391-396

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・吉田恭子, 小規模多機能型居宅介護における職場満足と近親者への看取り介護経験との関連, 日本社会福祉学会九州地域部会, 熊本, 2017 年
- ・Tsuyako Hidaka, Satsuki Obama, Kyoko Yoshida, Naoki Harada, Kencho Matsuura: The effects of Nursing Career Café for undergraduate students to cultivate their sense of resilience to become nursing professional –introducing the effective of Inter-University Collaborative Education–, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, 2017.
- ・吉田恭子, 平塚淳子, 小規模多機能型居宅介護職員の看取り介護経験と地域連携との関連, 日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016 年
- ・吉田恭子, 岡崎美智子, 中島洋子, 山崎尚美, 岡部由紀夫, 小規模多機能型居宅介護での看取りにおける専門職の調整技術, 第 28 回日本看護福祉学会学術集会, 福岡, 2016 年
- ・勝田和典, 吉田恭子, 在宅医療推進時代における退院調整の困難の現状, 第 27 回日本看護福祉学会学術大会, 長崎, 2014 年
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 地域住民の互助を活かした認知症高齢者の支援プログラム 第 2 報, 第 14 回日本認知症ケア学会大会, 福岡, 2013 年
- ・吉田恭子, 岡崎美智子, 平木尚美, 岡部由紀夫, 中島洋子, 小規模多機能型居宅介護における看取りケア, 第 26 回日本看護福祉学会学術集会, 福岡, 2013 年
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 地域住民の互助を活用した認知症高齢者の支援プログラム 第 1 報, 第 13 回日本認知症ケア学会大会, 神奈川, 2012 年

③過去の主要業績

- ・吉田恭子, 勝田和典, 酒井出, 井上俊孝, 権藤美和子, 堤素子. (2012). 韓国大田広域市における高齢者福祉の現状—大田広域市の現地調査を通して—, 九州社会福祉研究, 第 37 号,

15-26

- ・吉田恭子. (2012). 患者さん・スタッフの質問にナースが答える糖尿病ケアQ&A200. 糖尿病ケア 2012 年春季増刊, 209-213

5. 所属学会

日本看護福祉学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本社会福祉学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

在宅看護学概論・1単位・2年・前期、在宅看護学・2単位・2年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3~4年・通年、在宅看護学実習・2単位・3~4年・通年、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年

7. 社会貢献活動

朝倉医師会在宅医療拠点事業運営委員会

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立西田川高等学校, 「看護講演会」, 2017年10月
- ・福岡県消防学校, 「在宅医療法患者の処置」, 2018年2月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	小野 順子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・ 専門は地域（公衆衛生）看護学
- ・ 主な研究分野

研究テーマは高齢者の歩行動作改善に関する介入研究

地域で自立して生活する高齢者がその自立した生活を継続するためには「歩行能力を維持する」ことが重要である。加齢に伴う心身機能の低下は姿勢や歩行動作の変化をもたらすが、その変化を自覚することは難しい。しかし、歩行能力の低下を自覚する前に自分自身の歩行動作の変化を認識し、改善することができれば身体機能の維持・増進や要介護状態の予防につながるものと考えられる。現在取り組んでいる研究では、地域で自立した生活を送る高齢者に対して広く適応可能な歩行動作の改善方法を模索し、その効果について検証を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和, 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価, 福岡県立大学看護学部紀要, 11 (2), 2014
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和 (2013), A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討 10 (2)
- ・ 尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 松浦賢長, 「虚弱高齢者の介護予防における保健師の地域支援技術の特徴」, 福岡県立大学看護学部紀要第 8 巻 2 号.2011.3
- ・ 守田孝恵, 山崎秀夫, 高橋郁子, 檀原三七子, 小野順子, 「糖尿病関連の地域連携に関する全国自治体調査」平成 21 年度厚生労働科学研究報告書（地域における包括的糖尿病ケアシステムの構築とその医学的・経済学的評価に関する研究分担研究報告書）, 2010.3
- ・ 福田吉治, 小野順子, 「山口県における特定健診特定保健指導と糖尿病の地域連携について」平成 21 年度厚生労働科学研究報告書（地域における包括的糖尿病ケアシステムの構築とその医学的・経済学的評価に関する研究分担研究報告書）, 2010.3

②その他最近の業績

<報告書>

尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 福智町日常生活圏域ニーズ調査報告書, 2013

<学会発表>

- ・ 小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 手島聖子, 檜橋明子, 「地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性—身体的・心理的・社会的状況の分析—」, 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神奈川, 2014.1
- ・ 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 木村てるみ, 「産後の母親の育児に対する気持ちと支援の必要性～乳幼児健診結果から～」, 第 1 回日本保健師学術集会, 2012. 3
- ・ 小野順子, 守田孝恵, 山崎秀夫, 高橋郁子, 檀原三七子, 「言語指示による高齢者の歩行動作改善の試み」第 68 回日本公衆衛生学会, 2009.10
- ・ 高橋郁子, 小野順子, 原口由紀子, 「高齢者施設の施設種別による感染対策の比較」, 日本地域看護学会第 13 回学術集会, 2010.7
- ・ Junko Ono, 「THE EFFECT OF CONSCIOUSNESS WALKING FOR ELDERLY FALL PREVENTION」, The 20th IUHPE World Conferences on Health Promotion – Geneva 2010 –. 2010.7

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B)、「転倒経験のある高齢者の特性と教育介入による転倒予防効果」, 研究責任者, 3,260,000 円, 2010 年度～2013 年度

4. 所属学会

地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会

5. 担当授業科目

地域看護学実習 A-I ・ 2 単位 ・ 3 年 ・ 通年、地域看護学実習 A-II ・ 2 単位 ・ 4 年 ・ 前期、地域看護学実習 B ・ 4 単位 ・ 編入 4 年 ・ 後期、統合実習 ・ 2 単位 ・ 4 年 ・ 後期、健康教育論 ・ 2 単位 ・ 3 年 ・ 前期、地域看護実践論 ・ 1 単位 ・ 3 年と編入 4 年 ・ 通年、公衆衛生看護学 I ・ 2 単位 ・ 2 年生 ・ 後期、専門看護学ゼミ ・ 2 単位 4 年 ・ 前期、統合実習 ・ 2 単位 ・ 4 年 ・ 通年

6. 社会貢献活動

- ・ 地域に在住する高齢者を対象とした転倒予防教室の実施（4 か所，8 回，田川郡福智町）
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	猪狩 崇
----	---------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 28 年度より着任しました。宮崎県立看護大学看護学部・同大学院を修了し、専攻は理論看護学ですが、その応用となる直接の実践・研究フィールドとしては地域・在宅看護学が中心です。大学では補完代替看護学 (C.A.N. いわゆるヒーリングや民間・伝統療法にかかわる分野) の授業を担当する傍ら、本学附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センターの専任教員として、地域住民の皆さんと一緒に、補完的看護方法活かした看護実践事業を展開しています。研究分野は、理論看護学 (看護哲学)、地域・在宅看護学、補完代替看護学ですが、看護教育学や、F.ナイチンゲールに多大な影響を与えながら、いまだ正当な評価がなされているとはいえない近代ドイツの看護史にも興味があり、文献を検討しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

猪狩崇、他 7 名、「地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察」、福岡県立大学紀要 第 15 巻、in press, 2018

②その他最近の業績

<学会発表 (ポスターセッション)>

猪狩崇、「看護学の学びで癒しの原点に迫る試み」、宮崎県立看護大学看護学研究会・第 11 回学術集会、宮崎、2017 年

<教材開発>

- ・科学的な人間論に基づく講義資料、福岡県立大学看護学部「ホリスティック人間論」授業、2017 年度 1 年生前期
- ・いのちの歴史から説く、看護にとっての癒し (治療過程) 論教材、福岡県立大学「ホリスティック人間論」授業、2017 年度 1 年生前期
- ・補完代替看護論講義資料 (テキストブック)、福岡県立大学看護学部「ヒーリング論」授業、2017 年度 1 年生後期

③過去の主要業績

- ・博士学位論文 「対応困難な事例にしないための対象理解の構造—地域包括支援センター保健師の在宅療養患者への支援過程の分析を通して—」猪狩崇、看護科学研究、Vol.8 p.25～40、2013 年
- ・学会発表 (ワークショップ事例提供) 「理論を用いるとはどうすることかを考える」猪狩崇、看護科学研究学会第 12 回学術集会、2012 年、10 月 6 日、学士会館 (東京)
- ・学会発表 「ナイチンゲール看護論に基づく現代の地域看護実践」猪狩崇、ナイチンゲール研究学会大 29 回研究懇談会、2008 年、10 月 5 日、学士会館 (東京)

5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、宮崎県立看護大学学術研究会

6. 担当授業科目

ヒーリング論・1 単位・1 年、ヒーリングセラピー・1 単位・2 年、専門看護学ゼミ (補助) ・2 単位・3 年、卒業研究 (補助) ・2 単位・4 年

7. 社会貢献活動

- ・田川地区高齢者交流会主催、伊田商店街振興組合、田川市地域包括支援センター、福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター共催「たちばな通りカフェ」協議委員
- ・添田町地域包括支援センター運営協議会委員

- ・暮らしの保健室 in 若松「こみねこハウス」(北九州市若松区) プレ協働チームメンバー、運営スタッフ
- ・主に田川地区でのタッチケアボランティア活動(伊田商店街「ココイタ」、香春町社協「香泉荘」等)
- ・空手道四段資格(日本武道空手玄和会)による大学生らへの空手指導(福岡大学空手部等)

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター主催地域事業「ヒーリング教室」「食によるヒーリングパワー」「癒しの空間」講師(専任教員)
- ・同センター主催「源流塾」研修運営担当

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	梶原 由紀子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、重心障害児（者）病棟、消化器内科・小児科、大学保健室、高等学校で養護助教諭として勤務しました。児童生徒一人一人が安全にそして安心した学校生活を過ごすため、また現場の養護教諭の先生方の支援のために研究を進めていきたいと考えています。

【養護教諭の研修プログラムの開発に関する研究】

養護教諭の危機管理力の研修の開発に関して取り組んでいます。昨今、重度の障害がありつつ地域で暮らす子どもが増加し、地域の学校に通学する子どもたちが増加しています。学校においては、緊急時には専門的な対応が求められ、保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。養護教諭の資質の向上のために、具体的な対策の現状や課題、また、研修においてどのようなプログラムが必要か等、養護教諭の研修プログラムの開発を行っていく所存です。

【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり、特別支援学校では、看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者(2015)；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第12章 感染症対策 I 93-97，第13章 感染症対策 98-103，第15章 救急処置 112-118，第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィク。
- ・渡辺多恵子，渡辺裕一，安梅勲江編著；日本保健福祉学会編集。(2015). 保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践，第4章7節 医療的ケアを必要とする子どもと親の支援，北大路書房. 77-80.

〈論文・報告書〉

- ・梶原由紀子。(2015)，養護教諭の危機対応力の研修に関する研究調査，平成26年度福岡県立大学研究奨励交付金若手奨励研究報告。
- ・渡辺多恵子，樋口善之，原田直樹，三並めぐる，梶原由紀子，鈴木茜，仁木雪子，秋山有佳，篠原亮次，市川香織，玉腰浩司，松浦賢長，山縣然太郎。(2014). 7.EPDSによる産後うつ頻度の把握に関する研究～健やか親子21最終評価に向けて～. 平成25年度 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，『『健やか親子21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究』 分担研究報告書，470-475
- ・樋口善之，三並めぐる，原田直樹，梶原由紀子，阿部真理子，森慶恵，豊田菜穂子，福島由美子，土井智子，香田由美，内田郁美，徳永久美子，精松真紀子，渡辺多恵子，北村喜一郎，鈴木茜，仁木雪子，磯田宏子，三國和美，丸岡里香，笠井直美，中野貴博，秋山有佳，篠原亮次，松浦賢長，山縣然太郎。(2014). 8.思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究. 平成25年度 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，『『健やか親子21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究』 分担研究報告書，476-481.
- ・三並めぐる，福山聡美，原田直樹，梶原由紀子，松浦賢長，岡多枝子. 不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する研究. 福岡県立大学看護学研究紀要 11(1)，11-20，2014.
- ・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満誠，松浦賢長. 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究.(2013). 日本保健福祉学会誌，2013.Vol.20，No.1，査読有，21-34.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・江上千代美, 梶原由紀子, 久保江里子. (2017, 10) 養育レジリエンスを高める介入支援トリプルPを用いた支援とその効果, 日本LD学会第26回大会, 栃木.
- ・梶原由紀子, 中山晃光, 秦野環, 照屋典子, 木村弘江, 佐藤千春, 原田直樹, 松浦賢長. (2015, 12) 看護学生を対象とした国際看護実施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題, 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島.
- ・樋口善之, 三並めぐる, 原田直樹, 梶原由紀子, 松浦賢長, 山縣然太郎. (2014, 8) 思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究, 第62回九州学校保健学会, 福岡.
- ・梶原由紀子, 三並めぐる, 原田直樹, 松浦賢長 (2013, 9) 学童期の子どもの空腹感の時間帯と生活習慣の関連について, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・原田直樹, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長 (2013, 9) 特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題-全国調査の結果から-, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・三並めぐる, 梶原由紀子, 原田直樹, 松浦賢長 (2013, 9) 喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響について-大学生の調査から-, 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・梶原由紀子. (2013, 9) 特別支援学校養護教諭の特定行為実施におけるリスク認識に関する研究, 第26回日本保健福祉学会学術集会, 福岡.

③過去の主要業績

〈論文〉

梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 宮路雅也, 山崎喜久, 松浦賢長, 山縣然太郎. 特別支援学校における特定行為に関する研究 ～全国の特別支援学校へのアンケート調査の結果～厚生労働科学研究(育成疾患克服等次世代育成基盤研究事業)健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究(2012). 平成23年度総括・分担研究報告書, 査読無, 102-107.

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(若手研究B), インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発, 182万円, 平成27年度～平成29年度

5. 所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本思春期学会, 日本学校保健学会, 日本保健福祉学会, 日本公衆衛生学会, 日本LD学会, 日本学校救急看護学会, 九州学校保健学会, 九州思春期研究会.

6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・後期, 子ども学習支援論・1単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 養護概説・2単位・2年・後期, 保健統計学・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・看護2年/人社3年・後期, 性教育学・2単位・看護3年/人社3年・前期, 養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 学校保健・1単位・4年・前期, 養護実習・4単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 統合実習・2単位・4年・後期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・九州思春期研究会, 理事
- ・トリプルP実践活動: 久留米市

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	手島 聖子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2000年から乳幼児健康診査を通じた養育者の育児ストレスと育児支援システムについて研究を進めています。本研究は、乳幼児虐待問題という最も先鋭化されたかたちで現れている子育ての危機の内実とその援助のあり方を、乳幼児健康診査を手がかりにしながら理論面と実践面での両面からのアプローチを目指したものです。具体的には、養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、心理的・社会的に困難な状況におかれている養育者の育児不安や育児ストレスを早期に把握するための調査を実施しています。作成した尺度の有用性や育児不安の縦断的变化についての検討、養育者へのインタビューなどから、母子保健システムに虐待の視点を取り入れた多層的な育児支援システムのあり方について考察しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 迫山博美, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. (2016). 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題—A町のふれあい交流活動の分析を通して—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 57-65.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美. (2016). 地域の介護予防活動に推進における保健師の役割について—高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 35-49.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子. 保健師のリカレント教育を考える—卒業生への新人保健師交流会を開催して(第一報)—. 第3回日本公衆衛生看護学会. 2015年1月, 神戸.
- ・ 手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 世話役住民の役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 支援スタッフの役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ—世話役住民と支援スタッフの認識から—. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・ 尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価. 第75回日本公衆衛生学会, 2016年11月, 大阪.
- ・ 尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.
- ・ 矢田貝詩織, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャルキャピタルの醸成へ向けた保健師の支援—9年間の活動を通して—. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.

〈その他〉

尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. 研究室からのメッセージ, 保健師ジャーナル, 45 (2), 2017

③過去の主要業績

- ・手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム: 乳幼児健康診査を通じた子育て支援と児童虐待の予防について. (財) 安田生命社会事業団 2001 年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・手島聖子, 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通じた育児支援: 育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・手島聖子, 原口雅浩. (2004). 育児不安の構造. 久留米大学心理学研究, 3, 83-88.

5. 所属学会

日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本地域看護学会, 日本心理学会, 日本発達心理学会, 日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、公衆衛生看護学Ⅰ・2 単位、2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位、3 年・通年、家族看護学・1 単位、3 年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1 単位、3 年・後期、卒業研究・2 単位、4 年・通年、統合実習・2 単位、4 年・通年、公衆衛生看護学Ⅱ・2 単位、4 年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2 単位、4 年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2 単位、4 年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2 単位、4 年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1 単位、4 年・前期、組織協働活動論・2 単位、4 年・後期、公衆衛生看護学Ⅲ・1 単位、4 年・後期、公衆衛生看護管理論・2 単位、4 年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4 単位、4 年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	檜橋 明子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

保健師として保健所で勤務。2012年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了しました。

研究は、難病患者の療養支援について取り組んでいます。難病の中でも神経難病は進行性であり、症状の進行に伴い、医療依存度は高くなっていきます。医療制度改革の中で在宅医療が推進され、神経難病患者も医療依存度の高い状態で療養する機会はますます増えてきています。医療依存度の高い状態でも生活しやすい地域づくりのための研究に取り組みたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子. 神経難病患者の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術. 日本地域看護学会誌, 第18巻2, 3号, 33-40, 2015.
- ・ 迫山博美, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題-A町のふれあい交流活動の分析を通して-. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻 p57-65, 2016.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美. 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について-高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻, p35-49, 2016

<報告書>

- ・ 尾形由起子, 榎直美, 吉田恭子, 小野順子, 檜橋明子, 猪狩崇, 杉本みぎわ, 中村美穂子. 平成28年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書 福岡県 平成29年3月
- ・ 尾形由起子, 榎直美, 吉田恭子, 檜橋明子, 猪狩崇, 杉本みぎわ, 石崎龍二, 柴田雅博. 平成28年度附属研究所重点領域研究事業報告書 平成28年度奨励研究交付金 平成29年3月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 世話役住民の役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 支援スタッフの役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・ 山口のり子, 後藤美子, 檜橋明子, 尾形由起子. 高齢者施設における看取り状況調査結果について ~県と市町村の連携を通して~. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.
- ・ 尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.
- ・ 矢田貝詩織, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタルの醸成へ向けた保健師の支援-9年間の活動を通して-. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 中村美穂子. 看護系大学保健師選抜制学生の効果的な教育方法の検討. 第75回公衆衛生学会学術集会. 2017年11月, 鹿児島.

- ・中村美穂子、尾形由起子、榎 直美、小野順子、吉田恭子、檜橋明子、杉本みぎわ。在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査 -第一報-。第75回公衆衛生学会学術集会。2017年11月、鹿児島。
- ・榎 直美、尾形由起子、小野順子、吉田恭子、檜橋明子、杉本みぎわ、中村美穂子。訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討 -第二報-。第75回公衆衛生学会学術集会。2017年11月、鹿児島。

③過去の主要業績

<学会発表>

- ・大塚純子、檜橋明子。特定疾患患者へのアンケート。第63回日本公衆衛生学会学術集会。2004年10月、島根。
- ・檜橋明子、尾形由起子、山下清香、小野順子。在宅療養神経難病患者を支援する保健師の調整技術。第71回日本公衆衛生学会学術集会。2012年10月、山口。

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（若手研究(B)）29年度～30年度 交付金額1,000千円
研究課題、在宅療養する神経難病患者を支えるインフォーマルサポートに関する基礎的研究

5. 所属学会

日本公衆衛生学会・日本地域看護学会・日本災害看護学会・日本看護教育学会・日本看護科学学会・日本看護研究学会・日本看護歴史学会・日本公衆衛生看護学会・日本難病看護学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・3年・2単位・通年、家族看護学・1単位・3年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年。統合実習・4年・2単位・通年、公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本ALS協会 福岡県支部 運営委員
- ・日本地域看護学会 日本地域看護学会第20回学術集会当日実行委員 H298.5-6

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・オレンジリボン運動

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	杉本 みぎわ
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

介護保険導入以前より在宅看護にかかわり、介護保険制度の変遷の中で訪問看護の果たす役割について実践の中で常に考えてきた。また、超高齢化を迎える時代の中で、高齢者や、がんのターミナル期の方々が、安心して在宅で最期まで暮らせるための在宅医療・介護の連携のあり方について、厚生労働省のモデル事業として開設した東京、新宿区にある「暮らしの保健室」での活動を通して研究してきた。地域包括ケアシステムにおける要ともなる訪問看護の展望について、「暮らしの保健室」を拠点とした研究を重ねるとともに、それぞれの地域に即した地域包括ケアシステムの実現に向けての研究と、生活の中にある医療という視点から看護師が果たすべき役割について研究を継続する。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<寄稿>

- ・杉本みぎわ, がん治療が点在する新宿区に「暮らしの保健室」が存在する意義. ”看護管理 医学書院 2015年2月
- ・杉本みぎわ, 空き家を「地域の資源」に変える “訪問看護と介護” 医学書院 2017年4月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・杉本みぎわ, 久保哲郎, 榎直美, 林田優子, 和田和人, 山本節子. 医療・介護・福祉の他職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その3)～「認知症ケア」のグループワークより～. 第24回日ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米 2017年2月, 久留米<シンポジウム>
- ・村田節子, 宮園真美, 政時和美, 今丸満美, 吉田恭子, 榎直美, 杉本みぎわ, 柴北早苗, 吉村美奈子: がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方(第2報)～, 第18回日本看護医療学会, 2016
- ・シンポジウム座長 第24回日本健康体力栄養学会大会. 2017年3月 東京
- ・久内宏美, 長尾靖子, 杉本みぎわ, 吉村美奈子, : 難病(多系統萎縮症)による長期在宅療養者への取り組み～他職種連携により“食べること”を取り戻した一事例～日本看護協会福岡県学会 2017年12月

5. 所属学会

看護医療学会・日本在宅医学会・日本ホスピス・在宅ケア研究会・日本臨床死生学会

6. 担当授業科目(補助)

<学部>

在宅看護学概論・1単位・2年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、在宅看護学演習Ⅱ(補助)・1単位・3年・後期～4年・前期、在宅看護学実習・2単位・3年・後期～4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・在宅医療推進のための会(勇美記念財団) 委員,
- ・北九州在宅医療・介護塾 世話人,
- ・暮らしの保健室 in 若松 代表
- ・北九州緩和ケアネットワーク幹事

8. 学外講義・講演

- ・大妻女子大学スキルアップ研修 講師 2017年8月
- ・のうがた元気づくりサポーター養成講座 講師 2017年9月
- ・福岡福祉の在り方研究会 講師 2017年10月
- ・八幡東西区訪問看護ステーション連絡会研修会 講師 2017年10月
- ・福岡県保健医協会 第32回 在宅ケアセミナー パネリスト 2017年11月
- ・ポジティブ介護講座 講師 2017年12月
- ・福岡県歯科保険医協会 医療・介護フォーラム シンポジスト 2018年3月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	中村 美穂子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、癌を患い癌による症状および治療に伴う副作用を持ちながら、自宅で過ごす人、そして残された時間、最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者家族の想いに触れてきた。しかし、現実ではそのほとんどが病院での看取りとなり、患者家族の願いを叶えるためには、病院から在宅への移行支援及び地域における社会資源の充実や人材育成の必要性を感じている。本学において、在宅療養や、在宅における看取りをサポートしていくための課題や支援について、保健師の視点も合わせながら探究していきたいと思っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

迫山博美, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題-A 町のふれあい交流活動の分析を通して. 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 13 巻 p57-65, 2016.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・中村美穂子, 尾形由起子, 櫛直美, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 吉田恭子, 猪毛尾和美, 馬場順子. 在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査—第一報—. 日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017 年
- ・櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 猪毛尾和美, 馬場順子, 吉田恭子. 訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討—第二報—. 日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017 年
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 中村美穂子. 看護系大学保健師選抜制学生の効果的な教育方法の検討. 日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017 年

5. 所属学会

日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目(補助)

<学部>

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	田原 千晶
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、小児病棟・GCUに勤務し、平成29年度より本学に着任する。

臨床では、急性期から慢性期、内科から外科に至るまで幅広い小児看護に携わり、医療の発展に伴い医療機器を使用した子供達が、在宅へと帰る場面を多く目にしてきた。子供が病院を退院し、自宅療養となる過程において、家族の負担・不安は測りしれないほど大きい。また、これまでの家族のライフスタイルにも大きな影響をもたらした。

そこで、障害や疾病を抱えた子供達やその家族の困っている現状や思いを把握し、支援体制や支援内容についての検討・構築を行い、これまでに私が関わってきた子供達や家族が在宅生活を安全に安心して行えるような一助となる研究に着手していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

田原千晶, (2016). 第17章. 長期入院をしている子どもへの支援 127-132, 保健の実践科学シリーズ学校看護学, 松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子編著, 講談社サイエンティフィク.

5. 所属学会

日本看護協会, 日本保健福祉学会

6. 担当授業科目(補助)

教養演習・2単位・1年・前期, 子供学習支援論・1単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 養護概説・2単位・2年・後期, 保健統計学・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・看護2年/人社3年・後期, 性教育学・2単位・看護3年/人社3年・前期, 養護実習 事前事後指導・1単位・4年・前期, 学校保健・1単位・4年・前期, 養護実習・4単位・4年・前期, 不登校・引きこもり援助応用演習・2単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 統合実習・2単位・4年・後期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教論)・2単位・4年・後期

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	平塚 淳子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部の助手として着任いたしました。

主な研究分野は、健康管理行動に関する研究、看護倫理に関する研究、中小規模病院における看護師の教育についてです。

看護倫理に関する研究では、病棟看護師の方々に対して、倫理的な観点から、患者様の意思決定を支えるための支援の方法などを検討していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈修士論文〉

平塚淳子, 保健信念モデルと大学生女子の子宮頸がん検診受診行動との関連. (2015). 福岡県立大学大学院看護学研究科.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・吉田恭子, 平塚淳子. 小規模多機能型居宅介護職員の看取り介護経験と地域連携との関連. (2016). 第 35 回日本看護科学学会・学術集会, 東京.
- ・平塚淳子, 原田直樹, 松浦賢長. 保健信念モデルと大学生女子の子宮頸がん検診受診行動との関連. (2016). 第 35 回日本思春期学会学術集会, 東京.
- ・成田美紀子, 平塚淳子, 長山保代他. インシデントレベル 0 報告件数増加をめざした取り組み. (2014). 第 14 回福岡県看護学会, 福岡.
- ・平塚淳子. 母親の子宮頸がん検診受診行動と娘への HPV ワクチン接種の実態とその関連について. (2013). 第 26 回日本保健福祉学会学術集会, 福岡.

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本思春期学会、日本保健福祉学会、

6. 担当授業科目 (補助)

在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、在宅看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年生・後期～4 年・前期、在宅看護学実習・2 単位・3 年・後期～4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

アジア太平洋子ども会議・イン 福岡. ボランティアメンバー

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員